

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む
在宅医療・訪問看護の実施状況調査 報告書

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	6
1. 回収結果	6
2. 在宅医療調査	7
(1) 施設の概要	7
(2) 診療体制	16
(3) 在支診・在支病の状況等	33
(4) 在宅医療を提供した患者の状況等	41
(5) 訪問診療を受けている患者の状況等（「患者調査」）	92
3. 訪問看護調査	161
(1) 事業所の概要	161
(2) 診療報酬の算定状況や利用者の状況等	174
(3) 土日や夜間、緊急時の対応等	187
(4) 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携状況	189
(5) 訪問看護を行った利用者の状況	201

参考資料

I. 調査の概要

1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、①休日の往診・看取り・重症児に対する医学管理等について実績を有する医療機関に対する評価が行われた。また、②個々の患者の状態や居住場所に応じたきめ細やかな報酬体系に見直しが行われた他、③在宅医療専門の保険医療機関が設けられた。さらに、④機能強化型訪問看護ステーションの要件の見直しが行われた他、⑤同一日 2 か所目の訪問看護ステーションによる緊急訪問の評価等が行われた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、在宅医療・訪問看護を提供する医療機関等の状況や、在宅医療・訪問看護を受けている患者の居住場所や重症度、診療の状況等を検証するための調査を行った。

なお、在宅歯科医療の実施状況については別に報告書を取りまとめた。

<主なねらい>

- ・ 在宅医療・訪問看護の対象患者の状態・居住形態・診療の所要時間等の把握
- ・ 重症患者に対する在宅医療・訪問看護の提供状況等の把握
- ・ 在宅専門医療機関における在宅医療の実施状況等の把握

2. 調査対象

本調査では、「在宅医療調査」「訪問看護調査」の 2 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

○在宅医療調査

- ・ 保険医療機関の中から無作為抽出した、①在宅療養支援診療所 1,000 施設、②在宅療養支援病院 400 施設、③在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所（①②は除く）600 施設。合計 2,000 施設。

○訪問看護調査

- ・ ①機能強化型訪問看護管理療養費の届出事業所（悉皆）、②全国の訪問看護ステーションの中から無作為抽出した訪問看護ステーション。①②合わせて 1,000 事業所。

3. 調査方法

- ・ 対象施設の開設者・管理者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 調査回答期限後、督促を実施した。
- ・ 調査実施時期は、「在宅医療調査」が平成 28 年 10 月 14 日～平成 28 年 12 月 22 日、「訪問看護調査」が平成 28 年 10 月 27 日～平成 29 年 1 月 4 日であった。

4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

【調査項目案】

区分	主な調査項目
(1) 在宅医療票	<p>○施設概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所在地、開設者、訪問診療を行っている診療科、医療機関種別、許可病床数、医師会への入会の有無 ・ 同一法人・関連法人が運営している施設・事業所・サービス等、同一・隣接施設の施設・事業所・サービス等 <p>○診療体制等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数 ・ 訪問診療を行う時間 ・ 全職員数、在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数 ・ 在宅医療を担当する常勤の医師数、「認知症サポート医養成研修事業」を受講した医師数、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針に準拠した研修」又は「緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修会等」を修了した医師数 ・ 在宅褥瘡管理者の有無と人数 ・ 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種とその人数 ・ 24時間訪問看護の提供体制の状況 <p>○在宅療養支援病院（在支病）・在宅療養支援診療所（在支診）の届出状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在支病・在支診の届出状況、届出をしていない場合の理由・最大の理由、届出意向 ・ 機能強化型在支病・在支診の届出状況、届出をしていない場合の理由・最大の理由、届出意向 ・ 機能強化型（連携型）在支病・在支診の場合の在宅支援連携体制、届出時期 <p>○在宅医療の実施状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主治医として訪問診療を提供している患者の人数、年齢別患者数、超重症児・準超重症児の患者数、要介護度別の患者数、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数、特定疾患医療受給者証を保有する患者数 ・ 半年間の在宅療養患者数、このうちの死亡患者数、医療機関・医療機関以外で死亡した患者数等 ・ 最も遠く／近くに住む訪問診療患者について移動時間、当該患家の「単一建物診療患者数」、住居形態、医療機関との位置関係 ・ 在総管・施設総管の「重症患者」数、重症患者に該当しないが診療

	<p>において困難を伴う患者の状態や環境、診療内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅がん医療総合診療料、在宅患者緊急時等カンファレンス料等に関する半年間の算定回数 担当患者の医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携のための会議開催の有無、半年間の開催回数 在宅療養実績加算 1・2、在宅緩和ケア充実診療所・病院加算の届出状況 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料、精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲ）の算定患者数、算定回数 訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、精神科訪問看護指示書、精神科特別訪問看護指示書の交付件数 在宅療養患者に対する治療の状況 <p>○在宅医療提供患者の状況等【患者調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の性別、年齢、要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度、精神疾患の有無、障害者手帳などの種類 訪問先、単一建物における訪問診療患者数、調査日の診察状況 患家 訪問するのに用いる交通手段と移動時間 訪問診療を行ったきっかけ、訪問診療を開始した時期 訪問診療の対象病名、ターミナルかどうか、経口摂取の状況 医師が実施した診療内容・連携等、医師以外の職種が提供した医療内容 1 か月間の訪問回数、医学管理料の算定状況 調査日の診療時間、看護職員の同行の有無 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無 半年間における往診を行った回数、入院に至った回数、夜間の往診回数、深夜の往診回数 / 等
(2) 訪問看護票	<p>○事業所概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 所在地、開設者、同一敷地内または隣接する施設・事業所、指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス 訪問看護の開始時期、サテライトの有無・設置数 機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無・届出時期・満たしている要件、今後の届出意向 24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出（医療保険）の有無、特別管理加算（医療保険）の届出の有無、精神科訪問看護基本療養費の届出の有無、精神科複数回訪問加算の届出の有無、精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無、訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無 常勤換算の職員数（保健師・助産師・看護師、准看護師、リハビリ職等） / 等 <p>○診療報酬の算定状況や利用者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規利用者数、対応が終了した利用者数、訪問看護の利用者数およ

	<p>び訪問回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40歳以上の医療保険利用者の要介護度別人数、日常生活自立度別人数、認知症高齢者の日常生活自立度の区分別人数、超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の人数 ・ ターミナルケアを行った利用者数 ・ ケアの内容別利用者数（医療処置、看護師によるリハビリテーション、リハビリ職によるリハビリテーション等） ・ 特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域かどうか、算定利用者数、対象地域に居住する利用者数 ・ 中山間地域等小規模事業所加算（介護保険）の対象地域かどうか、対象地域に居住する利用者数・算定利用者数 ・ 早朝・夜間・深夜・土日祝日の計画的な訪問への対応状況、緊急訪問した利用者の有無・人数・延べ訪問回数、緊急訪問看護加算（医療保険）の算定回数 / 等 <p>○医療機関、訪問看護ステーション等との連携状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携に関する診療報酬項目の算定利用者数と算定回数（退院時共同指導加算（医療保険）、在宅患者連携指導加算、在宅患者緊急時等カンファレンス加算、訪問看護情報提供療養費） ・ 在宅褥瘡管理者の有無・人数、「在宅褥瘡対策チーム」への参加の有無 ・ 医療保険利用者のうち、他実施主体による訪問看護も利用している人数 ・ 訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し（医療保険）について、授受のあった病院・診療所数と受け渡し方法別の回数 ・ 医療保険の利用者についての情報提供等の状況 ・ 地域住民に対する情報提供や相談、人材育成のための研修等の地域での活動として行ったこと / 等 <p>○「医療保険」で訪問看護を行った利用者の状況【利用者調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の基本属性、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、在宅療養を続けている原因の病名等 ・ ターミナル期かどうか、超重症児・準超重症児かどうか ・ 訪問看護の開始時期、在宅移行前の場所、直近の退院月 ・ 訪問看護の種別、訪問看護の加算等の状況 ・ 訪問日数、緊急訪問の有無・回数・理由、1日につき複数回訪問した日の有無・日数、1回の訪問時間 ・ 提供する職員の職種、訪問看護を提供する他の施設・事業所の有無、種別、訪問者の職種 ・ 特別訪問看護指示書の交付の有無・回数 ・ ケア内容 ・ リハビリテーションに関する計画を訪問看護計画書と一体で作成しているか、計画の作成・評価への看護職の関与、リハビリテーションの主たる実施者、看護職による訪問看護の実施有無 / 等
--	---

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】(○は委員長、五十音順、敬称略)

- 印南 一路 慶應義塾大学総合政策学部 教授
- 太田 秀樹 全国在宅療養支援診療所連絡会 事務局長
- 川越 正平 あおぞら診療所 院長
- 川島 孝一郎 仙台往診クリニック 院長
- 新田 國夫 全国在宅療養支援診療所連絡会 会長
- 平原 優美 日本訪問看護財団立あすか山訪問看護ステーション 統括所長
- 福井 小紀子 日本赤十字看護大学 教授
- 松原 由美 早稲田大学人間科学学術院 准教授

Ⅱ. 調査の結果

1. 回収結果

「在宅医療調査」は発送数 2,000 件に対し、回答数が 774 件（回答率 38.7%）、有効回答数が 764 件（有効回答率 38.2%）であった。

また、「訪問看護調査」は発送数 1,000 件に対し、回答数が 628 件（回答率 62.8%）、有効回答数が 610 件（有効回答率 61.0%）であった。

図表 1 回収の状況

	①発送数	②回答数	③有効回答数	④回答率 (②/①)	⑤有効回答率 (③/①)
在宅医療調査	2,000	774	764	38.7%	38.2%
訪問看護調査	1,000	628	610	62.8%	61.0%

2. 在宅医療調査

【調査対象等】

調査対象：全国の保険医療機関のうち無作為抽出した、
 ①在宅療養支援診療所（在支診）1,000 施設、
 ②在宅療養支援病院（在支病）400 施設、
 ③在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所（①②は除く、在支診以外の診療所）600 施設、
 の合計 2,000 施設。

回答数：764 施設

回答者：管理者

（1）施設の概要

①在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院の届出状況

本調査では、調査対象に記載したとおり、在宅療養支援診療所（以下、「在支診」）、在宅療養支援病院（以下、「在支病」）の届出を行っている医療機関を対象にした。また、診療所については、在支診以外の診療所で、在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所を本調査の対象とした。

本調査では、平成 28 年 10 月 1 日時点の在支診・在支病の届出状況を尋ねているが、その結果は以下のとおりである。

本調査では、診療所については「機能強化型在支診」（76 施設：単独型 10 施設、連携型 66 施設）、「在支診」（327 施設）、「在支診以外の診療所」（223 施設）の 3 類型または 4 類型ごとに、病院については「機能強化型在支病」（58 施設：単独型 19 施設、連携型 39 施設）、「在支病」（75 施設）の 2 類型または 3 類型ごとに分析を行っている。

図表 2 在支診・在支病の届出状況

		回答施設数	構成割合
診療所	機能強化型(単独型)在支診	10	1.6%
	機能強化型(連携型)在支診	66	10.5%
	在支診	327	52.2%
	在支診以外の診療所	223	35.6%
	診療所合計	626	100.0%
病院	機能強化型(単独型)在支病	19	13.8%
	機能強化型(連携型)在支病	39	28.3%
	在支病	75	54.3%
	在支病以外の病院	5	3.6%
	病院合計	138	100.0%

※「在支病以外の病院」は調査対象外であることから、分析対象外としている。

②所在地

回答施設の所在地は、以下のとおりである。

図表 3 回答施設の所在地

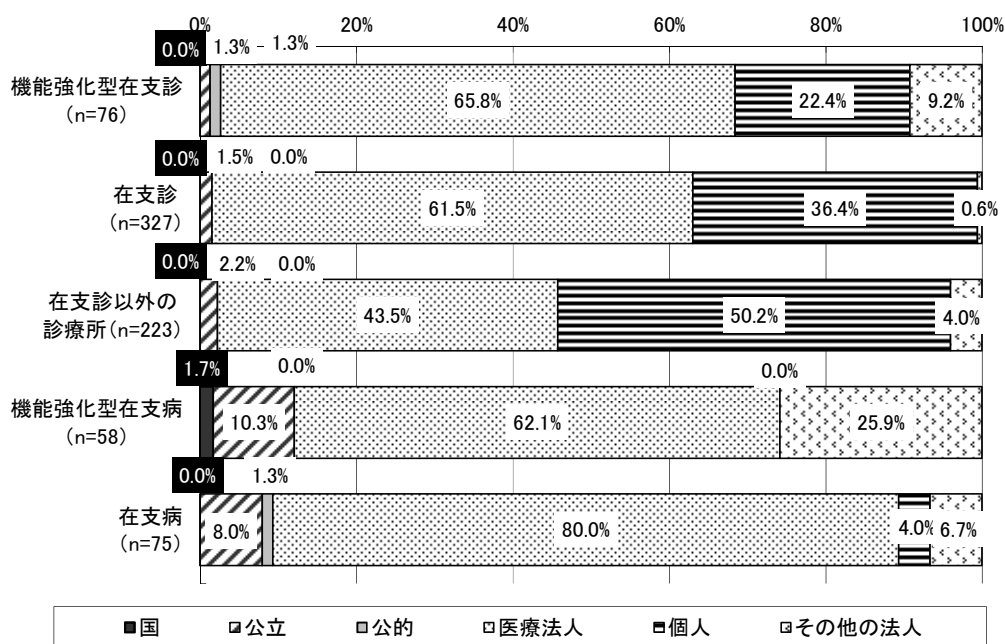
	機能強化型 在支診	在支診	在支診以外の 診療所	機能強化型 在支病	在支病
総数	76	327	223	58	75
北海道	0	7	2	1	6
青森県	0	2	1	0	1
岩手県	1	2	2	1	0
宮城県	1	2	4	2	0
秋田県	1	4	2	1	0
山形県	0	3	4	0	0
福島県	2	6	3	0	0
茨城県	1	5	5	1	3
栃木県	2	1	3	0	0
群馬県	3	7	6	1	0
埼玉県	4	8	7	2	2
千葉県	2	5	5	2	2
東京都	20	25	16	4	5
神奈川県	4	19	15	2	3
新潟県	1	2	6	0	0
富山県	1	2	1	2	0
石川県	0	7	1	0	2
福井県	0	2	1	0	0
山梨県	0	2	2	0	0
長野県	3	6	6	0	2
岐阜県	3	5	6	1	1
静岡県	2	7	5	2	1
愛知県	3	17	11	3	3
三重県	2	1	2	1	0
滋賀県	1	3	0	3	0
京都府	2	3	9	2	2
大阪府	4	29	17	4	4
兵庫県	3	13	16	2	5
奈良県	3	4	1	0	0
和歌山県	1	7	6	2	2
鳥取県	1	1	2	0	1
島根県	0	4	1	1	0
岡山県	0	6	4	1	3
広島県	2	18	8	0	3
山口県	0	3	3	0	1
徳島県	0	5	1	0	3
香川県	0	6	2	1	1
愛媛県	0	5	3	2	1
高知県	1	2	1	1	1
福岡県	1	30	12	6	5
佐賀県	0	6	3	1	1
長崎県	0	9	3	1	3
熊本県	0	5	3	0	4
大分県	0	8	5	1	2
宮崎県	1	2	2	1	0
鹿児島県	0	9	3	2	2
沖縄県	0	2	2	1	0

③開設者

開設者をみると、診療所について、機能強化型在支診、在支診では「医療法人」が最も多く、次いで「個人」であった。特に機能強化型在支診では在支診と比較して「医療法人」の割合が4.3ポイント高かった。一方、在支診以外の診療所では「個人」が最も多く、次いで「医療法人」であった。

病院について、機能強化型在支病、在支病では「医療法人」が最も多く、次いで機能強化型在支病では「その他の法人」、在支病では「公立」であった。

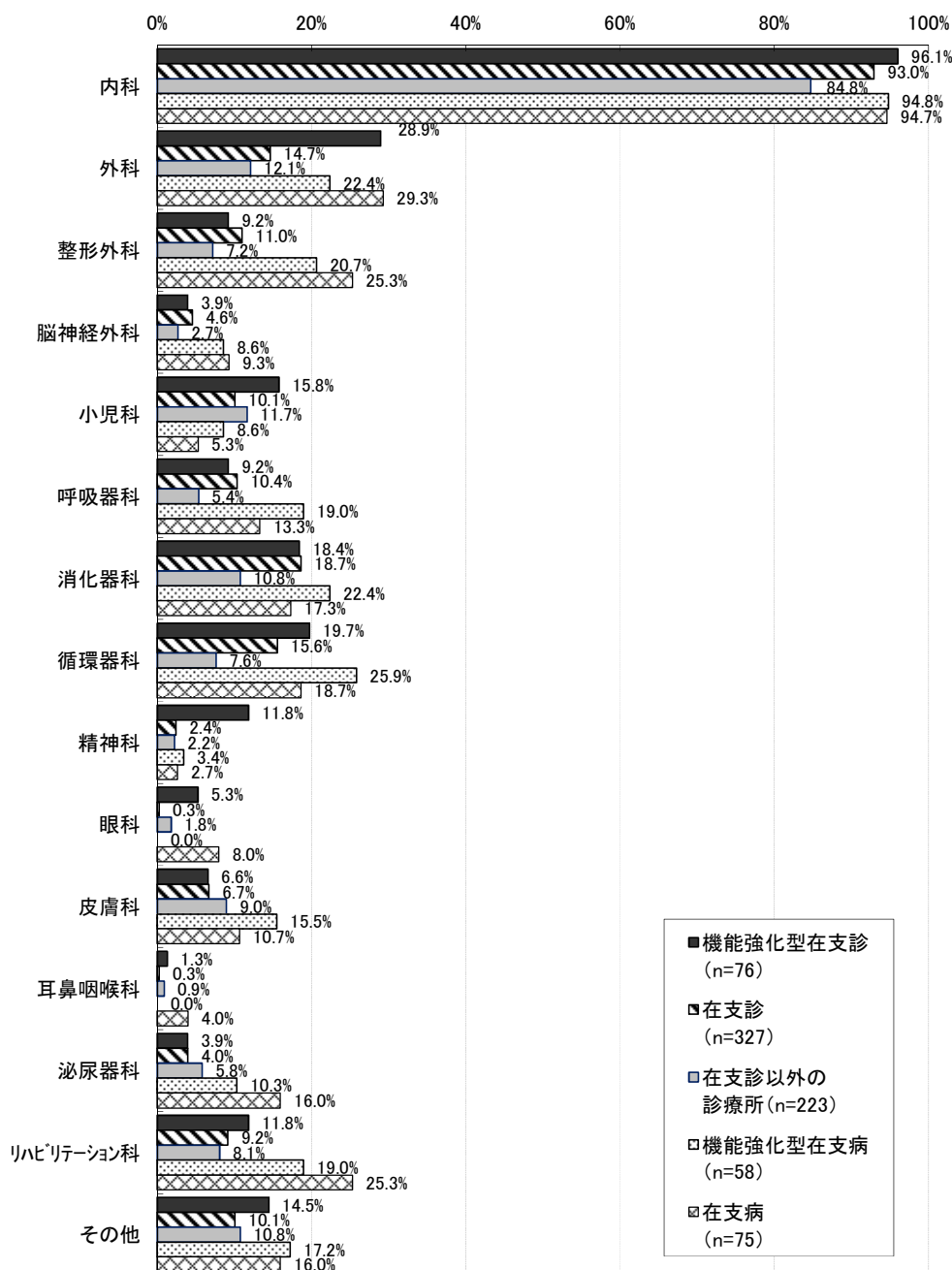
図表 4 開設者



④訪問診療を行っている診療科

訪問診療を行っている診療科をみると、機能強化型在支診では在支診や在支診以外の診療所と比較して「内科」、「外科」、「小児科」、「循環器科」、「精神科」、「眼科」、「リハビリテーション科」の割合が高かった。

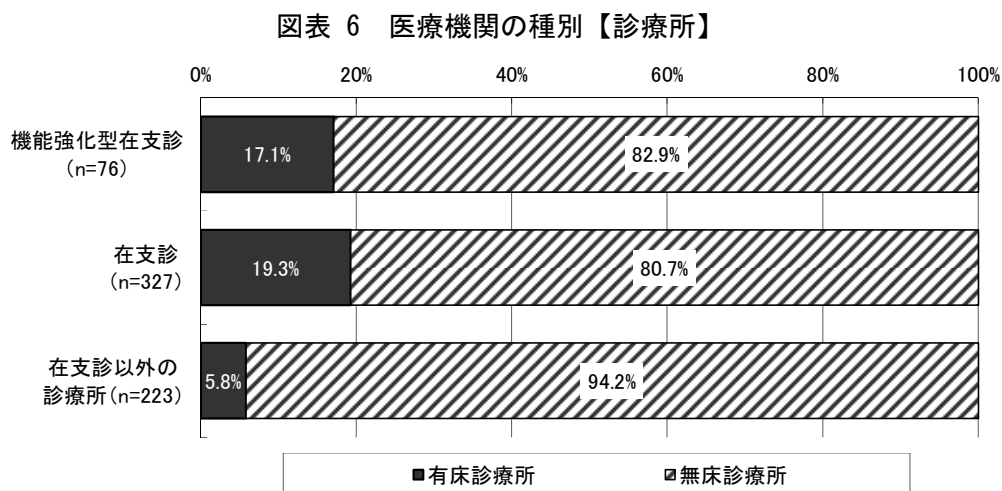
図表 5 訪問診療を行っている診療科（複数回答）



(注)「その他」の内容として、「胃腸科」、「緩和ケア科」、「肛門科」、「神経内科」、「麻酔科」、「リウマチ科」等が挙げられた。

⑤医療機関の種別（診療所）

診療所について医療機関の種別をみると、有床診療所の割合は機能強化型在支診が 17.1%、在支診が 19.3%、在支診以外の診療所が 5.8%であった。



⑥病床数

1) 許可病床数

有床診療所及び病院における 1 施設あたりの許可病床数は、以下のとおりである。

図表 7 許可病床数【有床診療所】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	3	14.7	6.7	18.0
機能強化型在支診(連携型)	10	17.7	3.0	19.0
在支診	63	16.3	4.8	19.0
在支診以外の診療所	13	17.8	3.1	19.0

(注) 許可病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 8 許可病床数【病院】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支病(単独型)	19	111.2	44.8	100.0
機能強化型在支病(連携型)	39	104.6	45.9	98.0
在支病	75	108.0	59.7	99.0

(注) 許可病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

2) 在宅患者緊急一時入院病床数

在宅患者緊急一時入院病床数は、以下のとおりである。

図表 9 在宅患者緊急一時入院病床数【有床診療所】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	3	2.3	4.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	10	0.1	0.3	0.0
在支診	63	0.2	0.9	0.0
在支診以外の診療所	13	0.2	0.6	0.0

(注) 在宅患者緊急一時入院病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 10 在宅患者緊急一時入院病床数【病院】

(単位：床)

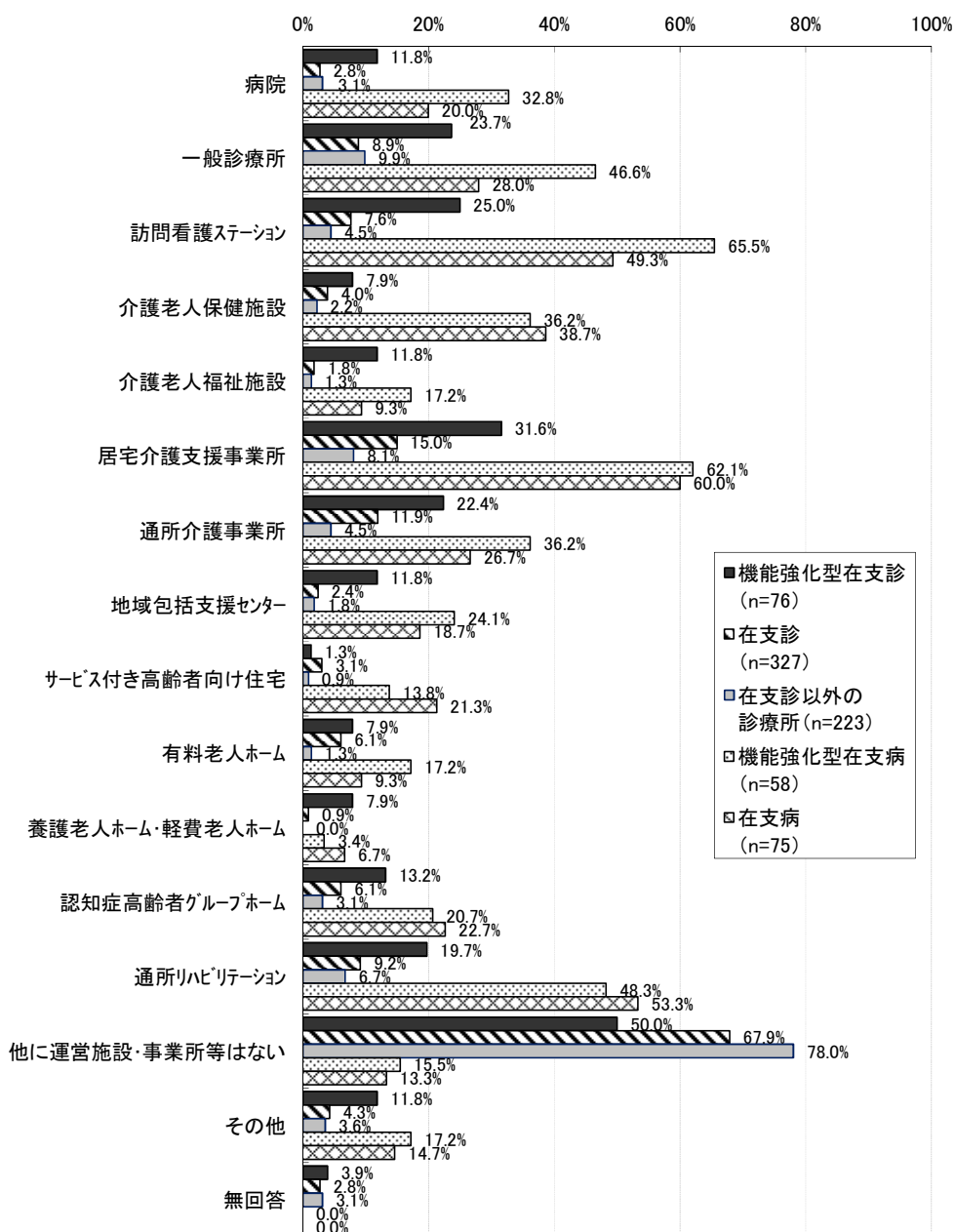
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支病(単独型)	19	2.4	9.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	2.0	7.8	0.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 在宅患者緊急一時入院病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑦自法人・関連法人が運営している施設・事業所等

自法人・関連法人が運営している施設・事業所等をみると、機能強化型在支診では他の診療所と比較して、「居宅介護支援事業所」、「訪問看護ステーション」等を運営している施設の割合が高かった。また、機能強化型在支病でも同様に「訪問看護ステーション」、「居宅介護支援事業所」を運営している施設は6割を超えた。

図表 11 自法人・関連法人が運営している施設・事業所等（複数回答）

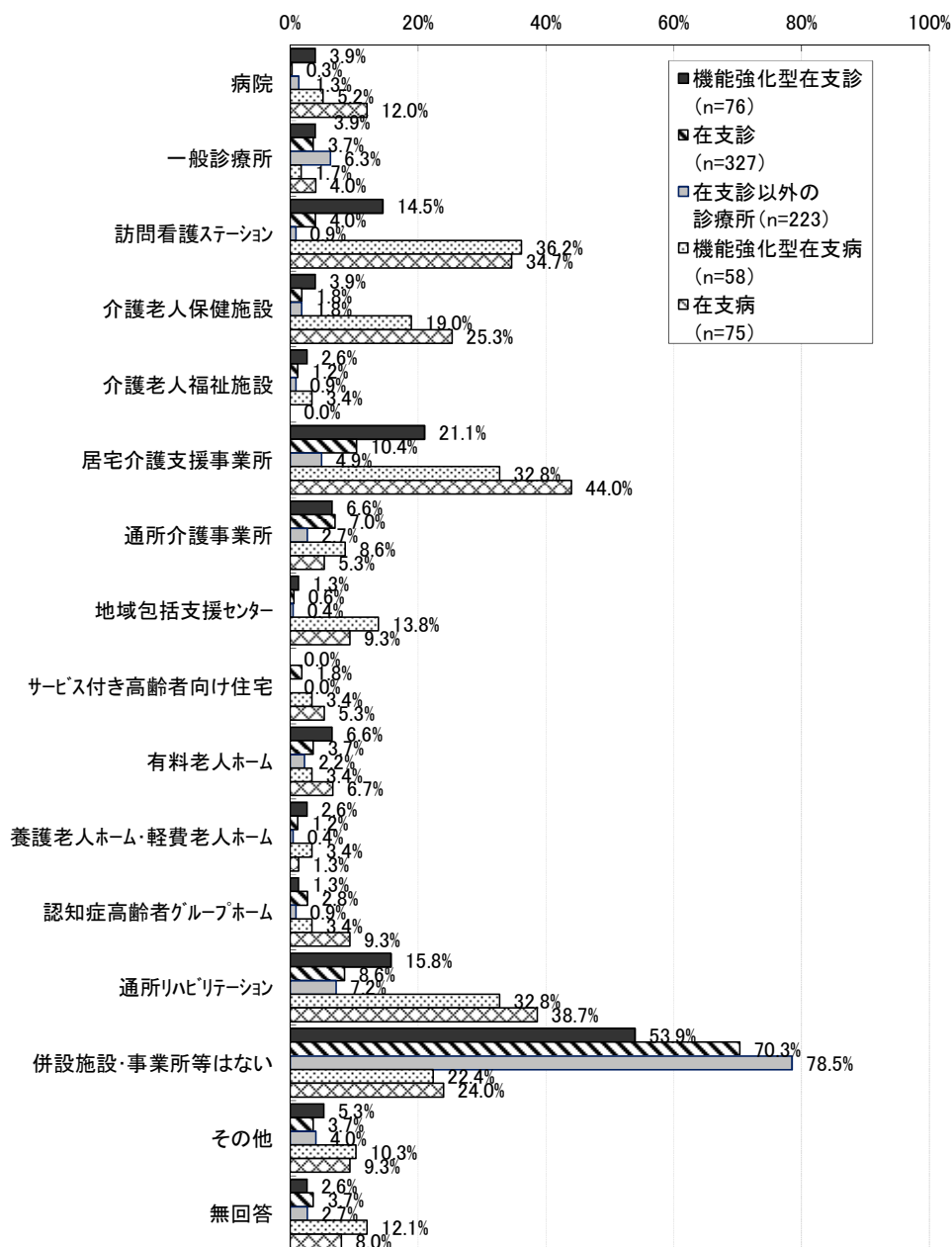


(注) 「その他」の内容として、「介護療養型医療施設」、「小規模多機能型居宅介護」、「短期入所生活介護」、「短期入所療養介護」、「病児保育室」、「放課後等児童デイサービス」、「訪問介護事業所」、「訪問リハビリテーション」等が挙げられた。

⑧同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等

同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等をみると、機能強化型在支診、機能強化型在支病では他の診療所と比較して、「居宅介護支援事業所」、「通所リハビリテーション」、「訪問看護ステーション」等の割合が高かった。機能強化型在支病でも同様に「訪問看護ステーション」、「居宅介護支援事業所」、「通所リハビリテーション」の割合が高かった。

図表 12 同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等（複数回答）

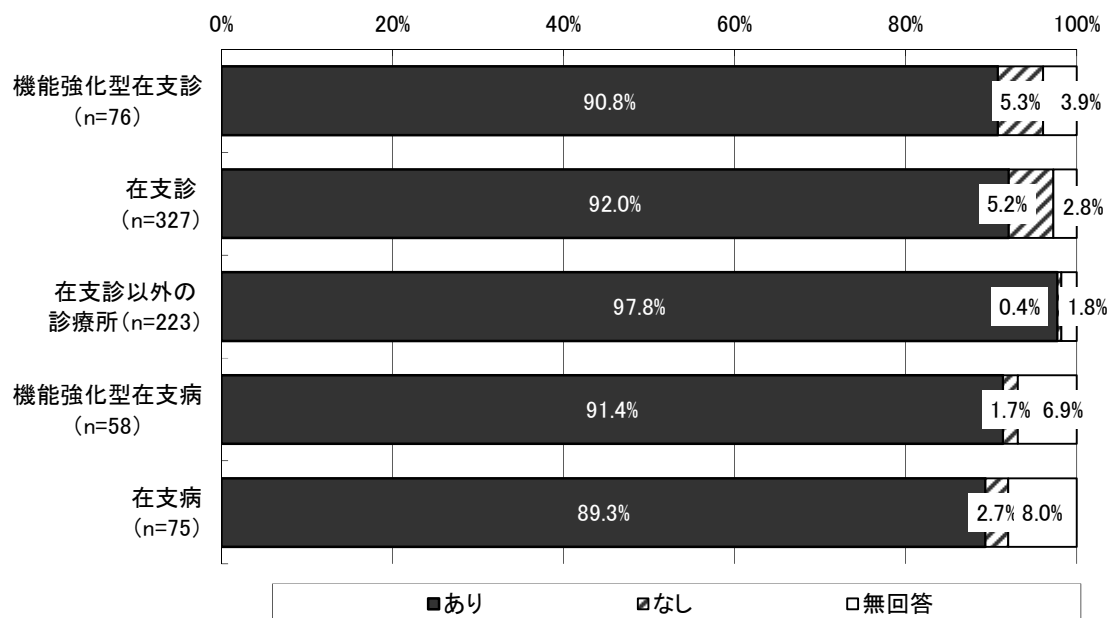


(注)「その他」の内容として、「介護療養型医療施設」、「小規模多機能型居宅介護事業所」、「短期入所生活介護」、「短期入所療養介護」、「調剤薬局」、「保育園」、「訪問介護事業所」、「訪問リハビリテーション」、「介護福祉用品レンタル・販売」等が挙げられた。

⑨医師会への入会の有無

医師会への入会の有無は、以下のとおりである。

図表 13 医師会への入会の有無



(2) 診療体制

①全職員数（常勤換算）

1施設あたりの全職員数（常勤換算）は、以下のとおりである。

1施設あたりの医師の人数は、機能強化型在支診が平均2.6人（中央値2.0）、在支診が1.3人（中央値1.0）、在支診以外の診療所が1.2人（中央値1.0）であった。また、機能強化型在支診では1施設あたりの職員数が平均18.9人となっており、在支診（平均9.6人）、在支診以外の診療所（平均7.3人）と比較すると多かった。

図表 14 全職員数【機能強化型在支診】（常勤換算、n=74）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.6	3.6	2.0
歯科医師	0.3	2.0	0.0
保健師・助産師・看護師	3.5	6.4	2.0
准看護師	1.2	2.2	0.0
薬剤師	0.5	3.0	0.0
リハビリ職	1.0	3.3	0.0
管理栄養士	0.2	0.7	0.0
その他の医療職	2.2	15.2	0.0
社会福祉士	0.1	0.4	0.0
その他の職員	7.3	29.9	3.0
合計	18.9	63.3	8.3

（注）全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 15 全職員数【在支診】（常勤換算、n=317）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.3	0.6	1.0
歯科医師	0.0	0.2	0.0
保健師・助産師・看護師	2.0	2.3	1.1
准看護師	1.8	2.4	1.0
薬剤師	0.1	0.3	0.0
リハビリ職	0.3	1.1	0.0
管理栄養士	0.1	0.3	0.0
その他の医療職	0.5	1.3	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	3.6	4.1	2.5
合計	9.6	8.8	7.0

（注）全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 16 全職員数【在支診以外の診療所】(常勤換算、n=214)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.2	0.5	1.0
歯科医師	0.0	0.1	0.0
保健師・助産師・看護師	1.4	1.7	1.0
准看護師	1.2	1.6	1.0
薬剤師	0.1	0.2	0.0
リハビリ職	0.1	0.6	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
その他の医療職	0.4	1.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	2.8	2.7	2.4
合計	7.3	4.8	6.2

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 17 全職員数【機能強化型在支病】(常勤換算、n=57)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	12.2	6.8	10.8
歯科医師	0.3	1.0	0.0
保健師・助産師・看護師	61.4	40.8	46.6
准看護師	10.9	7.8	9.5
薬剤師	3.4	2.0	3.0
リハビリ職	19.2	21.1	10.0
管理栄養士	2.2	1.4	2.0
その他の医療職	15.1	11.9	12.0
社会福祉士	2.1	1.5	2.0
その他の職員	41.5	22.0	37.0
合計	168.3	93.4	133.8

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 18 全職員数【在支病】(常勤換算、n=70)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	9.0	5.2	7.2
歯科医師	0.0	0.2	0.0
保健師・助産師・看護師	45.3	31.4	38.1
准看護師	12.5	8.6	10.0
薬剤師	3.2	2.2	2.8
リハビリ職	16.8	20.5	9.7
管理栄養士	2.1	1.2	2.0
その他の医療職	12.9	14.8	6.8
社会福祉士	1.9	2.0	1.5
その他の職員	40.5	50.0	29.3
合計	144.3	105.0	120.8

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

②在宅医療の実施体制

1) 在宅医療の実施ため、患家に訪問をする職員数

在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数は、以下のとおりである。

機能強化型在支診（単独型）では平均 4.7 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 3.6 人、在支診では平均 1.7 人、在支診以外の診療所では平均 1.0 人であった。

図表 19 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支診（単独型）】
（常勤換算、n=9）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.4	1.7	3.0
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	1.4	2.2	0.0
准看護師	0.3	0.7	0.0
薬剤師	0.0	-	0.0
リハビリ職	0.4	1.3	0.0
管理栄養士	0.1	0.3	0.0
その他の医療職	0.0	-	0.0
社会福祉士	0.0	-	0.0
その他の職員	0.0	-	0.0
合計	4.7	4.2	3.0

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 20 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支診（連携型）】
（常勤換算、n=65）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.2	1.2	1.0
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	1.0	1.6	0.4
准看護師	0.3	0.7	0.0
薬剤師	0.0	-	0.0
リハビリ職	0.4	1.3	0.0
管理栄養士	0.1	0.7	0.0
その他の医療職	0.0	-	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	0.6	1.5	0.0
合計	3.6	4.3	2.1

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 21 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【在支診】
(常勤換算、n=305)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.7	0.5	1.0
歯科医師	0.0	0.1	0.0
保健師・助産師・看護師	0.4	0.8	0.0
准看護師	0.3	0.9	0.0
薬剤師	0.0	-	0.0
リハビリ職	0.0	0.3	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
その他の医療職	0.0	0.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.1	0.5	0.0
合計	1.7	2.0	1.0

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 22 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【在支診以外の診療所】
(常勤換算、n=202)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.6	0.5	1.0
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	0.2	0.6	0.0
准看護師	0.2	0.5	0.0
薬剤師	0.0	0.1	0.0
リハビリ職	0.0	0.2	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
その他の医療職	0.0	0.3	0.0
社会福祉士	0.0	-	0.0
その他の職員	0.0	0.2	0.0
合計	1.0	1.3	1.0

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数は、機能強化型在支病（単独型）では平均 6.5 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 3.4 人、在支病では平均 2.3 人であった。

図表 23 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支病（単独型）】
（常勤換算、n=19）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.4	2.8	1.1
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	1.9	2.3	0.9
准看護師	0.5	1.3	0.0
薬剤師	0.1	0.2	0.0
リハビリ職	0.5	1.2	0.0
管理栄養士	0.1	0.2	0.0
その他の医療職	0.0	-	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	1.0	3.7	0.0
合計	6.5	7.2	3.0

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 24 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支病（連携型）】
（常勤換算、n=34）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.0	1.1	0.5
歯科医師	0.0	0.0	0.0
保健師・助産師・看護師	1.1	1.6	0.5
准看護師	0.2	0.5	0.0
薬剤師	0.0	0.0	0.0
リハビリ職	0.5	1.6	0.0
管理栄養士	0.0	0.0	0.0
その他の医療職	0.0	0.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.5	1.2	0.0
合計	3.4	5.0	1.7

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 25 在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数【在支病】
(常勤換算、n=68)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.8	1.2	0.3
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	0.7	1.5	0.1
准看護師	0.2	0.4	0.0
薬剤師	0.0	0.0	0.0
リハビリ職	0.3	0.9	0.0
管理栄養士	0.0	-	0.0
その他の医療職	0.0	-	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.3	1.0	0.0
合計	2.3	4.0	0.8

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

2) 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）

在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 2.8 人（中央値 3.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 1.3 人（中央値 1.0）、在支診では平均 1.0 人（中央値 1.0）、在支診以外の診療所では平均 0.9 人（中央値 1.0）であった。また、機能強化型在支病（単独型）では平均 4.4 人（中央値 4.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 3.4 人（中央値 2.5）、在支病では平均 2.6 人（中央値 2.0）であった。

図表 26 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	2.8	1.2	3.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.3	0.7	1.0
在支診	318	1.0	0.3	1.0
在支診以外の診療所	206	0.9	0.5	1.0
機能強化型在支病(単独型)	18	4.4	1.7	4.0
機能強化型在支病(連携型)	38	3.4	2.6	2.5
在支病	69	2.6	1.8	2.0

(注) 在宅医療を担当する常勤の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

3) 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数

在宅医療を担当する常勤の医師のうち、認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 0.8 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.4 人、在支診では平均 0.4 人、在支診以外の診療所では平均 0.2 人であった。同様に病院についてみると、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.4 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 0.4 人、在支病では平均 0.4 人であった。

図表 27 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.8	1.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	60	0.4	0.5	0.0
在支診	288	0.4	0.5	0.0
在支診以外の診療所	189	0.2	0.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.4	0.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	35	0.4	0.6	0.0
在支病	66	0.4	0.6	0.0

(注) 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

4) 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数

在宅医療を担当する常勤の医師のうち、緩和ケアに関する研修等（「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針に準拠した研修」又は「緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修会等」）を修了した医師数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 1.0 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.8 人、在支診では平均 0.3 人、在支診以外の診療所では平均 0.1 人であった。同様に病院についてみると、機能強化型在支病（単独型）では平均 1.8 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 1.0 人、在支病では平均 0.6 人であった。

図表 28 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数

(単位：人)

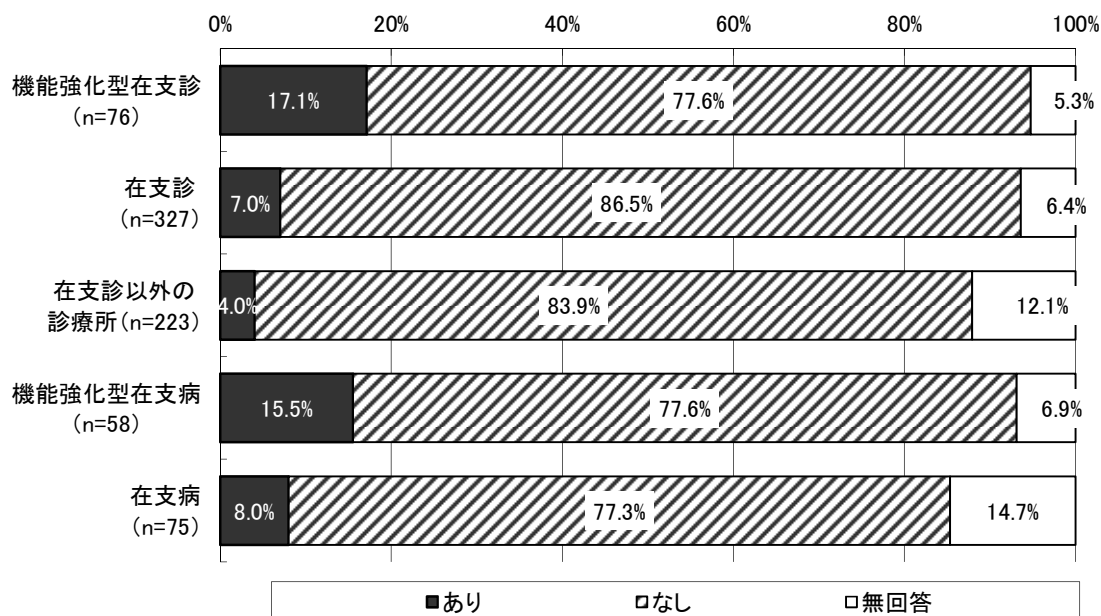
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	1.0	1.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	64	0.8	0.6	1.0
在支診	292	0.3	0.5	0.0
在支診以外の診療所	187	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	1.8	1.4	1.0
機能強化型在支病(連携型)	36	1.0	0.9	1.0
在支病	63	0.6	0.9	0.0

(注) 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

5) 在宅褥瘡管理者の有無と人数

在宅褥瘡管理者の有無についてみると、「あり」の割合は機能強化型在支診では17.1%、在支診では7.0%、在支診以外の診療所では4.0%、機能強化型在支病では15.5%、在支病では8.0%であった。「あり」の割合は、機能強化型在支診で最も高く、次いで機能強化型在支病という順であった。

図表 29 在宅褥瘡管理者の有無



在宅褥瘡管理者がいる施設における、在宅褥瘡管理者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均1.0人、機能強化型在支診（連携型）では平均2.1人、在支診では平均1.4人、在支診以外の診療所では平均1.4人であった。また、機能強化型在支病（単独型）では平均1.8人、機能強化型在支病（連携型）では平均1.3人、在支病では平均1.2人であった。

図表 30 在宅褥瘡管理者数（在宅褥瘡管理者がいる施設）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	2	1.0	-	1.0
機能強化型在支診(連携型)	11	2.1	1.2	2.0
在支診	21	1.4	0.8	1.0
在支診以外の診療所	9	1.4	0.9	1.0
機能強化型在支病(単独型)	5	1.8	0.8	2.0
機能強化型在支病(連携型)	4	1.3	0.5	1.0
在支病	5	1.2	0.4	1.0

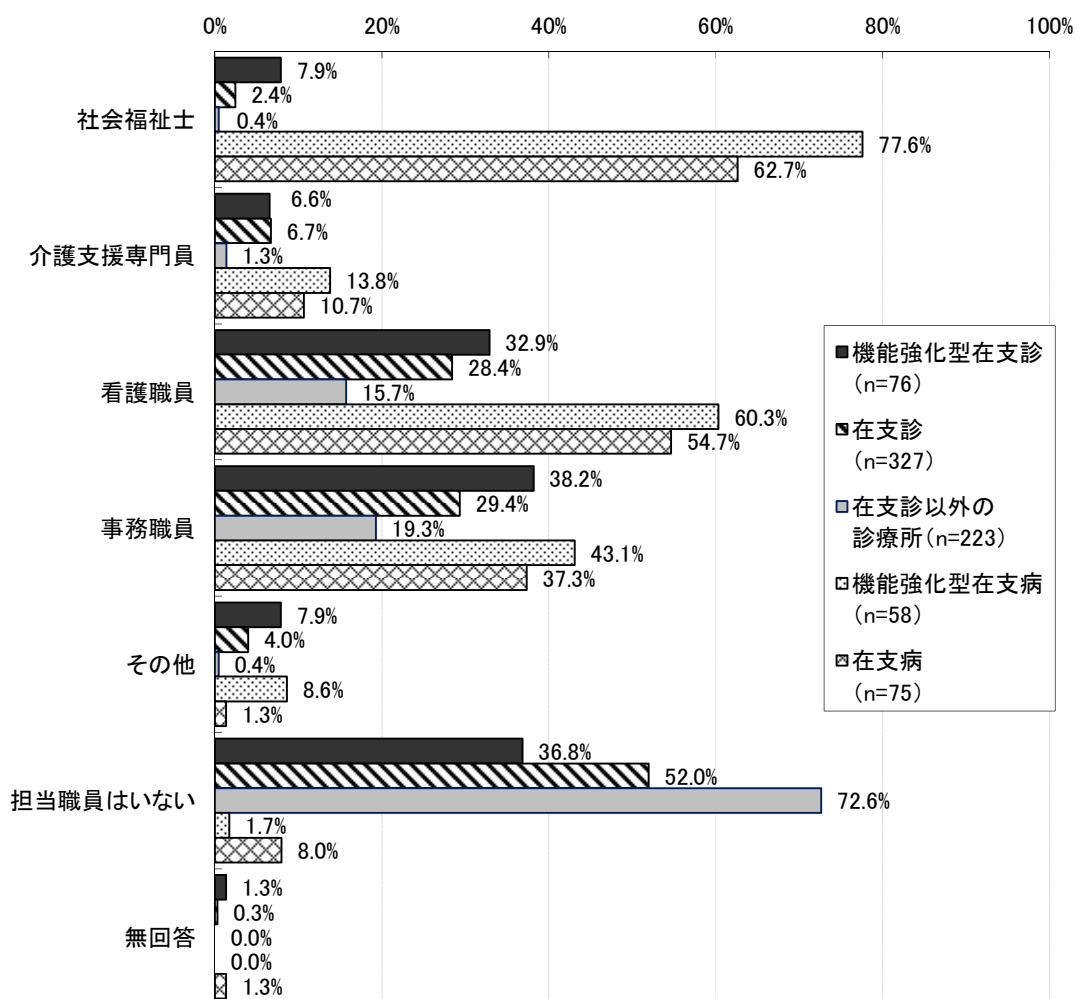
(注) 在宅褥瘡管理者数について記入のあった施設を集計対象とした。

6) 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種とその人数

診療所における、他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種についてみると、「事務職員」の割合が機能強化型在支診では38.2%、在支診では29.4%、在支診以外の診療所では19.3%で最も多かった。ただし、在支診、在支診以外の診療所では「担当職員はいない」の割合が最も多かった。

病院についてみると、機能強化型在支病では「社会福祉士」が77.6%、「看護職員」が60.3%と高かった。在支病でも「社会福祉士」が62.7%、「看護職員」が54.7%であった。

図表 31 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種（複数回答）



各職種がいる施設について、他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している人数をみると、機能強化型在支診では看護職員が平均 1.9 人、事務職員が平均 1.7 人で、在支診では事務職員が平均 1.6 人、看護職員が平均 1.4 人、在支診以外の診療所では介護支援専門員が平均 2.3 人、社会福祉士が平均 2.0 人であった。また、機能強化型在支病と在支病では社会福祉士が平均 2.3 人であった。

図表 32 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【機能強化型在支診】
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	5	1.2	0.4	1.0
介護支援専門員	5	1.4	0.9	1.0
看護職員	25	1.9	1.3	1.0
事務職員	28	1.7	1.2	1.0
その他	5	1.0	-	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 33 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支診】
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	8	1.1	0.4	1.0
介護支援専門員	22	1.2	0.5	1.0
看護職員	91	1.4	0.9	1.0
事務職員	94	1.6	0.8	1.0
その他	12	1.3	0.5	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 34 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支診以外の診療所】
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	1	2.0	-	2.0
介護支援専門員	3	2.3	2.3	1.0
看護職員	34	1.7	1.1	1.0
事務職員	43	1.8	0.9	2.0
その他	1	4.0	-	4.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 35 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【機能強化型在支病】
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	45	2.3	1.2	2.0
介護支援専門員	8	1.4	0.7	1.0
看護職員	35	1.3	0.5	1.0
事務職員	25	1.4	0.6	1.0
その他	5	1.4	0.5	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 36 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支病】
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	46	2.3	1.3	2.0
介護支援専門員	8	1.9	1.5	1.0
看護職員	41	1.3	0.6	1.0
事務職員	28	1.2	0.4	1.0
その他	1	1.0	-	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

③患者数の推移

機能強化型在支診では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均140人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ8.0%前後であった。同様にみると、在支診では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均46人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ4.5%前後であった。さらに、在支診以外の診療所では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均17人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ1.8%前後であった。

図表 37 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【機能強化型在支診】(n=70)

(単位：人)

	平成28年7月			平成28年8月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	125.0	313.3	60.5	125.2	322.2	45.5	119.5	289.1	52.5
②再診延べ患者数	1,512.9	5,997.5	635.5	1,535.2	6,132.7	628.5	1,500.6	6,018.9	635.5
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	140.3	159.7	89.5	142.9	164.4	95.5	141.0	165.3	86.5
④合計患者数	1,778.2			1,803.3			1,761.2		
⑤往診・訪問診療患者割合(③/④)	7.9%			7.9%			8.0%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成28年7月～9月の3か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 38 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支診】(n=298)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	107.6	133.6	73.0	99.5	120.7	69.5	102.4	126.1	69.0
②再診延べ患者数	879.0	729.5	731.5	858.8	699.1	713.0	859.1	715.0	717.0
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	45.6	88.9	15.0	46.6	93.3	15.0	45.8	89.0	15.0
④合計患者数	1,032.2			1,004.8			1,007.2		
⑤往診・訪問診療患者割合(③/④)	4.4%			4.6%			4.5%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 39 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支診以外の診療所】(n=178)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	115.1	145.7	66.0	105.3	129.3	58.5	109.2	127.0	60.5
②再診延べ患者数	845.2	639.3	674.0	825.9	622.1	669.5	844.6	631.0	693.5
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	17.4	30.7	5.0	17.6	31.0	5.0	17.7	31.3	5.0
④合計患者数	977.7			948.8			971.5		
⑤往診・訪問診療患者割合(③/④)	1.8%			1.9%			1.8%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病では、1 か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 250 人前後で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 6.0% 台であった。同様にみると、在支病では、1 か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 46 人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 2.0% であった。

図表 40 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【機能強化型在支病】(n=57)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	482.2	425.2	362.0	474.5	417.8	383.0	436.4	375.0	364.0
②再診延べ患者数	3,183.0	1,803.4	2,968.0	3,234.9	1,860.4	3,031.0	3,133.5	1,825.8	2,984.0
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	245.8	405.2	109.0	253.7	435.9	118.0	251.6	418.5	121.0
④合計患者数	3,911.1			3,963.2			3,821.6		
⑤往診・訪問診療患者割合(③/④)	6.3%			6.4%			6.6%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 41 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支病】(n=68)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準 偏差	中央値	平均値	標準 偏差	中央値	平均値	標準 偏差	中央値
①初診患者数	247.4	270.2	163.0	255.4	280.0	156.0	235.8	255.3	127.5
②再診延べ患者数	2,203.7	2,126.5	1,704.5	2,259.0	2,151.8	1,730.0	2,173.6	2,057.9	1,683.0
③往診及び訪問診療を行っ た延べ患者数	46.8	68.0	20.0	46.5	62.4	20.5	46.8	66.2	20.0
④合計患者数	2,497.9			2,560.9			2,456.2		
⑤往診・訪問診療患者割合 (③/④)	1.9%			1.8%			1.9%		

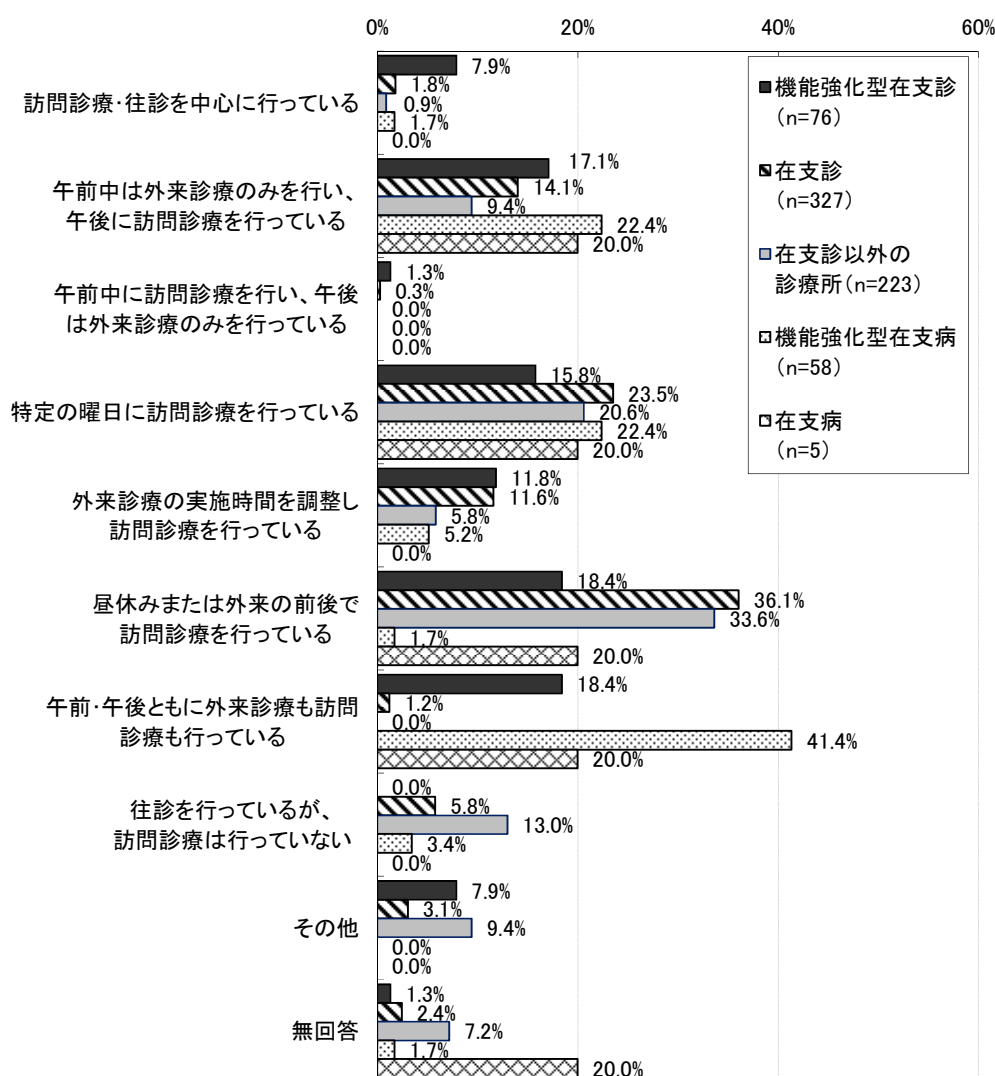
(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

④訪問診療を行う時間等

訪問診療を行う時間等をみると、機能強化型在支診では「昼休みまたは外来の前後で訪問診療を行っている」と「午前・午後ともに外来診療も訪問診療も行っている」がともに18.4%で最も多かった。在支診、在支診以外の診療所では「昼休みまたは外来の前後で訪問診療を行っている」がそれぞれ36.1%、33.6%で最も多く、次いで「特定の曜日に訪問診療を行っている」が23.5%、20.6%であった。機能強化型在支病では「午前・午後ともに外来診療も訪問診療も行っている」が41.4%で最も多かった。

「訪問診療・往診を中心に行っている」は機能強化型在支診では7.9%であった。

図表 42 訪問診療を行う時間等（単数回答）



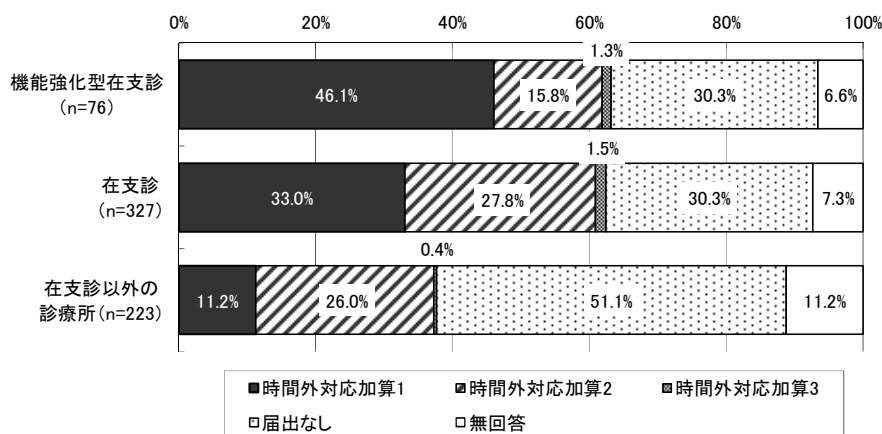
(注)「その他」の内容として、「曜日は患者（家庭）に合わせて決定し、時間も早朝か夕方に決定する」、「随時」等が挙げられた。

⑤時間外対応加算の届出状況（診療所）

診療所について、時間外対応加算の届出状況をみると、機能強化型在支診では「時間外対応加

算 1」が 46.1%で、在支診（33.0%）、在支診以外の診療所（11.2%）よりも高かった。在支診では「時間外対応加算 2」が 27.8%で、「時間外対応加算 1」と合わせた割合は 6 割近くとなり、機能強化型在支診と同程度となった。「届出なし」の割合は、在支診以外の診療所では 51.1%と 5 割近くとなった。

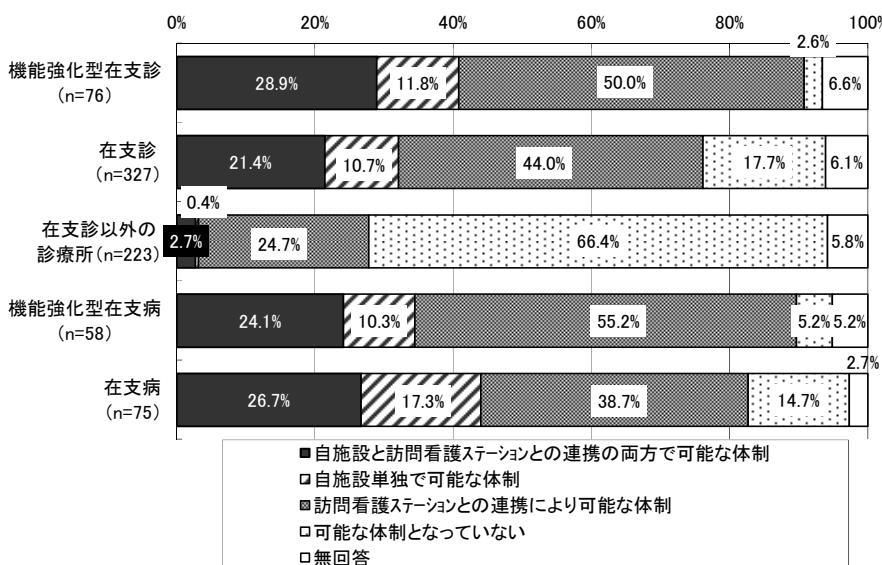
図表 43 時間外対応加算の届出状況【診療所】



⑥24 時間訪問看護の提供体制

機能強化型在支診、在支診、機能強化型在支病、在支病では、「訪問看護ステーションとの連携により可能な体制」が最も多かったが、「自施設と訪問看護ステーションとの連携の両方で可能な体制」の割合も高かった。在支診以外の診療所では「可能な体制となっていない」の割合が高かった。

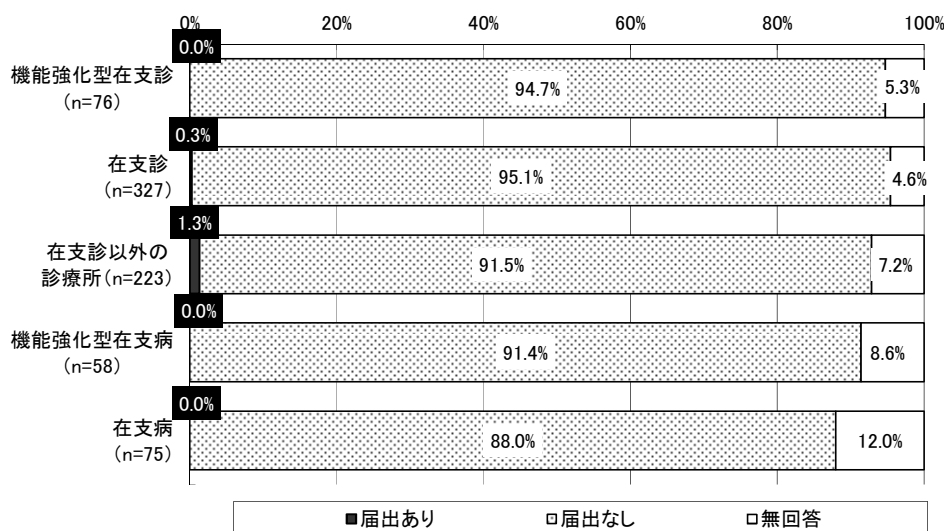
図表 44 24 時間訪問看護の提供体制



⑦精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無

精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無は、以下のとおりである。

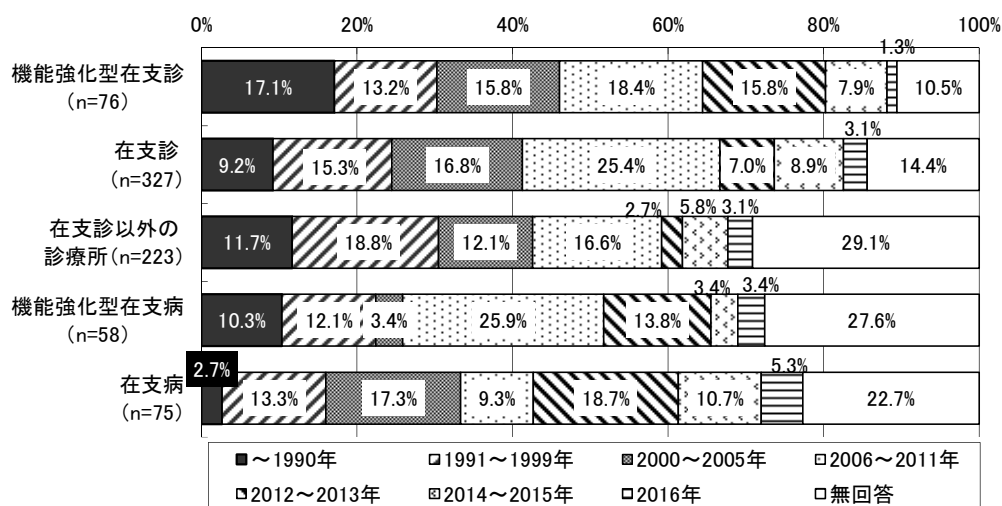
図表 45 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無



⑧訪問診療を開始した時期

訪問診療を開始した時期をみると、機能強化型在支診については「～1990年」が17.1%と早い時期から実施している施設の割合が他と比較すると相対的に高かった。また、機能強化型在支診、在支診、機能強化型在支病では「2006～2011年」が最も多かった。なお、機能強化型在支病、在支診以外の診療所については無回答が多かったことに留意する必要がある。

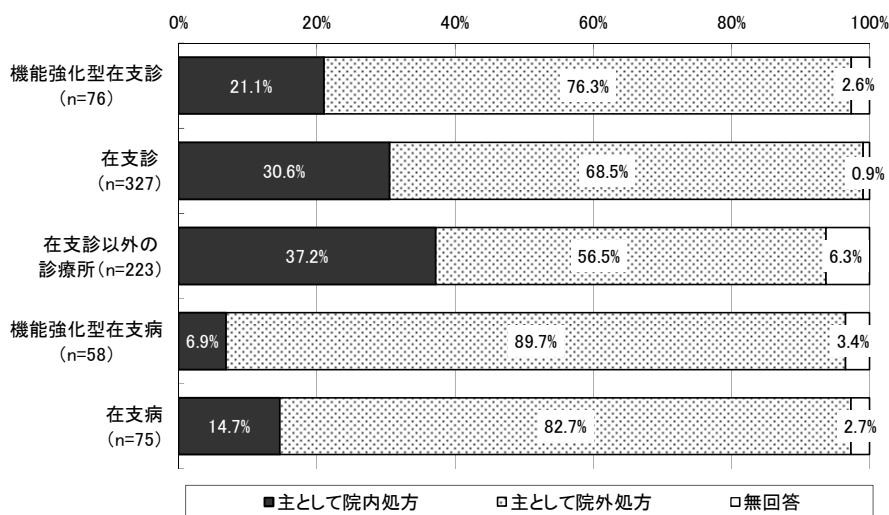
図表 46 訪問診療を開始した時期



⑨外来における院内・院外処方状況

外来における院内・院外処方状況を見ると、機能強化型在支診では、在支診、在支診以外の診療所と比較すると、「主として院外処方」の割合が高く、76.3%であった。また、機能強化型在支病では「主として院外処方」が89.7%で在支病と比較して7.0ポイント高かった。

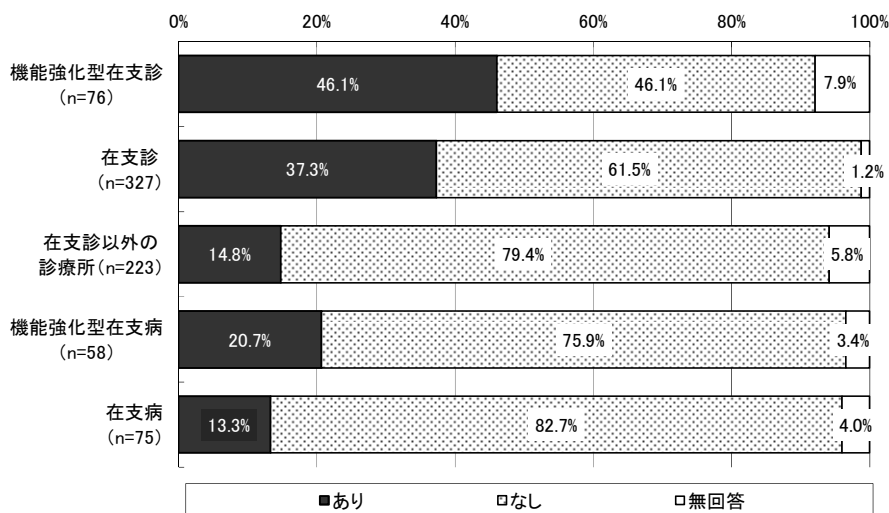
図表 47 外来における院内・院外処方状況



⑩連携している24時間対応の薬局の有無

連携している24時間対応の薬局の有無を見ると、「あり」の割合は、診療所では、機能強化型在支診が46.1%、在支診が37.3%、在支診以外の診療所が14.8%と、機能強化型在支診で特に高かった。また、病院では、「あり」の割合は、機能強化型在支病が20.7%、在支病では13.3%であった。

図表 48 連携している24時間対応の薬局の有無



(3) 在支診・在支病の状況等

①機能強化型在支診・在支病

1) 在支診・在支病の届出時期

機能強化型在支診に対して在支診の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支診（単独型）では「平成 18～19 年度」が、機能強化型在支診（連携型）では「平成 24～25 年度」が最も多かった。また、機能強化型在支病に対して在支病の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支病（単独型）では「平成 22～23 年度」が、機能強化型在支病（連携型）では「平成 26～27 年度」が最も多かった。

図表 49 在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	平成 18 ～ 19 年度	平成 20 ～ 21 年度	平成 22 ～ 23 年度	平成 24 ～ 25 年度	平成 26 ～ 27 年度	平成 28 年度 以降～	無回答
機能強化型在支診 (単独型)	10 100.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0
機能強化型在支診 (連携型)	66 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 48.5	14 21.2	8 12.1	12 18.2
機能強化型在支病 (単独型)	19 100.0	0 0.0	0 0.0	9 47.4	3 15.8	6 31.6	0 0.0	1 5.3
機能強化型在支病 (連携型)	39 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 25.6	11 28.2	6 15.4	12 30.8

2) 機能強化型在支診・在支病の届出時期

機能強化型在支診に対して機能強化型在支診の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）ともに「平成 24 年度」が最も多かった。また、機能強化型在支病に対して機能強化型在支病の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支病（単独型）では「平成 24 年度」が、機能強化型在支病（連携型）では「平成 26 年度」が最も多かった。

図表 50 機能強化型在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	無回答
機能強化型在支診 (単独型)	10 100.0	5 50.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0
機能強化型在支診 (連携型)	66 100.0	25 37.9	7 10.6	10 15.2	4 6.1	8 12.1	12 18.2
機能強化型在支病 (単独型)	19 100.0	7 36.8	2 10.5	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5
機能強化型在支病 (連携型)	39 100.0	7 17.9	3 7.7	9 23.1	2 5.1	6 15.4	12 30.8

3) 在宅支援連携体制（機能強化型（連携型））

機能強化型在支診（連携型）における、届出をしている連携医療機関数についてみると、「連携診療所数（病床あり）」は平均 0.3 施設（中央値 0.0）、「連携診療所数（病床なし）」は平均 3.0 施設（中央値 3.0）、「連携病院数」は平均 0.6 施設（中央値 0.0）で、その合計は平均 3.8 施設（中央値 3.0）であった。

機能強化型在支病（連携型）における、届出をしている連携医療機関数についてみると、「連携診療所数（病床あり）」は平均 0.3 施設（中央値 0.0）、「連携診療所数（病床なし）」は平均 2.8 施設（中央値 2.0）、「連携病院数」は平均 0.8 施設（中央値 0.0）で、その合計は平均 3.8 施設（中央値 3.0）であった。

図表 51 届出をしている連携医療機関数【機能強化型在支診（連携型）】（n=63）

（単位：施設）

	平均値	標準偏差	中央値
連携診療所数(病床あり)	0.3	0.6	0.0
連携診療所数(病床なし)	3.0	2.1	3.0
連携病院数	0.6	0.9	0.0
合計	3.8	2.4	3.0

（注）届出をしている連携医療機関数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 52 届出をしている連携医療機関数【機能強化型在支病（連携型）】（n=38）

（単位：施設）

	平均値	標準偏差	中央値
連携診療所数(病床あり)	0.3	0.6	0.0
連携診療所数(病床なし)	2.8	1.8	2.0
連携病院数	0.8	1.4	0.0
合計	3.8	2.2	3.0

（注）届出をしている連携医療機関数について記入のあった施設を集計対象とした。

在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設＋連携施設）は、機能強化型在支診（連携型）では平均 5.6 人（中央値 4.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 7.4 人（中央値 7.0）であった。

図表 53 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設＋連携施設）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(連携型)	62	5.6	3.2	4.5
機能強化型在支病(連携型)	36	7.4	3.5	7.0

（注）在宅医療を担当する常勤の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

②在支診・在支病

1) 在支診・在支病の届出時期

在支診の届出時期は「平成 18～19 年度」が 39.4%で、在支病は「平成 26～27 年度」が 24.0%で最も多かった。また、「平成 28 年度以降」が在支診では 7.6%、在支病では 18.7%であった。

図表 54 在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

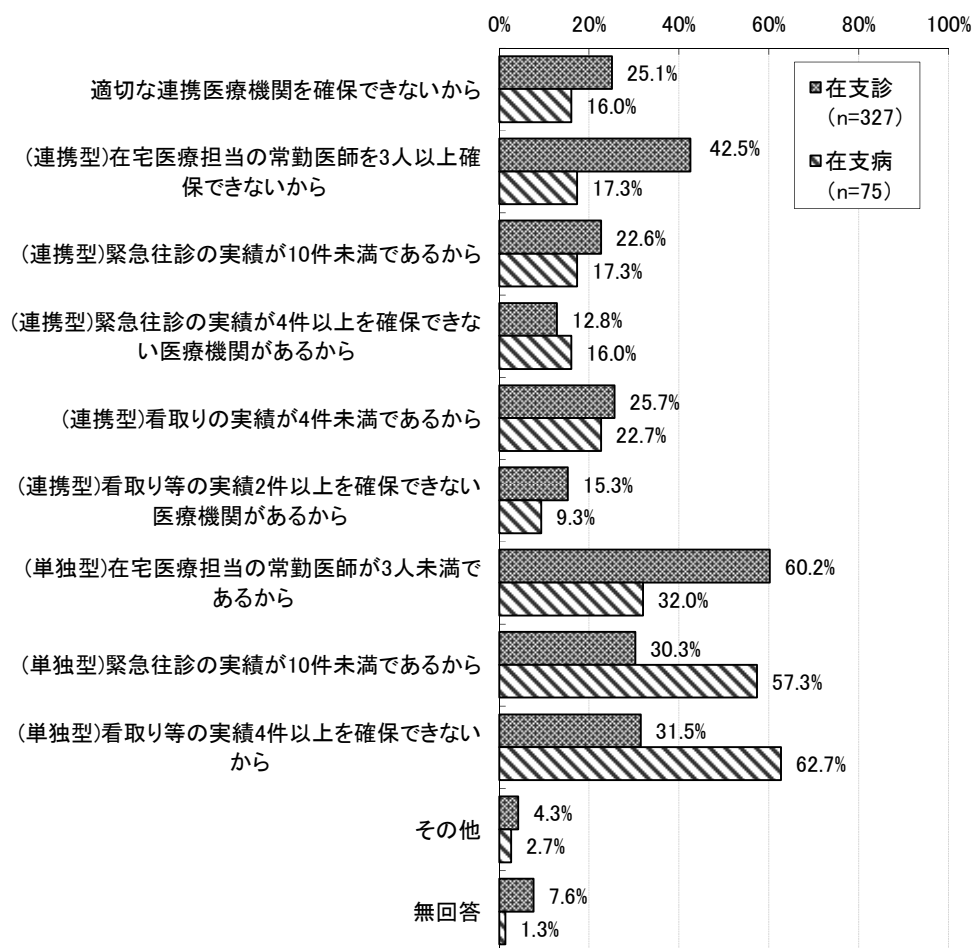
	総数	平成 18 ～ 19 年度	平成 20 ～ 21 年度	平成 22 ～ 23 年度	平成 24 ～ 25 年度	平成 26 ～ 27 年度	平成 28 年度以降	無回答
在支診	327 100.0	129 39.4	29 8.9	20 6.1	33 10.1	36 11.0	25 7.6	55 16.8
在支病	75 100.0	0 0.0	0 0.0	17 22.7	14 18.7	18 24.0	14 18.7	12 16.0

2) 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない理由

在支診が機能強化型在支診の届出をしていない理由としては、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が3人未満であるから」が60.2%で最も多く、次いで「(連携型) 在宅医療担当の常勤医師を3人以上確保できないから」が42.5%となっており、在宅医療を担当する常勤医師の確保が理由として多く挙げられた。

また、在支病が機能強化型在支病の届出をしていない理由としては、「(単独型) 看取り等の実績4件以上を確保できないから」が62.7%で最も多く、次いで「(単独型) 緊急往診の実績が10件未満であるから」が57.3%であった。

図表 55 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない理由
(在支診・在支病、複数回答)

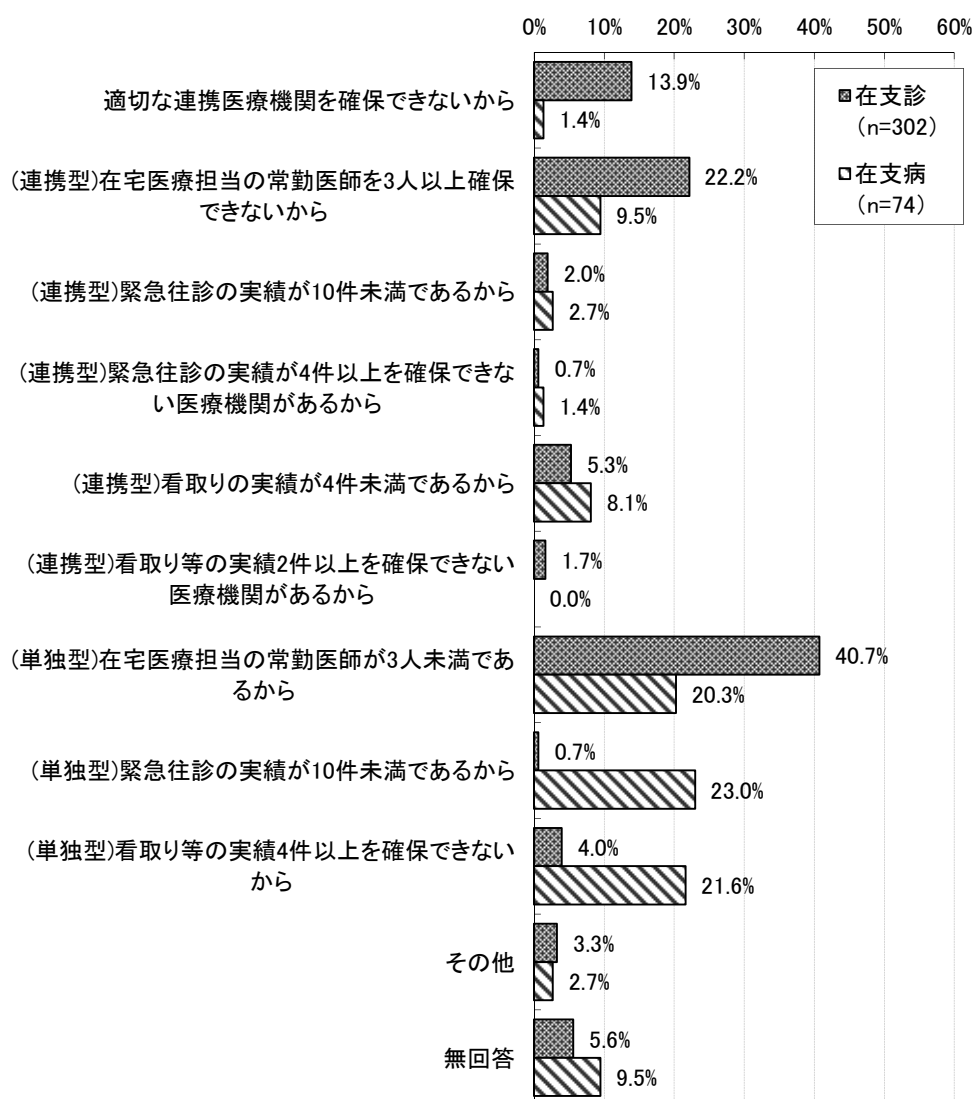


(注)「その他」の内容として、「連携先との共通の携帯電話/月1回のカンファレンスの時間が実現不可能なため」、「精神負担が大きくなるから」、「料金が高くなると患者が嫌がる」、「いろいろな制約が多いから」、「医師が高齢のため」、「新規開設病院のため」、「診療方針、スタイルの違いにより連携が難しい」等が挙げられた。

在支診が機能強化型在支診の届出をしていない最大の理由については、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が3人未満であるから」が40.7%で最も多く、次いで「(連携型) 在宅医療担当の常勤医師を3人以上確保できないから」が22.2%と在宅医療を担当する常勤医師の確保が理由として多く挙げられた。

また、在支病が機能強化型在支病の届出をしていない最大の理由については、「(単独型) 緊急往診の実績が10件未満であるから」が23.0%で最も多く、次いで「(単独型) 看取り等の実績4件以上を確保できないから」が21.6%、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が3人未満であるから」が20.3%であった。

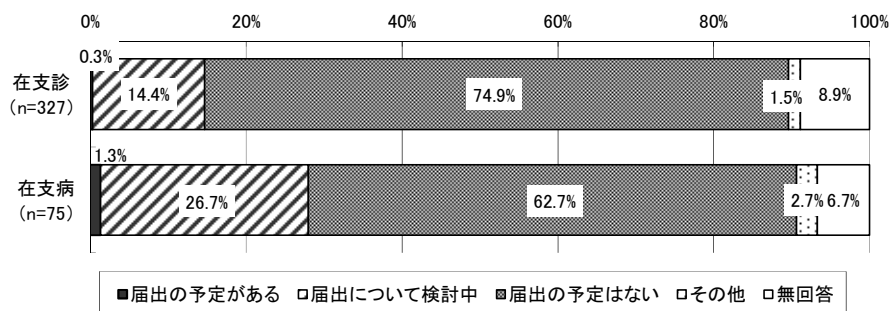
図表 56 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない最大の理由
(在支診・在支病、単数回答)



3) 機能強化型在支診・在支病の届出意向

在支診・在支病における機能強化型在支診・在支病の届出意向をみると、「届出について検討中」が在支診では14.4%、在支病では26.7%であった。

図表 57 機能強化型在支診・在支病の届出意向（在支診・在支病）



(注) 「その他」の内容として、「連携するのに適切な医療機関が見つかったら、その時点で考える」、「在宅療養支援病院が見つければ届出をしたい」、「条件が揃えば届出を検討したい」、「常勤の医師を確保できれば届出をする予定」等が挙げられた。

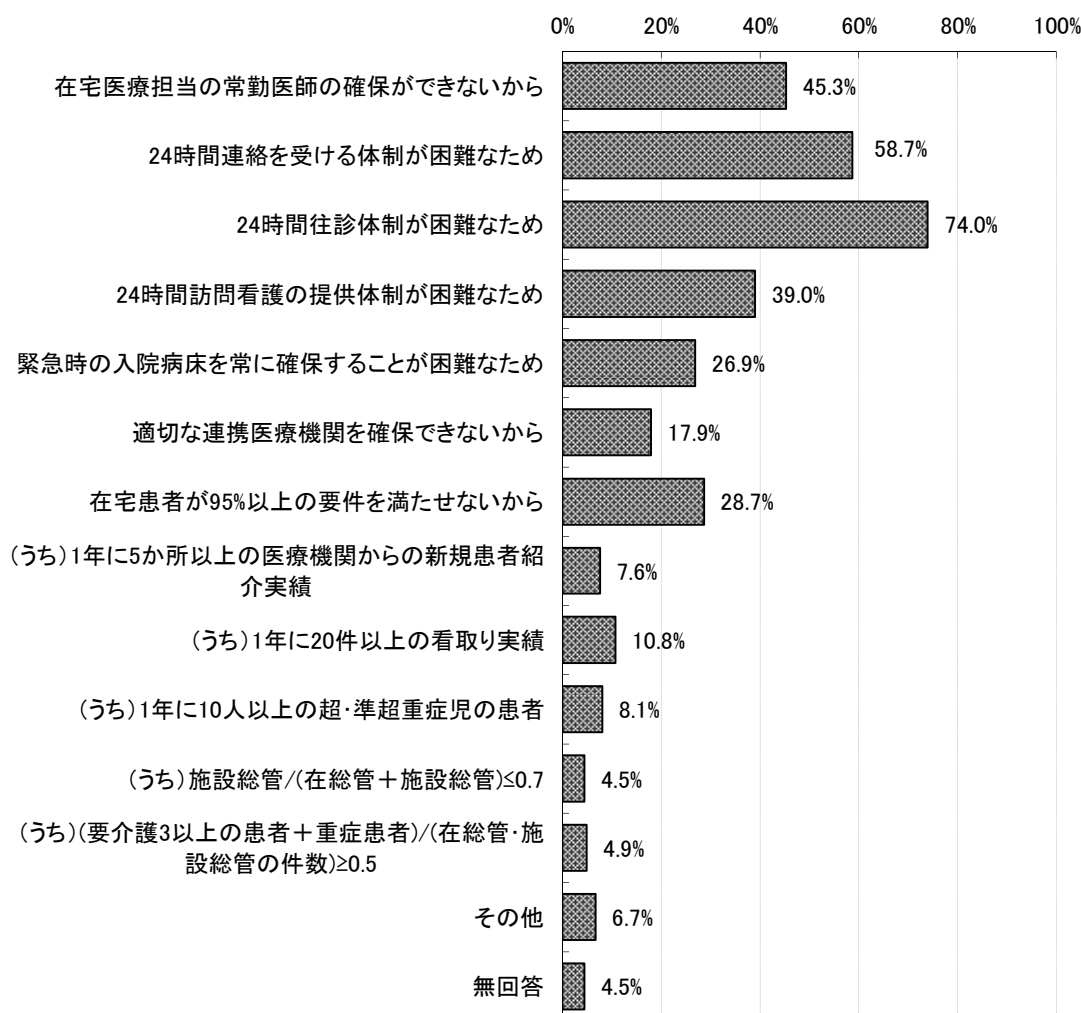
③在支診の届出をしていない診療所

1) 在支診の届出をしていない理由

在支診の届出をしていない診療所（在支診以外の診療所）に対して、在支診の届出をしていない理由を尋ねたところ、「24時間往診体制が困難なため」が74.0%で最も多く、次いで「24時間連絡を受ける体制が困難なため」（58.7%）、「在宅医療担当の常勤医師の確保ができないから」（45.3%）、「24時間訪問看護の提供体制が困難なため」（39.0%）であった。

また、「在宅患者が95%以上の要件を満たせないから」という回答は28.7%であったが、このうち、「1年に20件以上の看取り実績」が10.8%で最も多く、次いで「1年に10人以上の超・準超重症児の患者」が8.1%、「1年に5か所以上の医療機関からの新規患者紹介実績」が7.6%であった。

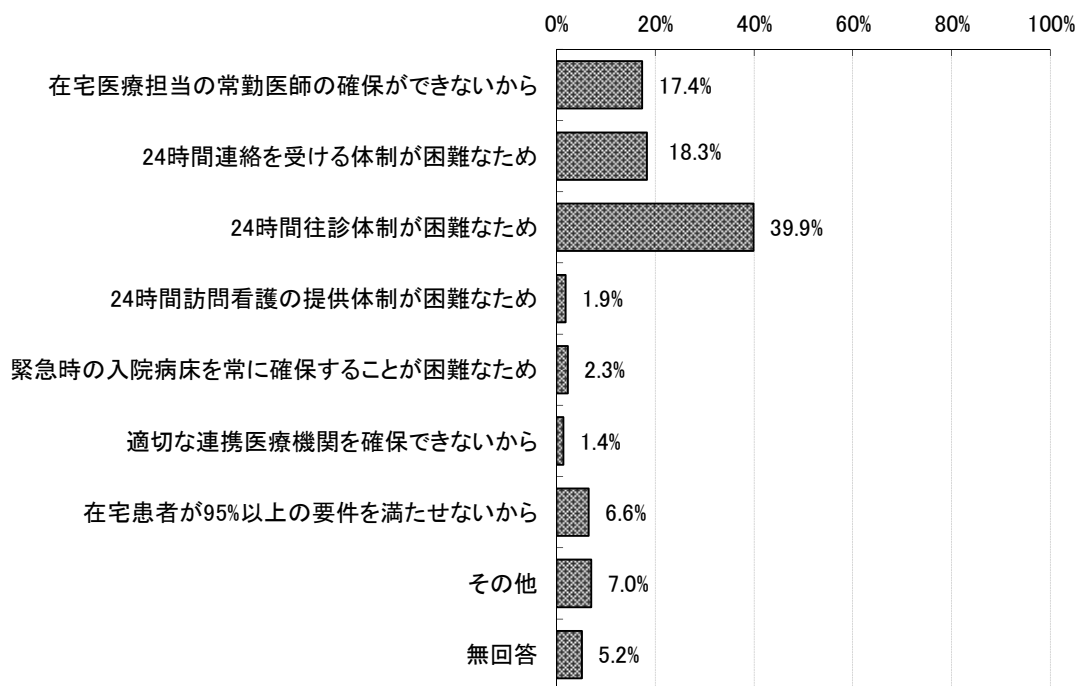
図表 58 在支診の届出をしていない理由
（在支診の届出をしていない診療所、複数回答、n=223）



(注) 「その他」の内容として、「在支診になると当局での管理チェックが厳しく面倒だから」、「申請を行ったが、役所に却下された」等が挙げられた。

在支診の届出をしていない診療所に対して、在支診の届出をしていない最大の理由を尋ねたところ、「24 時間往診体制が困難なため」が 39.9%で最も多く、次いで「24 時間連絡を受ける体制が困難なため」(18.3%)、「在宅医療担当の常勤医師の確保ができないから」(17.4%)であった。また、「在宅患者が 95%以上の要件を満たせないから」という回答は 6.6%であった。

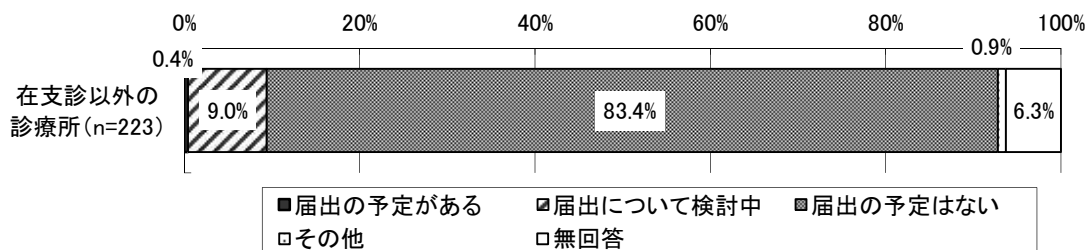
図表 59 在支診の届出をしていない最大の理由
(在支診の届出をしていない診療所、単数回答、n=213)



2) 在支診の届出を行う意向

在支診の届出をしていない診療所に対して、在支診の届出を行う意向を尋ねたところ、「届出の予定がある」が 0.4%、「届出について検討中」が 9.0%、「届出の予定はない」が 83.4%であった。

図表 60 在支診の届出を行う意向 (在支診の届出をしていない診療所)



(注)「その他」の内容として、「届出をしていたが要件が厳しくなり取り消した」が挙げられた。

(4) 在宅医療を提供した患者の状況等

①在宅医療を提供した患者数

平成28年9月1か月間に主治医として訪問診療を実施した患者数（実人数）は、機能強化型在支診（単独型）では平均137.4人（中央値31.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均80.5人（中央値49.0）、在支診では平均22.5人（中央値8.0）、在支診以外の診療所では平均9.4人（中央値3.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均120.8人（中央値84.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均89.6人（中央値54.0）、在支病では平均22.1人（中央値12.0）であった。

図表 61 在宅医療を提供した患者数（実人数）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	137.4	172.6	31.5
機能強化型在支診(連携型)	65	80.5	95.2	49.0
在支診	314	22.5	36.2	8.0
在支診以外の診療所	188	9.4	17.4	3.0
機能強化型在支病(単独型)	19	120.8	113.9	84.0
機能強化型在支病(連携型)	37	89.6	151.4	54.0
在支病	75	22.1	25.6	12.0

(注)・平成28年9月1か月間に、主治医として訪問診療を実施した患者数（実人数）。

・在宅医療を提供した患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

②年齢別患者数

年齢別患者数は、いずれの診療所・病院においても「75歳以上」が最も多く、機能強化型在支診（単独型）では平均 119.4 人（中央値 30.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均 66.7 人（中央値 42.0）、在支診では平均 19.9 人（中央値 7.0）、在支診以外の診療所では平均 8.1 人（中央値 3.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 105.9 人（中央値 69.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 58.0 人（中央値 42.5）、在支病では平均 19.4 人（中央値 11.0）であった。

図表 62 年齢別患者数【機能強化型在支診（単独型）】(n=10)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.1	0.3	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.5	0.7	0.0
40 歳以上 65 歳未満	5.1	7.4	0.5
65 歳以上 75 歳未満	12.3	15.2	3.0
75 歳以上	119.4	151.9	30.5

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 63 年齢別患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=63)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.1	0.9	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.7	2.2	0.0
40 歳以上 65 歳未満	3.7	9.8	1.0
65 歳以上 75 歳未満	9.0	16.2	4.0
75 歳以上	66.7	75.0	42.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 64 年齢別患者数【在支診】(n=312)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.0	0.2	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.1	0.4	0.0
40 歳以上 65 歳未満	0.7	1.9	0.0
65 歳以上 75 歳未満	1.9	4.3	0.0
75 歳以上	19.9	32.3	7.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 65 年齢別患者数【在支診以外の診療所】(n=187)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.0	0.1	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.0	0.2	0.0
40 歳以上 65 歳未満	0.3	1.3	0.0
65 歳以上 75 歳未満	0.9	3.0	0.0
75 歳以上	8.1	14.6	3.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 66 年齢別患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=19)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.1	0.2	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.6	1.4	0.0
40 歳以上 65 歳未満	3.9	3.0	4.0
65 歳以上 75 歳未満	10.3	8.1	6.0
75 歳以上	105.9	107.2	69.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 67 年齢別患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=36)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.3	1.5	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.5	1.4	0.0
40 歳以上 65 歳未満	1.7	2.7	1.0
65 歳以上 75 歳未満	7.2	9.7	4.0
75 歳以上	58.0	61.8	42.5

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 68 年齢別患者数【在支病】(n=75)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15 歳未満	0.0	-	0.0
15 歳以上 40 歳未満	0.1	0.3	0.0
40 歳以上 65 歳未満	0.6	1.3	0.0
65 歳以上 75 歳未満	1.9	3.4	0.0
75 歳以上	19.4	23.5	11.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

③超重症児・準超重症児の患者数

超重症児・準超重症児の患者数をみると、いずれの施設も実績がほとんどなかった。

図表 69 超重症児・準超重症児の患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	65	0.1	0.9	0.0
在支診	313	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	188	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	36	0.2	1.0	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 超重症児・準超重症児の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

④要介護度別の患者数

要介護度別の患者数をみると、機能強化型在支診(単独型)では「要介護5」が平均32.0人(中央値10.0)で最も多く、次いで「要介護4」の平均31.6人(中央値11.0)、「要介護3」の平均27.1人(中央値10.0)であった。

図表 70 要介護度別の患者数【機能強化型在支診(単独型)】(n=9)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.8	1.1	0.0
自立・未申請	4.8	6.3	3.0
要支援1・2	7.3	12.7	1.0
要介護1	20.3	27.0	5.0
要介護2	24.9	30.0	7.0
要介護3	27.1	33.6	10.0
要介護4	31.6	34.6	11.0
要介護5	32.0	38.6	10.0
申請中	2.4	3.5	0.0
不明・その他	1.1	2.4	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支診（連携型）では「要介護5」が平均14.5人（中央値10.0）で最も多く、次いで「要介護3」の平均14.4人（中央値9.0）、「要介護4」の平均14.1人（中央値9.0）であった。

図表 71 要介護度別の患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=57)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	1.4	3.0	0.0
自立・未申請	2.4	8.9	0.0
要支援1・2	3.9	6.7	1.0
要介護1	10.4	16.5	5.0
要介護2	12.7	18.4	8.0
要介護3	14.4	18.8	9.0
要介護4	14.1	17.4	9.0
要介護5	14.5	14.9	10.0
申請中	0.6	1.8	0.0
不明・その他	1.1	3.2	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支診では「要介護5」が平均4.4人（中央値1.0）、「要介護3」が平均4.4人（中央値1.0）で最も多く、次いで「要介護4」の平均4.2人（中央値1.0）であった。

図表 72 要介護度別の患者数【在支診】(n=284)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.2	1.1	0.0
自立・未申請	0.6	1.9	0.0
要支援1・2	1.1	2.7	0.0
要介護1	3.1	6.1	1.0
要介護2	3.9	7.2	1.0
要介護3	4.4	8.0	1.0
要介護4	4.2	8.0	1.0
要介護5	4.4	8.3	1.0
申請中	0.1	0.6	0.0
不明・その他	0.5	1.7	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支診以外の診療所では「要介護3」が平均1.7人（中央値0.0）で最も多く、次いで「要介護4」、「要介護2」の平均1.4人（中央値0.0）であった。

図表 73 要介護度別の患者数【在支診以外の診療所】(n=166)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.1	0.3	0.0
自立・未申請	0.3	1.2	0.0
要支援1・2	0.4	1.6	0.0
要介護1	0.9	2.3	0.0
要介護2	1.4	2.9	0.0
要介護3	1.7	3.4	0.0
要介護4	1.4	2.7	0.0
要介護5	1.2	2.7	0.0
申請中	0.0	0.2	0.0
不明・その他	0.4	1.4	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病（単独型）では「要介護2」が平均23.9人（中央値16.0）で最も多く、次いで「要介護4」の平均22.1人（中央値21.0）、「要介護3」の平均20.9人（中央値14.0）であった。

図表 74 要介護度別の患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=17)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.8	1.6	0.0
自立・未申請	2.6	5.3	0.0
要支援1・2	6.4	9.9	1.0
要介護1	19.4	29.2	12.0
要介護2	23.9	28.1	16.0
要介護3	20.9	21.4	14.0
要介護4	22.1	18.5	21.0
要介護5	20.3	15.9	17.0
申請中	0.5	1.1	0.0
不明・その他	12.6	25.9	2.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病（連携型）では「要介護5」が平均14.0人（中央値8.5）で最も多く、次いで「要介護3」の平均12.3人（中央値7.0）、「要介護2」の平均12.0人（中央値7.5）であった。

図表 75 要介護度別の患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=32)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.8	2.7	0.0
自立・未申請	0.8	2.1	0.0
要支援1・2	3.1	3.8	1.0
要介護1	9.0	11.0	6.0
要介護2	12.0	14.6	7.5
要介護3	12.3	15.2	7.0
要介護4	11.5	14.5	6.0
要介護5	14.0	15.7	8.5
申請中	0.7	1.7	0.0
不明・その他	1.6	3.1	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支病では「要介護2」が平均4.5人（中央値1.0）で最も多く、次いで「要介護3」の平均4.3人（中央値2.0）、「要介護4」の平均3.7人（中央値1.0）であった。

図表 76 要介護度別の患者数【在支病】(n=67)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40歳未満など)	0.1	0.6	0.0
自立・未申請	0.3	1.0	0.0
要支援1・2	0.8	2.0	0.0
要介護1	3.3	5.2	1.0
要介護2	4.5	6.2	1.0
要介護3	4.3	5.8	2.0
要介護4	3.7	5.2	1.0
要介護5	3.1	4.9	1.0
申請中	0.1	0.4	0.0
不明・その他	1.3	4.2	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑤身体障害者手帳等を保有する患者数

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 15.0 人（中央値 4.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 8.6 人（中央値 4.0）、在支診では平均 2.9 人（中央値 1.0）、在支診以外の診療所では平均 1.4 人（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 28.2 人（中央値 13.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 6.6 人（中央値 2.0）、在支病では平均 3.5 人（中央値 1.0）であった。

図表 77 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	15.0	23.4	4.0
機能強化型在支診(連携型)	55	8.6	10.8	4.0
在支診	253	2.9	5.9	1.0
在支診以外の診療所	146	1.4	2.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	14	28.2	32.6	13.5
機能強化型在支病(連携型)	29	6.6	9.8	2.0
在支病	60	3.5	6.3	1.0

(注) 身体障害者手帳を保有する患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑥特定疾患医療受給者証を保有する患者数

特定疾患医療受給者証を保有する患者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 7.2 人（中央値 1.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 3.2 人（中央値 1.0）、在支診では平均 0.9 人（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.3 人（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 5.8 人（中央値 3.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 2.3 人（中央値 1.0）、在支病では平均 0.9 人（中央値 0.0）であった。

図表 78 特定疾患医療受給者証を保有する患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	7.2	8.6	1.0
機能強化型在支診(連携型)	55	3.2	5.1	1.0
在支診	241	0.9	2.0	0.0
在支診以外の診療所	133	0.3	0.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	5.8	7.0	3.0
機能強化型在支病(連携型)	30	2.3	3.4	1.0
在支病	61	0.9	1.7	0.0

(注) 特定疾患医療受給者証を保有する患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑦在宅療養患者数

定例報告形式による平成28年4月から平成28年9月までの6か月間の在宅療養患者数についてみると、機能強化型在支診（単独型）では在宅療養を担当した患者数平均173.3人（中央値92.5）のうち、死亡した患者数は平均18.0人（中央値5.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均13.7人（中央値4.5）、自宅での死亡患者数は平均9.6人（中央値4.0）であった。

図表 79 在宅療養患者数【機能強化型在支診（単独型）】(n=10)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	173.3	192.3	92.5	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	18.0	24.8	5.0	10.4%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	13.7	18.2	4.5	7.9%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	9.6	14.4	4.0	5.5%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	3.7	5.4	0.0	2.1%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.4	0.7	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	12.4	18.1	3.0	7.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	4.3	7.3	1.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	3.5	5.6	1.0	2.0%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.8	2.2	0.0	0.5%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。
・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支診（連携型）では在宅療養を担当した患者数平均184.9人（中央値85.0）のうち、死亡した患者数は平均13.4人（中央値7.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均8.7人（中央値5.0）、自宅での死亡患者数は平均6.0人（中央値3.0）であった。

図表 80 在宅療養患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=61)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	184.9	291.5	85.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	13.4	16.5	7.0	7.3%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	8.7	10.5	5.0	4.7%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	6.0	9.1	3.0	3.2%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	2.4	3.4	1.0	1.3%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.4	1.8	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	7.7	10.0	4.0	4.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	4.7	6.9	2.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	2.2	4.4	0.0	1.2%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	2.4	5.0	1.0	1.3%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。
・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支診では在宅療養を担当した患者数平均 38.9 人（中央値 12.0）のうち、死亡した患者数は平均 2.9 人（中央値 1.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 1.9 人（中央値 0.0）で、自宅での死亡患者数は平均 1.0 人（中央値 0.0）であった。

図表 81 在宅療養患者数【在支診】(n=309)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	38.9	79.7	12.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	2.9	5.3	1.0	7.4%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	1.9	3.9	0.0	4.9%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	1.0	2.6	0.0	2.6%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	0.8	2.4	0.0	2.1%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.1	0.6	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	1.4	3.3	0.0	3.7%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	1.0	2.3	0.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	0.5	1.2	0.0	1.2%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.5	1.6	0.0	1.3%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支診以外の診療所では在宅療養を担当した患者数平均 16.0 人（中央値 3.0）のうち、死亡した患者数は平均 0.9 人（中央値 0.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 0.6 人（中央値 0.0）、自宅での死亡患者数は平均 0.4 人（中央値 0.0）であった。

図表 82 在宅療養患者数【在支診以外の診療所】(n=184)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	16.0	32.8	3.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	0.9	2.2	0.0	5.7%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	0.6	1.6	0.0	3.5%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	0.4	1.3	0.0	2.3%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	0.2	0.8	0.0	1.0%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.0	0.3	0.0	0.3%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	0.4	1.5	0.0	2.3%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	0.4	1.0	0.0	2.2%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	0.2	0.6	0.0	1.1%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.2	0.7	0.0	1.2%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支病（単独型）では在宅療養を担当した患者数平均 449.0 人（中央値 183.5）のうち、死亡した患者数は平均 16.2 人（中央値 11.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 8.7 人（中央値 6.5）、自宅での死亡患者数は平均 6.4 人（中央値 2.0）であった。

図表 83 在宅療養患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=18)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	449.0	828.7	183.5	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	16.2	14.6	11.0	3.6%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	8.7	10.5	6.5	1.9%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	6.4	10.3	2.0	1.4%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	2.3	2.2	2.0	0.5%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.0	-	0.0	0.0%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	7.3	10.8	3.0	1.6%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	7.4	7.7	5.0	1.7%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	4.9	7.6	2.0	1.1%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	2.5	4.5	1.0	0.6%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支病（連携型）では在宅療養を担当した患者数平均 355.6 人（中央値 110.0）のうち、死亡した患者数は平均 12.9 人（中央値 7.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 6.3 人（中央値 4.0）、自宅での死亡患者数は平均 3.6 人（中央値 1.0）であった。

図表 84 在宅療養患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=36)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	355.6	909.4	110.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	12.9	15.3	7.0	3.6%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	6.3	8.4	4.0	1.8%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	3.6	6.1	1.0	1.0%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	2.3	3.4	1.0	0.7%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.4	1.2	0.0	0.1%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	4.3	5.7	2.5	1.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	6.6	13.1	2.0	1.9%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	5.3	11.1	1.5	1.5%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	1.4	3.0	0.0	0.4%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支病では在宅療養を担当した患者数平均 63.3 人（中央値 15.0）のうち、死亡した患者数は平均 2.4 人（中央値 1.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 0.9 人（中央値 0.0）、自宅での死亡患者数は平均 0.6 人（中央値 0.0）であった。

図表 85 在宅療養患者数【在支病】(n=71)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	63.3	168.3	15.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	2.4	2.9	1.0	3.8%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	0.9	1.4	0.0	1.4%
④上記③のうち、自宅での死亡患者数	0.6	1.2	0.0	1.0%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡患者数	0.2	0.5	0.0	0.3%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡患者数	0.1	0.3	0.0	0.1%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	0.6	1.4	0.0	0.9%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	1.5	2.1	1.0	2.4%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	1.0	1.8	0.0	1.6%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.5	1.2	0.0	0.8%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

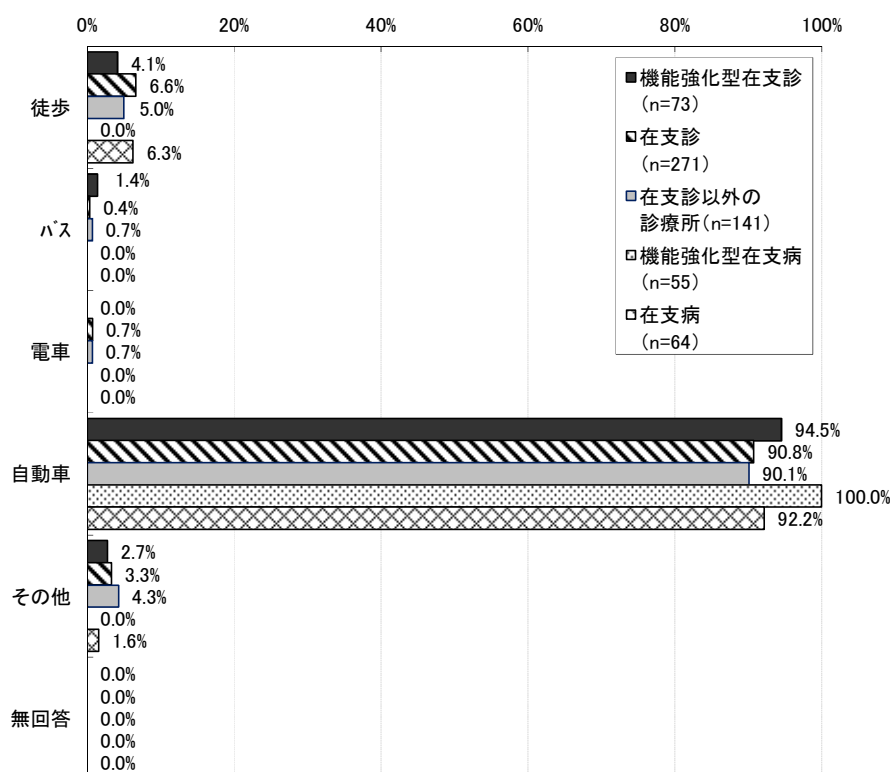
・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

⑧訪問先

1) 最も遠くに住む患者

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家に訪問するのに用いる交通手段をみると、自動車が最も多かった。

図表 86 患家に訪問するのに用いる交通手段【最も遠くに住む患者】(複数回答)



(注)「その他」の内容として、「自転車」が挙げられた。

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家への移動に要する総時間(往復)をみると、最短が在支診以外の診療所の平均 32.1 分で、最長が機能強化型在支病(単独型)の平均 58.9 分であった。

図表 87 患家への移動に要する総時間(往復)【最も遠くに住む患者】

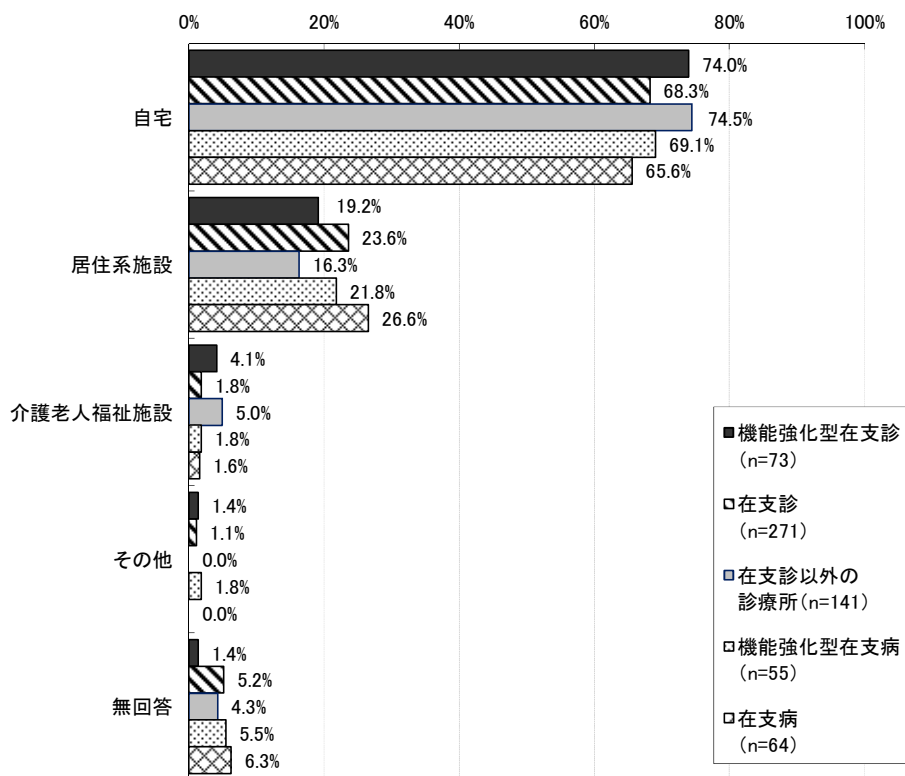
(単位: 分)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	53.0	27.9	50.0
機能強化型在支診(連携型)	61	48.2	23.3	40.0
在支診	269	35.1	19.1	30.0
在支診以外の診療所	140	32.1	17.6	30.0
機能強化型在支病(単独型)	18	58.9	22.2	60.0
機能強化型在支病(連携型)	35	53.2	27.2	50.0
在支病	61	33.0	20.7	30.0

(注) 移動に要する総時間(往復)について記入のあった施設を集計対象とした。

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の住居形態をみると、「自宅」が最も多かった。一方、「居住系施設」は機能強化型在支診が19.2%、在支診が23.6%、在支診以外の診療所が16.3%、機能強化型在支病が21.8%、在支病が26.6%であった。

図表 88 住居形態【最も遠くに住む患者】(単数回答)



訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家の「単一建物診療患者数」は、以下のとおりである。

図表 89 患家における「単一建物診療患者数」【最も遠くに住む患者】

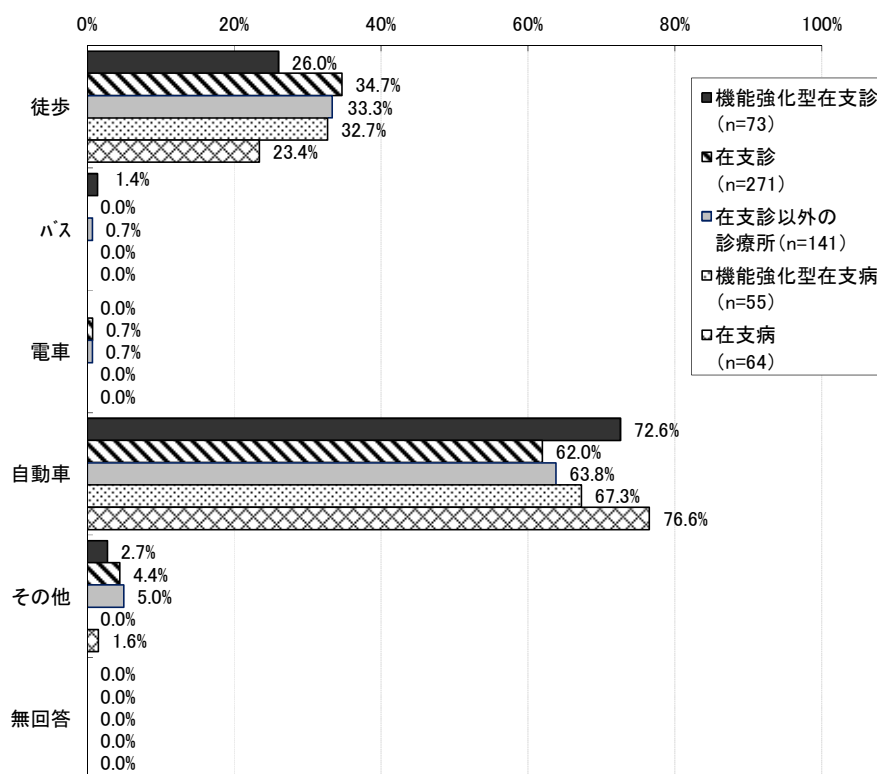
(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.3	5.3	1.0
機能強化型在支診(連携型)	57	3.7	9.4	1.0
在支診	250	4.1	9.0	1.0
在支診以外の診療所	129	1.6	2.8	1.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.1	4.9	1.0
機能強化型在支病(連携型)	34	8.4	16.5	1.0
在支病	56	4.1	6.8	1.0

2) 最も近くに住む患者

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家に訪問するのに用いる交通手段をみると、「自動車」が最も多かったが、「徒歩」が次いで多かった。

図表 90 患家に訪問するのに用いる交通手段【最も近くに住む患者】(複数回答)



(注) 「その他」の内容として、「自転車」が挙げられた。

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家への移動に要する総時間(往復)をみると、最短が機能強化型在支病(単独型)の平均 7.2 分で、最長が在支診以外の診療所の平均 13.4 分であった。

図表 91 患家への移動に要する総時間(往復)【最も近くに住む患者】

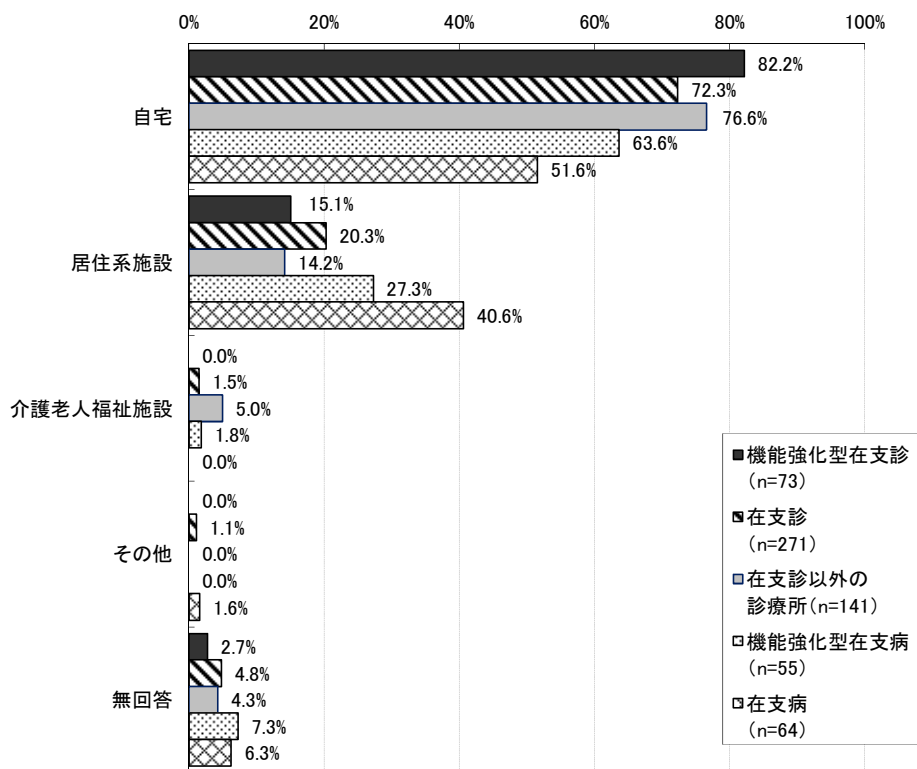
(単位: 分)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	7.7	4.9	7.0
機能強化型在支診(連携型)	61	7.5	5.6	6.0
在支診	265	10.7	10.2	10.0
在支診以外の診療所	141	13.4	11.0	10.0
機能強化型在支病(単独型)	18	7.2	4.5	6.0
機能強化型在支病(連携型)	36	8.9	6.0	8.0
在支病	62	9.7	6.1	10.0

(注) 移動に要する総時間(往復)について記入のあった施設を集計対象とした。

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の住居形態をみると、「自宅」が最も多かった。一方、「居住系施設」は機能強化型在支診が 15.1%、在支診が 20.3%、在支診以外の診療所が 14.2%、機能強化型在支病が 27.3%、在支病が 40.6%であった。

図表 92 住居形態【最も近くに住む患者】（単数回答）



訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家の「単一建物診療患者数」をみると、機能強化型在支診（単独型）の平均 1.0 人が最も少なく、機能強化型在支病（連携型）の平均 6.5 人が最も多かった。

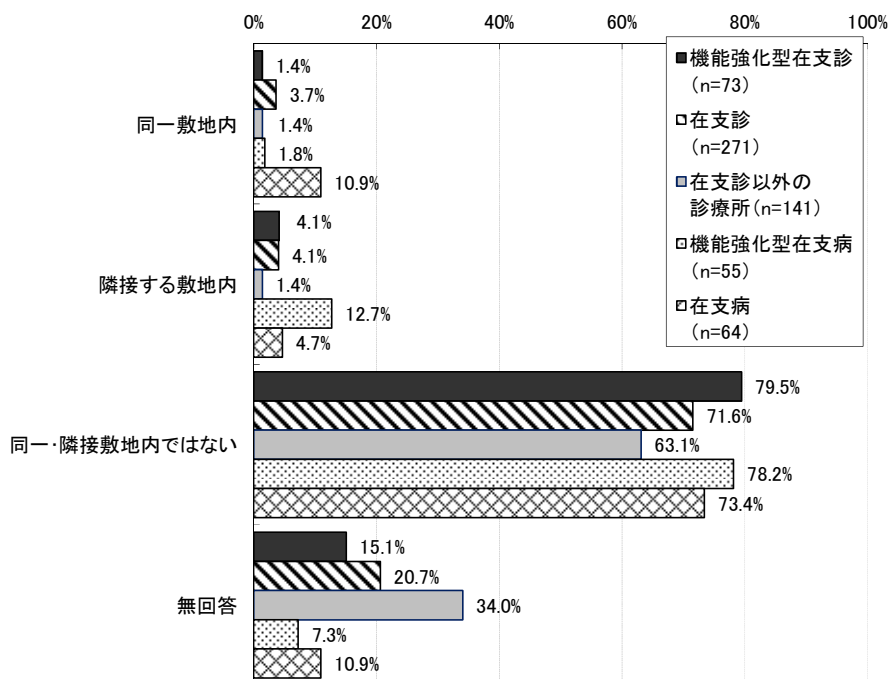
図表 93 患家における「単一建物診療患者数」【最も近くに住む患者】

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.0	-	1.0
機能強化型在支診(連携型)	57	3.5	8.1	1.0
在支診	249	4.1	9.3	1.0
在支診以外の診療所	128	2.1	3.5	1.0
機能強化型在支病(単独型)	17	5.1	11.2	1.0
機能強化型在支病(連携型)	33	6.5	11.1	1.0
在支病	55	4.0	6.1	1.0

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家と自院との位置関係をみると、「同一・隣接敷地内ではない」が最も多かった。また、「同一敷地内」は機能強化型在支診が1.4%、在支診が3.7%、在支診以外の診療所が1.4%、機能強化型在支病が1.8%、在支病が10.9%であった。さらに、「隣接する敷地内」は機能強化型在支診が4.1%、在支診が4.1%、在支診以外の診療所が1.4%、機能強化型在支病が12.7%、在支病が4.7%であった。

図表 94 自院と患家との位置関係【最も近くに住む患者】（単数回答）



⑨在総管・施設総管の重症患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「末期の悪性腫瘍患者」は機能強化型在支診（連携型）が平均 3.7 人で最も多く、次いで、機能強化型在支診（単独型）が平均 3.6 人、機能強化型在支病（単独型）が平均 3.2 人であった。機能強化型在支診・在支病では他と比較して多かった。

図表 95 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～末期の悪性腫瘍患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.6	5.9	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.7	8.9	1.0
在支診	327	0.4	1.4	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	3.2	4.8	1.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.0	2.7	0.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「スモンの患者」はほとんどいなかった。

図表 96 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～スモンの患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.1	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.1	0.2	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「指定難病の患者」は機能強化型在支診（単独型）と機能強化型在支病（単独型）が平均 4.3 人で最も多く、次いで、機能強化型在支診（連携型）が平均 3.3 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 1.9 人であった。機能強化型在支診・在支病では他と比較して多かった。

図表 97 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～指定難病の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.3	7.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.3	6.4	1.0
在支診	327	0.6	1.9	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	4.3	6.4	2.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.9	3.9	0.0
在支病	75	0.4	1.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「後天性免疫不全症候群の患者」はほとんどいなかった。

図表 98 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～後天性免疫不全症候群の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.2	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「脊髄損傷の患者」は機能強化型在支診（連携型）が平均 1.1 人であったが、多くの施設では該当患者はいなかった。

図表 99 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～脊髄損傷の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.5	1.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.1	6.1	0.0
在支診	327	0.1	0.3	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.4	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「真皮を超える褥瘡の患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.5 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.2 人、機能強化型在支診（連携型）が平均 1.1 人であった。

図表 100 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～真皮を超える褥瘡の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.5	3.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.1	2.1	0.0
在支診	327	0.3	1.6	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.2	1.7	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.5	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「人工呼吸器を使用している患者」は、いずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 101 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～人工呼吸器を使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.8	1.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.7	0.0
在支診	327	0.1	0.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.7	1.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.7	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「気管切開の管理を要する患者」は機能強化型在支診(単独型)が平均 1.4 人であったが、他の施設では 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 102 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～気管切開の管理を要する患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	1.8	0.5
機能強化型在支診(連携型)	66	0.7	1.9	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.0	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.3	0.6	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「気管カニューレを使用している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.2 人であったが、他の施設では 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 103 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～気管カニューレを使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.2	1.5	0.5
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.6	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.8	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.1	0.5	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「ドレーンチューブ等を使用している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 4.8 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 2.6 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 1.8 人であった。

図表 104 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～ドレーンチューブ等を使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.8	8.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.3	2.8	0.0
在支診	327	0.4	2.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	2.6	5.5	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.8	4.8	0.0
在支病	75	0.1	0.7	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「人工肛門等の管理を要する患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.4 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.1 人であった。

図表 105 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～人工肛門等の管理を要する患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	2.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.8	1.4	0.0
在支診	327	0.1	0.5	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.1	1.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.6	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅自己腹膜灌流を実施している患者」はいずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 106 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～在宅自己腹膜灌流を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	0.1	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅血液透析を実施している患者」はいずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 107 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～在宅血液透析を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.1	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.5	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「酸素療法を実施している患者」は機能強化型在支診(単独型)が平均 6.1 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病(単独型)が平均 4.8 人、機能強化型在支診(連携型)が平均 3.4 人、機能強化型在支病(連携型)が平均 2.0 人であった。

図表 108 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～酸素療法を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	6.1	7.5	1.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.4	4.8	1.0
在支診	327	0.7	1.9	0.0
在支診以外の診療所	223	0.2	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	4.8	5.0	4.0
機能強化型在支病(連携型)	39	2.0	3.2	1.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅中心静脈栄養を実施している患者」はいずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 109 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～在宅中心静脈栄養を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.3	0.5	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.1	0.0
在支診	327	0.1	0.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.8	2.1	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅成分栄養経管栄養法を実施している患者」は機能強化型在支診(単独型)が平均 1.4 人で最も多く、次いで、機能強化型在支診(連携型)と機能強化型在支病(単独型)が平均 1.2 人、機能強化型在支病(連携型)が平均 1.1 人であった。

図表 110 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～在宅成分栄養経管栄養法を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.2	2.2	0.0
在支診	327	0.3	1.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.2	2.6	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.1	3.6	0.0
在支病	75	0.1	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅自己導尿を実施している患者」は、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.1 人であったが、他のいずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 111 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～在宅自己導尿を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.7	2.2	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.1	3.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.6	1.6	0.0
在支病	75	0.1	0.4	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「植込み型脳・脊髄電気刺激装置による疼痛管理を受けている患者」は、いずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 112 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～植込み型脳・脊髄電気刺激装置による疼痛管理を受けている患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	0.1	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「携帯型精密輸液ポンプによるプロスタグランジン I 2 製剤の投与を受けている患者」はいなかった。

図表 113 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数
～携帯型精密輸液ポンプによるプロスタグランジン I 2 製剤の投与を受けている患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑩訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態等

訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態や環境、診療内容として、次の内容が挙げられた。

図表 114 訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態等（自由記述式）

○診療が困難な疾患・状態

- ・ 肝不全、腎不全の治療方法のない患者。
- ・ 経鼻経管栄養チューブを使用している患者。
- ・ 膀胱留置カテーテルを使用している患者。
- ・ 下血に伴う頻回な輸血管理、重症感染症に伴う呼吸循環管理。
- ・ 在宅診療は入院と違って CT や MRI、レントゲンがすぐとれないため、骨折疑いの患者に困ることがある。
- ・ 長時間トイレ生活による両大腿後面褥瘡。
- ・ 介護上（着替え等）時の肩脱臼。
- ・ 寝たきり、及び人工股関節のゆるみのため、律動が困難な患者。
- ・ 肺炎や心不全を繰り返し、入退院を繰り返している患者。
- ・ 血液疾患や膠原病、リウマチなど専門性の高い治療が必要な患者。
- ・ 末期癌がんで腹水大量貯留の人。 / 等

○精神疾患を伴う患者

- ・ 重度認知症の独居患者。
- ・ BPSD の著しい認知症患者（特に有料老人ホーム入居者）。
- ・ 精神障害。 / 等

○訪問が困難な居住環境

- ・ エレベーターなし、超狭い階段（外）のみのビルの 4 階に居住する人の検査（レントゲンやエコー）を要する時。
- ・ 遠隔地に居住し、訪問に時間がかかる。 / 等

○家庭環境

- ・ 老老介護。
- ・ 家族の協力が得られない場合。
- ・ 経済的問題からの訪問回数の制限。 / 等

⑪6 か月間の在宅医療に関する実績

6 か月間の在宅がん医療総合診療料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 15.3 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 35.4 回（中央値 0.0）、在支診では平均 12.7 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 17.9 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 11.7 回（中央値 0.0）、在支病では平均 2.4 回（中央値 0.0）であった。

図表 115 在宅がん医療総合診療料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	15.3	46.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	35.4	133.8	0.0
在支診	257	12.7	82.8	0.0
在支診以外の診療所	185	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	17.9	47.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	32	11.7	33.1	0.0
在支病	64	2.4	19.5	0.0

（注）在宅がん医療総合診療料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 116 在宅がん医療総合診療料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～9 回	10～19 回	20～29 回	30～39 回	40～49 回	50 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	8	0	0	0	0	0	1	1
	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	41	5	0	0	1	0	6	13
	100.0	62.1	7.6	0.0	0.0	1.5	0.0	9.1	19.7
在支診	327	236	8	0	1	0	0	12	70
	100.0	72.2	2.4	0.0	0.3	0.0	0.0	3.7	21.4
在支診以外の診療所	223	185	0	0	0	0	0	0	38
	100.0	83.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0
機能強化型在支病(単独型)	19	13	1	0	0	0	0	2	3
	100.0	68.4	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	15.8
機能強化型在支病(連携型)	39	27	1	0	0	0	0	4	7
	100.0	69.2	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	17.9
在支病	75	63	0	0	0	0	0	1	11
	100.0	84.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	14.7

6 か月間の在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 5.8 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 1.6 回（中央値 0.0）、在支診では平均 0.2 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.4 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 0.2 回（中央値 0.0）、在支病では平均 0.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 117 在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	5.8	16.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	1.6	6.1	0.0
在支診	252	0.2	1.1	0.0
在支診以外の診療所	186	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.4	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	31	0.2	0.9	0.0
在支病	64	0.1	0.6	0.0

（注）在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 118 在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数別分布(平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間)

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	7	0	0	1	0	1	1
	100.0	70.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	44	1	2	1	1	4	13
	100.0	66.7	1.5	3.0	1.5	1.5	6.1	19.7
在支診	327	240	4	0	4	0	4	75
	100.0	73.4	1.2	0.0	1.2	0.0	1.2	22.9
在支診以外の診療所	223	185	1	0	0	0	0	37
	100.0	83.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	16.6
機能強化型在支病(単独型)	19	15	0	0	0	0	1	3
	100.0	78.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	15.8
機能強化型在支病(連携型)	39	30	0	0	0	0	1	8
	100.0	76.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	20.5
在支病	75	62	0	0	1	1	0	11
	100.0	82.7	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	14.7

6か月間の在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数を見ると、機能強化型在支診（単独型）では平均 4.1 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 10.2 回（中央値 2.0）、在支診では平均 3.3 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 1.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 4.5 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 11.5 回（中央値 1.0）、在支病では平均 2.6 回（中央値 0.0）であった。

図表 119 在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.1	8.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	57	10.2	20.5	2.0
在支診	263	3.3	12.9	0.0
在支診以外の診療所	192	1.0	4.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	4.5	8.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	33	11.5	27.1	1.0
在支病	69	2.6	6.6	0.0

（注）在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 120 在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～9 回	10～19 回	20～29 回	30～39 回	40～49 回	50 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	7	1	1	1	0	0	0	0
	100.0	70.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	25	19	5	1	1	0	6	9
	100.0	37.9	28.8	7.6	1.5	1.5	0.0	9.1	13.6
在支診	327	199	44	8	5	1	1	5	64
	100.0	60.9	13.5	2.4	1.5	0.3	0.3	1.5	19.6
在支診以外の診療所	223	166	19	3	3	1	0	0	31
	100.0	74.4	8.5	1.3	1.3	0.4	0.0	0.0	13.9
機能強化型在支病(単独型)	19	9	6	1	0	1	0	0	2
	100.0	47.4	31.6	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	16	9	2	3	1	0	2	6
	100.0	41.0	23.1	5.1	7.7	2.6	0.0	5.1	15.4
在支病	75	47	14	6	0	2	0	0	6
	100.0	62.7	18.7	8.0	0.0	2.7	0.0	0.0	8.0

6 か月間の在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.3 回（中央値 0.0）、在支診では平均 4.2 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.4 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 1.8 回（中央値 0.0）、在支病では平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 121 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	54	0.3	1.7	0.0
在支診	257	4.2	57.6	0.0
在支診以外の診療所	187	0.4	2.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	30	1.8	5.9	0.0
在支病	64	0.0	0.1	0.0

（注）在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 122 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	9	0	0	0	0	0	1
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	52	0	0	0	1	1	12
	100.0	78.8	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	18.2
在支診	327	247	0	2	1	0	7	70
	100.0	75.5	0.0	0.6	0.3	0.0	2.1	21.4
在支診以外の診療所	223	180	1	1	0	2	3	36
	100.0	80.7	0.4	0.4	0.0	0.9	1.3	16.1
機能強化型在支病(単独型)	19	16	0	0	0	0	0	3
	100.0	84.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8
機能強化型在支病(連携型)	39	27	0	0	0	0	3	9
	100.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	23.1
在支病	75	63	1	0	0	0	0	11
	100.0	84.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7

6 か月間の在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数をみると、いずれの施設でもほとんど実績がなかった。

図表 123 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	52	0.0	-	0.0
在支診	251	0.0	0.5	0.0
在支診以外の診療所	187	0.0	0.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	30	0.0	-	0.0
在支病	64	0.0	-	0.0

（注）在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 124 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	9	0	0	0	0	0	1
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	52	0	0	0	0	0	14
	100.0	78.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.2
在支診	327	250	0	0	0	0	1	76
	100.0	76.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	23.2
在支診以外の診療所	223	186	0	0	0	0	1	36
	100.0	83.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	16.1
機能強化型在支病(単独型)	19	16	0	0	0	0	0	3
	100.0	84.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8
機能強化型在支病(連携型)	39	30	0	0	0	0	0	9
	100.0	76.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1
在支病	75	64	0	0	0	0	0	11
	100.0	85.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7

6 か月間の在宅移行早期加算の算定回数を見ると、機能強化型在支診（単独型）では平均 73.1 回（中央値 9.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 37.9 回（中央値 12.0）、在支診では平均 7.2 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.6 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 88.8 回（中央値 43.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 56.3 回（中央値 10.0）、在支病では平均 8.5 回（中央値 0.0）であった。

図表 125 在宅移行早期加算の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	73.1	89.7	9.0
機能強化型在支診(連携型)	59	37.9	58.4	12.0
在支診	270	7.2	21.4	0.0
在支診以外の診療所	189	0.6	2.8	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	88.8	103.1	43.0
機能強化型在支病(連携型)	35	56.3	118.9	10.0
在支病	68	8.5	21.4	0.0

（注）在宅移行早期加算の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 126 在宅移行早期加算の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～9 回	10～19 回	20～29 回	30～39 回	40～49 回	50 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	4	1	0	0	0	0	4	1
	100.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	19	9	9	3	3	3	13	7
	100.0	28.8	13.6	13.6	4.5	4.5	4.5	19.7	10.6
在支診	327	192	34	20	6	4	3	11	57
	100.0	58.7	10.4	6.1	1.8	1.2	0.9	3.4	17.4
在支診以外の診療所	223	177	8	2	2	0	0	0	34
	100.0	79.4	3.6	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	15.2
機能強化型在支病(単独型)	19	2	2	1	2	1	1	8	2
	100.0	10.5	10.5	5.3	10.5	5.3	5.3	42.1	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	13	4	2	3	4	0	9	4
	100.0	33.3	10.3	5.1	7.7	10.3	0.0	23.1	10.3
在支病	75	45	10	4	1	3	1	4	7
	100.0	60.0	13.3	5.3	1.3	4.0	1.3	5.3	9.3

6か月間の退院時共同指導料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 1.1 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 3.7 回（中央値 0.0）、在支診では平均 0.3 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 2.7 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 1.8 回（中央値 0.0）、在支病では平均 1.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 127 退院時共同指導料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	1.1	3.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	55	3.7	8.9	0.0
在支診	257	0.3	1.4	0.0
在支診以外の診療所	186	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.7	8.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	32	1.8	7.4	0.0
在支病	69	1.1	5.1	0.0

（注）退院時共同指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 128 退院時共同指導料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	8	0	0	0	0	1	1
	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	37	4	2	1	0	11	11
	100.0	56.1	6.1	3.0	1.5	0.0	16.7	16.7
在支診	327	238	6	5	1	1	6	70
	100.0	72.8	1.8	1.5	0.3	0.3	1.8	21.4
在支診以外の診療所	223	186	0	0	0	0	0	37
	100.0	83.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.6
機能強化型在支病(単独型)	19	12	0	3	0	0	2	2
	100.0	63.2	0.0	15.8	0.0	0.0	10.5	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	25	2	1	2	0	2	7
	100.0	64.1	5.1	2.6	5.1	0.0	5.1	17.9
在支病	75	60	4	1	0	0	4	6
	100.0	80.0	5.3	1.3	0.0	0.0	5.3	8.0

6 か月間の診療情報提供料（Ⅰ）の算定回数を見ると、機能強化型在支診（単独型）では平均 289.2 回（中央値 101.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 114.0 回（中央値 61.0）、在支診では平均 37.0 回（中央値 4.0）、在支診以外の診療所では平均 24.2 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 522.9 回（中央値 35.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 229.3 回（中央値 54.5）、在支病では平均 188.7 回（中央値 36.0）であった。

図表 129 診療情報提供料（Ⅰ）の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	289.2	610.9	101.0
機能強化型在支診(連携型)	61	114.0	222.4	61.0
在支診	312	37.0	69.2	4.0
在支診以外の診療所	213	24.2	61.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	522.9	1,263.8	35.5
機能強化型在支病(連携型)	38	229.3	362.7	54.5
在支病	70	188.7	314.6	36.0

（注）診療情報提供料（Ⅰ）の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 130 診療情報提供料（Ⅰ）の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～49 回	50～99 回	100～149 回	150～199 回	200～299 回	300 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	9 13.6	19 28.8	9 13.6	11 16.7	4 6.1	6 9.1	3 4.5	5 7.6
在支診	327 100.0	111 33.9	128 39.1	29 8.9	20 6.1	8 2.4	11 3.4	5 1.5	15 4.6
在支診以外の診療所	223 100.0	126 56.5	53 23.8	12 5.4	10 4.5	8 3.6	3 1.3	1 0.4	10 4.5
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	3 15.8	6 31.6	0 0.0	2 10.5	0 0.0	1 5.3	4 21.1	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	6 15.4	13 33.3	4 10.3	1 2.6	1 2.6	2 5.1	11 28.2	1 2.6
在支病	75 100.0	17 22.7	20 26.7	6 8.0	5 6.7	4 5.3	2 2.7	16 21.3	5 6.7

6 か月間の歯科医療機関連携加算の算定回数を見ると、機能強化型在支診（単独型）では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.1 回（中央値 0.0）、在支診では平均 0.0 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.5 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 0.6 回（中央値 0.0）、在支病では平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 131 歯科医療機関連携加算の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	50	0.1	0.6	0.0
在支診	245	0.0	0.3	0.0
在支診以外の診療所	184	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	15	0.5	2.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	31	0.6	3.6	0.0
在支病	63	0.0	0.1	0.0

（注）歯科医療機関連携加算の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 132 歯科医療機関連携加算の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

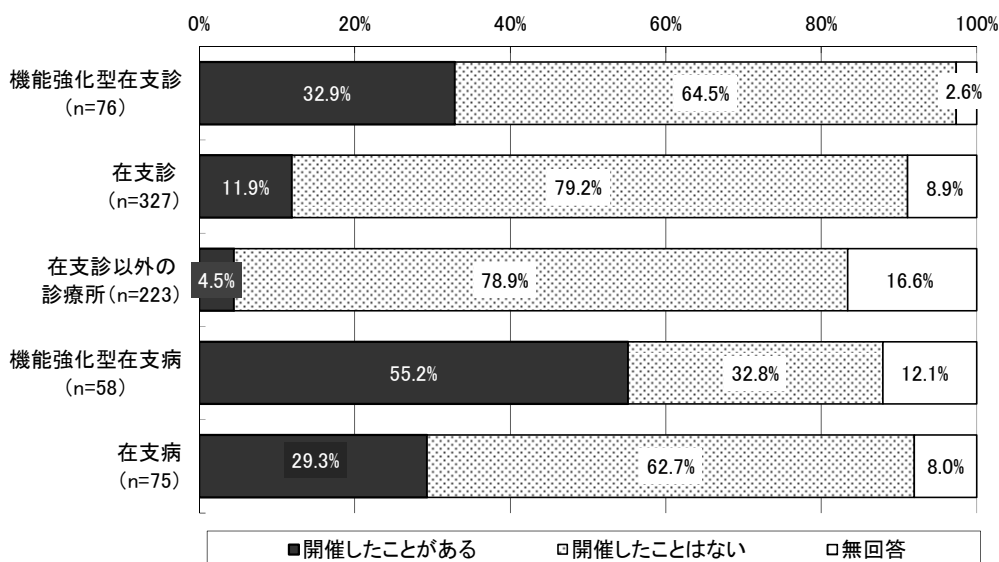
（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	9	0	0	0	0	0	1
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	66	49	0	0	0	1	0	16
	100.0	74.2	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	24.2
在支診	327	240	1	4	0	0	0	82
	100.0	73.4	0.3	1.2	0.0	0.0	0.0	25.1
在支診以外の診療所	223	184	0	0	0	0	0	39
	100.0	82.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.5
機能強化型在支病(単独型)	19	14	0	0	0	0	1	4
	100.0	73.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	21.1
機能強化型在支病(連携型)	39	30	0	0	0	0	1	8
	100.0	76.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	20.5
在支病	75	62	1	0	0	0	0	12
	100.0	82.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0

⑫自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の有無

自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の有無をみると、「開催したことがある」の割合は、機能強化型在支診が 32.9%、在支診が 11.9%、在支診以外の診療所が 4.5%、機能強化型在支病が 55.2%、在支病が 29.3%であった。

図表 133 自院が主体となって開催したことがある医療・介護の連携のための会議の有無



図表 134 自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の開催数
(会議を開催している施設、6か月間)

(単位：回)

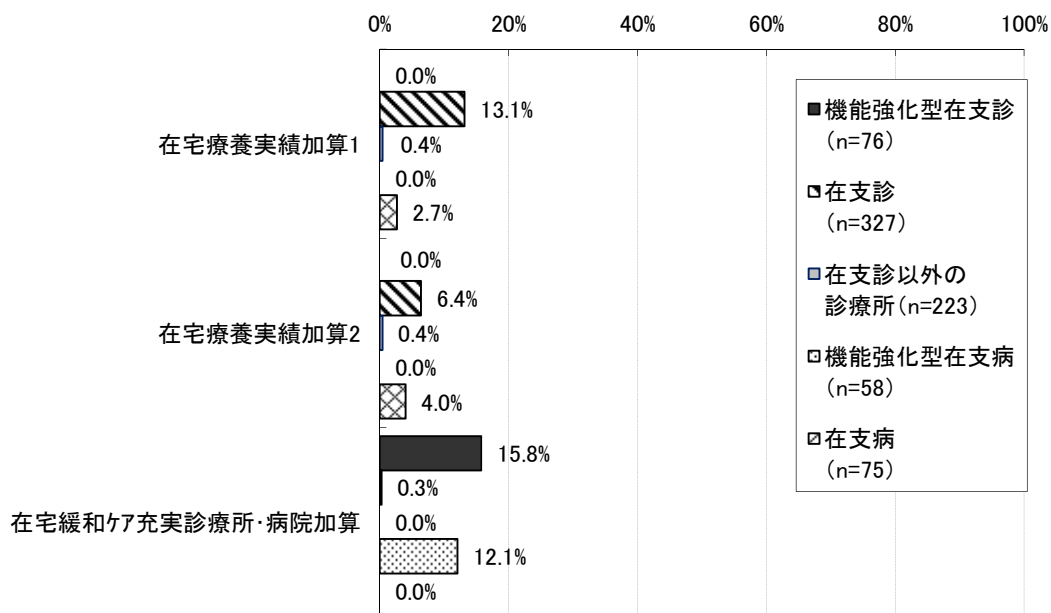
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	4	3.3	1.9	2.5
機能強化型在支診(連携型)	20	8.3	10.9	6.0
在支診	36	3.6	4.5	2.0
在支診以外の診療所	9	2.1	1.6	2.0
機能強化型在支病(単独型)	9	7.1	6.9	6.0
機能強化型在支病(連携型)	21	5.5	3.2	6.0
在支病	22	14.3	22.4	5.0

(注) 平成 28 年 4 月～9 月の開催数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑬届出のある施設基準

届出のある施設基準をみると、在支診では「在宅療養実績加算 1」については 13.1%、「在宅療養実績加算 2」については 6.4%が施設基準の届出があった。「在宅緩和ケア充実診療所・病院加算」について届出があるのは、機能強化型在支診では 15.8%、機能強化型在支病では 12.1%であった。

図表 135 届出のある施設基準（複数回答）



⑭1 か月の算定実績等

1) 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料

平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）をみると、機能強化型在支病（単独型）は平均 9.0 人（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）は平均 6.9 人（中央値 0.0）であった。

図表 136 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.9	4.7	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	1.1	4.3	0.0
在支診	247	1.7	5.3	0.0
在支診以外の診療所	137	0.5	1.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	9.0	22.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	6.9	22.8	0.0
在支病	65	1.7	5.4	0.0

（注）平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 137 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	6	2	1	0	0	1	0
	100.0	60.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	43	6	1	1	1	4	10
	100.0	65.2	9.1	1.5	1.5	1.5	6.1	15.2
在支診	327	178	19	11	7	5	27	80
	100.0	54.4	5.8	3.4	2.1	1.5	8.3	24.5
在支診以外の診療所	223	119	8	3	1	0	6	86
	100.0	53.4	3.6	1.3	0.4	0.0	2.7	38.6
機能強化型在支病(単独型)	19	12	1	0	0	1	3	2
	100.0	63.2	5.3	0.0	0.0	5.3	15.8	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	20	3	0	1	1	4	10
	100.0	51.3	7.7	0.0	2.6	2.6	10.3	25.6
在支病	75	51	3	3	2	0	6	10
	100.0	68.0	4.0	4.0	2.7	0.0	8.0	13.3

平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定回数を見ると、機能強化型在支診（単独型）は平均 13.6 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）は平均 73.9 回（中央値 0.0）であった。

図表 138 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定回数

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.1	5.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	1.7	6.2	0.0
在支診	247	4.6	17.9	0.0
在支診以外の診療所	137	1.1	4.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	13.6	29.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	73.9	255.3	0.0
在支病	65	7.7	22.4	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 139 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定回数別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	6	1	0	0	0	3	0
	100.0	60.0	10.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	43	4	1	2	0	6	10
	100.0	65.2	6.1	1.5	3.0	0.0	9.1	15.2
在支診	327	178	7	11	4	3	44	80
	100.0	54.4	2.1	3.4	1.2	0.9	13.5	24.5
在支診以外の診療所	223	119	3	2	1	1	11	86
	100.0	53.4	1.3	0.9	0.4	0.4	4.9	38.6
機能強化型在支病(単独型)	19	12	1	0	0	0	4	2
	100.0	63.2	5.3	0.0	0.0	0.0	21.1	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	20	2	1	0	0	6	10
	100.0	51.3	5.1	2.6	0.0	0.0	15.4	25.6
在支病	75	51	2	2	0	0	10	10
	100.0	68.0	2.7	2.7	0.0	0.0	13.3	13.3

2) 精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定患者数をみると、機能強化型在支病（連携型）は平均 3.5 人（中央値 0.0）であったが、他の施設では平均値が 1.0 未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 140 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定患者数（実人数）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.9	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	0.0	-	0.0
在支診	247	0.3	3.8	0.0
在支診以外の診療所	137	0.1	1.7	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	0.7	2.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	3.5	16.3	0.0
在支病	65	0.0	-	0.0

（注）平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 141 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定患者数（実人数）別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	9	0	0	0	0	1	0
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	56	0	0	0	0	0	10
	100.0	84.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2
在支診	327	245	0	0	0	1	1	80
	100.0	74.9	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	24.5
在支診以外の診療所	223	136	0	0	0	0	1	86
	100.0	61.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	38.6
機能強化型在支病(単独型)	19	16	0	0	0	0	1	2
	100.0	84.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	27	0	0	0	0	2	10
	100.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	25.6
在支病	75	65	0	0	0	0	0	10
	100.0	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定回数をみると、機能強化型在支病（連携型）は平均 18.1 回（中央値 0.0）であったが、他の施設では平均値が 1.0 未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 142 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定回数

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.9	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	0.0	-	0.0
在支診	247	0.3	3.9	0.0
在支診以外の診療所	137	0.2	2.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	0.8	3.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	18.1	94.6	0.0
在支病	65	0.0	-	0.0

（注）平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 143 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ・Ⅲのみ）の算定回数別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	9	0	0	0	0	1	0
	100.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	56	0	0	0	0	0	10
	100.0	84.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2
在支診	327	245	0	0	0	0	2	80
	100.0	74.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	24.5
在支診以外の診療所	223	136	0	0	0	0	1	86
	100.0	61.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	38.6
機能強化型在支病(単独型)	19	16	0	0	0	0	1	2
	100.0	84.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	27	0	0	0	0	2	10
	100.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	25.6
在支病	75	65	0	0	0	0	0	10
	100.0	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3

⑮1 か月の交付件数

1) 訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 33.9 件（中央値 12.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均 26.6 件（中央値 14.0）、在支診では平均 7.8 件（中央値 3.0）、在支診以外の診療所では平均 3.6 件（中央値 2.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 66.1 件（中央値 31.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 30.5 件（中央値 15.0）、在支病では平均 15.4 件（中央値 5.0）であった。

図表 144 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数

（単位：件）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	33.9	42.0	12.5
機能強化型在支診(連携型)	64	26.6	35.7	14.0
在支診	288	7.8	16.8	3.0
在支診以外の診療所	177	3.6	7.5	2.0
機能強化型在支病(単独型)	18	66.1	135.3	31.5
機能強化型在支病(連携型)	36	30.5	33.8	15.0
在支病	71	15.4	30.8	5.0

（注）平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 145 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～9 回	10～19 回	20～29 回	30～39 回	40～49 回	50 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	1	3	2	0	0	0	4	0
	100.0	10.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	5	20	14	6	4	6	9	2
	100.0	7.6	30.3	21.2	9.1	6.1	9.1	13.6	3.0
在支診	327	72	156	31	14	5	3	7	39
	100.0	22.0	47.7	9.5	4.3	1.5	0.9	2.1	11.9
在支診以外の診療所	223	59	105	7	1	3	1	1	46
	100.0	26.5	47.1	3.1	0.4	1.3	0.4	0.4	20.6
機能強化型在支病(単独型)	19	1	2	1	5	1	3	5	1
	100.0	5.3	10.5	5.3	26.3	5.3	15.8	26.3	5.3
機能強化型在支病(連携型)	39	3	11	5	3	4	1	9	3
	100.0	7.7	28.2	12.8	7.7	10.3	2.6	23.1	7.7
在支病	75	11	32	13	5	4	2	4	4
	100.0	14.7	42.7	17.3	6.7	5.3	2.7	5.3	5.3

2) 特別訪問看護指示書

平成28年9月1か月間の特別訪問看護指示書の交付件数をみると、機能強化型在支診(単独型)では平均1.2件(中央値0.0)、機能強化型在支診(連携型)では平均1.6件(中央値0.0)、在支診では平均1.0件(中央値0.0)、在支診以外の診療所では平均0.4件(中央値0.0)、機能強化型在支病(単独型)では平均2.4件(中央値1.0)、機能強化型在支病(連携型)では平均3.0件(中央値1.0)、在支病では平均0.6件(中央値0.0)であった。

図表 146 平成28年9月1か月間の特別訪問看護指示書の交付件数

(単位: 件)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.2	2.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	58	1.6	3.0	0.0
在支診	230	1.0	4.6	0.0
在支診以外の診療所	133	0.4	1.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.4	5.4	1.0
機能強化型在支病(連携型)	32	3.0	5.6	1.0
在支病	64	0.6	2.0	0.0

(注) 平成28年9月1か月間の特別訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 147 平成28年9月1か月間の特別訪問看護指示書の交付件数別分布

(単位: 上段「件」、下段「%」)

	総数	0件	1件	2件	3件	4件	5件以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10	6	1	2	0	0	1	0
	100.0	60.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	31	10	8	1	2	6	8
	100.0	47.0	15.2	12.1	1.5	3.0	9.1	12.1
在支診	327	168	26	14	11	1	10	97
	100.0	51.4	8.0	4.3	3.4	0.3	3.1	29.7
在支診以外の診療所	223	109	17	4	0	0	3	90
	100.0	48.9	7.6	1.8	0.0	0.0	1.3	40.4
機能強化型在支病(単独型)	19	5	7	2	1	1	1	2
	100.0	26.3	36.8	10.5	5.3	5.3	5.3	10.5
機能強化型在支病(連携型)	39	10	9	5	1	0	7	7
	100.0	25.6	23.1	12.8	2.6	0.0	17.9	17.9
在支病	75	49	6	7	0	0	2	11
	100.0	65.3	8.0	9.3	0.0	0.0	2.7	14.7

3) 精神科訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数は、以下のとおりであった。

図表 148 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数

(単位：件)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	0.7	5.4	0.0
在支診	217	0.1	0.9	0.0
在支診以外の診療所	124	0.2	1.8	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.3	0.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	26	0.3	1.4	0.0
在支病	62	0.0	0.1	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

4) 精神科特別訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数は、以下のとおりであった。

図表 149 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数

(単位：件)

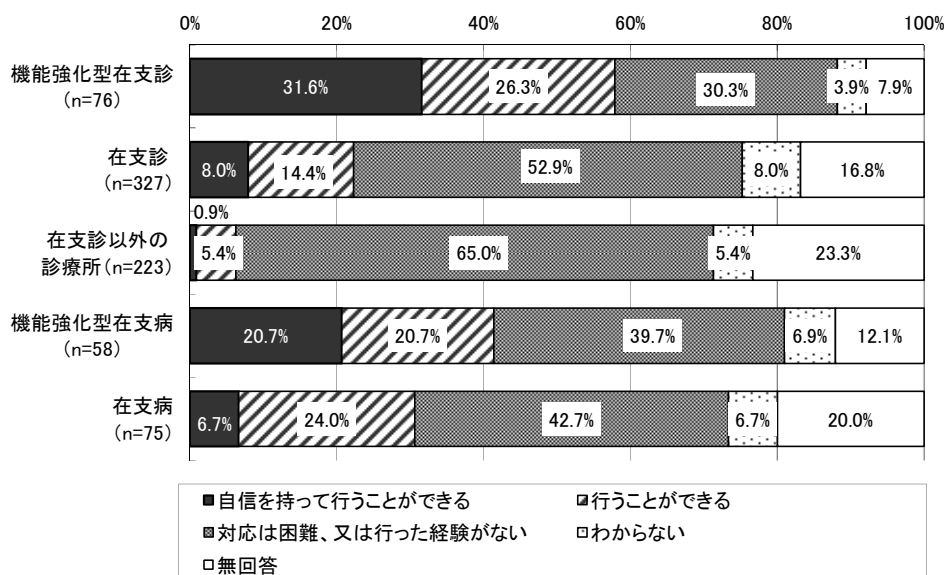
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	0.0	-	0.0
在支診	216	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	123	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	26	0.0	-	0.0
在支病	62	0.0	-	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑩治療に対する状況

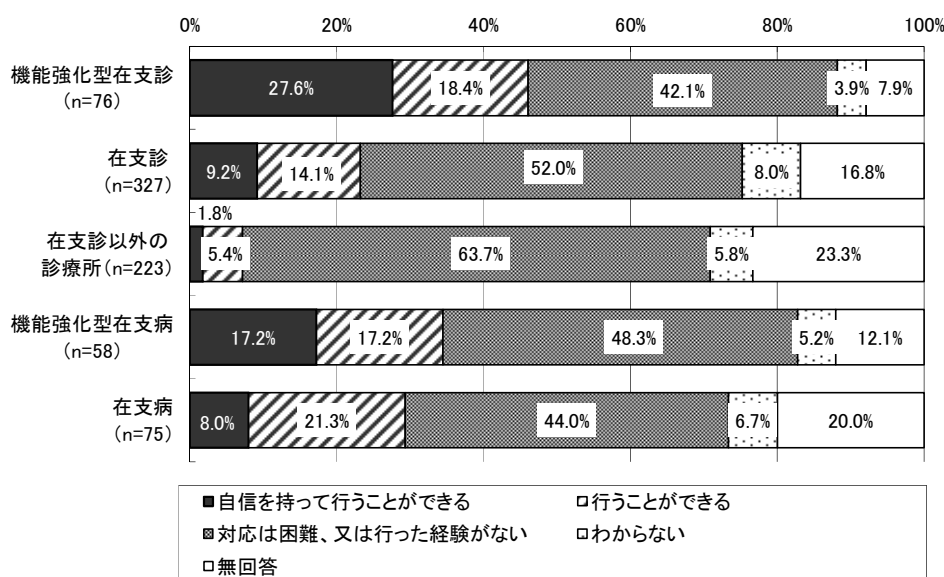
治療に対する状況としてモルヒネの持続皮下注射をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 31.6%、在支診では 8.0%、在支診以外の診療所では 0.9%、機能強化型在支病では 20.7%、在支病では 6.7%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 30.3%、在支診では 52.9%、在支診以外の診療所では 65.0%、機能強化型在支病では 39.7%、在支病では 42.7%であった。

図表 150 治療に対する状況～モルヒネの持続皮下注射～



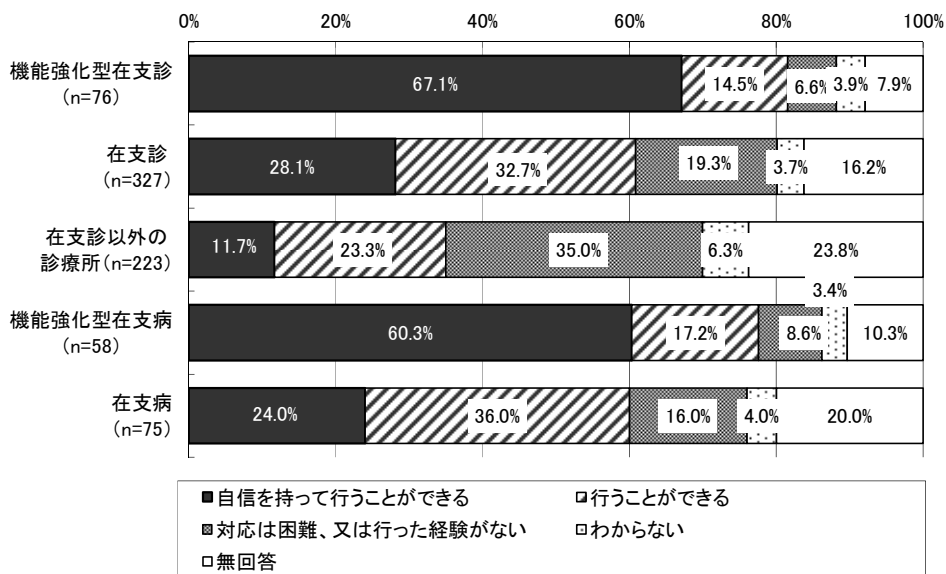
治療に対する状況として鎮静薬の持続皮下注射をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 27.6%、在支診では 9.2%、在支診以外の診療所では 1.8%、機能強化型在支病では 17.2%、在支病では 8.0%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 42.1%、在支診では 52.0%、在支診以外の診療所では 63.7%、機能強化型在支病では 48.3%、在支病では 44.0%であった。

図表 151 治療に対する状況～鎮静薬の持続皮下注射～



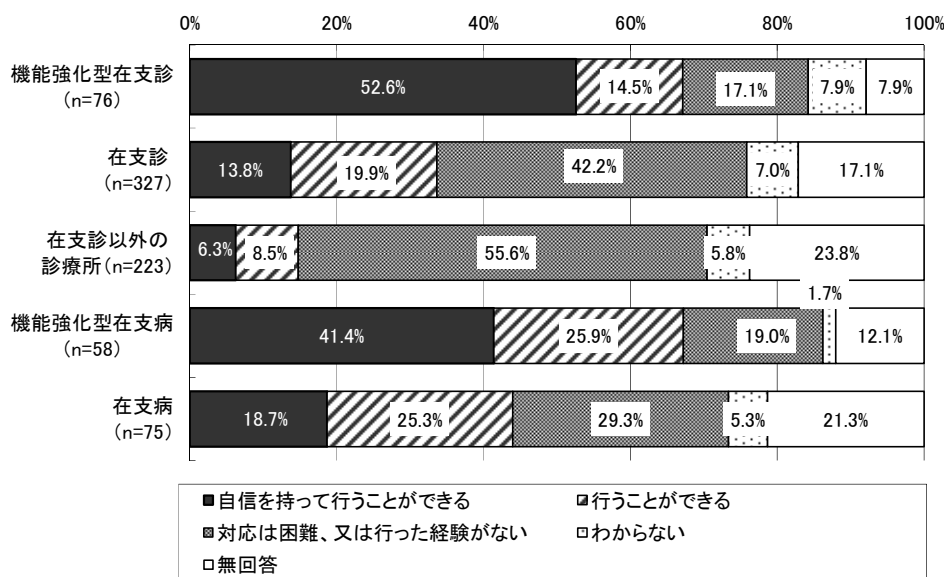
治療に対する状況として経口麻薬の投与をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 67.1%、在支診では 28.1%、在支診以外の診療所では 11.7%、機能強化型在支病では 60.3%、在支病では 24.0%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 6.6%、在支診では 19.3%、在支診以外の診療所では 35.0%、機能強化型在支病では 8.6%、在支病では 16.0%であった。

図表 152 治療に対する状況～経口麻薬の投与～



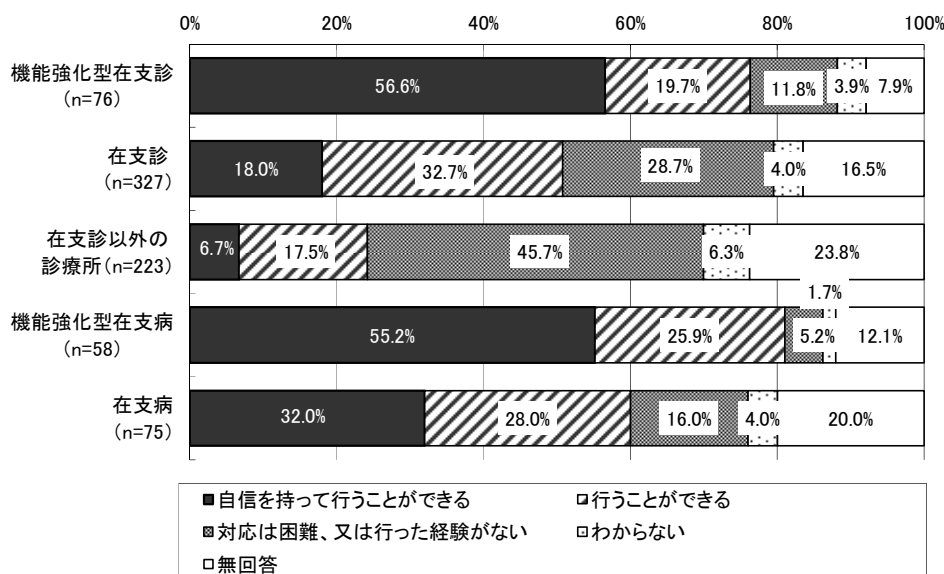
治療に対する状況として皮下輸液をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 52.6%、在支診では 13.8%、在支診以外の診療所では 6.3%、機能強化型在支病では 41.4%、在支病では 18.7%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 17.1%、在支診では 42.2%、在支診以外の診療所では 55.6%、機能強化型在支病では 19.0%、在支病では 29.3%であった。

図表 153 治療に対する状況～皮下輸液～



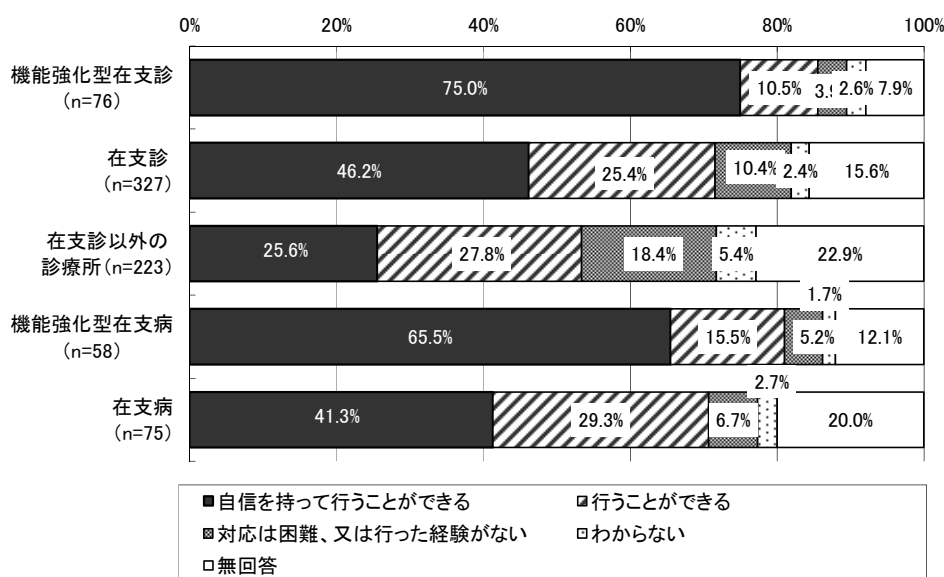
治療に対する状況として中心静脈栄養・ポート管理をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では56.6%、在支診では18.0%、在支診以外の診療所では6.7%、機能強化型在支病では55.2%、在支病では32.0%であった。機能強化型在支診、機能強化型在支病では「自信を持って行うことができる」が5割を大きく超えた。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では11.8%、在支診では28.7%、在支診以外の診療所では45.7%、機能強化型在支病では5.2%、在支病では16.0%であった。

図表 154 治療に対する状況～中心静脈栄養・ポート管理～



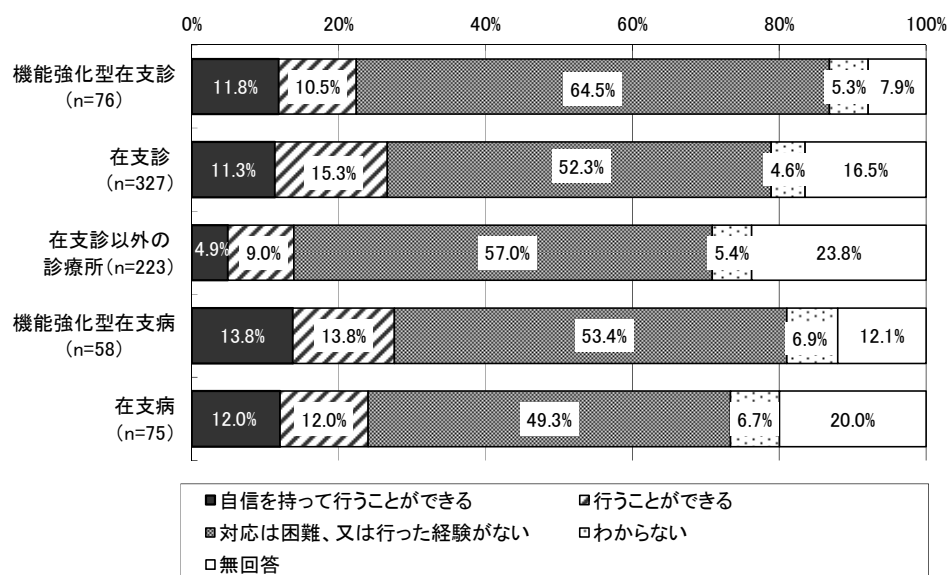
治療に対する状況として末梢静脈点滴をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 75.0%、在支診では 46.2%、在支診以外の診療所では 25.6%、機能強化型在支病では 65.5%、在支病では 41.3%であった。機能強化型在支診、機能強化型在支病では「自信を持って行うことができる」が 6 割を大きく超えた。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 3.9%、在支診では 10.4%、在支診以外の診療所では 18.4%、機能強化型在支病では 5.2%、在支病では 6.7%であった。

図表 155 治療に対する状況～末梢静脈点滴～



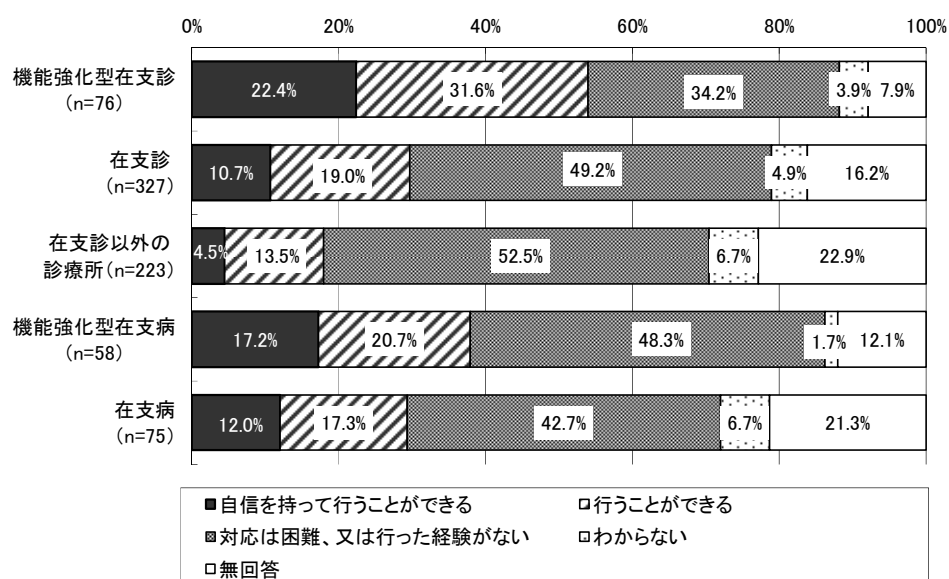
治療に対する状況として輸血をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 11.8%、在支診では 11.3%、在支診以外の診療所では 4.9%、機能強化型在支病では 13.8%、在支病では 12.0%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 64.5%、在支診では 52.3%、在支診以外の診療所では 57.0%、機能強化型在支病では 53.4%、在支病では 49.3%であった。

図表 156 治療に対する状況～輸血～



治療に対する状況として胸水穿刺、腹水穿刺をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 22.4%、在支診では 10.7%、在支診以外の診療所では 4.5%、機能強化型在支病では 17.2%、在支病では 12.0%であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 34.2%、在支診では 49.2%、在支診以外の診療所では 52.5%、機能強化型在支病では 48.3%、在支病では 42.7%であった。

図表 157 治療に対する状況～胸水穿刺、腹水穿刺～



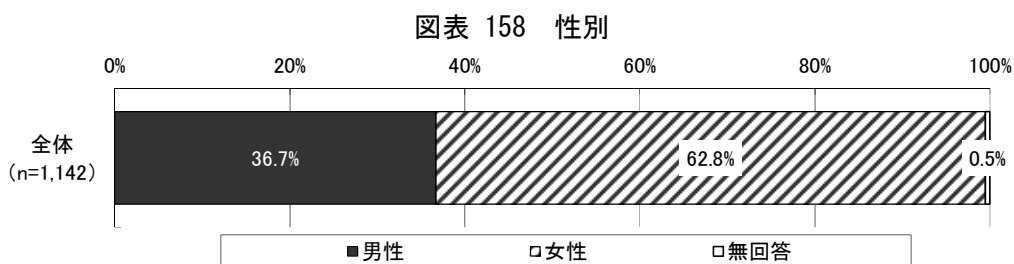
(5) 訪問診療を受けている患者の状況等 (「患者調査」)

- ・平成 28 年 10 月 16 日～10 月 31 日に、最初に訪問した患者と最後に訪問した患者、合計 2 名を調査対象とした。
- ・結果、1,142 名分の患者票を回収した。

①基本属性等

1) 性別

患者の性別をみると、「男性」が 36.7%、「女性」が 62.8%であった。



2) 年齢

年齢をみると、平均 83.1 歳 (中央値 86.0) であった。男性は平均 79.2 歳 (中央値 82.0) で、女性は平均 85.4 歳 (中央値 88.0) であり、女性のほうが年齢が高かった。

また、年齢階級別患者分布は、全体では「85～89 歳」(23.1%) が最も多く、次いで「90～94 歳」(20.3%)、「80～84 歳」(17.2%) であった。また、男性は女性と比較して 84 歳以下の各年齢階級では割合が高く、85 歳以上の各年齢階級で低かった。

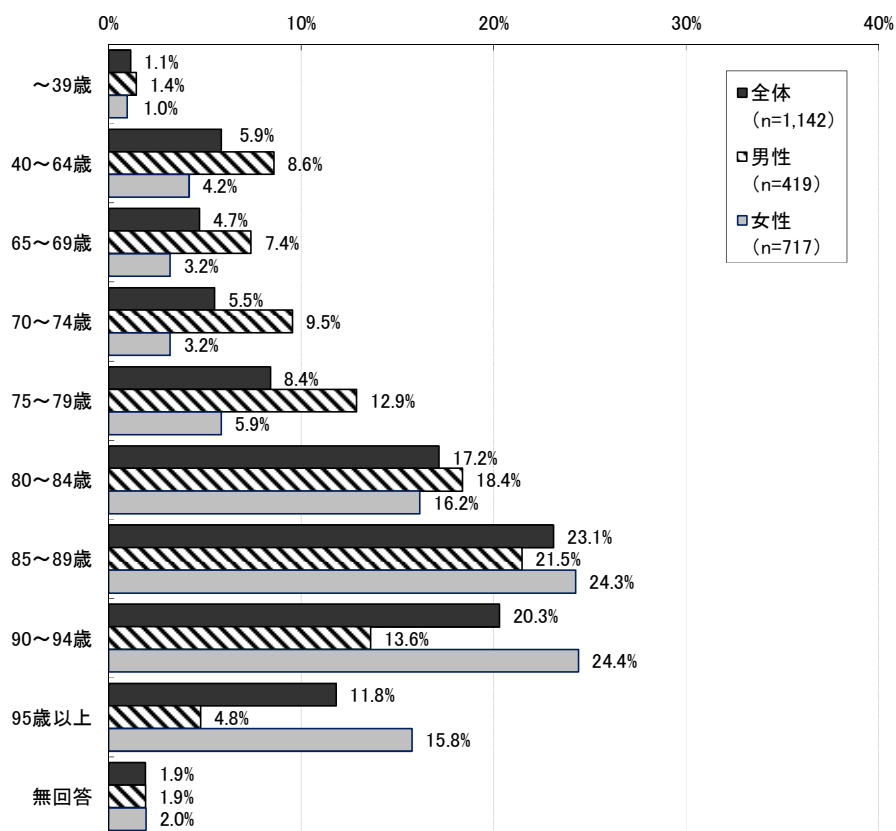
図表 159 年齢

(単位：歳)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,120	83.1	12.9	86.0
男性	411	79.2	13.3	82.0
女性	703	85.4	12.1	88.0

(注)・年齢について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 160 年齢階級別患者分布（男女別）



(注) 「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

図表 161 平均年齢（訪問医療機関別）

(単位：歳)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,120	83.1	12.9	86.0
機能強化型在支診(単独型)	20	81.4	17.4	84.5
機能強化型在支診(連携型)	123	81.4	15.3	85.0
在支診	496	83.6	11.7	86.0
在支診以外の診療所	244	82.9	13.9	85.0
機能強化型在支病(単独型)	38	82.4	9.9	84.0
機能強化型在支病(連携型)	72	82.5	16.0	87.0
在支病	119	84.0	11.6	86.0

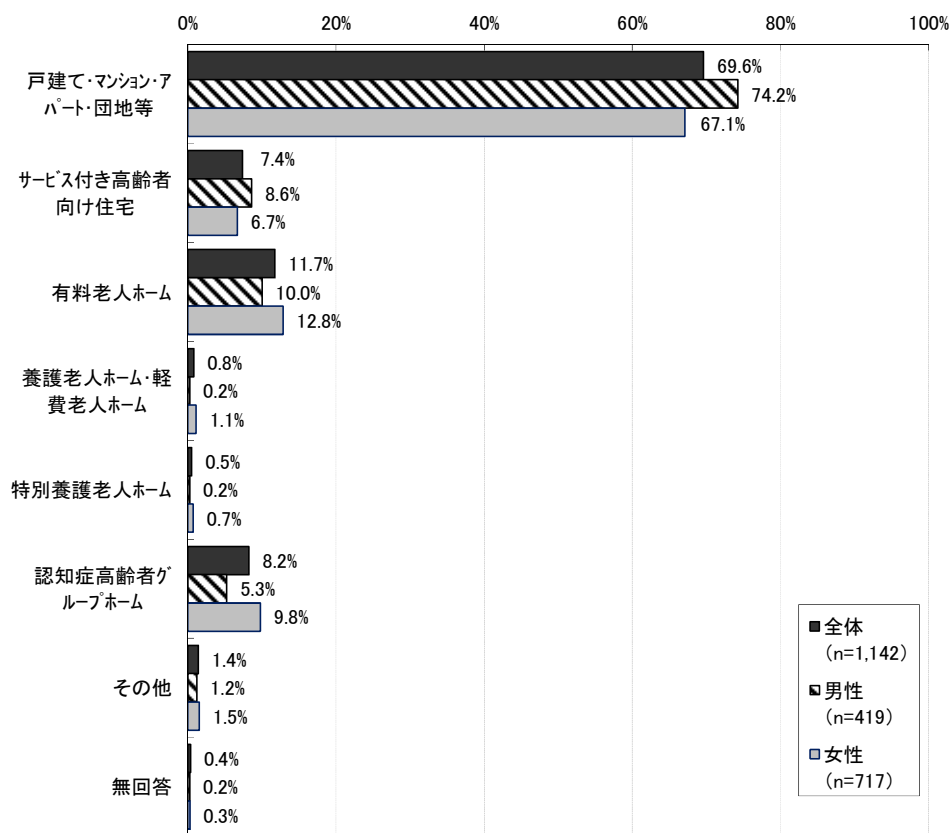
(注) ・年齢について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

3) 患者の居住場所

患者の居住場所をみると、全体では「戸建て・マンション・アパート・団地等」(69.6%)が最も多く、次いで「有料老人ホーム」(11.7%)、「認知症高齢者グループホーム」(8.2%)、「サービス付き高齢者向け住宅」(7.4%)となった。

また、男女別にみると、男性は女性と比較して「戸建て・マンション・アパート・団地等」の割合が7.1ポイント高く、女性は男性と比較して「認知症高齢者グループホーム」の割合が4.5ポイント高かった。

図表 162 患者の居住場所（男女別、単数回答）



(注) ・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。
 ・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

年齢階級別に患者の居住場所をみると、いずれの年齢階級でも「戸建て・マンション・アパート・団地等」が最も多かった。85～94歳では「サービス付き高齢者向け住宅」、「有料老人ホーム」の割合が他の年齢階級と比較して高かった。80歳以上の年齢階級では「認知症高齢者グループホーム」の割合が1割程度となった。

図表 163 患者の居住場所（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	戸建て・マンション・アパート・団地等	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	養護老人ホーム・軽費老人ホーム	特別養護老人ホーム	認知症高齢者グループホーム	その他	無回答
全体	1,142 100.0	795 69.6	84 7.4	134 11.7	9 0.8	6 0.5	94 8.2	16 1.4	4 0.4
～39歳	13 100.0	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～64歳	67 100.0	60 89.6	3 4.5	2 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.0
65～74歳	117 100.0	93 79.5	10 8.5	9 7.7	0 0.0	0 0.0	3 2.6	2 1.7	0 0.0
75～79歳	96 100.0	77 80.2	6 6.3	9 9.4	0 0.0	0 0.0	4 4.2	0 0.0	0 0.0
80～84歳	196 100.0	139 70.9	12 6.1	22 11.2	1 0.5	1 0.5	19 9.7	1 0.5	1 0.5
85～89歳	264 100.0	159 60.2	24 9.1	40 15.2	3 1.1	0 0.0	31 11.7	6 2.3	1 0.4
90～94歳	232 100.0	145 62.5	21 9.1	34 14.7	3 1.3	2 0.9	22 9.5	5 2.2	0 0.0
95歳以上	135 100.0	93 68.9	8 5.9	15 11.1	0 0.0	2 1.5	15 11.1	2 1.5	0 0.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

訪問医療機関別に患者の居住場所をみると、いずれの医療機関でも「戸建て・マンション・アパート・団地等」が最も多かった。特に、機能強化型在支病（単独型）と機能強化型在支診（単独型）では「戸建て・マンション・アパート・団地等」が8割以上となった。

図表 164 患者の居住場所（訪問医療機関別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	戸建て・ マンション・ アパート・ 団地等	サービス付 き高齢 者向け 住宅	有料老 人ホーム	養護老 人ホーム・ 軽費老 人ホーム	特別養 護老人ホ ーム	認知症 高齢者グ ループホ ーム	その他	無回答
全体	1,142	795	84	134	9	6	94	16	4
	100.0	69.6	7.4	11.7	0.8	0.5	8.2	1.4	0.4
機能強化型在支診 （単独型）	20	16	1	0	0	0	2	1	0
	100.0	80.0	5.0	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	0.0
機能強化型在支診 （連携型）	126	95	7	12	0	1	11	0	0
	100.0	75.4	5.6	9.5	0.0	0.8	8.7	0.0	0.0
在支診	508	338	35	73	3	5	44	8	2
	100.0	66.5	6.9	14.4	0.6	1.0	8.7	1.6	0.4
在支診以外の診療 所	250	193	16	22	3	0	13	3	0
	100.0	77.2	6.4	8.8	1.2	0.0	5.2	1.2	0.0
機能強化型在支病 （単独型）	38	33	2	2	0	0	0	1	0
	100.0	86.8	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
機能強化型在支病 （連携型）	72	49	7	11	2	0	3	0	0
	100.0	68.1	9.7	15.3	2.8	0.0	4.2	0.0	0.0
在支病	120	69	16	12	1	0	19	1	2
	100.0	57.5	13.3	10.0	0.8	0.0	15.8	0.8	1.7

（注）・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

- ・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

4) 単一建物内に訪問診療を行っている患者数

患者の居住場所別に自院が単一建物内に訪問診療を行っている患者数をみると、「戸建て・マンション・アパート団地等」では「1人」が87.8%で最も多く、「サービス付き高齢者向け住宅」と「認知症高齢者グループホーム」では「2～9人」がそれぞれ47.6%、57.4%で最も多かった。「有料老人ホーム」では「10人以上」が50.7%で最も多かった。

図表 165 単一建物内に訪問診療を行っている患者数（居住場所別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1人	2～9人	10人以上	無回答
全体	1,142 100.0	747 65.4	216 18.9	141 12.3	38 3.3
戸建て・マンション・アパート・ 団地等	795 100.0	698 87.8	59 7.4	6 0.8	32 4.0
サービス付き高齢者向け 住宅	84 100.0	16 19.0	40 47.6	26 31.0	2 2.4
有料老人ホーム	134 100.0	15 11.2	49 36.6	68 50.7	2 1.5
養護老人ホーム・軽費老 人ホーム	9 100.0	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1
特別養護老人ホーム	6 100.0	1 16.7	0 0.0	5 83.3	0 0.0
認知症高齢者グループホ ーム	94 100.0	10 10.6	54 57.4	29 30.9	1 1.1
その他	16 100.0	5 31.3	8 50.0	3 18.8	0 0.0

(注)・単一建物内に同じ医療機関の訪問診療を受けている患者数（当該患者を含める）。

・「全体」には居住場所が不明のもの4人分が含まれる。

訪問医療機関別に自院が単一建物内で訪問診療を行っている患者数をみると、在支診では「1人」の割合が62.6%と6割を超えているが、他の診療所と比較するとやや低く、「2～9人」「10人以上」を合わせた割合が33.9%と患者の3分の1を占めた。同様に、在支病では「1人」の割合が53.3%と5割を超えているが、他の病院と比較するとやや低く、「2～9人」「10人以上」を合わせた割合が44.2%と相対的に高かった。

図表 166 単一建物内で自院が訪問診療を行っている患者数（訪問医療機関別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	1人	2～9人	10人以上	無回答
全体	1,142	747	216	141	38
	100.0	65.4	18.9	12.3	3.3
機能強化型在支診(単独型)	20	16	0	2	2
	100.0	80.0	0.0	10.0	10.0
機能強化型在支診(連携型)	126	88	18	17	3
	100.0	69.8	14.3	13.5	2.4
在支診	508	318	108	64	18
	100.0	62.6	21.3	12.6	3.5
在支診以外の診療所	250	186	40	20	4
	100.0	74.4	16.0	8.0	1.6
機能強化型在支病(単独型)	38	31	2	4	1
	100.0	81.6	5.3	10.5	2.6
機能強化型在支病(連携型)	72	40	11	14	7
	100.0	55.6	15.3	19.4	9.7
在支病	120	64	35	18	3
	100.0	53.3	29.2	15.0	2.5

(注)・単一建物内に同じ医療機関の訪問診療を受けている患者数（当該患者を含める）。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

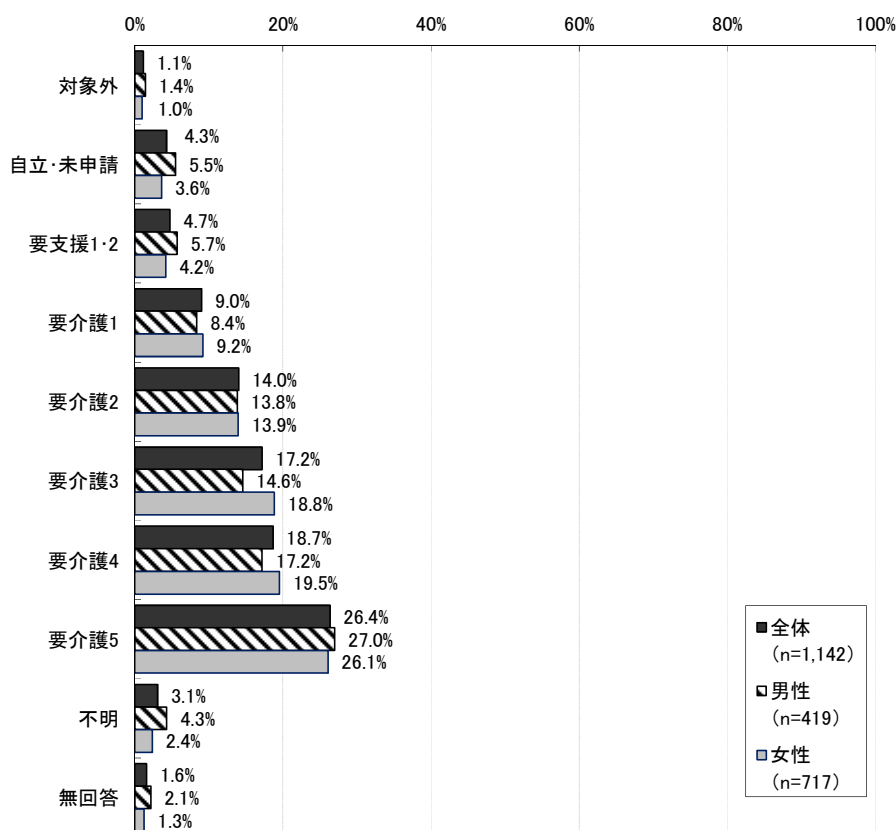
②患者の状態等

1) 要介護度

要介護度をみると、全体では「要介護 5」(26.4%) が最も多く、次いで「要介護 4」(18.7%)、「要介護 3」(17.2%)、「要介護 2」(14.0%)、「要介護 1」(9.0%) であった。

男女別に要介護度をみると、男女による大きな差異はみられなかった。

図表 167 要介護度（男女別、単数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に要介護度をみると、40～64 歳では「自立・未申請」が 32.8%で最も多いが、「要介護 5」が 31.3%で次に多かった。65 歳以上の年齢階級では「要介護 4」「要介護 5」が多く、両者を合わせた割合は、65～74 歳で 47.9%、75～79 歳で 43.8%、80～84 歳で 39.8%、85～89 歳で 42.1%、90～94 歳で 50.5%、95 歳以上では 54.8%であり、4 割～5 割強を占めている。

図表 168 要介護度（年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	対象外	自立・未申請	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	不明	無回答
全体	1,142	13	49	54	103	160	196	213	301	35	18
	100.0	1.1	4.3	4.7	9.0	14.0	17.2	18.7	26.4	3.1	1.6
～39 歳	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～64 歳	67	0	22	0	1	7	4	6	21	4	2
	100.0	0.0	32.8	0.0	1.5	10.4	6.0	9.0	31.3	6.0	3.0
65～74 歳	117	0	4	3	17	12	19	13	43	5	1
	100.0	0.0	3.4	2.6	14.5	10.3	16.2	11.1	36.8	4.3	0.9
75～79 歳	96	0	3	2	10	16	19	21	21	4	0
	100.0	0.0	3.1	2.1	10.4	16.7	19.8	21.9	21.9	4.2	0.0
80～84 歳	196	0	7	15	19	35	34	28	50	5	3
	100.0	0.0	3.6	7.7	9.7	17.9	17.3	14.3	25.5	2.6	1.5
85～89 歳	264	0	10	16	24	32	51	57	54	12	8
	100.0	0.0	3.8	6.1	9.1	12.1	19.3	21.6	20.5	4.5	3.0
90～94 歳	232	0	2	12	18	35	43	44	73	4	1
	100.0	0.0	0.9	5.2	7.8	15.1	18.5	19.0	31.5	1.7	0.4
95 歳以上	135	0	1	4	12	20	21	42	32	1	2
	100.0	0.0	0.7	3.0	8.9	14.8	15.6	31.1	23.7	0.7	1.5

（注）「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に要介護度をみると、「要介護4」「要介護5」の割合は、機能強化型在支診（単独型）が45.0%、機能強化型在支診（連携型）が50.0%、在支診が46.5%、在支診以外の診療所が39.6%、機能強化型在支病（単独型）が55.3%、機能強化型在支病（連携型）が41.7%、在支病が46.6%であり、機能強化型在支病（単独型）で割合が最も高かった。

図表 169 要介護度（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	対象外	自立・未申請	要支援1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明	無回答
全体	1,142	13	49	54	103	160	196	213	301	35	18
	100.0	1.1	4.3	4.7	9.0	14.0	17.2	18.7	26.4	3.1	1.6
機能強化型在支診(単独型)	20	1	0	0	1	1	6	2	7	1	1
	100.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0	30.0	10.0	35.0	5.0	5.0
機能強化型在支診(連携型)	126	2	6	2	13	15	21	22	41	2	2
	100.0	1.6	4.8	1.6	10.3	11.9	16.7	17.5	32.5	1.6	1.6
在支診	508	3	22	36	43	69	82	94	142	9	8
	100.0	0.6	4.3	7.1	8.5	13.6	16.1	18.5	28.0	1.8	1.6
在支診以外の診療所	250	3	18	7	21	44	47	49	50	8	3
	100.0	1.2	7.2	2.8	8.4	17.6	18.8	19.6	20.0	3.2	1.2
機能強化型在支病(単独型)	38	0	0	1	3	3	7	8	13	3	0
	100.0	0.0	0.0	2.6	7.9	7.9	18.4	21.1	34.2	7.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	3	1	4	6	7	16	13	17	3	2
	100.0	4.2	1.4	5.6	8.3	9.7	22.2	18.1	23.6	4.2	2.8
在支病	120	1	2	3	12	18	17	25	31	9	2
	100.0	0.8	1.7	2.5	10.0	15.0	14.2	20.8	25.8	7.5	1.7

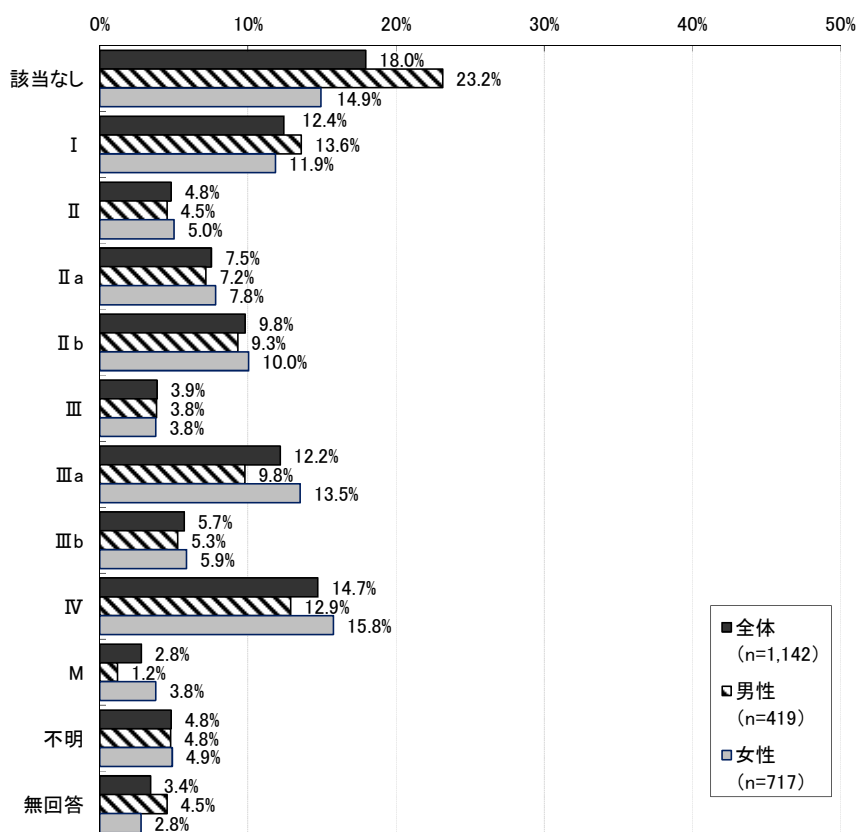
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

2) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、全体では「該当なし」が 18.0%で最も多く、次いで「IV」が 14.7%、「I」が 12.4%、「IIIa」が 12.2%であった。全体では「III」以上が 39.3%であった。

男女別にみると、「該当なし」の割合は男性が女性よりも 8.3 ポイント高かった。「III」以上の割合は、男性では 33.0%、女性では 42.8%であり、女性の方が男性より 9.8 ポイント高かった。

図表 170 認知症高齢者の日常生活自立度（男女別、単数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に認知症高齢者の日常生活自立度をみると、「Ⅲ」以上の割合は、80～84歳では40.4%、85～89歳では45.8%、90～94歳では50.4%、95歳以上では45.9%であった。

図表 171 認知症高齢者の日常生活自立度（年齢階級別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	該当なし	I	II	II a	II b	III	III a	III b	IV	M	不明	無回答
全体	1,142	205	142	55	86	112	44	139	65	168	32	55	39
	100.0	18.0	12.4	4.8	7.5	9.8	3.9	12.2	5.7	14.7	2.8	4.8	3.4
～39歳	13	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1
	100.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7
40～64歳	67	42	1	0	1	2	1	1	2	6	0	7	4
	100.0	62.7	1.5	0.0	1.5	3.0	1.5	1.5	3.0	9.0	0.0	10.4	6.0
65～74歳	117	43	18	3	9	12	1	5	1	13	5	6	1
	100.0	36.8	15.4	2.6	7.7	10.3	0.9	4.3	0.9	11.1	4.3	5.1	0.9
75～79歳	96	29	12	5	3	14	3	5	4	9	3	5	4
	100.0	30.2	12.5	5.2	3.1	14.6	3.1	5.2	4.2	9.4	3.1	5.2	4.2
80～84歳	196	28	28	13	15	15	5	26	13	30	5	10	8
	100.0	14.3	14.3	6.6	7.7	7.7	2.6	13.3	6.6	15.3	2.6	5.1	4.1
85～89歳	264	35	27	15	21	23	17	44	13	42	5	14	8
	100.0	13.3	10.2	5.7	8.0	8.7	6.4	16.7	4.9	15.9	1.9	5.3	3.0
90～94歳	232	13	31	9	22	26	6	36	20	45	10	8	6
	100.0	5.6	13.4	3.9	9.5	11.2	2.6	15.5	8.6	19.4	4.3	3.4	2.6
95歳以上	135	4	18	10	15	18	9	18	11	20	4	3	5
	100.0	3.0	13.3	7.4	11.1	13.3	6.7	13.3	8.1	14.8	3.0	2.2	3.7

（注）「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に認知症高齢者の日常生活自立度をみると、「Ⅲ」以上の割合は、機能強化型在支病(単独型)が47.3%で最も高く、次いで在支病が45.8%、機能強化型在支診(連携型)が41.3%、在支診が40.6%であった。

図表 172 認知症高齢者の日常生活自立度（訪問医療機関別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	該当なし	I	II	II a	II b	III	III a	III b	IV	M	不明	無回答
全体	1,142	205	142	55	86	112	44	139	65	168	32	55	39
	100.0	18.0	12.4	4.8	7.5	9.8	3.9	12.2	5.7	14.7	2.8	4.8	3.4
機能強化型在支診(単独型)	20	6	2	1	1	4	0	0	1	4	0	1	0
	100.0	30.0	10.0	5.0	5.0	20.0	0.0	0.0	5.0	20.0	0.0	5.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	126	26	19	0	6	18	5	15	4	25	3	3	2
	100.0	20.6	15.1	0.0	4.8	14.3	4.0	11.9	3.2	19.8	2.4	2.4	1.6
在支診	508	83	63	26	39	45	13	67	30	77	19	26	20
	100.0	16.3	12.4	5.1	7.7	8.9	2.6	13.2	5.9	15.2	3.7	5.1	3.9
在支診以外の診療所	250	62	26	16	20	26	11	27	15	27	6	6	8
	100.0	24.8	10.4	6.4	8.0	10.4	4.4	10.8	6.0	10.8	2.4	2.4	3.2
機能強化型在支病(単独型)	38	5	5	1	5	2	3	4	1	10	0	0	2
	100.0	13.2	13.2	2.6	13.2	5.3	7.9	10.5	2.6	26.3	0.0	0.0	5.3
機能強化型在支病(連携型)	72	11	11	3	6	5	3	8	6	8	0	8	3
	100.0	15.3	15.3	4.2	8.3	6.9	4.2	11.1	8.3	11.1	0.0	11.1	4.2
在支病	120	11	16	8	7	9	9	18	8	16	4	10	4
	100.0	9.2	13.3	6.7	5.8	7.5	7.5	15.0	6.7	13.3	3.3	8.3	3.3

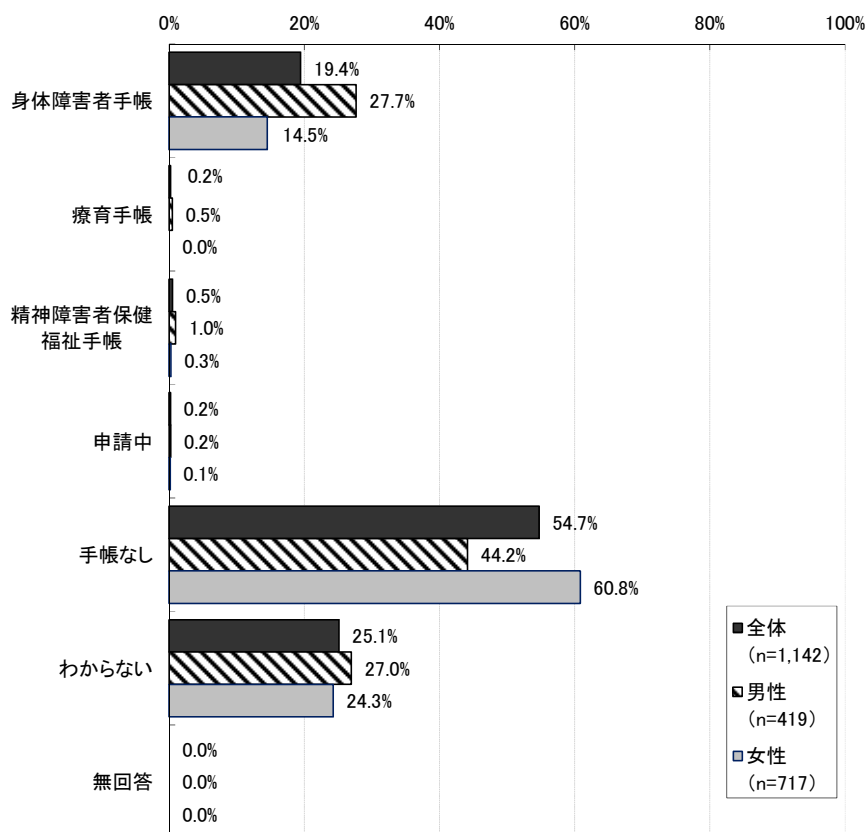
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

3) 障害者手帳などの種類

障害者手帳などの種類をみると、全体では「手帳なし」が54.7%であった。また、「身体障害者手帳」が19.4%、「わからない」が25.1%であった。

男女別にみると、男性では「身体障害者手帳」の割合が女性と比較して13.2ポイント高く、女性は「手帳なし」の割合が男性よりも16.6ポイント高かった。

図表 173 障害者手帳などの種類（男女別、単数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別に障害者手帳などの種類をみると、80歳以上では「手帳なし」の割合が高かった。「身体障害者手帳」の保有者は、39歳以下では53.8%、40～64歳では59.7%と5割を超えた。

図表 174 障害者手帳などの種類（年齢階級別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	申請中	手帳なし	わからない	無回答
全体	1,142 100.0	222 19.4	2 0.2	6 0.5	2 0.2	625 54.7	287 25.1	0 0.0
～39歳	13 100.0	7 53.8	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 46.2	0 0.0
40～64歳	67 100.0	40 59.7	1 1.5	4 6.0	0 0.0	8 11.9	14 20.9	0 0.0
65～74歳	117 100.0	52 44.4	0 0.0	2 1.7	1 0.9	37 31.6	26 22.2	0 0.0
75～79歳	96 100.0	30 31.3	0 0.0	0 0.0	1 1.0	37 38.5	28 29.2	0 0.0
80～84歳	196 100.0	27 13.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	119 60.7	50 25.5	0 0.0
85～89歳	264 100.0	30 11.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	171 64.8	63 23.9	0 0.0
90～94歳	232 100.0	20 8.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	155 66.8	57 24.6	0 0.0
95歳以上	135 100.0	10 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	89 65.9	36 26.7	0 0.0

（注）「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に障害者手帳などの種類をみると、「身体障害者手帳」については、機能強化型在支診（連携型）が27.8%で他の医療機関と比較すると、割合が高かった。

図表 175 障害者手帳などの種類（訪問医療機関別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	申請中	手帳なし	わからない	無回答
全体	1,142 100.0	222 19.4	2 0.2	6 0.5	2 0.2	625 54.7	287 25.1	0 0.0
機能強化型在支診（単独型）	20 100.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 55.0	4 20.0	0 0.0
機能強化型在支診（連携型）	126 100.0	35 27.8	0 0.0	1 0.8	0 0.0	67 53.2	23 18.3	0 0.0
在支診	508 100.0	97 19.1	0 0.0	2 0.4	2 0.4	280 55.1	128 25.2	0 0.0
在支診以外の診療所	250 100.0	48 19.2	1 0.4	3 1.2	0 0.0	134 53.6	64 25.6	0 0.0
機能強化型在支病（単独型）	38 100.0	10 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 44.7	11 28.9	0 0.0
機能強化型在支病（連携型）	72 100.0	8 11.1	1 1.4	0 0.0	0 0.0	43 59.7	21 29.2	0 0.0
在支病	120 100.0	19 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	67 55.8	34 28.3	0 0.0

（注）「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

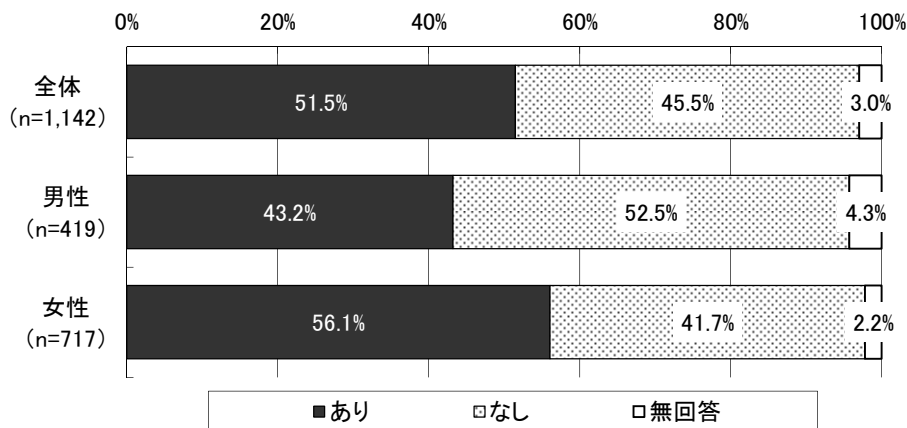
4) 精神疾患の有無

精神疾患の有無をみると、全体では「あり」が51.5%、「なし」が45.5%であった。

男女別にみると、女性では「あり」の割合が男性と比較して12.9ポイント高かった。

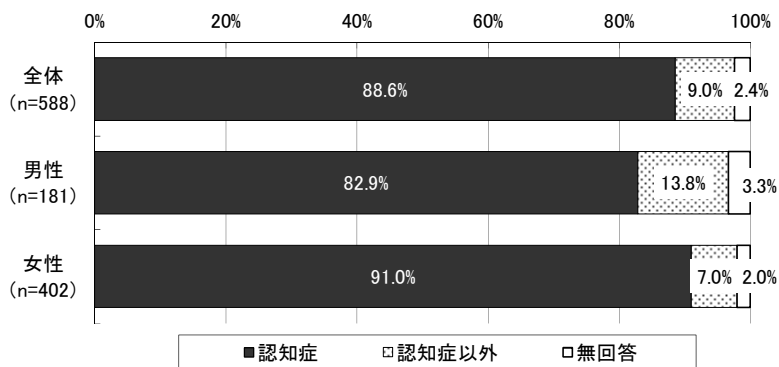
また、精神疾患の内訳をみると、「認知症」が精神疾患「あり」という患者の88.6%（男性では82.9%、女性では91.0%）を占めた。

図表 176 精神疾患の有無（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

図表 177 精神疾患の内訳（精神疾患がある患者、男女別）

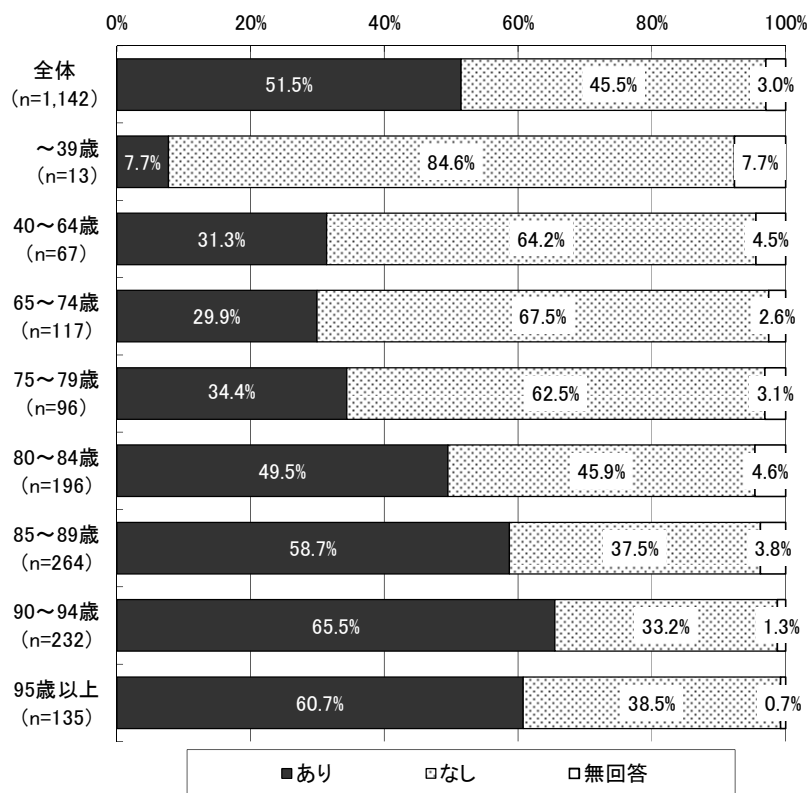


(注)「全体」には性別が不明のもの5人分が含まれる。

年齢階級別に精神疾患の有無をみると、75歳以上では年齢階級が高くなるほど「あり」の割合が高くなる傾向がみられた。特に、90～94歳では「あり」が65.5%とおよそ3分の2を占め、他の年齢階級と比較しても高かった。

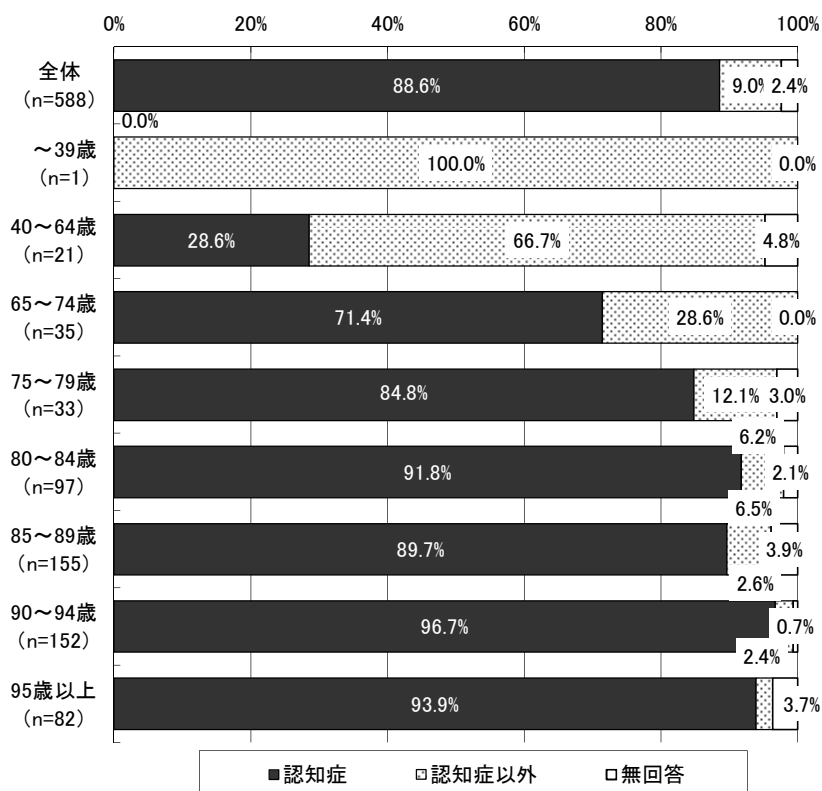
また、精神疾患の内訳をみると、75歳以上の各年齢階級では「認知症」が8割以上を占めた。

図表 178 精神疾患の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

図表 179 精神疾患の内訳（精神疾患がある患者、年齢階級別）



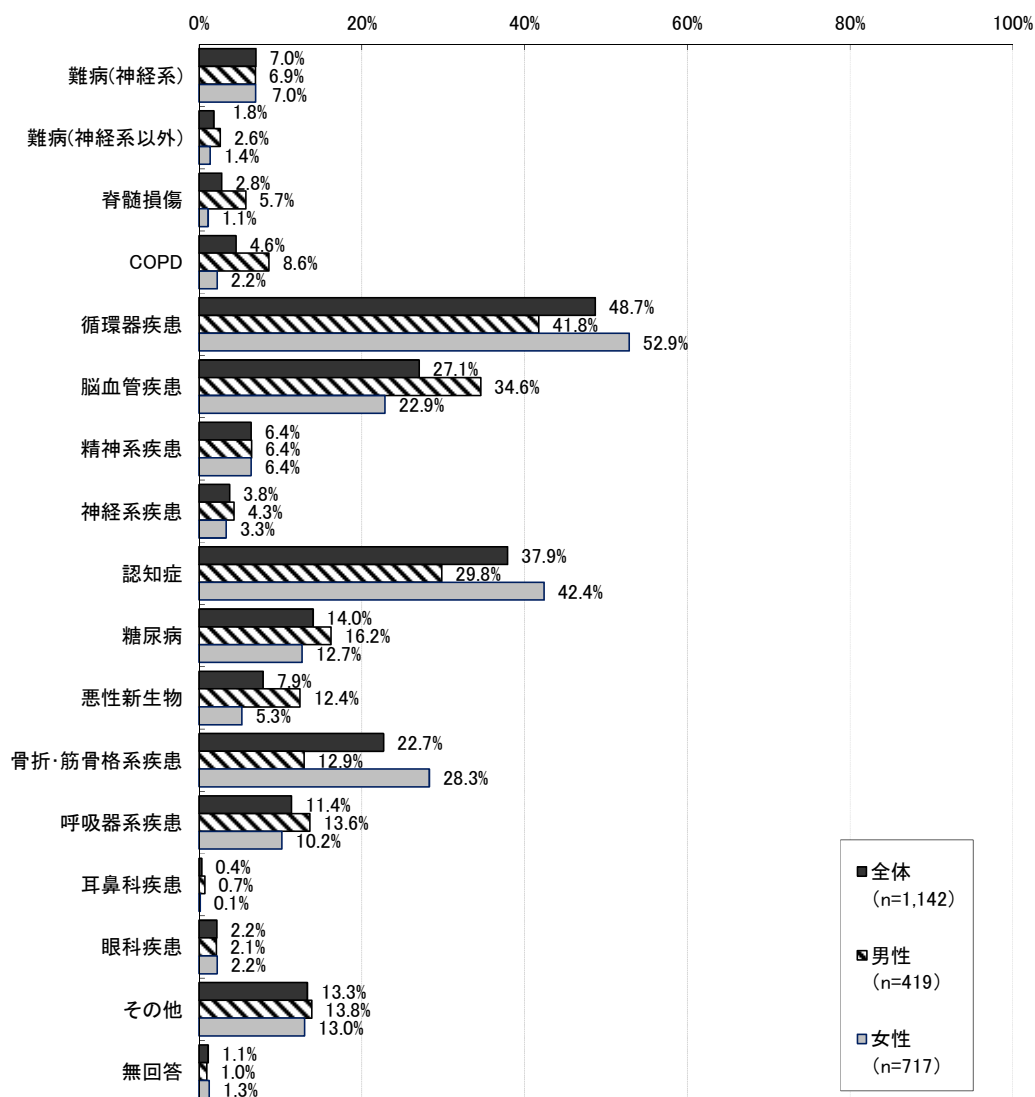
(注)「全体」には年齢が不明のもの 12 人分が含まれる。

5) 現在、訪問診療を行っている原因の病名

現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、全体では「循環器疾患」が 48.7%で最も多く、次いで「認知症」(37.9%)、「脳血管疾患」(27.1%)であった。

男女別にみると、男性では「循環器疾患」が 41.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患」(34.6%)、「認知症」(29.8%)であり、女性では「循環器疾患」が 52.9%で最も多く、次いで「認知症」(42.4%)、「骨折・筋骨格系疾患」(28.3%)であった。男性が女性と比較して割合が高かったのは「脳血管疾患」(11.7ポイント)、「悪性新生物」(7.1ポイント)であった。女性が男性と比較して割合が高かったのは「骨折・筋骨格系疾患」(15.4ポイント)、「認知症」(12.6ポイント)、「循環器疾患」(11.1ポイント)であった。

図表 180 現在、訪問診療を行っている原因の病名（複数回答）



(注) ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。
 ・「その他」の内容として、「褥瘡」、「廃用症候群」、「胃瘻造設状態」、「前立腺肥大症」、「フレイル」、「歩行困難」等が挙げられた。

年齢階級別に、現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、39 歳以下では「難病（神経系＋神経系以外）」、「脳血管疾患」、「呼吸器系疾患」が多かった。40～64 歳では「難病（神経系）」、「脳血管疾患」が多かった。65～74 歳では「脳血管疾患」が 31.6%で最も多く、次いで「循環器疾患」（23.1%）であった。75 歳以上の各年齢階級では「循環器疾患」が最も多く、年齢階級が高くなるほどその割合も高くなる傾向がみられた。また、2 番目に多かったのは、「認知症」であった。

図表 181 現在、訪問診療を行っている原因の病名（年齢階級別、複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	難病 (神経系)	難病 (神経系 以外)	脊髄 損傷	COPD	循環器 疾患	脳血管 疾患	精神系 疾患	神経系 疾患
全体	1,142	80	21	32	52	556	309	73	43
	100.0	7.0	1.8	2.8	4.6	48.7	27.1	6.4	3.8
～39 歳	13	2	3	0	0	1	4	0	1
	100.0	15.4	23.1	0.0	0.0	7.7	30.8	0.0	7.7
40～64 歳	67	18	2	8	1	11	16	8	8
	100.0	26.9	3.0	11.9	1.5	16.4	23.9	11.9	11.9
65～74 歳	117	18	4	6	6	27	37	9	2
	100.0	15.4	3.4	5.1	5.1	23.1	31.6	7.7	1.7
75～79 歳	96	11	1	6	7	35	26	5	6
	100.0	11.5	1.0	6.3	7.3	36.5	27.1	5.2	6.3
80～84 歳	196	10	7	4	8	94	60	11	8
	100.0	5.1	3.6	2.0	4.1	48.0	30.6	5.6	4.1
85～89 歳	264	12	1	5	15	155	65	25	7
	100.0	4.5	0.4	1.9	5.7	58.7	24.6	9.5	2.7
90～94 歳	232	3	3	1	12	137	68	11	7
	100.0	1.3	1.3	0.4	5.2	59.1	29.3	4.7	3.0
95 歳以上	135	3	0	2	2	91	29	3	3
	100.0	2.2	0.0	1.5	1.5	67.4	21.5	2.2	2.2

	認知症	糖尿病	悪性 新生物	骨折・筋 骨格系 疾患	呼吸器系 疾患	耳鼻科 疾患	眼科 疾患	その他	無回答
全体	433	160	90	259	130	4	25	152	13
	37.9	14.0	7.9	22.7	11.4	0.4	2.2	13.3	1.1
～39 歳	0	0	2	0	4	0	0	3	1
	0.0	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0	23.1	7.7
40～64 歳	4	7	3	5	6	0	1	13	3
	6.0	10.4	4.5	7.5	9.0	0.0	1.5	19.4	4.5
65～74 歳	20	21	14	14	8	0	1	11	2
	17.1	17.9	12.0	12.0	6.8	0.0	0.9	9.4	1.7
75～79 歳	22	13	10	20	9	0	1	11	1
	22.9	13.5	10.4	20.8	9.4	0.0	1.0	11.5	1.0
80～84 歳	71	39	11	42	31	1	6	25	0
	36.2	19.9	5.6	21.4	15.8	0.5	3.1	12.8	0.0
85～89 歳	125	40	23	63	31	2	8	28	2
	47.3	15.2	8.7	23.9	11.7	0.8	3.0	10.6	0.8
90～94 歳	122	21	20	66	29	0	7	32	1
	52.6	9.1	8.6	28.4	12.5	0.0	3.0	13.8	0.4
95 歳以上	62	15	3	43	12	1	1	28	2
	45.9	11.1	2.2	31.9	8.9	0.7	0.7	20.7	1.5

（注）「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、いずれの施設でも「循環器疾患」が最も多かった。「循環器疾患」の割合は機能強化型在支診が46.6%、在支診が49.8%、在支診以外の診療所が44.4%、機能強化型在支病が48.2%、在支病が54.2%であり、いずれの施設でも4割を超えた。また、「認知症」の割合は機能強化型在支診が32.2%、在支診が40.7%、在支診以外の診療所が38.4%、機能強化型在支病が32.7%、在支病が35.8%であり、3割強から4割強を占めた。在支診以外の診療所では「骨折・筋骨格系疾患」の割合が他の施設と比較して高かった。

図表 182 現在、訪問診療を行っている原因の病名（訪問医療機関別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	難病 (神経系)	難病 (神経系 以外)	脊髄損傷	COPD	循環器 疾患	脳血管 疾患	精神系 疾患	神経系 疾患
全体	1,142	80	21	32	52	556	309	73	43
	100.0	7.0	1.8	2.8	4.6	48.7	27.1	6.4	3.8
機能強化型 在支診	146	9	5	1	4	68	47	11	6
	100.0	6.2	3.4	0.7	2.7	46.6	32.2	7.5	4.1
在支診	508	34	7	13	29	253	139	33	22
	100.0	6.7	1.4	2.6	5.7	49.8	27.4	6.5	4.3
在支診以外 の診療所	250	18	4	11	8	111	59	16	8
	100.0	7.2	1.6	4.4	3.2	44.4	23.6	6.4	3.2
機能強化型 在支病	110	7	3	3	6	53	29	7	3
	100.0	6.4	2.7	2.7	5.5	48.2	26.4	6.4	2.7
在支病	120	12	2	4	5	65	32	6	4
	100.0	10.0	1.7	3.3	4.2	54.2	26.7	5.0	3.3

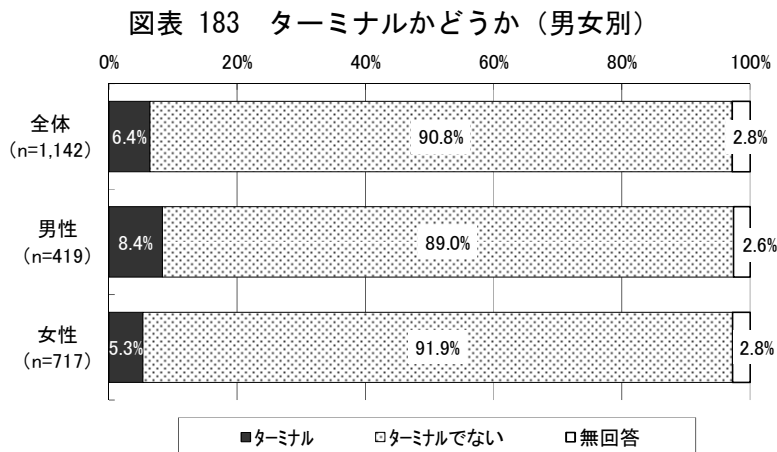
	認知症	糖尿病	悪性 新生物	骨折・筋 骨格系 疾患	呼吸器系 疾患	耳鼻科 疾患	眼科疾患	その他	無回答
全体	433	160	90	259	130	4	25	152	13
	37.9	14.0	7.9	22.7	11.4	0.4	2.2	13.3	1.1
機能強化型 在支診	47	11	20	32	15	1	4	20	4
	32.2	7.5	13.7	21.9	10.3	0.7	2.7	13.7	2.7
在支診	207	67	35	117	58	2	9	67	5
	40.7	13.2	6.9	23.0	11.4	0.4	1.8	13.2	1.0
在支診以外 の診療所	96	41	12	61	25	0	5	33	2
	38.4	16.4	4.8	24.4	10.0	0.0	2.0	13.2	0.8
機能強化型 在支病	36	13	11	26	12	0	5	11	1
	32.7	11.8	10.0	23.6	10.9	0.0	4.5	10.0	0.9
在支病	43	27	11	22	18	1	2	21	1
	35.8	22.5	9.2	18.3	15.0	0.8	1.7	17.5	0.8

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

6) ターミナルかどうか

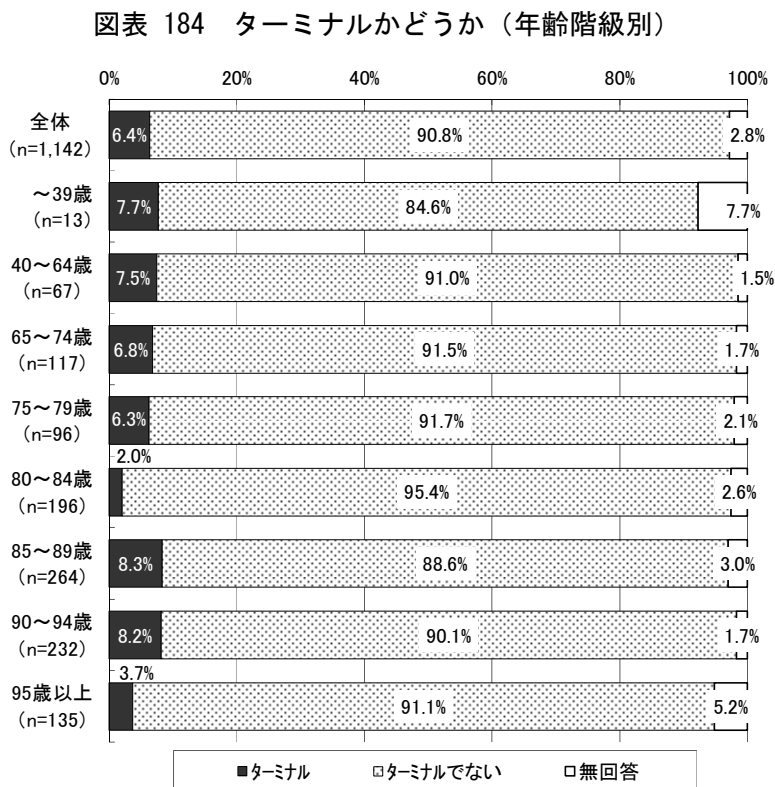
ターミナルかどうかをみると、全体では「ターミナル」が6.4%、「ターミナルでない」が90.8%であった。

男女別にみると、「ターミナル」の割合は男性が8.4%、女性が5.3%で、男性の方が女性よりも3.1ポイント高かった。



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

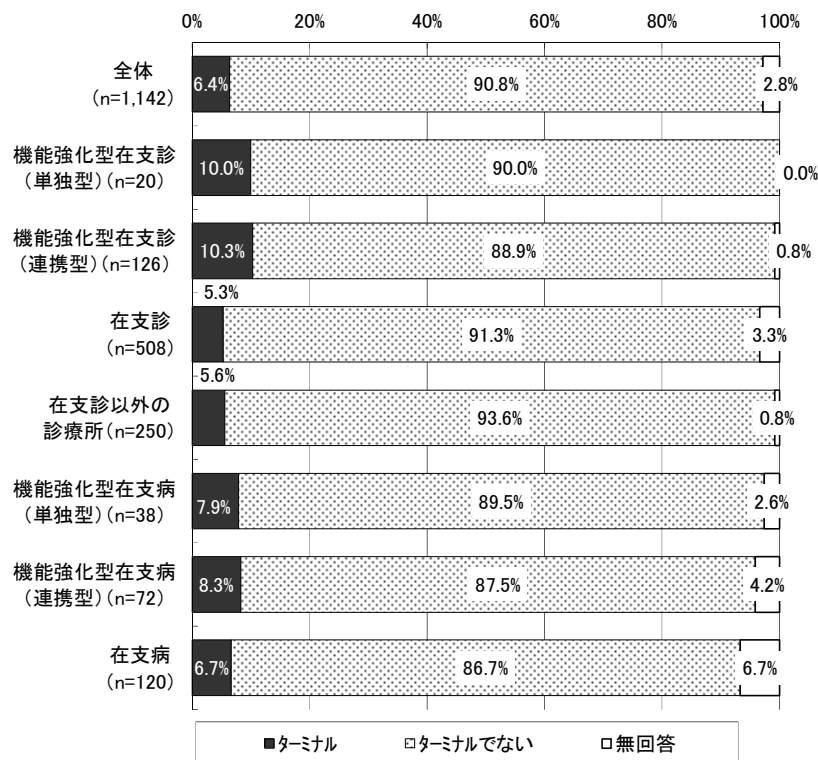
年齢階級別に、ターミナルかどうかをみたものは、以下のとおりである。



(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に、ターミナルかどうかをみると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）では「ターミナル」の割合がそれぞれ、10.0%、10.3%で、全体や他の施設と比較すると高かった。

図表 185 ターミナルかどうか（訪問医療機関別）



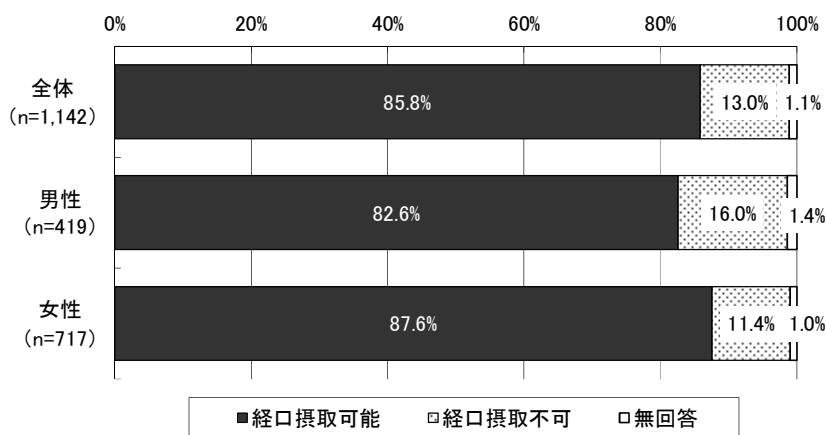
(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

7) 経口摂取の状況

経口摂取の状況を見ると、全体では「経口摂取可能」が 85.8%、「経口摂取不可」が 13.0%であった。

男女別にみると、「経口摂取不可」の割合は、男性が 16.0%、女性が 11.4%で、男性は女性よりも 4.6 ポイント高かった。

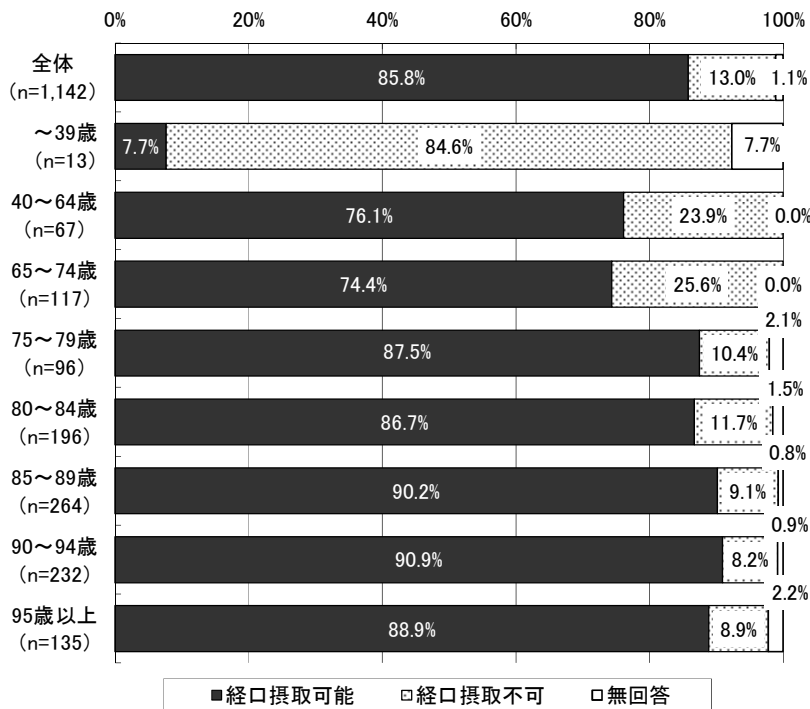
図表 186 経口摂取の状況（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別にみると、39 歳以下では患者数が少ないものの「経口摂取不可」が 84.6%であった。また、40 歳～64 歳、65～74 歳では「経口摂取不可」がそれぞれ 23.9%、25.6%と 2 割を超えた。

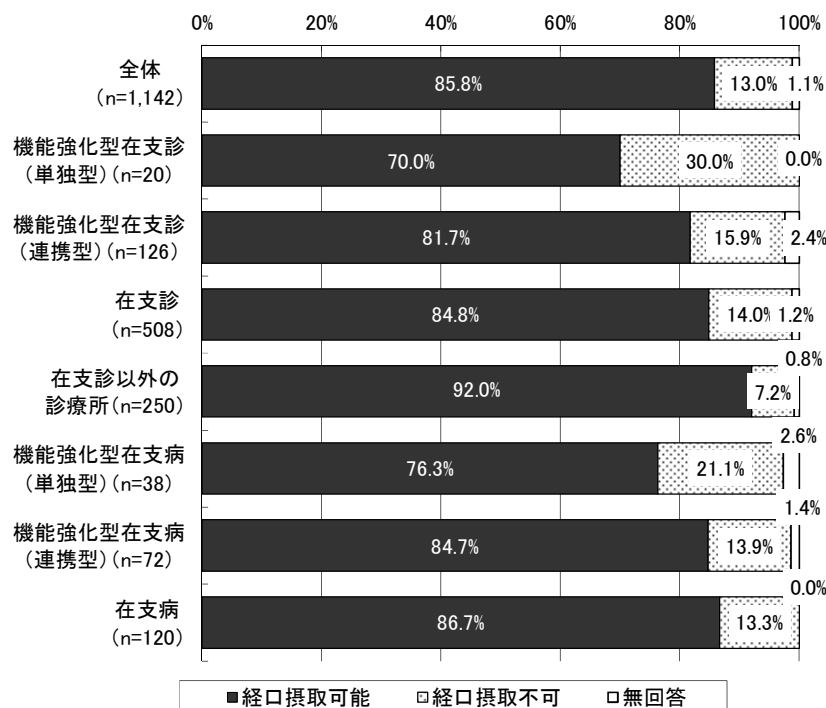
図表 187 経口摂取の状況（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に経口摂取の状況を見ると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支病（単独型）では、「経口摂取不可」がそれぞれ30.0%、21.1%で、全体や他の施設と比較して高かった。

図表 188 経口摂取の状況（訪問医療機関別）



(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

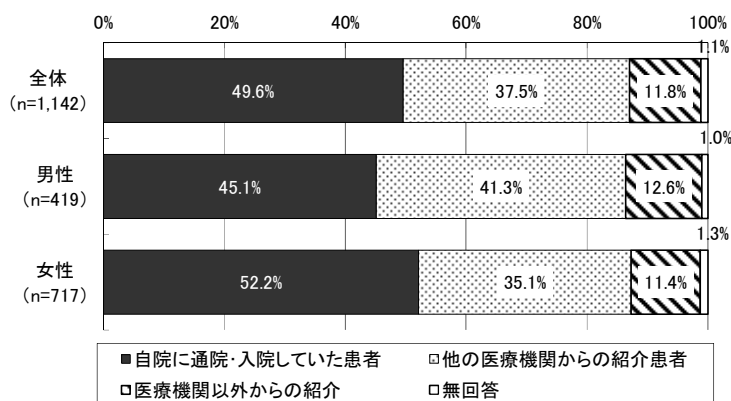
③訪問診療の実施内容等

1) 訪問診療を行ったきっかけ

訪問診療を行ったきっかけをみると、全体では「自院に通院・入院していた患者」が 49.6%で最も多く、次いで「他の医療機関からの紹介患者」が 37.5%、「医療機関以外からの紹介」が 11.8%であった。

男女別にみると、女性の方が男性と比較して「自院に通院・入院していた患者」の割合が 7.1ポイント高かった。

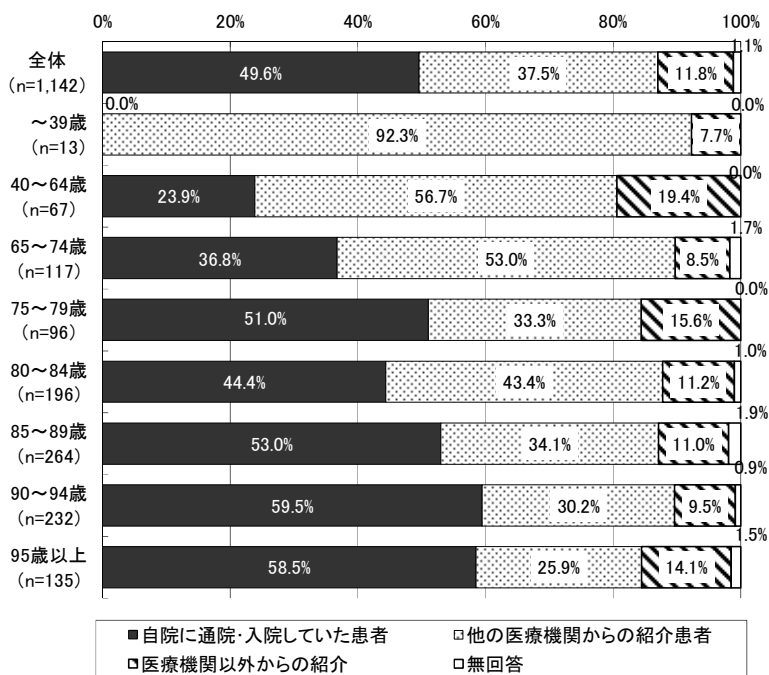
図表 189 訪問診療を行ったきっかけ（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別にみると、75～79 歳を除くと、年齢階級が高くなるほど、「自院に通院・入院していた患者」の割合が高くなる傾向がみられた。

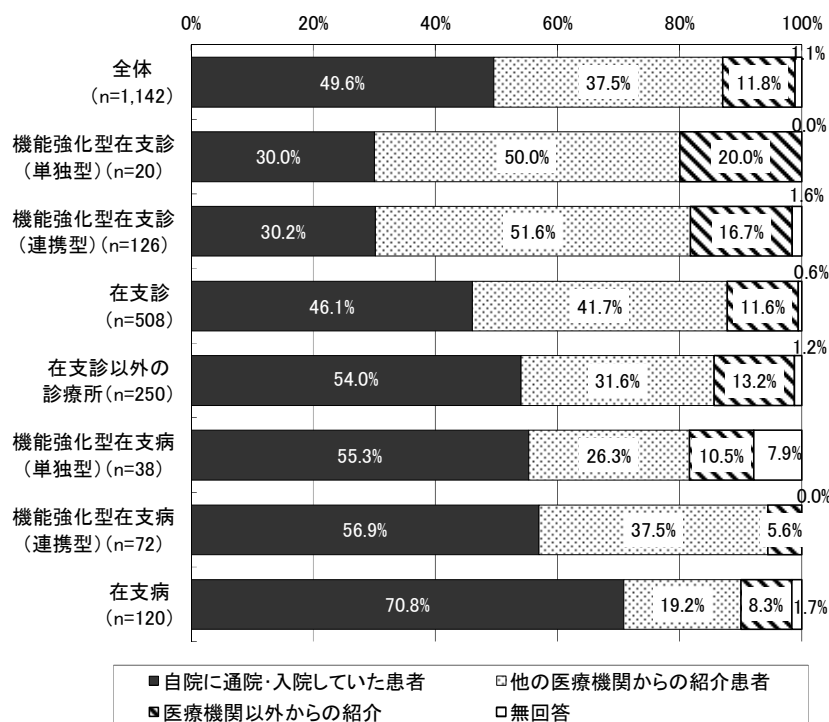
図表 190 訪問診療を行ったきっかけ（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別にみると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）では「他の医療機関からの紹介患者」が5割近くを占めた。

図表 191 訪問診療を行ったきっかけ（訪問医療機関別）

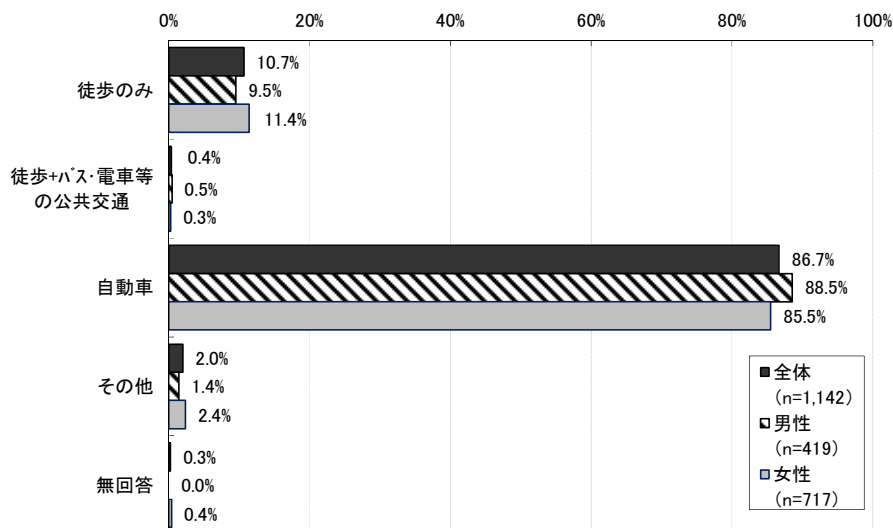


(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

2) 患家を訪問するのに用いる交通手段と移動時間

患家を訪問するのに用いる交通手段をみると、全体では「自動車」が 86.7%、「徒歩のみ」が 10.7%であった。また、患家までの片道の移動時間は平均 11.8 分であった。

図表 192 患家を訪問するのに用いる交通手段（男女別、単数回答）



(注) ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。
 ・「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 193 患家を訪問する移動時間（片道）（男女別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,126	11.8	8.2	10.0
男性	414	12.1	7.8	10.0
女性	706	11.6	8.4	10.0

(注) ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。
 ・移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

図表 194 患者を訪問するのに用いる交通手段（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	徒歩のみ	徒歩+バス・電車等の公共交通	自動車	その他	無回答
全体	1,142	122	4	990	23	3
	100.0	10.7	0.4	86.7	2.0	0.3
～39 歳	13	0	0	13	0	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
40～64 歳	67	3	0	61	3	0
	100.0	4.5	0.0	91.0	4.5	0.0
65～74 歳	117	9	1	104	3	0
	100.0	7.7	0.9	88.9	2.6	0.0
75～79 歳	96	6	0	89	1	0
	100.0	6.3	0.0	92.7	1.0	0.0
80～84 歳	196	18	1	173	3	1
	100.0	9.2	0.5	88.3	1.5	0.5
85～89 歳	264	35	0	224	5	0
	100.0	13.3	0.0	84.8	1.9	0.0
90～94 歳	232	25	1	197	7	2
	100.0	10.8	0.4	84.9	3.0	0.9
95 歳以上	135	24	0	110	1	0
	100.0	17.8	0.0	81.5	0.7	0.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 195 患者を訪問する移動時間（片道）（年齢階級別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,126	11.8	8.2	10.0
～39 歳	13	13.1	7.5	10.0
40～64 歳	66	15.0	9.3	15.0
65～74 歳	117	13.0	8.1	10.0
75～79 歳	96	12.3	7.5	10.0
80～84 歳	192	11.5	7.6	10.0
85～89 歳	259	11.5	8.5	10.0
90～94 歳	226	11.6	8.7	10.0
95 歳以上	135	10.3	6.9	10.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

・移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

図表 196 患者を訪問するのに用いる交通手段（訪問医療機関別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	徒歩のみ	徒歩+バス・電車等の公共交通	自動車	その他	無回答
全体	1,142	122	4	990	23	3
	100.0	10.7	0.4	86.7	2.0	0.3
機能強化型在支診（単独型）	20	0	0	19	1	0
	100.0	0.0	0.0	95.0	5.0	0.0
機能強化型在支診（連携型）	126	8	1	116	1	0
	100.0	6.3	0.8	92.1	0.8	0.0
在支診	508	63	1	429	13	2
	100.0	12.4	0.2	84.4	2.6	0.4
在支診以外の診療所	250	29	2	211	8	0
	100.0	11.6	0.8	84.4	3.2	0.0
機能強化型在支病（単独型）	38	1	0	37	0	0
	100.0	2.6	0.0	97.4	0.0	0.0
機能強化型在支病（連携型）	72	5	0	67	0	0
	100.0	6.9	0.0	93.1	0.0	0.0
在支病	120	16	0	103	0	1
	100.0	13.3	0.0	85.8	0.0	0.8

（注）・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 197 患者を訪問する移動時間（片道）（訪問医療機関別）

（単位：分）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,126	11.8	8.2	10.0
機能強化型在支診(単独型)	20	13.3	6.4	11.0
機能強化型在支診(連携型)	126	11.8	7.7	10.0
在支診	498	12.1	8.7	10.0
在支診以外の診療所	248	11.0	7.1	10.0
機能強化型在支病(単独型)	37	12.6	8.6	10.0
機能強化型在支病(連携型)	72	13.5	10.5	10.0
在支病	117	9.9	5.9	10.0

（注）・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

・移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

3) 訪問診療実施期間

当該患者に対する訪問診療実施期間をみると、全体では「1年以上3年未満」が30.6%で最も多く、次いで「5年以上」(19.8%)であった。

男女別にみると、女性では男性と比較して「5年以上」の割合が4.8ポイント高かった。

図表 198 訪問診療実施期間別分布(男女別)

(単位:上段「人」、下段「%」)

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
男性	419	12	44	31	50	125	62	70	25
	100.0	2.9	10.5	7.4	11.9	29.8	14.8	16.7	6.0
女性	717	8	39	58	97	222	102	154	37
	100.0	1.1	5.4	8.1	13.5	31.0	14.2	21.5	5.2

(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別にみると、39歳以下、40～64歳では「5年以上」が3割を超えた。

図表 199 訪問診療実施期間別分布(年齢階級別)

(単位:上段「人」、下段「%」)

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
～39歳	13	1	2	1	0	2	2	4	1
	100.0	7.7	15.4	7.7	0.0	15.4	15.4	30.8	7.7
40～64歳	67	1	5	4	3	16	10	23	5
	100.0	1.5	7.5	6.0	4.5	23.9	14.9	34.3	7.5
65～74歳	117	5	6	12	16	38	13	21	6
	100.0	4.3	5.1	10.3	13.7	32.5	11.1	17.9	5.1
75～79歳	96	4	10	4	10	25	23	16	4
	100.0	4.2	10.4	4.2	10.4	26.0	24.0	16.7	4.2
80～84歳	196	2	14	17	26	72	22	34	9
	100.0	1.0	7.1	8.7	13.3	36.7	11.2	17.3	4.6
85～89歳	264	5	28	22	35	85	29	48	12
	100.0	1.9	10.6	8.3	13.3	32.2	11.0	18.2	4.5
90～94歳	232	2	9	22	39	69	40	40	11
	100.0	0.9	3.9	9.5	16.8	29.7	17.2	17.2	4.7
95歳以上	135	0	9	3	19	36	25	36	7
	100.0	0.0	6.7	2.2	14.1	26.7	18.5	26.7	5.2

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に訪問診療実施期間をみると、「5年以上」の割合は、在支診が23.6%で他の施設と比較して高かった。

図表 200 訪問診療実施期間（訪問医療機関別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142 100.0	20 1.8	83 7.3	89 7.8	148 13.0	349 30.6	165 14.4	226 19.8	62 5.4
機能強化型在支診(単独型)	20 100.0	0 0.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0	4 20.0	7 35.0	4 20.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	126 100.0	2 1.6	8 6.3	7 5.6	18 14.3	45 35.7	17 13.5	26 20.6	3 2.4
在支診	508 100.0	7 1.4	32 6.3	38 7.5	44 8.7	163 32.1	67 13.2	120 23.6	37 7.3
在支診以外の診療所	250 100.0	4 1.6	19 7.6	18 7.2	42 16.8	67 26.8	37 14.8	46 18.4	17 6.8
機能強化型在支病(単独型)	38 100.0	3 7.9	5 13.2	3 7.9	3 7.9	8 21.1	9 23.7	5 13.2	2 5.3
機能強化型在支病(連携型)	72 100.0	4 5.6	3 4.2	7 9.7	16 22.2	22 30.6	11 15.3	8 11.1	1 1.4
在支病	120 100.0	0 0.0	11 9.2	14 11.7	22 18.3	38 31.7	16 13.3	17 14.2	2 1.7

（注）「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

算定している医学管理料別に訪問診療実施期間をみると、在総管（重症患者）では「5年以上」が24.5%であった。

図表 201 訪問診療実施期間（算定している医学管理料別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

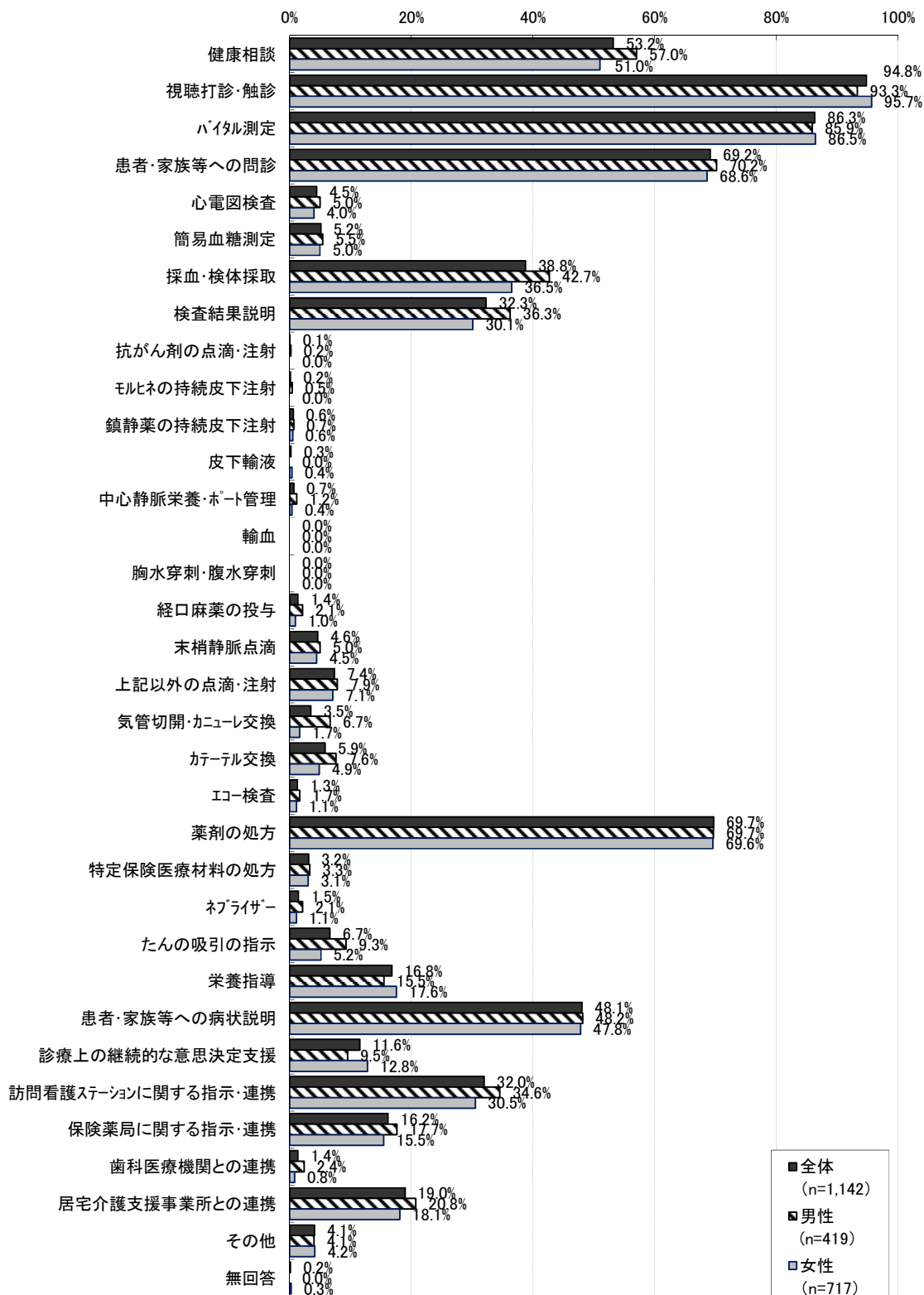
	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
在総管(重症患者)	102	0	12	8	16	25	13	25	3
	100.0	0.0	11.8	7.8	15.7	24.5	12.7	24.5	2.9
在総管(月2回以上)	500	0	25	30	59	159	93	111	23
	100.0	0.0	5.0	6.0	11.8	31.8	18.6	22.2	4.6
在総管(月1回)	142	0	13	11	15	47	21	25	10
	100.0	0.0	9.2	7.7	10.6	33.1	14.8	17.6	7.0
施設総管(重症患者)	9	0	1	1	1	4	1	1	0
	100.0	0.0	11.1	11.1	11.1	44.4	11.1	11.1	0.0
施設総管(月2回以上)	114	0	11	21	17	38	13	13	1
	100.0	0.0	9.6	18.4	14.9	33.3	11.4	11.4	0.9
施設総管(月1回)	23	0	2	4	5	5	3	1	3
	100.0	0.0	8.7	17.4	21.7	21.7	13.0	4.3	13.0
算定していない	219	20	16	11	32	65	18	45	12
	100.0	9.1	7.3	5.0	14.6	29.7	8.2	20.5	5.5

（注）「全体」には算定している医学管理料が不明のもの33人分が含まれる。

4) 医師が実施した診療内容・連携等

医師が実施した診療内容・連携等をみると、全体では「視聴打診・触診」が94.8%で最も高く、「バイタル測定」(86.3%)、「薬剤の処方」(69.7%)、「患者・家族等への問診」(69.2%)であった。

図表 202 医師が直近 1 か月間に実施した診療内容・連携等（男女別、複数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

患者の年齢階級別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。

図表 203 医師が直近1か月間に実施した診療内容・連携等（年齢階級別、複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	健康 相談	視聴打 診・触診	バイタル 測定	患者・家 族等へ の問診	心電図 検査	簡易血 糖測定	採血・検 体採取	検査結 果説明	抗がん 剤の点 滴・注射	モルヒネ の持続皮 下注射	鎮静薬 の持続 皮下注 射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
～39歳	13 100.0	4 30.8	12 92.3	10 76.9	9 69.2	0 0.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7
40～64歳	67 100.0	33 49.3	66 98.5	60 89.6	57 85.1	2 3.0	0 0.0	22 32.8	16 23.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～74歳	117 100.0	62 53.0	110 94.0	100 85.5	77 65.8	7 6.0	10 8.5	44 37.6	38 32.5	0 0.0	2 1.7	1 0.9
75～79歳	96 100.0	60 62.5	90 93.8	85 88.5	66 68.8	4 4.2	8 8.3	44 45.8	38 39.6	0 0.0	0 0.0	1 1.0
80～84歳	196 100.0	109 55.6	184 93.9	170 86.7	134 68.4	5 2.6	15 7.7	73 37.2	57 29.1	1 0.5	0 0.0	0 0.0
85～89歳	264 100.0	133 50.4	251 95.1	224 84.8	164 62.1	15 5.7	13 4.9	105 39.8	92 34.8	0 0.0	0 0.0	1 0.4
90～94歳	232 100.0	115 49.6	223 96.1	198 85.3	170 73.3	13 5.6	7 3.0	92 39.7	79 34.1	0 0.0	0 0.0	2 0.9
95歳以上	135 100.0	80 59.3	126 93.3	123 91.1	98 72.6	4 3.0	3 2.2	52 38.5	40 29.6	0 0.0	0 0.0	1 0.7

	皮下 輸液	中心静 脈栄養・ ポート管 管理	輸血	胸水穿 刺・腹水 穿刺	経口麻 薬の投 与	末梢静 脈点滴	上記以 外の点 滴・注射	気管切 開・カニ ュレ交換	カテーテ ル交換	エコー検 査	薬剤の 処方	特定保 険医療 材料の 処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
～39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 46.2	1 7.7	0 0.0	8 61.5	1 7.7
40～64歳	0 0.0	2 3.0	0 0.0	0 0.0	2 3.0	1 1.5	5 7.5	7 10.4	9 13.4	1 1.5	43 64.2	1 1.5
65～74歳	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 4.3	4 3.4	5 4.3	15 12.8	8 6.8	0 0.0	72 61.5	14 12.0
75～79歳	0 0.0	2 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.1	8 8.3	5 5.2	7 7.3	2 2.1	61 63.5	0 0.0
80～84歳	0 0.0	2 1.0	0 0.0	0 0.0	5 2.6	10 5.1	17 8.7	1 0.5	7 3.6	2 1.0	148 75.5	6 3.1
85～89歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.1	13 4.9	17 6.4	4 1.5	14 5.3	4 1.5	181 68.6	8 3.0
90～94歳	1 0.4	2 0.9	0 0.0	0 0.0	1 0.4	17 7.3	20 8.6	1 0.4	10 4.3	4 1.7	163 70.3	2 0.9
95歳以上	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 3.0	10 7.4	0 0.0	6 4.4	1 0.7	106 78.5	4 3.0

在宅医療調査

	ネブライザー	たんの吸引の指示	栄養指導	患者・家族等への病状説明	診療上の継続的な意思決定支援	訪問看護ステーションに関する指示・連携	保険薬局に関する指示・連携	歯科医療機関との連携	居宅介護支援事業所との連携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
～39歳	0 0.0	4 30.8	3 23.1	8 61.5	3 23.1	7 53.8	0 0.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	1 7.7
40～64歳	1 1.5	6 9.0	15 22.4	29 43.3	8 11.9	29 43.3	6 9.0	1 1.5	9 13.4	2 3.0	0 0.0
65～74歳	2 1.7	13 11.1	20 17.1	55 47.0	19 16.2	45 38.5	28 23.9	3 2.6	28 23.9	9 7.7	0 0.0
75～79歳	1 1.0	5 5.2	24 25.0	49 51.0	12 12.5	38 39.6	27 28.1	2 2.1	23 24.0	3 3.1	0 0.0
80～84歳	3 1.5	9 4.6	32 16.3	86 43.9	18 9.2	57 29.1	29 14.8	2 1.0	36 18.4	14 7.1	0 0.0
85～89歳	4 1.5	20 7.6	40 15.2	126 47.7	19 7.2	70 26.5	42 15.9	4 1.5	48 18.2	5 1.9	0 0.0
90～94歳	3 1.3	11 4.7	30 12.9	111 47.8	32 13.8	66 28.4	34 14.7	3 1.3	48 20.7	5 2.2	0 0.0
95歳以上	2 1.5	6 4.4	24 17.8	76 56.3	17 12.6	41 30.4	15 11.1	0 0.0	22 16.3	7 5.2	1 0.7

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

算定している医学管理料別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。
「在総管（重症患者）」、「施設総管（重症患者）」では他の患者と比較して「採血・検体採取」、「末梢静脈点滴」、「カテーテル交換」、「薬剤の処方」、「たんの吸引の指示」や「訪問看護ステーションに関する指示・連携」、「保険薬局に関する指示・連携」、「居宅介護支援事業所との連携」の割合が相対的に高かった。

図表 204 医師が直近1か月間に実施した診療内容・連携等（算定している医学管理料別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	視聴打診・触診	バイタル測定	患者・家族等への問診	心電図検査	簡易血糖測定	採血・検体採取	検査結果説明	抗がん剤の点滴・注射	モルヒネの持続皮下注射	鎮静薬の持続皮下注射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
在総管(重症患者)	102 100.0	52 51.0	97 95.1	98 96.1	86 84.3	6 5.9	4 3.9	45 44.1	41 40.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	500 100.0	270 54.0	479 95.8	448 89.6	370 74.0	14 2.8	27 5.4	203 40.6	171 34.2	0 0.0	0 0.0	2 0.4
在総管(月1回)	142 100.0	91 64.1	140 98.6	125 88.0	103 72.5	8 5.6	8 5.6	50 35.2	42 29.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	9 100.0	3 33.3	9 100.0	7 77.8	2 22.2	1 11.1	0 0.0	5 55.6	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	114 100.0	57 50.0	108 94.7	95 83.3	56 49.1	11 9.6	6 5.3	49 43.0	44 38.6	1 0.9	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	23 100.0	17 73.9	20 87.0	18 78.3	11 47.8	2 8.7	0 0.0	6 26.1	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	219 100.0	101 46.1	200 91.3	169 77.2	146 66.7	7 3.2	12 5.5	78 35.6	62 28.3	0 0.0	2 0.9	5 2.3

	皮下輸液	中心静脈栄養・ポート管理	輸血	胸水穿刺・腹水穿刺	経口麻薬の投与	末梢静脈点滴	上記以外の点滴・注射	気管切開・カニューレ交換	カテーテル交換	エコー検査	薬剤の処方	特定保険医療材料の処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
在総管(重症患者)	0 0.0	4 3.9	0 0.0	0 0.0	2 2.0	10 9.8	4 3.9	17 16.7	18 17.6	2 2.0	82 80.4	10 9.8
在総管(月2回以上)	2 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 0.8	15 3.0	40 8.0	13 2.6	33 6.6	7 1.4	362 72.4	20 4.0
在総管(月1回)	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	2 1.4	6 4.2	7 4.9	1 0.7	3 2.1	0 0.0	108 76.1	2 1.4
施設総管(重症患者)	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	7 77.8	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	3 2.6	0 0.0	0 0.0	1 0.9	6 5.3	10 8.8	1 0.9	2 1.8	0 0.0	71 62.3	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	15 65.2	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 3.2	11 5.0	20 9.1	6 2.7	7 3.2	5 2.3	132 60.3	4 1.8

在宅医療調査

	ネブライザー	たんの吸引の指示	栄養指導	患者・家族等への病状説明	診療上の継続的な意思決定支援	訪問看護ステーションに関する指示・連携	保険薬局に関する指示・連携	歯科医療機関との連携	居宅介護支援事業所との連携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
在総管(重症患者)	5 4.9	20 19.6	24 23.5	71 69.6	19 18.6	69 67.6	24 23.5	1 1.0	34 33.3	4 3.9	0 0.0
在総管(月2回以上)	5 1.0	29 5.8	88 17.6	249 49.8	57 11.4	170 34.0	90 18.0	8 1.6	109 21.8	8 1.6	0 0.0
在総管(月1回)	1 0.7	8 5.6	28 19.7	67 47.2	18 12.7	44 31.0	14 9.9	1 0.7	29 20.4	5 3.5	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	2 22.2	0 0.0	4 44.4	0 0.0	2 22.2	4 44.4	0 0.0	5 55.6	1 11.1	0 0.0
施設総管(月2回以上)	3 2.6	2 1.8	14 12.3	38 33.3	9 7.9	12 10.5	18 15.8	2 1.8	16 14.0	10 8.8	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	1 4.3	3 13.0	5 21.7	2 8.7	2 8.7	5 21.7	1 4.3	1 4.3	1 4.3	0 0.0
算定していない	3 1.4	13 5.9	30 13.7	104 47.5	23 10.5	57 26.0	28 12.8	3 1.4	21 9.6	17 7.8	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの33人分が含まれる。

訪問医療機関別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。

図表 205 医師が直近1か月間に実施した診療内容・連携等（訪問医療機関別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	視聴打診・触診	バイタル測定	患者・家族等への問診	心電図検査	簡易血糖測定	採血・検体採取	検査結果説明	抗がん剤の点滴・注射	モルヒネの持続皮下注射	鎮静薬の持続皮下注射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
機能強化型在支診(単独型)	20 100.0	14 70.0	20 100.0	18 90.0	20 100.0	3 15.0	3 15.0	6 30.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	126 100.0	74 58.7	120 95.2	117 92.9	102 81.0	3 2.4	3 2.4	51 40.5	48 38.1	1 0.8	0 0.0	0 0.0
在支診	508 100.0	260 51.2	486 95.7	444 87.4	345 67.9	22 4.3	31 6.1	217 42.7	181 35.6	0 0.0	2 0.4	3 0.6
在支診以外の診療所	250 100.0	127 50.8	233 93.2	210 84.0	160 64.0	12 4.8	15 6.0	96 38.4	66 26.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4
機能強化型在支病(単独型)	38 100.0	24 63.2	37 97.4	35 92.1	29 76.3	1 2.6	0 0.0	14 36.8	12 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	72 100.0	37 51.4	70 97.2	61 84.7	51 70.8	2 2.8	2 2.8	22 30.6	22 30.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4
在支病	120 100.0	70 58.3	109 90.8	95 79.2	79 65.8	8 6.7	5 4.2	35 29.2	29 24.2	0 0.0	0 0.0	2 1.7

	皮下 輸液	中心静 脈栄養・ ポート管 管理	輸血	胸水穿 刺・腹水 穿刺	経口麻 薬の投 与	末梢静 脈点滴	上記以 外の点 滴・注射	気管切 開・カニ ュール交換	カテーテル 交換	エコー 検査	薬剤の 処方	特定保 険医療 材料の 処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
機能強化型在支 診(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	4 20.0	2 10.0	2 10.0	16 80.0	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	0 0.0	1 0.8	0 0.0	0 0.0	6 4.8	7 5.6	5 4.0	4 3.2	14 11.1	2 1.6	85 67.5	5 4.0
在支診	2 0.4	2 0.4	0 0.0	0 0.0	4 0.8	25 4.9	48 9.4	17 3.3	27 5.3	7 1.4	355 69.9	19 3.7
在支診以外の診 療所	0 0.0	1 0.4	0 0.0	0 0.0	3 1.2	4 1.6	15 6.0	4 1.6	10 4.0	2 0.8	167 66.8	4 1.6
機能強化型在支 病(単独型)	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.9	2 5.3	6 15.8	5 13.2	0 0.0	33 86.8	3 7.9
機能強化型在支 病(連携型)	0 0.0	2 2.8	0 0.0	0 0.0	2 2.8	6 8.3	6 8.3	3 4.2	4 5.6	0 0.0	48 66.7	1 1.4
在支病	0 0.0	2 1.7	0 0.0	0 0.0	1 0.8	6 5.0	6 5.0	2 1.7	5 4.2	2 1.7	86 71.7	4 3.3

	ネブライザー	たんの吸 引の指示	栄養指導	患者・家 族等への 病状説明	診療上の 継続的な 意思決定 支援	訪問看護 ステーション に関する 指示・連 携	保険薬局 に関する 指示・連 携	歯科医療 機関との 連携	居宅介護 支援事業 所との連 携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
機能強化型在 支診(単独型)	0 0.0	5 25.0	5 25.0	11 55.0	3 15.0	7 35.0	6 30.0	0 0.0	10 50.0	1 5.0	0 0.0
機能強化型在 支診(連携型)	3 2.4	11 8.7	22 17.5	64 50.8	22 17.5	59 46.8	35 27.8	3 2.4	47 37.3	5 4.0	0 0.0
在支診	6 1.2	40 7.9	95 18.7	249 49.0	59 11.6	165 32.5	86 16.9	8 1.6	87 17.1	20 3.9	0 0.0
在支診以外の 診療所	5 2.0	7 2.8	48 19.2	119 47.6	24 9.6	63 25.2	22 8.8	2 0.8	17 6.8	13 5.2	1 0.4
機能強化型在 支病(単独型)	1 2.6	3 7.9	3 7.9	23 60.5	7 18.4	14 36.8	7 18.4	0 0.0	11 28.9	0 0.0	0 0.0
機能強化型在 支病(連携型)	0 0.0	4 5.6	10 13.9	30 41.7	6 8.3	28 38.9	10 13.9	1 1.4	18 25.0	3 4.2	0 0.0
在支病	2 1.7	6 5.0	9 7.5	50 41.7	11 9.2	29 24.2	19 15.8	2 1.7	27 22.5	5 4.2	1 0.8

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

5) 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの

医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したものとして多かったのは、「血圧・脈拍の測定」(88.6%)、「健康相談」(34.5%)、「服薬援助・管理」(26.5%)であった。

図表 206 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（男女別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	770	266	682	26	29	10	204	41	16	4	49
	100.0	34.5	88.6	3.4	3.8	1.3	26.5	5.3	2.1	0.5	6.4
男性	288	95	248	8	12	4	73	18	6	3	25
	100.0	33.0	86.1	2.8	4.2	1.4	25.3	6.3	2.1	1.0	8.7
女性	481	171	433	18	17	6	131	23	10	1	24
	100.0	35.6	90.0	3.7	3.5	1.2	27.2	4.8	2.1	0.2	5.0

	ネフライザ	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4	33	34	67	56	5	71	47	9	13	11
	0.5	4.3	4.4	8.7	7.3	0.6	9.2	6.1	1.2	1.7	1.4
男性	2	12	13	26	19	4	26	22	3	8	6
	0.7	4.2	4.5	9.0	6.6	1.4	9.0	7.6	1.0	2.8	2.1
女性	2	21	21	41	37	1	45	25	6	5	5
	0.4	4.4	4.4	8.5	7.7	0.2	9.4	5.2	1.2	1.0	1.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	37	11	6	2	12	25	1	83	3	13	0
	4.8	1.4	0.8	0.3	1.6	3.2	0.1	10.8	0.4	1.7	0.0
男性	20	6	1	1	4	9	0	30	1	9	0
	6.9	2.1	0.3	0.3	1.4	3.1	0.0	10.4	0.3	3.1	0.0
女性	17	5	5	1	8	16	1	53	2	4	0
	3.5	1.0	1.0	0.2	1.7	3.3	0.2	11.0	0.4	0.8	0.0

(注)「全体」には性別が不明のもの1人分が含まれる。

図表 207 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（年齢階級別、3 つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康 相談	血圧・ 脈拍の 測定	心電図 検査	簡易血 糖測定	血糖自 己測定	服薬援 助・管理	胃ろう・ 腸ろうに よる栄養 管理	経鼻経 管栄養	中心静 脈栄養	吸入・ 吸引
全体	770 100.0	266 34.5	682 88.6	26 3.4	29 3.8	10 1.3	204 26.5	41 5.3	16 2.1	4 0.5	49 6.4
～39 歳	10 100.0	1 10.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	6 60.0
40～64 歳	49 100.0	12 24.5	42 85.7	0 0.0	2 4.1	0 0.0	9 18.4	3 6.1	4 8.2	0 0.0	5 10.2
65～74 歳	76 100.0	21 27.6	63 82.9	1 1.3	4 5.3	1 1.3	17 22.4	10 13.2	1 1.3	0 0.0	15 19.7
75～79 歳	63 100.0	28 44.4	55 87.3	3 4.8	4 6.3	1 1.6	15 23.8	1 1.6	0 0.0	2 3.2	2 3.2
80～84 歳	118 100.0	53 44.9	112 94.9	5 4.2	5 4.2	0 0.0	34 28.8	9 7.6	2 1.7	1 0.8	6 5.1
85～89 歳	187 100.0	55 29.4	166 88.8	7 3.7	5 2.7	7 3.7	57 30.5	8 4.3	3 1.6	0 0.0	10 5.3
90～94 歳	166 100.0	51 30.7	149 89.8	7 4.2	5 3.0	1 0.6	38 22.9	5 3.0	3 1.8	1 0.6	4 2.4
95 歳以上	86 100.0	38 44.2	76 88.4	3 3.5	2 2.3	0 0.0	29 33.7	2 2.3	1 1.2	0 0.0	1 1.2

	ネプライザ ー	創傷 処置	体位 変換	洗腸・ 排便	褥瘡の 処置	インスリン 注射	点滴・ 注射	膀胱(留 置)カテー テルの管理	人工肛 門・人工 膀胱の 管理	人工呼 吸器の 管理	気管 切開の 処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
～39 歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	3 30.0
40～64 歳	1 2.0	5 10.2	3 6.1	5 10.2	3 6.1	0 0.0	4 8.2	4 8.2	2 4.1	2 4.1	3 6.1
65～74 歳	0 0.0	1 1.3	2 2.6	12 15.8	3 3.9	2 2.6	7 9.2	5 6.6	0 0.0	4 5.3	4 5.3
75～79 歳	0 0.0	1 1.6	3 4.8	7 11.1	7 11.1	1 1.6	3 4.8	4 6.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0
80～84 歳	1 0.8	3 2.5	5 4.2	8 6.8	7 5.9	0 0.0	11 9.3	11 9.3	0 0.0	0 0.0	1 0.8
85～89 歳	1 0.5	6 3.2	8 4.3	14 7.5	14 7.5	0 0.0	18 9.6	13 7.0	4 2.1	0 0.0	0 0.0
90～94 歳	0 0.0	12 7.2	9 5.4	14 8.4	15 9.0	2 1.2	18 10.8	7 4.2	0 0.0	1 0.6	0 0.0
95 歳以上	1 1.2	4 4.7	4 4.7	4 4.7	6 7.0	0 0.0	8 9.3	3 3.5	1 1.2	0 0.0	0 0.0

在宅医療調査

	酸素療法 管理	がん末期 の疼痛 管理	慢性疼痛 の管理	透析・腹 膜還流	リハビリテー ション	口腔ケア	歯科医療	連携施 設・事業 所との連 絡・調整	社会福祉 制度、相 談窓口等 の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
～39 歳	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～64 歳	0 0.0	3 6.1	0 0.0	0 0.0	2 4.1	1 2.0	1 2.0	4 8.2	1 2.0	0 0.0	0 0.0
65～74 歳	6 7.9	2 2.6	1 1.3	1 1.3	0 0.0	4 5.3	0 0.0	7 9.2	0 0.0	2 2.6	0 0.0
75～79 歳	4 6.3	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 9.5	1 1.6	2 3.2	0 0.0
80～84 歳	4 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.7	5 4.2	0 0.0	16 13.6	0 0.0	2 1.7	0 0.0
85～89 歳	9 4.8	2 1.1	2 1.1	0 0.0	2 1.1	9 4.8	0 0.0	19 10.2	0 0.0	2 1.1	0 0.0
90～94 歳	10 6.0	2 1.2	2 1.2	1 0.6	5 3.0	4 2.4	0 0.0	19 11.4	1 0.6	2 1.2	0 0.0
95 歳以上	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	10 11.6	0 0.0	3 3.5	0 0.0

(注)「全体」には年齢が不明のもの 15 人分が含まれる。

図表 208 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（算定している医学管理料別、3 つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈 拍の測定	心電図 検査	簡易血糖 測定	血糖自己 測定	服薬援 助・管理	胃ろう・腸 ろうによ る栄養 管理	経鼻経管 栄養	中心静脈 栄養	吸入・ 吸引
全体	770 100.0	266 34.5	682 88.6	26 3.4	29 3.8	10 1.3	204 26.5	41 5.3	16 2.1	4 0.5	49 6.4
在総管(重症患 者)	83 100.0	17 20.5	61 73.5	0 0.0	2 2.4	1 1.2	16 19.3	9 10.8	2 2.4	2 2.4	16 19.3
在総管(月 2 回 以上)	334 100.0	123 36.8	293 87.7	11 3.3	13 3.9	3 0.9	95 28.4	20 6.0	10 3.0	0 0.0	22 6.6
在総管(月 1 回)	93 100.0	40 43.0	83 89.2	2 2.2	4 4.3	2 2.2	16 17.2	8 8.6	2 2.2	0 0.0	4 4.3
施設総管(重症 患者)	6 100.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7
施設総管(月 2 回以上)	83 100.0	25 30.1	78 94.0	8 9.6	5 6.0	3 3.6	27 32.5	0 0.0	0 0.0	2 2.4	1 1.2
施設総管(月 1 回)	17 100.0	8 47.1	14 82.4	0 0.0	1 5.9	0 0.0	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9
算定していない	136 100.0	47 34.6	131 96.3	5 3.7	3 2.2	1 0.7	40 29.4	3 2.2	2 1.5	0 0.0	2 1.5

	ネブライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・排便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
在総管(重症患者)	0 0.0	2 2.4	3 3.6	13 15.7	18 21.7	1 1.2	8 9.6	11 13.3	5 6.0	9 10.8	7 8.4
在総管(月2回以上)	2 0.6	19 5.7	18 5.4	27 8.1	22 6.6	2 0.6	24 7.2	18 5.4	1 0.3	2 0.6	3 0.9
在総管(月1回)	0 0.0	1 1.1	3 3.2	12 12.9	5 5.4	0 0.0	4 4.3	6 6.5	2 2.2	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	1 1.2	2 2.4	1 1.2	2 2.4	4 4.8	2 2.4	12 14.5	2 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	1 0.7	9 6.6	9 6.6	11 8.1	5 3.7	0 0.0	15 11.0	6 4.4	1 0.7	2 1.5	1 0.7

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
在総管(重症患者)	12 14.5	5 6.0	0 0.0	2 2.4	1 1.2	2 2.4	0 0.0	6 7.2	0 0.0	3 3.6	0 0.0
在総管(月2回以上)	8 2.4	2 0.6	2 0.6	0 0.0	7 2.1	14 4.2	1 0.3	42 12.6	1 0.3	3 0.9	0 0.0
在総管(月1回)	4 4.3	0 0.0	1 1.1	0 0.0	2 2.2	1 1.1	0 0.0	9 9.7	0 0.0	3 3.2	0 0.0
施設総管(重症患者)	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	2 2.4	0 0.0	1 1.2	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	12 14.5	2 2.4	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	9 6.6	4 2.9	2 1.5	0 0.0	2 1.5	4 2.9	0 0.0	9 6.6	0 0.0	3 2.2	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの18人分が含まれる。

図表 209 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（訪問医療機関別、3 つまで）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	健康 相談	血圧・脈 拍の 測定	心電図検 査	簡易血糖 測定	血糖自己 測定	服薬援 助・管理	胃ろう・腸 ろうによ る栄養管 理	経鼻経管 栄養	中心静脈 栄養	吸入・ 吸引
全体	770	266	682	26	29	10	204	41	16	4	49
	100.0	34.5	88.6	3.4	3.8	1.3	26.5	5.3	2.1	0.5	6.4
機能強化型在支 診(単独型)	18	8	15	0	1	0	2	1	2	0	4
	100.0	44.4	83.3	0.0	5.6	0.0	11.1	5.6	11.1	0.0	22.2
機能強化型在支 診(連携型)	90	34	72	5	5	0	26	6	3	0	12
	100.0	37.8	80.0	5.6	5.6	0.0	28.9	6.7	3.3	0.0	13.3
在支診	343	123	311	14	14	3	110	22	6	1	19
	100.0	35.9	90.7	4.1	4.1	0.9	32.1	6.4	1.7	0.3	5.5
在支診以外の診 療所	128	39	114	0	4	3	21	3	2	1	4
	100.0	30.5	89.1	0.0	3.1	2.3	16.4	2.3	1.6	0.8	3.1
機能強化型在支 病(単独型)	31	10	27	3	0	0	8	2	1	0	4
	100.0	32.3	87.1	9.7	0.0	0.0	25.8	6.5	3.2	0.0	12.9
機能強化型在支 病(連携型)	59	19	53	1	2	2	13	1	1	1	3
	100.0	32.2	89.8	1.7	3.4	3.4	22.0	1.7	1.7	1.7	5.1
在支病	94	28	84	3	3	2	22	6	1	1	3
	100.0	29.8	89.4	3.2	3.2	2.1	23.4	6.4	1.1	1.1	3.2

	ネブライザ ー	創傷処置	体位変換	浣腸・ 排便	褥瘡の 処置	インスリン 注射	点滴・ 注射	膀胱(留 置)カテー テルの管理	人工肛 門・人工 膀胱の 管理	人工呼吸 器の管理	気管切開 の処置
全体	4	33	34	67	56	5	71	47	9	13	11
	0.5	4.3	4.4	8.7	7.3	0.6	9.2	6.1	1.2	1.7	1.4
機能強化型在支 診(単独型)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0
機能強化型在支 診(連携型)	0	5	5	16	10	1	6	5	2	1	2
	0.0	5.6	5.6	17.8	11.1	1.1	6.7	5.6	2.2	1.1	2.2
在支診	2	17	16	18	25	1	35	23	4	4	3
	0.6	5.0	4.7	5.2	7.3	0.3	10.2	6.7	1.2	1.2	0.9
在支診以外の診 療所	2	8	9	19	10	1	12	4	1	3	2
	1.6	6.3	7.0	14.8	7.8	0.8	9.4	3.1	0.8	2.3	1.6
機能強化型在支 病(単独型)	0	0	0	2	1	0	6	3	1	3	2
	0.0	0.0	0.0	6.5	3.2	0.0	19.4	9.7	3.2	9.7	6.5
機能強化型在支 病(連携型)	0	2	3	2	2	0	5	4	0	1	2
	0.0	3.4	5.1	3.4	3.4	0.0	8.5	6.8	0.0	1.7	3.4
在支病	0	1	1	10	8	2	7	7	1	0	0
	0.0	1.1	1.1	10.6	8.5	2.1	7.4	7.4	1.1	0.0	0.0

	酸素療法 管理	がん末期 の疼痛 管理	慢性疼痛 の管理	透析・腹 膜還流	リハビリテー ション	口腔ケア	歯科医療	連携施 設・事業 所との連 絡・調整	社会福祉 制度、相 談窓口等 の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
機能強化型在支 診(単独型)	2 11.1	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	1 5.6	3 16.7	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	3 3.3	4 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.2	0 0.0	13 14.4	0 0.0	2 2.2	0 0.0
在支診	15 4.4	0 0.0	2 0.6	0 0.0	10 2.9	14 4.1	0 0.0	27 7.9	1 0.3	2 0.6	0 0.0
在支診以外の診 療所	4 3.1	3 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 4.7	1 0.8	9 7.0	0 0.0	2 1.6	0 0.0
機能強化型在支 病(単独型)	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0	6 19.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 病(連携型)	5 8.5	2 3.4	3 5.1	0 0.0	0 0.0	1 1.7	0 0.0	9 15.3	1 1.7	2 3.4	0 0.0
在支病	6 6.4	1 1.1	1 1.1	2 2.1	2 2.1	0 0.0	0 0.0	17 18.1	0 0.0	2 2.1	0 0.0

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの7人分が含まれる。

6) 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの

医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したものとして多かったのは、「リハビリテーション」(78.8%)、「血圧・脈拍の測定」(28.3%)、「体位変換」(17.7%)であった。

図表 210 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの(男女別、3つまで)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198	18	56	0	0	1	5	1	0	0	1
	100.0	9.1	28.3	0.0	0.0	0.5	2.5	0.5	0.0	0.0	0.5
男性	78	8	23	0	0	1	1	0	0	0	1
	100.0	10.3	29.5	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3
女性	120	10	33	0	0	0	4	1	0	0	0
	100.0	8.3	27.5	0.0	0.0	0.0	3.3	0.8	0.0	0.0	0.0

	ネブライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	0	2	35	0	0	0	1	0	0	1	0
	0.0	1.0	17.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
男性	0	2	12	0	0	0	0	0	0	1	0
	0.0	2.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
女性	0	0	23	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.0	0.0	19.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0	0	3	0	156	12	0	16	1	13	0
	0.0	0.0	1.5	0.0	78.8	6.1	0.0	8.1	0.5	6.6	0.0
男性	0	0	1	0	65	4	0	7	1	4	0
	0.0	0.0	1.3	0.0	83.3	5.1	0.0	9.0	1.3	5.1	0.0
女性	0	0	2	0	91	8	0	9	0	9	0
	0.0	0.0	1.7	0.0	75.8	6.7	0.0	7.5	0.0	7.5	0.0

図表 211 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（年齢階級別、3つまで）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	健康 相談	血圧・ 脈拍の 測定	心電図 検査	簡易血 糖測定	血糖自 己測定	服薬援 助・管理	胃ろう・ 腸ろうに よる栄養 管理	経鼻経 管栄養	中心静 脈栄養	吸入・ 吸引
全体	198 100.0	18 9.1	56 28.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	5 2.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5
～39歳	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～64歳	18 100.0	3 16.7	5 27.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～74歳	29 100.0	4 13.8	6 20.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4
75～79歳	24 100.0	3 12.5	7 29.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80～84歳	31 100.0	1 3.2	9 29.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
85～89歳	40 100.0	2 5.0	12 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
90～94歳	30 100.0	2 6.7	11 36.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
95歳以上	18 100.0	3 16.7	6 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	ネブライザ ー	創傷 処置	体位 変換	浣腸・ 排便	褥瘡の 処置	インスリン 注射	点滴・ 注射	膀胱(留 置カテー テルの管理	人工肛 門・人工 膀胱の 管理	人工呼 吸器の 管理	気管 切開の 処置
全体	0 0.0	2 1.0	35 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0
～39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～64歳	0 0.0	1 5.6	5 27.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～74歳	0 0.0	0 0.0	8 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0
75～79歳	0 0.0	0 0.0	4 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80～84歳	0 0.0	1 3.2	7 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
85～89歳	0 0.0	0 0.0	5 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
90～94歳	0 0.0	0 0.0	3 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
95歳以上	0 0.0	0 0.0	3 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

在宅医療調査

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
～39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0
40～64歳	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	12 66.7	1 5.6	0 0.0	4 22.2	0 0.0	1 5.6	0 0.0
65～74歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25 86.2	3 10.3	0 0.0	1 3.4	0 0.0	3 10.3	0 0.0
75～79歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 87.5	0 0.0	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80～84歳	0 0.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	23 74.2	2 6.5	0 0.0	4 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
85～89歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 82.5	4 10.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0	2 5.0	0 0.0
90～94歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23 76.7	0 0.0	0 0.0	2 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
95歳以上	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	12 66.7	2 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 33.3	0 0.0

(注)「全体」には年齢が不明のもの4人分が含まれる。

図表 212 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（算定している医学管理料別、3 つまで）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	健康 相談	血圧・ 脈拍の 測定	心電図 検査	簡易血 糖測定	血糖自 己測定	服薬援 助・管理	胃ろう・ 腸ろうに よる栄養 管理	経鼻経 管栄養	中心静 脈栄養	吸入・ 吸引
全体	198 100.0	18 9.1	56 28.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	5 2.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5
在総管(重症患者)	41 100.0	3 7.3	12 29.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	84 100.0	10 11.9	24 28.6	0 0.0	0 0.0	1 1.2	3 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月1回)	19 100.0	2 10.5	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	13 100.0	0 0.0	5 38.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	29 100.0	2 6.9	8 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	1 3.4

	ネブライザ ー	創傷 処置	体位 変換	浣腸・ 摘便	褥瘡の 処置	インスリン 注射	点滴・ 注射	膀胱(留 置)カテー テルの管理	人工肛 門・人工 膀胱の 管理	人工呼 吸器の 管理	気管切 開の処 置
全体	0 0.0	2 1.0	35 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0
在総管(重症患者)	0 0.0	1 2.4	8 19.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	13 15.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月1回)	0 0.0	1 5.3	5 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	6 20.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0

在宅医療調査

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
在総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	33 80.5	2 4.9	0 0.0	3 7.3	0 0.0	2 4.9	0 0.0
在総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	71 84.5	3 3.6	0 0.0	7 8.3	0 0.0	6 7.1	0 0.0
在総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 68.4	1 5.3	0 0.0	3 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 69.2	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	2 15.4	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	20 69.0	2 6.9	0 0.0	1 3.4	0 0.0	3 10.3	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの8人分が含まれる。

図表 213 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（訪問医療機関別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198 100.0	18 9.1	56 28.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	5 2.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5
機能強化型在支診(単独型)	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	31 100.0	5 16.1	10 32.3	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診	87 100.0	6 6.9	24 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診以外の診療所	38 100.0	2 5.3	8 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(単独型)	6 100.0	1 16.7	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支病	23 100.0	2 8.7	8 34.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3

	ネブライザ ー	創傷 処置	体位 変換	浣腸・ 排便	褥瘡の 処置	インスリン 注射	点滴・ 注射	膀胱(留 置)カテー テルの管理	人工肛 門・人工 膀胱の 管理	人工呼 吸器の 管理	気管 切開の 処置
全体	0 0.0	2 1.0	35 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0
機能強化型在支 診(単独型)	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	0 0.0	0 0.0	7 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診	0 0.0	1 1.1	13 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診以外の診 療所	0 0.0	1 2.6	6 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 病(単独型)	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 病(連携型)	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支病	0 0.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0

	酸素療 法管理	がん末 期の疼 痛管理	慢性 疼痛の 管理	透析・腹 膜還流	リハビリテ ーション	口腔ケア	歯科 医療	連携施 設・事業 所との連 絡・調整	社会福 祉制度、 相談窓 口等の 紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
機能強化型在支 診(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23 74.2	3 9.7	0 0.0	5 16.1	0 0.0	2 6.5	0 0.0
在支診	0 0.0	0 0.0	3 3.4	0 0.0	65 74.7	4 4.6	0 0.0	5 5.7	0 0.0	6 6.9	0 0.0
在支診以外の診 療所	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 84.2	1 2.6	0 0.0	2 5.3	0 0.0	3 7.9	0 0.0
機能強化型在支 病(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 病(連携型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0
在支病	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 78.3	3 13.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0	2 8.7	0 0.0

7) 調査日の診察状況

調査日の診察状況をみると、「戸建て・マンション・アパート団地等」では「単一建物内で当該患者のみ診察」が96.0%で他の施設と比較しても最も多かった。一方、他の施設では、「単一建物内で複数の患者を診察」のほうが「単一建物内で当該患者のみ診察」よりも多かった。患者数が少ない「養護老人ホーム・軽費老人ホーム」、「特別養護老人ホーム」を除くと、「認知症高齢者グループホーム」では70.2%、「有料老人ホーム」では69.4%、「サービス付き高齢者向け住宅」では67.9%と7割近い患者が「単一建物内で複数の患者を診察」であった。

図表 214 調査日の診察状況（居住場所別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	単一の建物内で複数の患者を診察	単一の建物内で当該患者のみ診察	無回答
全体	1,142 100.0	269 23.6	866 75.8	7 0.6
戸建て・マンション・アパート・団地等	795 100.0	30 3.8	763 96.0	2 0.3
サービス付き高齢者向け住宅	84 100.0	57 67.9	27 32.1	0 0.0
有料老人ホーム	134 100.0	93 69.4	39 29.1	2 1.5
養護老人ホーム・軽費老人ホーム	9 100.0	7 77.8	2 22.2	0 0.0
特別養護老人ホーム	6 100.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0
認知症高齢者グループホーム	94 100.0	66 70.2	25 26.6	3 3.2
その他	16 100.0	9 56.3	7 43.8	0 0.0

(注)「全体」には患者の居住場所が不明のもの4人分が含まれる。

訪問医療機関別に調査日の診察状況をみると、「単一建物内で複数の患者を診察」の割合は、在支病が38.3%で最も高く、次いで機能強化型在支病（連携型）（26.4%）、在支診（25.2%）であった。

図表 215 調査日の診察状況（訪問医療機関別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	単一の建物内で複数の患者を診察	単一の建物内で当該患者のみ診察	無回答
全体	1,142 100.0	269 23.6	866 75.8	7 0.6
機能強化型在支診(単独型)	20 100.0	2 10.0	18 90.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	126 100.0	27 21.4	99 78.6	0 0.0
在支診	508 100.0	128 25.2	376 74.0	4 0.8
在支診以外の診療所	250 100.0	40 16.0	209 83.6	1 0.4
機能強化型在支病(単独型)	38 100.0	4 10.5	33 86.8	1 2.6
機能強化型在支病(連携型)	72 100.0	19 26.4	53 73.6	0 0.0
在支病	120 100.0	46 38.3	73 60.8	1 0.8

（注）「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

8) 調査日における診療時間

調査日における診療時間をみると、全体では平均 18.1 分（中央値 15.0）であった。

男女別にみると、男性では平均 19.6 分（中央値 15.0）、女性では平均 17.3 分（中央値 15.0）であった。

図表 216 調査日における診療時間（男女別）

（単位：分）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
男性	410	19.6	14.5	15.0
女性	697	17.3	11.4	15.0

(注)・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。
 ・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

年齢階級別にみると、39 歳以下が平均 22.7 分（中央値 20.0）で最も長く、次いで 75～79 歳が平均 21.1 分（中央値 15.0）、65～74 歳が平均 19.9 分（中央値 18.5）であった。

図表 217 調査日における診療時間（年齢階級別）

（単位：分）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
～39 歳	11	22.7	11.7	20.0
40～64 歳	65	19.3	11.9	20.0
65～74 歳	116	19.9	12.3	18.5
75～79 歳	93	21.1	19.8	15.0
80～84 歳	194	17.1	10.5	15.0
85～89 歳	252	17.7	10.5	15.0
90～94 歳	227	17.0	14.2	15.0
95 歳以上	133	17.5	11.1	15.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。
 ・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

調査日の診察状況別に、調査日における診療時間をみると、「単一建物内で当該患者のみ診察」が平均 19.5 分（中央値 15.0）で、「単一建物内で複数の患者を診察」が平均 13.8 分（中央値 10.0）となっており、当該患者のみ診察の方が平均で 5.7 分長かった。

図表 218 調査日における診療時間（調査日の診察状況別）

(単位：分)

	患者数 (人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
単一の建物内で複数の患者を診察	260	13.8	13.6	10.0
単一の建物内で当該患者のみ診察	847	19.5	12.2	15.0

(注)・「全体」には調査日の診察状況が不明のもの6人分が含まれる。

・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

訪問医療機関別の、調査日における診療時間は、以下のとおりである。

図表 219 調査日における診療時間（訪問医療機関別）

(単位：分)

	患者数 (人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
機能強化型在支診(単独型)	20	19.5	17.2	15.0
機能強化型在支診(連携型)	125	18.7	13.0	15.0
在支診	494	18.3	10.8	15.0
在支診以外の診療所	243	19.6	17.3	15.0
機能強化型在支病(単独型)	38	16.1	6.7	15.0
機能強化型在支病(連携型)	68	13.5	7.5	10.0
在支病	117	16.6	11.1	15.0

(注)・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

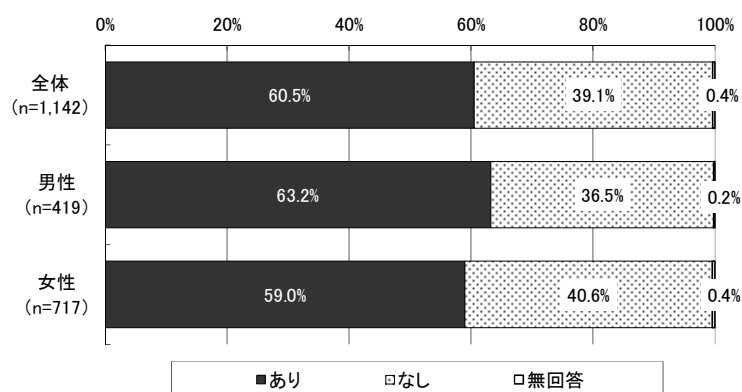
・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

9) 調査日の診療における看護職員の同行

調査日の診療における看護職員の同行をみると、全体では「あり」が60.5%、「なし」が39.1%であった。

男女別にみると、「あり」の割合は男性が63.2%、女性が59.0%で、男性の方が女性と比較して4.2ポイント高かった。

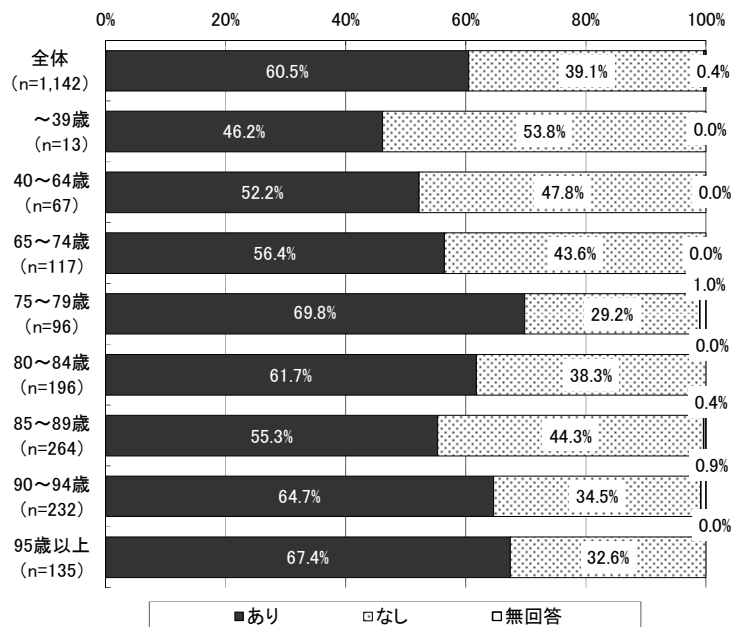
図表 220 調査日の診療における看護職員の同行（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別に、調査日の診療における看護職員の同行をみると、「あり」の割合が特に高いのは75～79歳（69.8%）、95歳以上（67.4%）であった。

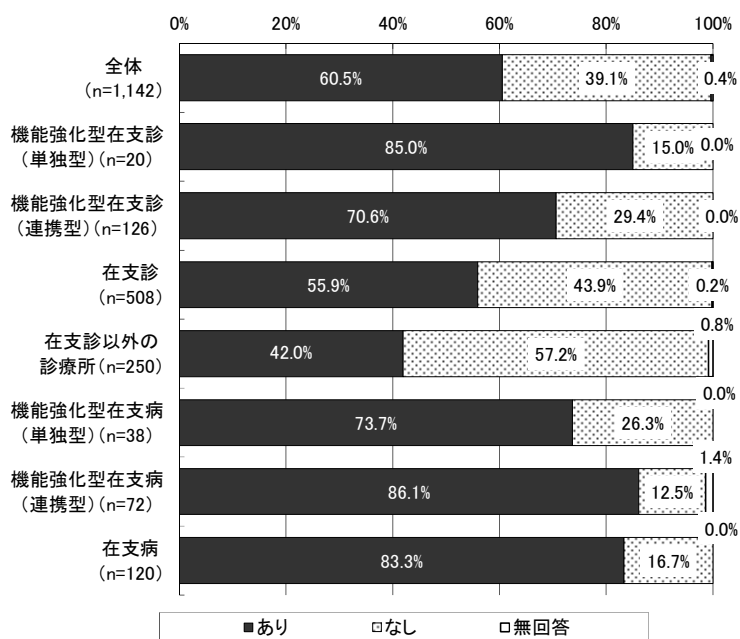
図表 221 調査日の診療における看護職員の同行（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、調査日の診療における看護職員の同行をみると、「あり」の割合は機能強化型在支病（連携型）（86.1%）と機能強化型在支診（単独型）（85.0%）で 85%以上と特に高かった。

図表 222 調査日の診療における看護職員の同行（訪問医療機関別）



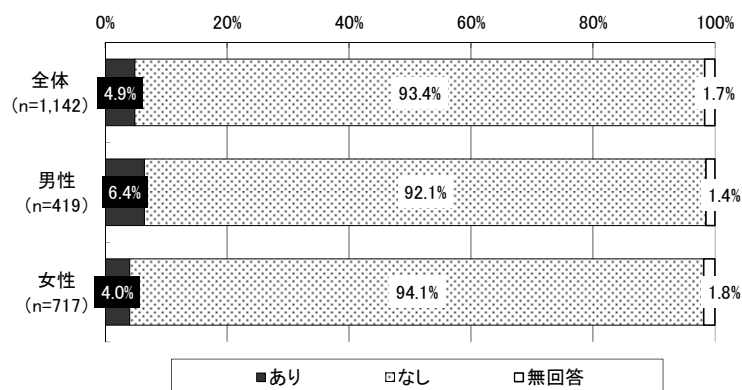
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

10) 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無

当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、全体では「あり」が 4.9%、「なし」が 93.4%であった。

男女別にみると、「あり」の割合は男性が 6.4%、女性が 4.0%で、男性の方が女性と比較して 2.4 ポイント高かった。

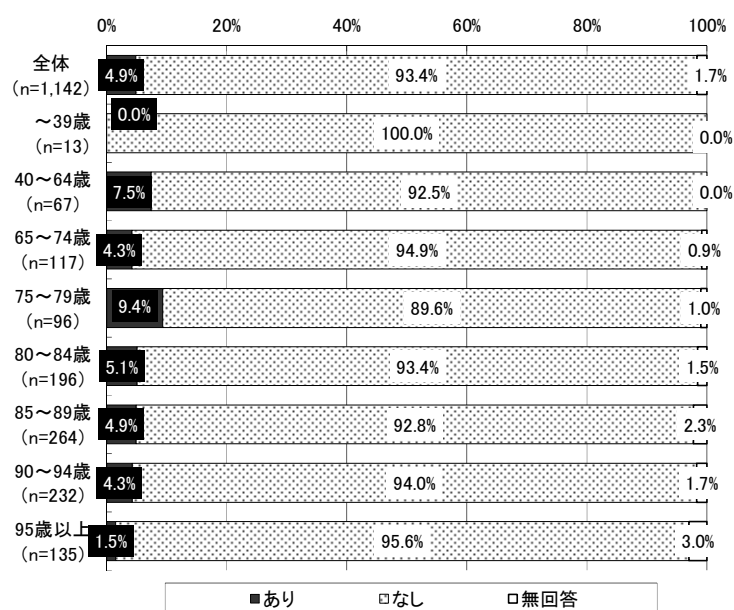
図表 223 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に、当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、「あり」の割合が特に高いのは 75～79 歳 (9.4%) で、全体や他の年齢階級と比較すると高かった。

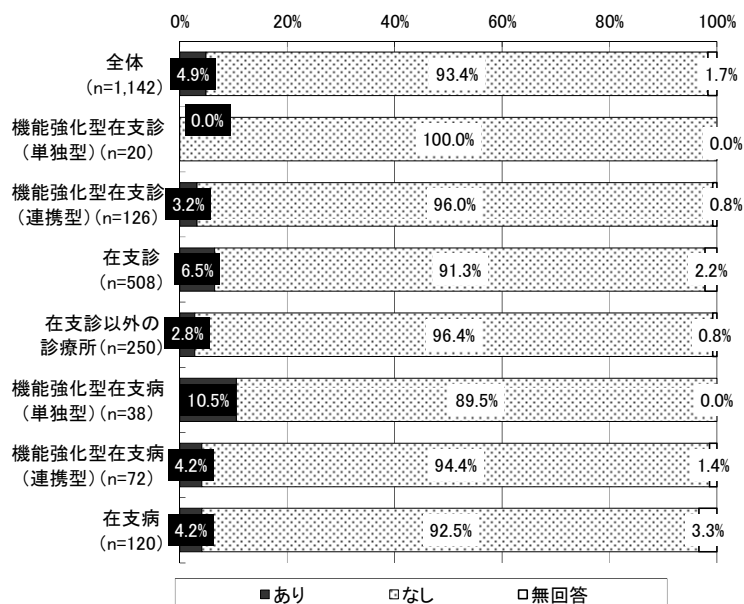
図表 224 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、「あり」の割合は機能強化型在支病（単独型）で10.5%と全体や他と比較して高かった。

図表 225 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（訪問医療機関別）



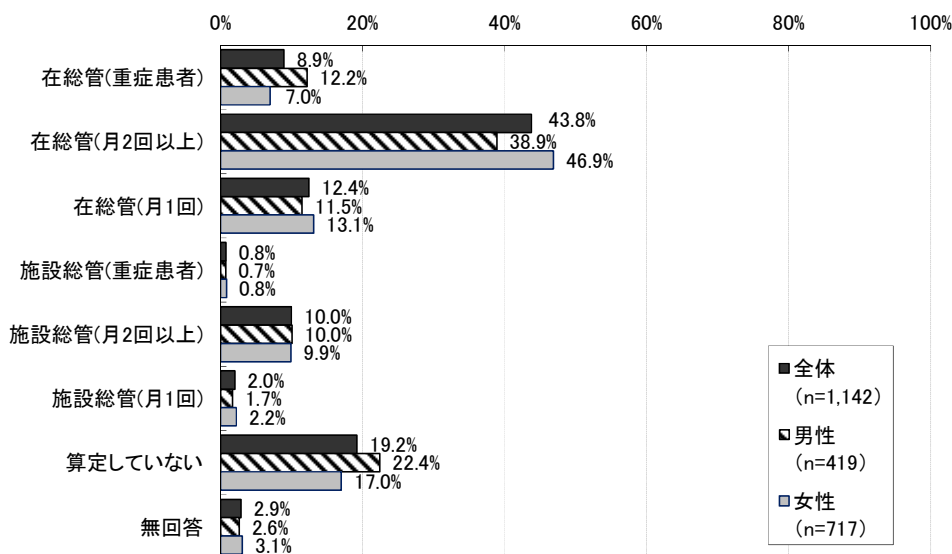
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

11) 医学管理料の算定状況

医学管理料の算定状況を見ると、全体では「在総管（月2回以上）」が43.8%で最も多く、次いで「算定していない」が19.2%、「在総管（月1回）」が12.4%であった。

男女別にみると、女性では男性と比較して「在総管（月2回以上）」が8.0ポイント高かった。

図表 226 医学管理料の算定状況（男女別、単数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別に、医学管理料の算定状況をみると、40歳以上では「在総管（月2回以上）」が最も高かった。また、患者数が少ないものの39歳以下、40～64歳では「在総管（重症患者）」の割合が他の年齢階級と比較して相対的に高かった。

図表 227 医学管理料の算定状況（年齢階級別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	在総管 (重症患者)	在総管 (月2回以上)	在総管 (月1回)	施設総 管(重症 患者)	施設総 管(月2 回以上)	施設総 管(月1 回)	算定して いない	無回答
全体	1,142 100.0	102 8.9	500 43.8	142 12.4	9 0.8	114 10.0	23 2.0	219 19.2	33 2.9
～39歳	13 100.0	5 38.5	4 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	2 15.4
40～64歳	67 100.0	17 25.4	26 38.8	11 16.4	0 0.0	2 3.0	1 1.5	10 14.9	0 0.0
65～74歳	117 100.0	16 13.7	44 37.6	17 14.5	3 2.6	6 5.1	0 0.0	28 23.9	3 2.6
75～79歳	96 100.0	8 8.3	48 50.0	10 10.4	0 0.0	8 8.3	3 3.1	17 17.7	2 2.1
80～84歳	196 100.0	11 5.6	84 42.9	29 14.8	0 0.0	23 11.7	1 0.5	40 20.4	8 4.1
85～89歳	264 100.0	16 6.1	114 43.2	30 11.4	6 2.3	33 12.5	8 3.0	48 18.2	9 3.4
90～94歳	232 100.0	20 8.6	99 42.7	26 11.2	0 0.0	24 10.3	7 3.0	52 22.4	4 1.7
95歳以上	135 100.0	8 5.9	74 54.8	17 12.6	0 0.0	16 11.9	1 0.7	17 12.6	2 1.5

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に医学管理料の算定状況を見ると、「在総管（重症患者）」の割合が比較的高かったのは機能強化型在支診（単独型）（30.0%）、機能強化型在支診（連携型）（19.8%）、機能強化型在支病（単独型）（18.4%）であった。

図表 228 医学管理料の算定状況（訪問医療機関別）

（単位：上段「人」下段「%」）

	総数	在総管(重症患者)	在総管(月2回以上)	在総管(月1回)	施設総管(重症患者)	施設総管(月2回以上)	施設総管(月1回)	算定していない	無回答
全体	1,142	102	500	142	9	114	23	219	33
	100.0	8.9	43.8	12.4	0.8	10.0	2.0	19.2	2.9
機能強化型在支診(単独型)	20	6	9	4	0	1	0	0	0
	100.0	30.0	45.0	20.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	126	25	68	9	1	13	2	8	0
	100.0	19.8	54.0	7.1	0.8	10.3	1.6	6.3	0.0
在支診	508	38	235	50	5	62	6	101	11
	100.0	7.5	46.3	9.8	1.0	12.2	1.2	19.9	2.2
在支診以外の診療所	250	10	102	48	1	11	4	66	8
	100.0	4.0	40.8	19.2	0.4	4.4	1.6	26.4	3.2
機能強化型在支病(単独型)	38	7	15	3	1	1	0	8	3
	100.0	18.4	39.5	7.9	2.6	2.6	0.0	21.1	7.9
機能強化型在支病(連携型)	72	8	24	8	0	13	2	16	1
	100.0	11.1	33.3	11.1	0.0	18.1	2.8	22.2	1.4
在支病	120	8	44	20	1	12	9	17	9
	100.0	6.7	36.7	16.7	0.8	10.0	7.5	14.2	7.5

（注）「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

12) 1か月間の訪問回数（平成28年9月）

1か月間の訪問回数をみると、全体では平均2.3回（中央値2.0）であった。

男女による大きな差異はみられなかった。

図表 229 1か月間の訪問回数（男女別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
男性	412	2.4	2.6	2.0
女性	705	2.2	1.5	2.0

（注）・1か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級による大きな差異はみられなかった。

図表 230 1 か月間の訪問回数（年齢階級別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
～39 歳	12	2.2	1.1	2.0
40～64 歳	67	2.5	1.7	2.0
65～74 歳	117	2.2	1.6	2.0
75～79 歳	93	2.1	1.4	2.0
80～84 歳	193	2.2	1.5	2.0
85～89 歳	260	2.5	2.9	2.0
90～94 歳	230	2.3	1.8	2.0
95 歳以上	131	2.3	1.4	2.0

（注）・1 か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

算定している医学管理料別にみると、「在総管（重症患者）」では平均 2.8 回（中央値 2.0）であった。

図表 231 1 か月間の訪問回数（算定している医学管理料別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
在総管(重症患者)	100	2.8	1.3	2.0
在総管(月 2 回以上)	497	2.6	2.2	2.0
在総管(月 1 回)	141	1.7	1.7	1.0
施設総管(重症患者)	8	2.4	0.7	2.0
施設総管(月 2 回以上)	114	2.7	1.8	2.0
施設総管(月 1 回)	22	1.3	0.7	1.0
算定していない	216	1.7	1.7	1.0

（注）・1 か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には算定している医学管理料が不明のもの 25 人分が含まれる。

訪問医療機関別にみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 2.9 回（標準偏差 2.2、中央値 2.0）で最も多かった。

図表 232 1 か月間の訪問回数（訪問医療機関別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
機能強化型在支診(単独型)	20	2.9	2.2	2.0
機能強化型在支診(連携型)	124	2.3	1.1	2.0
在支診	501	2.6	2.4	2.0
在支診以外の診療所	245	2.0	1.6	2.0
機能強化型在支病(単独型)	38	1.9	1.0	2.0
機能強化型在支病(連携型)	71	1.8	0.9	2.0
在支病	116	2.2	1.5	2.0

(注)・1 か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

④往診等の状況

1) 往診回数

6 か月間に当該患者に行った往診回数をみると、全体としては平均 2.0 回（中央値 0.0）であった。

男女別にみると、男性では平均 2.2 回（中央値 0.0）、女性では平均 1.9 回（中央値 0.0）であった。

図表 233 6 か月間に往診を行った回数（男女別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
男性	408	2.2	5.4	0.0
女性	698	1.9	4.5	0.0

(注)・6 か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 234 6 か月間の往診回数別分布（男女別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142	685	147	83	24	21	15	32	6	6	2	91	30
	100.0	60.0	12.9	7.3	2.1	1.8	1.3	2.8	0.5	0.5	0.2	8.0	2.6
男性	419	234	65	32	10	9	9	8	3	3	0	35	11
	100.0	55.8	15.5	7.6	2.4	2.1	2.1	1.9	0.7	0.7	0.0	8.4	2.6
女性	717	447	82	50	14	12	6	24	3	3	2	55	19
	100.0	62.3	11.4	7.0	2.0	1.7	0.8	3.3	0.4	0.4	0.3	7.7	2.6

(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別にみると、65～74 歳では平均 3.1 回で全体や他の年齢階級と比較して多かった。

図表 235 6 か月間に往診を行った回数（年齢階級別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
～39 歳	12	1.0	1.8	0.0
40～64 歳	64	2.4	8.4	0.0
65～74 歳	114	3.1	6.1	0.0
75～79 歳	93	1.5	3.2	0.0
80～84 歳	191	2.0	4.6	0.0
85～89 歳	256	2.5	5.4	0.0
90～94 歳	227	1.5	3.2	0.0
95 歳以上	134	1.3	3.6	0.0

(注)・6 か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には年齢が不明のもの 21 人分が含まれる。

図表 236 6 か月間の往診回数別分布（年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142 100.0	685 60.0	147 12.9	83 7.3	24 2.1	21 1.8	15 1.3	32 2.8	6 0.5	6 0.5	2 0.2	91 8.0	30 2.6
～39歳	13 100.0	8 61.5	1 7.7	1 7.7	0 0.0	1 7.7	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7
40～64歳	67 100.0	41 61.2	10 14.9	4 6.0	2 3.0	2 3.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5	0 0.0	0 0.0	3 4.5	3 4.5
65～74歳	117 100.0	68 58.1	9 7.7	10 8.5	2 1.7	0 0.0	1 0.9	5 4.3	0 0.0	1 0.9	0 0.0	18 15.4	3 2.6
75～79歳	96 100.0	61 63.5	13 13.5	5 5.2	2 2.1	1 1.0	2 2.1	2 2.1	1 1.0	0 0.0	1 1.0	5 5.2	3 3.1
80～84歳	196 100.0	122 62.2	22 11.2	10 5.1	4 2.0	5 2.6	3 1.5	4 2.0	3 1.5	2 1.0	0 0.0	16 8.2	5 2.6
85～89歳	264 100.0	147 55.7	37 14.0	20 7.6	7 2.7	4 1.5	2 0.8	8 3.0	0 0.0	3 1.1	0 0.0	28 10.6	8 3.0
90～94歳	232 100.0	135 58.2	39 16.8	20 8.6	3 1.3	3 1.3	4 1.7	9 3.9	0 0.0	0 0.0	1 0.4	13 5.6	5 2.2
95歳以上	135 100.0	90 66.7	15 11.1	13 9.6	2 1.5	2 1.5	2 1.5	3 2.2	1 0.7	0 0.0	0 0.0	6 4.4	1 0.7

（注）「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、6 か月間の往診回数をみると、在支診が平均 2.4 回で全体や他の施設と比較して多かった。

図表 237 6 か月間に往診を行った回数（訪問医療機関別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	1.7	2.4	1.0
機能強化型在支診(連携型)	123	2.2	5.4	0.0
在支診	495	2.4	5.6	0.0
在支診以外の診療所	238	2.0	4.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	1.7	3.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	1.9	4.0	0.0
在支病	118	0.9	2.2	0.0

（注）・6 か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

図表 238 6 か月間の往診回数別分布（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142	685	147	83	24	21	15	32	6	6	2	91	30
	100.0	60.0	12.9	7.3	2.1	1.8	1.3	2.8	0.5	0.5	0.2	8.0	2.6
機能強化型在支診(単独型)	20	8	5	3	0	3	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	40.0	25.0	15.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	126	75	23	6	1	3	2	2	0	0	0	11	3
	100.0	59.5	18.3	4.8	0.8	2.4	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	8.7	2.4
在支診	508	293	63	43	10	12	7	14	2	3	1	47	13
	100.0	57.7	12.4	8.5	2.0	2.4	1.4	2.8	0.4	0.6	0.2	9.3	2.6
在支診以外の診療所	250	144	32	18	8	1	3	8	3	1	0	20	12
	100.0	57.6	12.8	7.2	3.2	0.4	1.2	3.2	1.2	0.4	0.0	8.0	4.8
機能強化型在支病(単独型)	38	21	6	6	1	0	0	0	1	0	0	3	0
	100.0	55.3	15.8	15.8	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	7.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	48	7	3	1	2	2	1	0	1	1	6	0
	100.0	66.7	9.7	4.2	1.4	2.8	2.8	1.4	0.0	1.4	1.4	8.3	0.0
在支病	120	91	10	3	3	0	1	7	0	1	0	2	2
	100.0	75.8	8.3	2.5	2.5	0.0	0.8	5.8	0.0	0.8	0.0	1.7	1.7

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

2) 往診のうち、入院に至った回数

6 か月間に行った往診のうち、入院に至った回数をみると、全体では平均 0.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 239 往診のうち、入院に至った回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
男性	407	0.1	0.4	0.0
女性	697	0.1	0.4	0.0

(注)・6 か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

図表 240 往診のうち、入院に至った回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
～39 歳	12	0.2	0.6	0.0
40～64 歳	66	0.1	0.2	0.0
65～74 歳	115	0.1	0.6	0.0
75～79 歳	93	0.1	0.4	0.0
80～84 歳	192	0.1	0.4	0.0
85～89 歳	255	0.1	0.3	0.0
90～94 歳	223	0.1	0.3	0.0
95 歳以上	133	0.1	0.5	0.0

(注)・6 か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には年齢が不明のもの 21 人分が含まれる。

図表 241 往診のうち、入院に至った回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.2	0.8	0.0
在支診	494	0.1	0.3	0.0
在支診以外の診療所	236	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.2	0.5	0.0
在支病	119	0.1	0.3	0.0

(注)・6 か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

3) 夜間の往診回数

夜間の往診回数をみると、全体としては平均 0.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 242 夜間の往診回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
男性	406	0.1	0.8	0.0
女性	694	0.0	0.3	0.0

(注)・6 か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 243 夜間の往診回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
～39 歳	12	0.0	–	0.0
40～64 歳	66	0.1	0.2	0.0
65～74 歳	114	0.1	0.3	0.0
75～79 歳	94	0.1	0.3	0.0
80～84 歳	189	0.1	0.8	0.0
85～89 歳	256	0.0	0.2	0.0
90～94 歳	223	0.1	0.3	0.0
95 歳以上	132	0.1	0.9	0.0

(注)・6 か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

図表 244 夜間の往診回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.2	1.3	0.0
在支診	489	0.1	0.4	0.0
在支診以外の診療所	238	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.0	–	0.0
在支病	118	0.0	0.1	0.0

(注)・6 か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

4) 深夜の往診回数

深夜の往診回数をみると、全体としては平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 245 深夜の往診回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
男性	406	0.0	0.2	0.0
女性	695	0.0	0.1	0.0

(注)・6 か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 246 深夜の往診回数（年齢階級別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
～39 歳	12	0.0	–	0.0
40～64 歳	66	0.0	–	0.0
65～74 歳	114	0.0	0.1	0.0
75～79 歳	94	0.0	0.1	0.0
80～84 歳	190	0.0	0.2	0.0
85～89 歳	256	0.0	–	0.0
90～94 歳	223	0.0	0.2	0.0
95 歳以上	132	0.0	0.2	0.0

（注）・6 か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

図表 247 深夜の往診回数（訪問医療機関別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.0	–	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.0	0.3	0.0
在支診	490	0.0	0.2	0.0
在支診以外の診療所	238	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.0	–	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.0	–	0.0
在支病	118	0.0	–	0.0

（注）・6 か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。
 ・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

3. 訪問看護調査

【調査対象等】

調査対象：①機能強化型訪問看護管理療養費の届出事業所（悉皆）、②全国の訪問看護ステーションの中から無作為抽出した訪問看護ステーション、①②合わせて1,000事業所。

回答数：610事業所

回答者：管理者

(1) 事業所の概要

①所在地

事業所の所在地は、以下のとおりである。

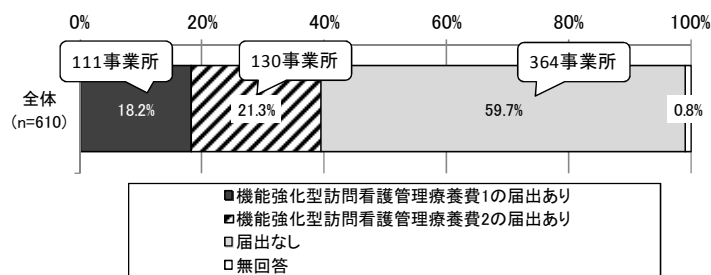
図表 248 所在地

都道府県	事業所数	構成割合(%)	都道府県	事業所数	構成割合(%)
北海道	28	4.6	滋賀県	7	1.1
青森県	6	1.0	京都府	13	2.1
岩手県	8	1.3	大阪府	55	9.0
宮城県	11	1.8	兵庫県	34	5.6
秋田県	4	0.7	奈良県	6	1.0
山形県	5	0.8	和歌山県	10	1.6
福島県	11	1.8	鳥取県	0	0.0
茨城県	9	1.5	島根県	5	0.8
栃木県	7	1.1	岡山県	6	1.0
群馬県	13	2.1	広島県	18	3.0
埼玉県	23	3.8	山口県	9	1.5
千葉県	20	3.3	徳島県	5	0.8
東京都	59	9.7	香川県	4	0.7
神奈川県	32	5.2	愛媛県	11	1.8
新潟県	12	2.0	高知県	3	0.5
富山県	5	0.8	福岡県	25	4.1
石川県	9	1.5	佐賀県	6	1.0
福井県	4	0.7	長崎県	8	1.3
山梨県	4	0.7	熊本県	12	2.0
長野県	14	2.3	大分県	9	1.5
岐阜県	9	1.5	宮崎県	5	0.8
静岡県	12	2.0	鹿児島県	11	1.8
愛知県	27	4.4	沖縄県	6	1.0
三重県	10	1.6	合計	610	100.0

②機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無

機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無についてみると、「機能強化型訪問看護管理療養費1の届出あり」は18.2% (111事業所)、「機能強化型訪問看護管理療養費2の届出あり」は21.3% (130事業所)、「届出なし」が59.7% (364事業所)であった。

図表 249 機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無

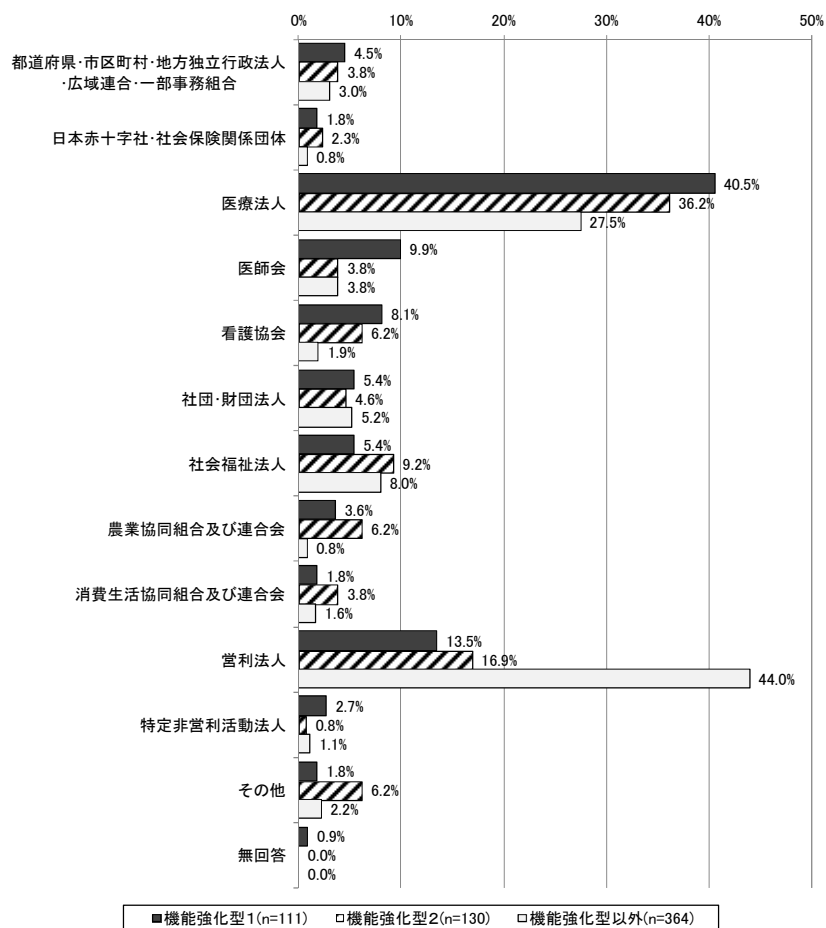


以降、「機能強化型訪問看護管理療養費1の届出あり」と回答した111事業所を「機能強化型1」、「機能強化型訪問看護管理療養費2の届出あり」と回答した130事業所を「機能強化型2」、「届出なし」と回答した364事業所を「機能強化型以外」として集計を行った結果を示す（機能強化型訪問看護ステーションの届出状況によって差がみられない一部の項目については、全体として結果を示す）。

③開設者

開設者についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では「医療法人」がそれぞれ40.5%、36.2%で最も多かった。「機能強化型以外」では「営利法人」が44.0%で最も多かった。

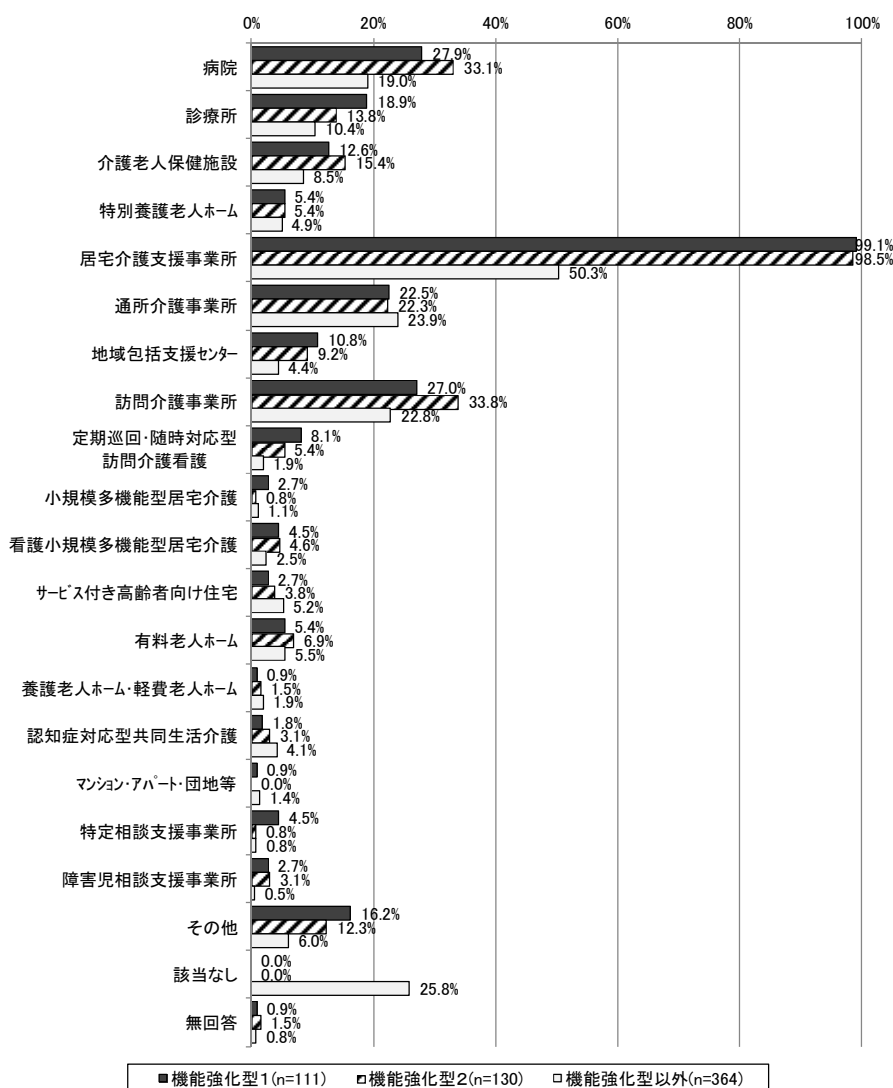
図表 250 開設者（単数回答）



④同一敷地内または隣接している施設・事業所

同一敷地内または隣接している施設・事業所についてみると、「機能強化型1」では「居宅介護支援事業所」が99.1%で最も多く、次いで「病院」(27.9%)であった。「機能強化型2」では、「居宅介護支援事業所」が98.5%で最も多く、次いで「訪問介護事業所」(33.8%)であった。「機能強化型以外」では、「居宅介護支援事業所」が50.3%で最も多く、次いで「通所介護事業所」(23.9%)であった。

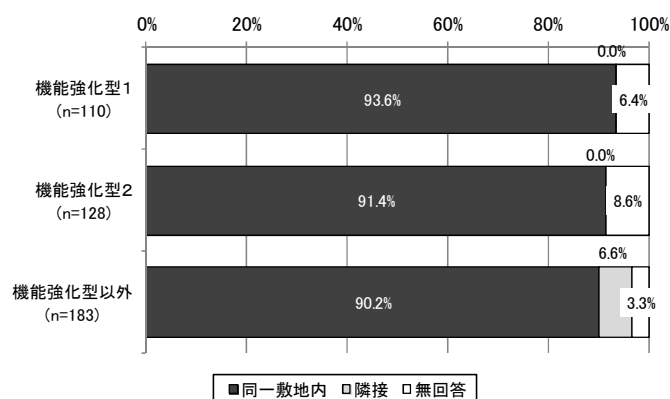
図表 251 同一敷地内または隣接している施設・事業所（複数回答）



(注) 「その他」の内容として、「通所リハビリ」、「福祉用具貸与・販売」、「療養通所介護」、「認知症対応型通所介護」、「短期入所生活介護」、「健診センター」、「保育所」、「介護専門学校」等が挙げられた。

同一敷地内または隣接している居宅介護支援事業所がある事業所に、居宅介護支援事業所の所在地について尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「同一敷地内」が9割以上であった。

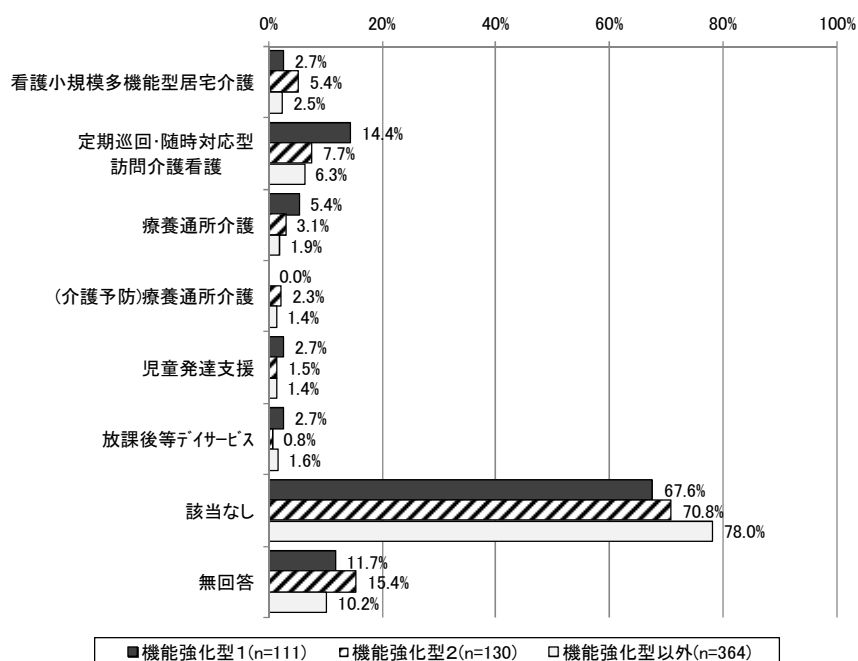
図表 252 居宅介護支援事業所の所在地
(同一敷地内または隣接している居宅介護支援事業所がある事業所)



⑤指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス

指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービスについてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「該当なし」が最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」であった。

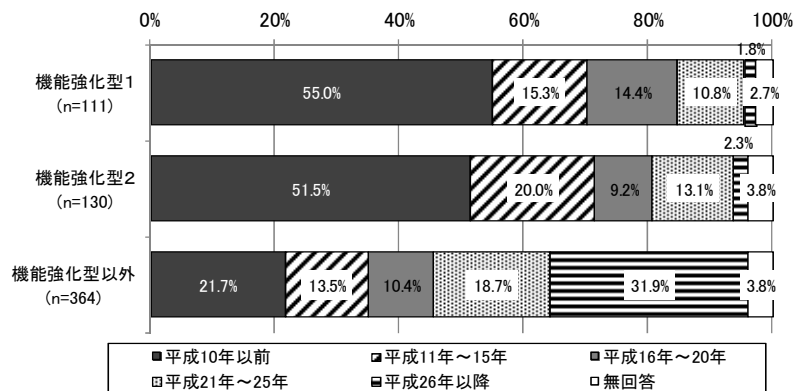
図表 253 指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス (複数回答)



⑥訪問看護を開始した時期

訪問看護を開始した時期についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では「平成10年以前」がそれぞれ55.0%、51.5%で最も多かった。「機能強化型以外」では「平成26年以降」が31.9%で最も多かった。

図表 254 訪問看護を開始した時期

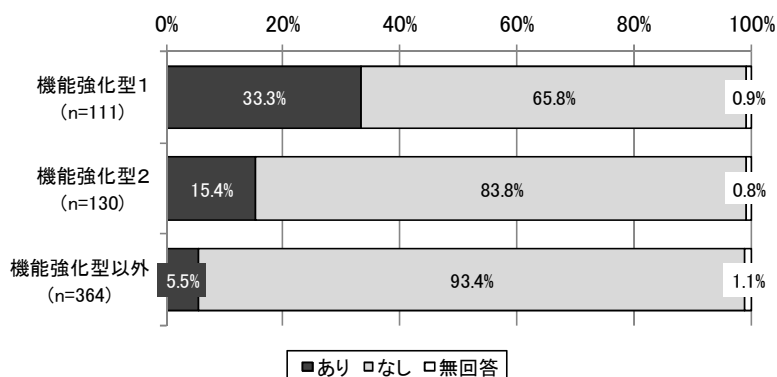


⑦サテライトの有無等

サテライトの有無は、以下のとおりである。

「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」の順に「あり」の割合がそれぞれ33.3%、15.4%、5.5%と高かった。

図表 255 サテライトの有無



サテライトのある事業所に、サテライトの数を尋ねたところ、「機能強化型1」では平均1.6か所、「機能強化型2」では平均1.3か所、「機能強化型以外」では平均1.3か所であった。

図表 256 サテライトの数（サテライトのある事業所）

(単位：か所)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	37	1.6	0.9	1.0
機能強化型2	20	1.3	0.5	1.0
機能強化型以外	20	1.3	0.4	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

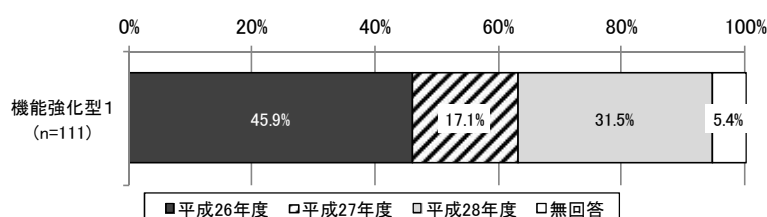
⑧機能強化型訪問看護ステーションの届出状況

1) 機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出状況

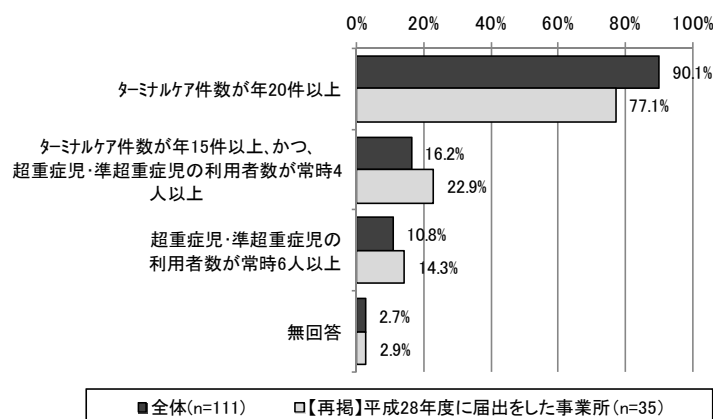
機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出をしている事業所に、届出時期を尋ねたところ、「平成 26 年度」が 45.9%で最も多く、次いで「平成 28 年度」(31.5%)であった。

満たしている要件についてみると、「ターミナルケア件数が年 20 件以上」が 90.1%で最も多かった。「平成 28 年度に届出をした事業所」では、「全体」と比較すると、「ターミナルケア件数が年 15 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 4 人以上」の割合が 6.7 ポイント、「超重症児・準超重症児の利用者が常時 6 人以上」の割合が 3.5 ポイント高かった。

図表 257 機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出時期 (機能強化型 1)



図表 258 機能強化型訪問看護管理療養費 1 で満たしている要件 (機能強化型 1、複数回答)

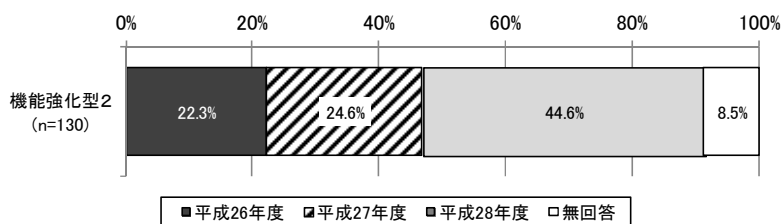


2) 機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出状況

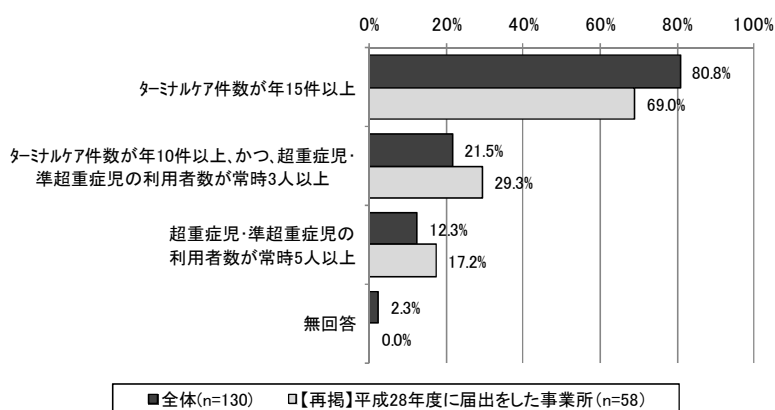
機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出をしている事業所に、届出時期を尋ねたところ、「平成 28 年度」が 44.6%で最も多く、次いで「平成 27 年度」(24.6%)であった。

満たしている要件についてみると、「ターミナルケア件数が年 15 件以上」が 80.8%で最も多かった。「平成 28 年度に届出をした事業所」では、「全体」と比較すると、「ターミナルケア件数が年 10 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 3 人以上」の割合が 7.8 ポイント、「超重症児・準超重症児の利用者が常時 5 人以上」の割合が 4.9 ポイント高かった。

図表 259 機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出時期 (機能強化型 2)



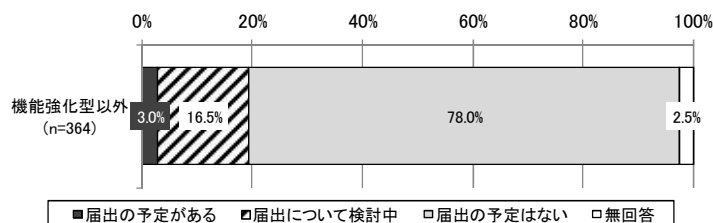
図表 260 機能強化型訪問看護管理療養費 2 で満たしている要件 (機能強化型 2、複数回答)



⑨今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向

機能強化型訪問看護管理療養費の届出がない事業所に、今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向を尋ねたところ、「届出の予定がある」が 3.0%、「届出について検討中」が 16.5%、「届出の予定はない」が 78.0%であった。

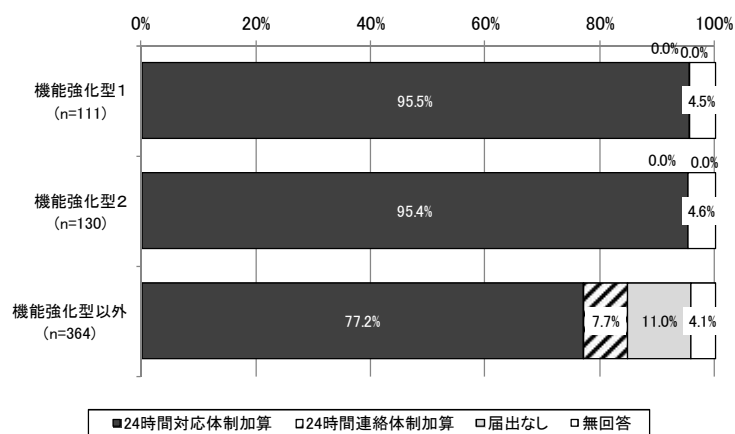
図表 261 今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向 (機能強化型以外)



⑩24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無

24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無は、以下のとおりである。

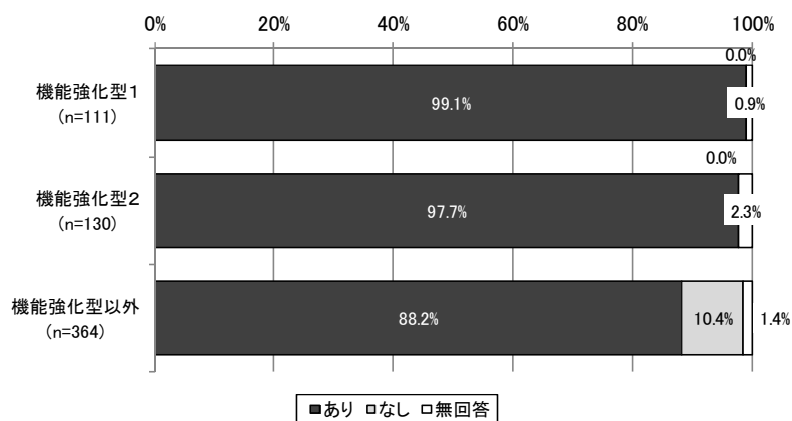
図表 262 24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無



⑪特別管理加算（医療保険）の届出の有無

特別管理加算（医療保険）の届出の有無は、以下のとおりである。

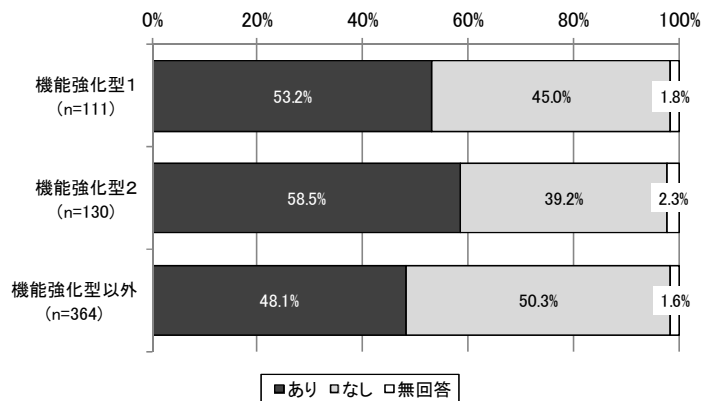
図表 263 特別管理加算（医療保険）の届出の有無



⑫精神科訪問看護基本療養費の届出の有無

精神科訪問看護基本療養費の届出の有無は、以下のとおりである。

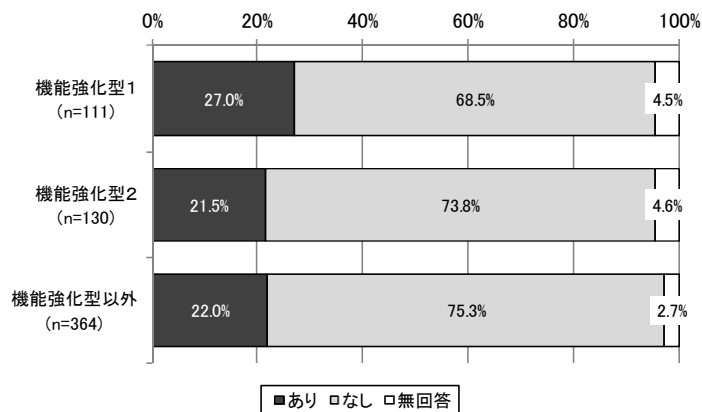
図表 264 精神科訪問看護基本療養費の届出の有無



⑬精神科複数回訪問加算の届出の有無

精神科複数回訪問加算の届出の有無は、以下のとおりである。

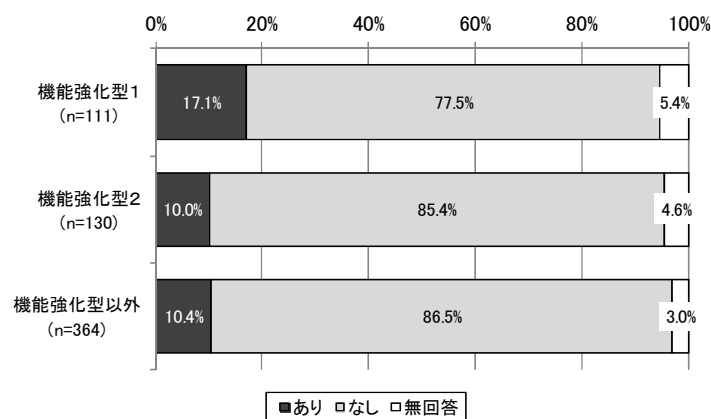
図表 265 精神科複数回訪問加算の届出の有無



⑭精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無

精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無は、以下のとおりである。

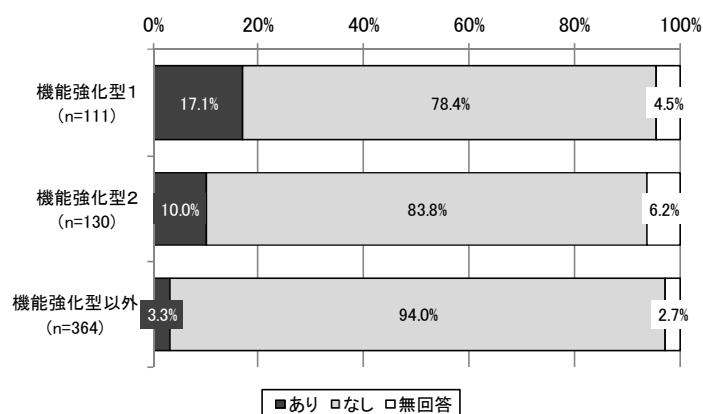
図表 266 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無



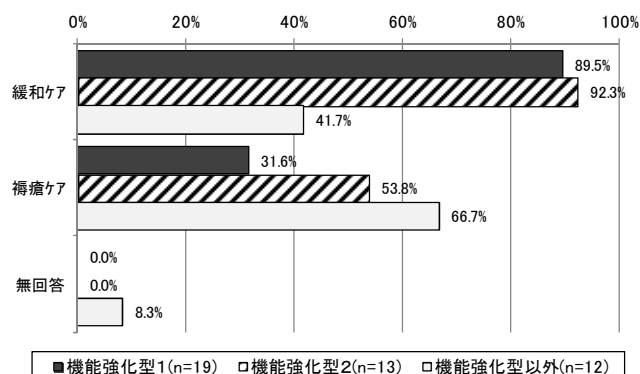
⑮訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無

訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無は、以下のとおりである。

図表 267 訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無



図表 268 専門の研修の種類（専門の研修を受けた看護師に係る届出のある事業所）
（複数回答）



⑩職員数

職員数についてみると、「機能強化型1」では、保健師・助産師・看護師が平均12.6人、准看護師が平均0.4人、リハビリ職（PT・OT・ST）が平均2.9人であった。「機能強化型2」では、保健師・助産師・看護師が平均9.0人、准看護師が平均0.3人、リハビリ職（PT・OT・ST）が2.1人であった。「機能強化型以外」では、保健師・助産師・看護師が平均4.3人、准看護師が平均0.4人、リハビリ職（PT・OT・ST）が1.1人であった。

保健師・助産師・看護師とリハビリ職（PT・OT・ST）の職員数については、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」の順に多くなっていた。

図表 269 職員数（機能強化型1、n=102）

（単位：人）

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	12.6	4.6	11.1
准看護師	0.4	1.0	0.0
リハビリ職（PT・OT・ST）	2.9	3.5	2.0
その他の職員	2.1	2.0	2.0
うち、看護補助者・介護職員	0.1	0.4	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	—	0.0
うち、介護支援専門員	0.4	1.0	0.0
うち、事務職員	1.5	1.1	1.5
全職員	17.9	7.7	16.5

（注）上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 270 職員数（機能強化型 2、n=122）

(単位：人)

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	9.0	3.6	8.0
准看護師	0.3	1.2	0.0
リハビリ職(PT・OT・ST)	2.1	2.8	1.2
その他の職員	1.3	1.9	1.0
うち、看護補助者・介護職員	0.2	1.1	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	0.2	0.0
うち、介護支援専門員	0.2	0.6	0.0
うち、事務職員	0.8	0.8	0.8
全職員	12.8	6.1	11.1

(注) 上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 271 職員数（機能強化型以外、n=355）

(単位：人)

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	4.3	2.1	3.8
准看護師	0.4	0.7	0.0
リハビリ職(PT・OT・ST)	1.1	2.2	0.0
その他の職員	0.5	0.9	0.0
うち、看護補助者・介護職員	0.0	0.5	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	—	0.0
うち、介護支援専門員	0.1	0.4	0.0
うち、事務職員	0.4	0.6	0.0
全職員	6.3	3.7	5.5

(注) 上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

(2) 診療報酬の算定状況や利用者の状況等

①医療保険の新規利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における医療保険の新規利用者数は、以下のとおりである。
 新規利用者数は「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。

図表 272 医療保険の新規利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	5.1	3.9	4.0
機能強化型 2	130	3.8	2.9	3.0
機能強化型以外	362	1.9	3.8	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

②医療保険の対応が終了した利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における医療保険の対応が終了した利用者数と、このうち亡くなった利用者数は、以下のとおりである。

対応が終了した利用者数、亡くなった利用者数ともに「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。

図表 273 医療保険の対応が終了した利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

		事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	対応が終了した利用者数	110	5.0	3.7	4.5
	うち、亡くなった利用者数		3.1	2.6	3.0
機能強化型 2	対応が終了した利用者数	128	3.1	2.4	3.0
	うち、亡くなった利用者数		2.0	2.0	2.0
機能強化型以外	対応が終了した利用者数	360	1.3	1.9	1.0
	うち、亡くなった利用者数		0.6	1.0	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

③訪問看護の利用者数

訪問看護の利用者数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で平成 28 年 9 月が多くなっていた。

図表 274 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型 1、n=102）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	178.6	91.9	161.0	186.3	93.9	168.5
医療保険のみを算定した利用者数	52.5	26.6	46.0	56.1	26.5	51.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	3.0	6.4	2.0	5.5	23.2	2.0
特掲診療料の施設基準等別表 7 に該当する利用者数	29.9	14.4	27.0	31.9	13.7	27.0
特掲診療料の施設基準等別表 8 に該当する利用者数	22.5	18.3	20.0	24.1	17.8	22.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.6	13.9	0.0	6.4	14.4	0.5
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	3.5	4.2	2.0	3.8	4.9	2.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.7	2.5	0.0	0.8	2.6	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	3.4	10.4	0.0	3.7	11.1	0.0

（注）・上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

・「別表 7」とは、以下の疾病等を指す（機能強化型 2、機能強化型以外についても同様）。

末期の悪性腫瘍、多発性硬化症、重症筋無力症、スモン、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ハンチントン病、進行性筋ジストロフィー症、パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病（ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ 3 以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度のものに限る。）、多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）、プリオン病、亜急性硬化性全脳炎、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、後天性免疫不全症候群、頸髄損傷、人工呼吸器を使用している状態。

・「別表 8」とは、以下の状態等を指す（機能強化型 2、機能強化型以外についても同様）。

- 一 在宅悪性腫瘍患者指導管理若しくは在宅気管切開患者指導管理を受けている状態にある者又は気管カニューレ若しくは留置カテーテルを使用している状態にある者
- 二 在宅自己腹膜灌流指導管理、在宅血液透析指導管理、在宅酸素療法指導管理、在宅中心静脈栄養法指導管理、在宅成分栄養経管栄養法指導管理、在宅自己導尿指導管理、在宅人工呼吸指導管理、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理、在宅自己疼痛管理指導管理又は在宅肺高血圧症患者指導管理を受けている状態にある者
- 三 人工肛門又は人工膀胱を設置している状態にある者
- 四 真皮を超える褥瘡の状態にある者
- 五 在宅患者訪問点滴注射管理指導料を算定している者

図表 275 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型 2、n=117）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	117.1	59.2	112.0	124.9	63.9	119.0
医療保険のみを算定した利用者数	36.8	25.3	29.0	39.5	27.9	33.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	1.5	3.3	0.0	2.3	4.0	1.0
特掲診療料の施設基準等別表7に該当する利用者数	21.3	11.6	18.0	22.6	11.6	21.0
特掲診療料の施設基準等別表8に該当する利用者数	14.6	11.5	13.0	15.7	12.0	14.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.0	15.9	0.0	5.9	18.4	0.0
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	2.1	3.2	1.0	2.5	2.8	2.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.2	1.0	0.0	0.2	1.0	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	2.3	6.1	0.0	2.4	5.9	0.0

（注）上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 276 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型以外、n=275）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	60.7	46.5	50.0	65.7	46.1	54.0
医療保険のみを算定した利用者数	17.1	20.5	10.0	18.9	22.8	12.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	0.8	1.9	0.0	0.9	2.3	0.0
特掲診療料の施設基準等別表7に該当する利用者数	7.2	7.7	5.0	8.0	8.1	6.0
特掲診療料の施設基準等別表8に該当する利用者数	4.4	6.1	2.0	4.9	6.4	3.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.6	19.5	0.0	6.3	21.8	0.0
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	1.3	3.1	0.0	1.5	2.8	1.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.5	5.5	0.0	0.7	5.9	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	2.7	10.9	0.0	3.2	11.8	0.0

（注）上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

④訪問回数

平成 28 年 9 月 1 か月間における訪問回数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で平成 28 年 9 月が多くなっていた。

また、「訪問回数（医療保険＋介護保険）」と「医療保険による訪問回数」については、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多い傾向が見られた。

図表 277 訪問回数

(単位：回)

		平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1 (n=105)	訪問回数(医療保険＋介護保険)	1071.9	551.2	953.0	1157.7	575.0	1037.0
	医療保険による訪問回数	421.8	224.8	371.0	471.4	271.1	410.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	19.2	42.6	0.0	27.8	67.3	0.0
機能強化型 2 (n=121)	訪問回数(医療保険＋介護保険)	755.5	399.5	674.0	842.0	459.1	737.0
	医療保険による訪問回数	284.2	175.4	233.0	327.0	211.7	270.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	18.0	52.1	0.0	25.0	80.6	0.0
機能強化型以外 (n=287)	訪問回数(医療保険＋介護保険)	403.7	345.4	304.0	440.8	356.1	354.0
	医療保険による訪問回数	146.4	173.5	92.0	158.2	173.9	109.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	29.2	111.5	0.0	35.9	129.9	0.0

(注) 上記の訪問回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

⑤要介護度別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における要介護度別の利用者数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、すべての要介護度で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 278 要介護度別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=88)	要支援 1・2	1.6	1.7	1.0	3.8%	1.8	2.5	1.0	4.2%
	要介護 1・2・3	12.5	8.2	10.0	30.1%	13.0	8.4	11.0	29.9%
	要介護 4	4.5	3.0	4.0	10.9%	4.9	3.2	4.0	11.2%
	要介護 5	8.4	5.3	8.0	20.4%	8.7	5.5	8.0	20.0%
	申請中・自立・未申請	14.4	14.9	9.5	34.8%	15.1	14.7	10.0	34.7%
	合計	41.4	24.3	38.5	100.0%	43.5	24.5	38.0	100.0%
機能強化型 2 (n=98)	要支援 1・2	1.1	1.5	0.0	4.2%	1.3	1.6	1.0	4.2%
	要介護 1・2・3	8.9	7.8	7.0	33.2%	10.2	8.3	8.0	34.4%
	要介護 4	3.4	2.7	3.0	12.6%	3.6	3.1	3.0	11.9%
	要介護 5	5.9	3.8	5.0	22.0%	6.4	4.5	5.0	21.5%
	申請中・自立・未申請	7.6	8.9	5.0	28.1%	8.3	8.9	6.0	28.0%
	合計	26.9	18.1	22.0	100.0%	29.8	20.4	25.0	100.0%
機能強化型以外 (n=249)	要支援 1・2	0.5	0.9	0.0	4.6%	0.6	1.0	0.0	4.9%
	要介護 1・2・3	3.5	4.2	2.0	31.4%	3.8	4.6	2.0	31.1%
	要介護 4	1.2	1.8	1.0	10.8%	1.3	1.7	1.0	10.7%
	要介護 5	2.4	2.9	1.0	21.6%	2.5	2.7	2.0	19.9%
	申請中・自立・未申請	3.5	9.4	1.0	31.5%	4.1	10.5	2.0	33.3%
	合計	11.2	12.4	7.0	100.0%	12.3	13.5	9.0	100.0%

(注)・医療保険の利用者のうち、40 歳以上の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する要介護度別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

⑥日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数は、以下のとおりである。「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「ランク C」が最も多かった。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「不明」以外のほとんどの項目で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 279 日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=25)	自立・ランクJ	5.6	12.3	2.0	20.4%	6.3	14.1	2.0	21.6%
	ランクA	6.0	4.5	6.0	21.9%	6.4	5.4	5.0	21.8%
	ランクB	6.0	4.8	4.0	22.1%	6.8	4.5	7.0	23.1%
	ランクC	7.5	4.4	7.0	27.5%	8.2	5.4	7.0	28.0%
	不明	2.2	4.1	0.0	8.1%	1.6	3.1	0.0	5.6%
機能強化型 2 (n=30)	自立・ランクJ	2.3	3.5	1.0	13.0%	2.1	2.9	1.0	11.0%
	ランクA	3.1	2.8	2.5	17.6%	4.3	2.7	4.0	22.1%
	ランクB	5.4	3.0	5.0	30.8%	5.2	3.1	5.0	26.7%
	ランクC	5.7	3.5	5.0	32.8%	6.5	3.5	6.5	33.6%
	不明	1.0	2.6	0.0	5.7%	1.3	3.7	0.0	6.7%
機能強化型以外 (n=114)	自立・ランクJ	0.7	2.2	0.0	12.1%	0.9	2.8	0.0	13.7%
	ランクA	1.4	2.3	0.0	23.3%	1.5	2.7	1.0	22.7%
	ランクB	1.5	3.0	0.0	25.8%	1.7	4.0	1.0	26.6%
	ランクC	1.6	2.7	1.0	27.4%	1.9	2.8	1.0	28.5%
	不明	0.7	6.4	0.0	11.4%	0.5	5.5	0.0	8.3%

(注)・医療保険の利用者のうち、要介護 1～5 の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

⑦認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数は、以下のとおりである。Ⅲ以上の利用者数は「機能強化型 1」では平均 5.5 人、「機能強化型 2」では平均 5.6 人、「機能強化型以外」では平均 1.7 人であった。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、ほとんどの自立度で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 280 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=21)	自立・Ⅰ	12.5	7.8	12.0	47.7%	13.9	8.1	13.0	49.7%
	Ⅱ	3.7	3.3	3.0	14.0%	4.0	3.9	3.0	14.2%
	Ⅲ	2.2	1.8	2.0	8.6%	2.4	1.7	2.0	8.7%
	Ⅳ	2.2	1.2	2.0	8.4%	2.6	1.7	2.0	9.4%
	M	0.7	1.1	0.0	2.7%	0.5	1.1	0.0	1.9%
	不明	4.9	7.6	1.0	18.6%	4.5	7.3	2.0	16.1%
機能強化型 2 (n=30)	自立・Ⅰ	8.5	7.2	6.5	45.7%	9.5	6.9	8.0	45.3%
	Ⅱ	3.4	3.5	3.0	18.0%	3.5	3.4	2.5	16.5%
	Ⅲ	2.4	3.0	2.0	13.0%	3.1	3.1	2.0	14.9%
	Ⅳ	2.1	2.0	1.5	11.1%	1.9	2.3	1.0	9.0%
	M	0.4	0.7	0.0	2.3%	0.6	0.8	0.0	2.8%
	不明	1.8	3.9	0.0	9.8%	2.4	5.3	0.0	11.6%
機能強化型以外 (n=109)	自立・Ⅰ	2.5	4.1	1.0	41.3%	3.0	5.7	2.0	44.8%
	Ⅱ	1.1	2.2	0.0	18.4%	1.3	3.0	0.0	19.8%
	Ⅲ	0.8	1.8	0.0	14.0%	0.9	2.0	0.0	12.8%
	Ⅳ	0.5	1.5	0.0	8.5%	0.5	1.4	0.0	7.9%
	M	0.2	0.6	0.0	3.4%	0.3	0.8	0.0	4.3%
	不明	0.9	5.7	0.0	14.3%	0.7	5.0	0.0	10.5%

(注)・医療保険の利用者のうち、要介護 1～5 の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

⑧超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数

15歳未満の利用者のうち、超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数は以下のとおりである。平成27年9月と平成28年9月を比較すると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で利用者数の平均値は同じか平成28年9月が多くなっていた。

「機能強化型1」では、平成28年9月の「超重症児」が平均1.7人（中央値1.0）、「準超重症児」が平均1.3人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較するとそれぞれ0.1人多くなっていた。「機能強化型2」では、平成28年9月の「超重症児」が平均0.9人（中央値0.0）、「準超重症児」が平均1.1人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較するとそれぞれ0.1人、0.2人多くなっていた。「機能強化型以外」では、平成28年9月の「超重症児」が平均0.3人（中央値0.0）、「準超重症児」が平均0.2人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較すると「超重症児」は0.1人多くなっていた。

図表 281 超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数（15歳未満の利用者）

(単位：人)

		平成27年9月				平成28年9月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型1 (n=100)	超重症児	1.6	2.0	1.0	35.2%	1.7	2.2	1.0	32.3%
	準超重症児	1.2	1.6	0.5	25.2%	1.3	1.7	0.0	23.5%
	医療的ケア児	1.2	2.1	0.0	25.2%	1.4	2.2	0.0	26.6%
	その他	0.7	2.0	0.0	14.3%	0.9	2.0	0.0	17.6%
機能強化型2 (n=103)	超重症児	0.8	1.4	0.0	28.7%	0.9	1.6	0.0	27.0%
	準超重症児	0.9	1.5	0.0	30.4%	1.1	1.9	0.0	33.0%
	医療的ケア児	0.7	1.6	0.0	24.2%	0.7	1.4	0.0	22.1%
	その他	0.5	1.4	0.0	16.7%	0.6	2.0	0.0	17.8%
機能強化型以外 (n=260)	超重症児	0.2	0.8	0.0	27.9%	0.3	1.1	0.0	32.7%
	準超重症児	0.2	0.6	0.0	17.5%	0.2	0.7	0.0	19.8%
	医療的ケア児	0.2	0.7	0.0	27.5%	0.3	0.7	0.0	25.1%
	その他	0.2	1.1	0.0	27.1%	0.2	1.1	0.0	22.4%

(注)・医療保険の利用者のうち、15歳未満の利用者について尋ねた。

- ・医療的ケア児は、超重症児・準超重症児を除く、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児を指す。
- ・割合は、記入のあった利用者数全体に対する超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の状態別の利用者数の割合。
- ・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

また、平成 28 年 4 月～9 月における超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の 1 か月あたりの平均利用者数についてみると、「機能強化型 1」では、「超重症児」が平均 1.7 人（中央値 1.0）、「準超重症児」が平均 1.3 人（中央値 0.8）であった。「機能強化型 2」では、「超重症児」が平均 1.0 人（中央値 0.0）、「準超重症児」が平均 1.1 人（中央値 0.0）であった。「機能強化型以外」では「超重症児」が平均 0.3 人（中央値 0.0）、「準超重症児」が平均 0.3 人（中央値 0.0）であった。

図表 282 超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の 1 か月あたりの平均利用者数
(平成 28 年 4 月～9 月、15 歳未満の利用者)

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=102)	超重症児	1.7	2.1	1.0	33.3%
	準超重症児	1.3	1.7	0.8	25.3%
	医療的ケア児	1.3	2.1	0.0	24.8%
	その他	0.8	2.0	0.0	16.5%
機能強化型 2 (n=104)	超重症児	1.0	1.7	0.0	32.8%
	準超重症児	1.1	1.7	0.0	33.8%
	医療的ケア児	0.7	1.4	0.0	20.8%
	その他	0.4	1.1	0.0	12.5%
機能強化型以外 (n=266)	超重症児	0.3	1.1	0.0	31.1%
	準超重症児	0.3	1.3	0.0	22.7%
	医療的ケア児	0.3	1.1	0.0	27.3%
	その他	0.2	1.2	0.0	18.9%

(注)・医療保険の利用者のうち、15 歳未満の利用者について尋ねた。

- ・医療的ケア児は、超重症児・準超重症児を除く、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児を指す。
- ・割合は、記入のあった利用者数全体に対する超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の状態別の利用者数の割合。
- ・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

⑨ターミナルケアを行った利用者数

1) 訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月に訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 12.0 人（中央値 11.0）、「機能強化型 2」は平均 7.3 人（中央値 6.0）、「機能強化型以外」は平均 1.5 人（中央値 1.0）であった。

図表 283 訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	12.0	7.4	11.0
機能強化型 2	129	7.3	5.7	6.0
機能強化型以外	356	1.5	2.3	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

2) ターミナルケア加算を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月にターミナルケア加算を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 3.7 人（中央値 3.0）、「機能強化型 2」は平均 3.0 人（中央値 3.0）、「機能強化型以外」は平均 0.7 人（中央値 0.0）であった。

図表 284 ターミナルケア加算を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	3.7	3.2	3.0
機能強化型 2	128	3.0	2.6	3.0
機能強化型以外	356	0.7	1.3	0.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

3) 共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月に共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 2.0 人（中央値 0.0）、「機能強化型 2」は平均 1.4 人（中央値 0.0）、「機能強化型以外」は平均 0.4 人（中央値 0.0）であった。

図表 285 共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	100	2.0	7.5	0.0
機能強化型 2	121	1.4	4.2	0.0
機能強化型以外	335	0.4	1.9	0.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

⑩ケアの内容別の利用者数（医療保険）

平成 28 年 9 月 1 か月間の医療保険の訪問看護について、ケアの内容別の利用者数は以下のとおりである。

「主に医療処置を行った利用者数」の全利用者に占める比率は、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に高かった。

図表 286 ケアの内容別の利用者数（医療保険）（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値	全利用者に占める割合
機能強化型 1 (n=48)	主に医療処置を行った利用者数	35.4	18.7	29.0	66.1%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	3.8	5.8	2.0	7.1%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	7.0	8.3	4.0	13.1%
	その他の利用者	7.4	11.4	1.0	13.7%
機能強化型 2 (n=51)	主に医療処置を行った利用者数	21.8	10.6	19.0	51.9%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	2.4	2.9	1.0	5.8%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	7.9	19.9	3.0	18.7%
	その他の利用者	9.9	24.4	3.0	23.6%
機能強化型 以外 (n=216)	主に医療処置を行った利用者数	7.2	8.8	4.5	45.4%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	1.3	2.3	0.0	7.9%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	2.6	8.4	0.0	16.4%
	その他の利用者	4.8	15.2	0.0	30.3%

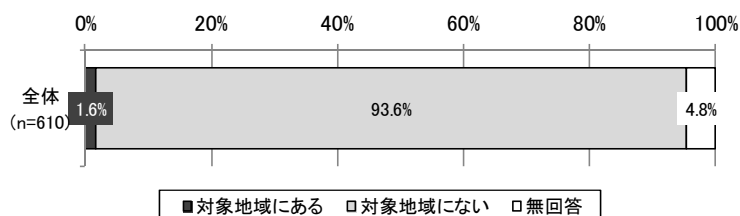
(注)・上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

- ・「その他の利用者」の「具体的にを行った内容」として、「健康状態の観察」、「服薬管理」、「エンゼルケア」、「栄養相談」、「ADL 評価」、「保清」、「入浴介助」、「生活指導」、「精神的支援」、「排泄ケア」、「介護者支援」、「リンパマッサージ」等が挙げられた。

⑪特別地域訪問看護加算（医療保険）の算定状況

特別地域訪問看護加算（医療保険）の「対象地域にある」事業所は、以下のとおりである。

図表 287 特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域にあるか



図表 288 特別地域訪問看護加算の算定利用者数

（対象地域にある事業所、平成 28 年 9 月 1 か月間）

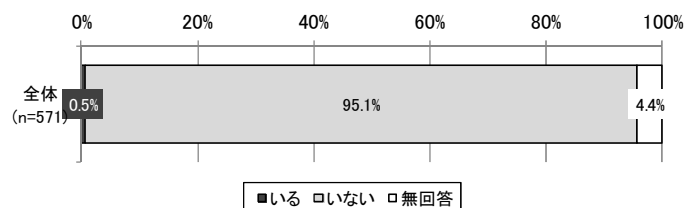
（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	20.2	22.9	13.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

特別地域訪問看護加算の対象地域にない事業所に、対象地域に居住する利用者の有無を尋ねたところ、該当者はほとんどいなかった。

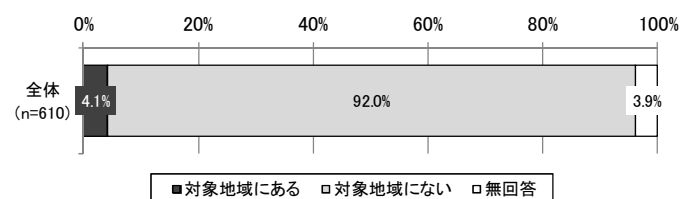
図表 289 特別地域訪問看護加算の対象地域に居住する利用者の有無（対象地域にない事業所）



⑫中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の算定状況

中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の対象地域にあるかは、以下のとおりである。

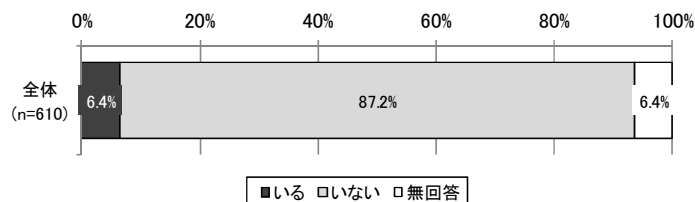
図表 290 中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の対象地域にあるか



⑬中山間地域等提供加算（介護保険）の算定状況

中山間地域提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者の有無は、以下のとおりである。

図表 291 中山間地域等提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者の有無



対象地域に居住する利用者がある事業所における、平成 28 年 9 月 1 か月間の中山間地域等提供加算（介護保険）の算定状況等は、以下のとおりである。

図表 292 中山間地域等提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者数と算定利用者数
（対象地域に居住する利用者がある事業所、平成 28 年 9 月 1 か月間）

（単位：人）

		事業所数	平均値	標準偏差	中央値
全体	対象地域に居住する利用者数	36	16.6	26.2	8.0
	うち、中山間地域等提供加算を算定している利用者数		6.3	9.1	2.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

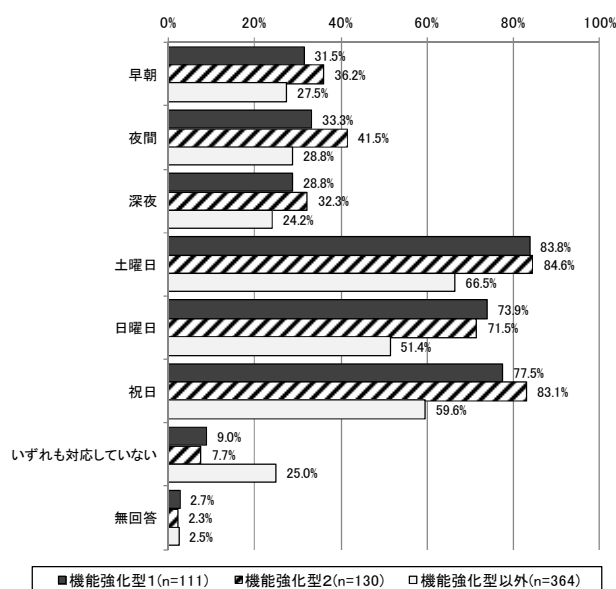
(3) 土日や夜間、緊急時の対応等

① 計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等

計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、実施している割合は「土曜日」が最も多かった。

また、「機能強化型1」、「機能強化型2」の7割以上が「土曜日」、「日曜日」、「祝日」で計画的な訪問看護を実施していた。

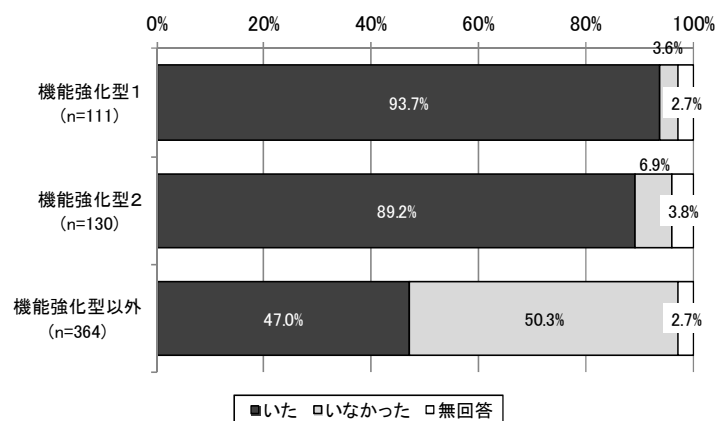
図表 293 計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等（複数回答）



② 緊急訪問の実施状況

平成28年9月1か月間の緊急訪問した利用者の有無についてみると、「いた」の割合は、「機能強化型1」では93.7%、「機能強化型2」では89.2%、「機能強化型以外」では47.0%であった。

図表 294 緊急訪問した利用者の有無（平成28年9月1か月間）



図表 295 緊急訪問した利用者数
(平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	7.4	5.6	6.0
機能強化型 2	97	5.6	4.1	5.0
機能強化型以外	153	3.3	5.1	2.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 296 延べ緊急訪問回数 (平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：回)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	17.3	33.6	10.0
機能強化型 2	97	14.2	21.0	8.0
機能強化型以外	153	10.9	35.3	3.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 297 緊急訪問看護加算の算定回数
(平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：回)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	5.9	6.5	3.0
機能強化型 2	97	4.4	7.0	1.0
機能強化型以外	153	2.2	4.0	1.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

(4) 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携状況

①連携に関する診療報酬項目の算定状況

平成28年9月1か月間における、連携に関する診療報酬項目の算定利用者数及び算定回数は、以下のとおりである。

図表 298 連携に関する診療報酬項目の算定利用者数（平成28年9月1か月間）

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1 (n=98)	退院時共同指導加算(医療保険)	1.8	2.5	1.0
	在宅患者連携指導加算	0.5	2.0	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.6	2.3	0.0
	訪問看護情報提供療養費	37.9	32.5	34.5
機能強化型2 (n=115)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.8	1.2	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.3	2.7	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.2	0.9	0.0
	訪問看護情報提供療養費	20.0	24.8	14.0
機能強化型以外 (n=318)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.3	0.7	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.0	0.4	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.1	0.5	0.0
	訪問看護情報提供療養費	7.4	17.0	0.0

(注) 上記診療報酬項目の算定利用者数と算定回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 299 連携に関する診療報酬項目の算定回数（平成28年9月1か月間）

(単位：回)

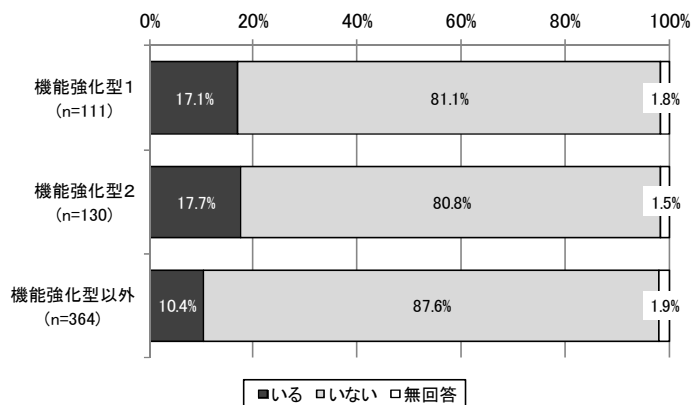
		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1 (n=98)	退院時共同指導加算(医療保険)	1.9	2.5	1.0
	在宅患者連携指導加算	0.5	2.0	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.8	3.7	0.0
	訪問看護情報提供療養費	38.4	32.5	35.5
機能強化型2 (n=115)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.8	1.2	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.3	2.7	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.2	0.9	0.0
	訪問看護情報提供療養費	20.0	24.8	14.0
機能強化型以外 (n=318)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.3	0.7	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.0	0.4	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.1	1.0	0.0
	訪問看護情報提供療養費	7.9	19.5	0.0

(注) 上記診療報酬項目の算定利用者数と算定回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

②在宅褥瘡管理者の有無

在宅褥瘡管理者の有無は、以下のとおりである。

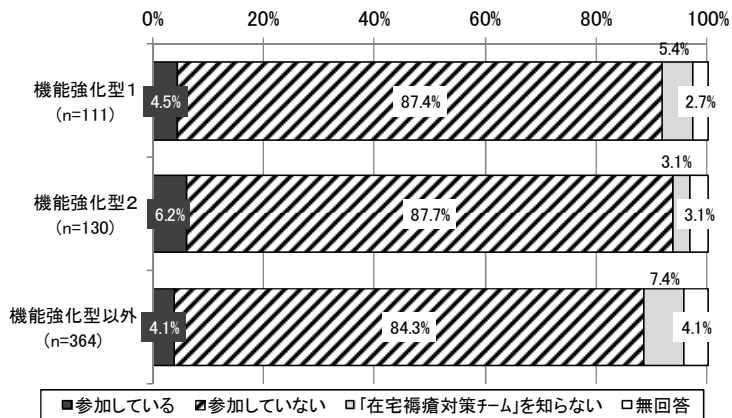
図表 300 在宅褥瘡管理者の有無



③在宅褥瘡対策チームへの参加状況

在宅褥瘡対策チームへの参加状況は、以下のとおりである。

図表 301 在宅褥瘡対策チームへの参加状況



図表 302 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（在宅褥瘡対策チームに参加している事業所）

（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	4	0.8	0.5	1.0
機能強化型 2	6	0.3	0.5	0.0
機能強化型以外	13	1.0	1.5	0.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

④複数の実施主体による訪問看護の実施状況

複数の実施主体による訪問看護の実施状況についてみると、「機能強化型1」では、平成28年9月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」が平均3.0人、このうち「同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数」が平均0.1人で、平成27年9月と比較するとそれぞれ0.4人、0.1人多くなっていた。

図表 303 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型1、n=96）

(単位：人)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	2.6	2.8	2.0	3.0	3.1	2.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	2.5	2.7	2.0	2.9	3.0	2.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人数	0.2	0.9	0.0	0.2	0.6	0.0
同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

「機能強化型2」では、平成28年9月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」が平均2.2人、このうち「同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数」が平均0.1人で、平成27年9月と比較するとそれぞれ0.2人、0.1人多くなっていた。

図表 304 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型2、n=114）

(単位：人)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	2.0	2.9	1.0	2.2	3.4	1.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	2.0	2.9	1.0	2.2	3.4	1.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人数	0.0	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0
同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数	0.0	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

「機能強化型以外」では、平成 28 年 9 月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」が平均 1.3 人、このうち「同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人数」が平均 0.0 人で、平成 27 年 9 月と比較すると「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」は 0.4 人多くなっていた。

図表 305 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型以外、n=289）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	0.9	2.3	0.0	1.3	3.5	1.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	0.9	2.2	0.0	1.2	3.3	0.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人数	0.1	0.4	0.0	0.1	0.8	0.0
同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人数	0.0	-	0.0	0.0	0.1	0.0

（注）上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人がいる事業所に、1 か所目の訪問看護ステーションが緊急訪問できなかった理由を尋ねたところ、「事前の取り決めで対応することになっていたから」が多かった。

図表 306 1 か所目の訪問看護ステーションが緊急訪問できなかった理由

（同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人がいる事業所、複数回答）

（単位：件）

	事業所数	1 か所目の訪問看護ステーションが 24 時間対応体制加算を届出していないから	1 か所目の訪問看護ステーションが対応困難な状態だったから	1 か所目の訪問看護ステーションに利用者から連絡がつかなかったから	事前の取り決めで対応することになっていたから	その他	無回答
機能強化型 1	6	0	2	1	2	0	1
機能強化型 2	4	1	0	0	2	1	0
機能強化型以外	2	0	1	0	1	0	0

（注）「その他」の内容としては「もう一か所はリハビリのみで訪問している事業所だから」が挙げられた。

⑤病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況

平成 28 年 9 月 1 か月間における病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況、訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し状況は、以下のとおりである。

訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書のいずれも、「受け渡しのあった病院・診療所数」、「書面（紙）での受け渡し回数」の平均値は、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。電子ファイル等での受け渡しはほとんどなかった。

図表 307 病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況（平成 28 年 9 月 1 か月間）

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1(n=96)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	21.6	19.2	16.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	33.0	33.2	22.5
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.0	-	0.0
機能強化型 2(n=113)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	13.4	12.1	9.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	22.9	28.8	15.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.1	0.6	0.0
機能強化型以外 (n=312)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	6.7	8.9	4.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	9.5	13.2	5.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.1	1.1	0.0

(注) すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 308 病院・診療所との訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し状況
(平成 28 年 9 月 1 か月間)

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1(n=99)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	30.1	22.1	25.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	53.8	59.7	35.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.0	-	0.0
機能強化型 2(n=117)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	21.4	18.5	15.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	36.6	40.5	28.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.3	2.2	0.0
機能強化型以外 (n=316)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	10.1	12.2	6.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	14.6	18.3	9.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.3	5.1	0.0

(注) すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

⑥医療保険の利用者に関する情報提供や共有の状況

平成 28 年 9 月 1 か月間に、医療保険の利用者について情報提供や共有を行った施設・事業所数及び利用者数をみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、居宅介護支援事業所、病院、診療所との情報提供や共有が多かった。

図表 309 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型 1）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(n=73)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	9.1	11.2	5.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	15.2	25.4	10.0
診療所(n=68)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	8.7	16.5	4.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	16.1	20.7	9.0
歯科診療所 (n=71)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.3	0.6	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	0.9	0.0
保険薬局 (n=63)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	2.0	4.8	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.8	7.3	1.0
居宅介護支援事業所 (n=62)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	12.0	12.2	8.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	21.1	28.9	11.0
介護老人保健施設 (n=57)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	0.9	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.5	1.0	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=58)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	3.5	6.3	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.9	9.0	1.0
地域包括支援センター (n=61)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	1.0	1.6	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.3	2.3	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=66)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	1.1	1.6	0.5
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.9	3.7	0.5
保育所・幼稚園・学校 (n=68)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.4	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.2	0.7	0.0

(注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。

- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
- ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 310 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型 2）

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=96)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	5.8	7.1	3.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	10.1	14.1	5.5
診療所 (n=89)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	4.7	9.9	2.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	8.1	15.6	2.0
歯科診療所 (n=84)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.3	0.7	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.6	0.0
保険薬局 (n=76)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.9	1.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.5	3.5	0.0
居宅介護支援事業所 (n=83)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	9.1	8.4	8.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	18.4	26.6	10.0
介護老人保健施設 (n=80)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	1.0	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.2	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=76)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	2.1	4.5	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.1	7.0	0.0
地域包括支援センター (n=78)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.9	1.5	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.5	2.7	1.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=80)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	0.8	1.5	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.1	1.9	0.0
保育所・幼稚園・学校(n=83)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.4	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.3	0.0

(注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。

- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
- ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 311 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型以外）

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=262)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	2.2	3.2	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.2	8.4	2.0
診療所 (n=248)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	1.5	2.7	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.3	8.3	1.0
歯科診療所 (n=240)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.3	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.4	0.0
保険薬局 (n=230)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	0.9	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.6	1.6	0.0
居宅介護支援事業所(n=229)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	3.2	4.4	2.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.8	7.4	2.0
介護老人保健施設 (n=236)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.3	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.4	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=225)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	0.6	1.7	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.7	1.8	0.0
地域包括支援センター (n=230)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	1.0	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.1	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=231)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	0.4	1.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.3	0.0
保育所・幼稚園・学校 (n=238)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.0	0.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.3	0.0

(注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。

- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
- ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に、医療保険の利用者について療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、居宅介護支援事業所、病院、診療所との授受が多かった。

図表 312 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型 1）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=73)	療養に関する文書を提供した回数	8.4	11.9	5.0
	療養に関する文書を受け取った回数	5.2	6.8	3.0
診療所 (n=68)	療養に関する文書を提供した回数	10.0	19.9	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	7.5	18.2	0.0
歯科診療所 (n=71)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
保険薬局 (n=63)	療養に関する文書を提供した回数	1.6	6.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.2	6.0	0.0
居宅介護支援事業所 (n=62)	療養に関する文書を提供した回数	13.2	27.0	3.0
	療養に関する文書を受け取った回数	8.9	20.6	2.0
介護老人保健施設 (n=57)	療養に関する文書を提供した回数	0.3	0.7	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=58)	療養に関する文書を提供した回数	1.3	3.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.7	1.9	0.0
地域包括支援センター (n=61)	療養に関する文書を提供した回数	1.1	3.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.7	2.4	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=66)	療養に関する文書を提供した回数	0.9	2.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.3	0.8	0.0
保育所・幼稚園・学校 (n=68)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	-	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。
- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
 - ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 313 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型 2）

（単位：回）

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=96)	療養に関する文書を提供した回数	7.5	13.1	3.0
	療養に関する文書を受け取った回数	4.6	6.8	3.0
診療所 (n=89)	療養に関する文書を提供した回数	7.8	19.0	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	3.2	6.6	0.0
歯科診療所 (n=84)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	2.9	0.0
保険薬局 (n=76)	療養に関する文書を提供した回数	0.5	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	1.2	4.0	0.0
居宅介護支援事業所 (n=83)	療養に関する文書を提供した回数	11.8	22.8	4.0
	療養に関する文書を受け取った回数	5.4	10.6	2.0
介護老人保健施設 (n=80)	療養に関する文書を提供した回数	0.3	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.2	1.1	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=76)	療養に関する文書を提供した回数	1.0	2.8	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.2	0.0
地域包括支援センター (n=78)	療養に関する文書を提供した回数	1.1	2.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.3	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=80)	療養に関する文書を提供した回数	0.6	1.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.3	0.0
保育所・幼稚園・学校 (n=83)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	0.2	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。
- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
 - ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 314 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）
（機能強化型以外）

（単位：回）

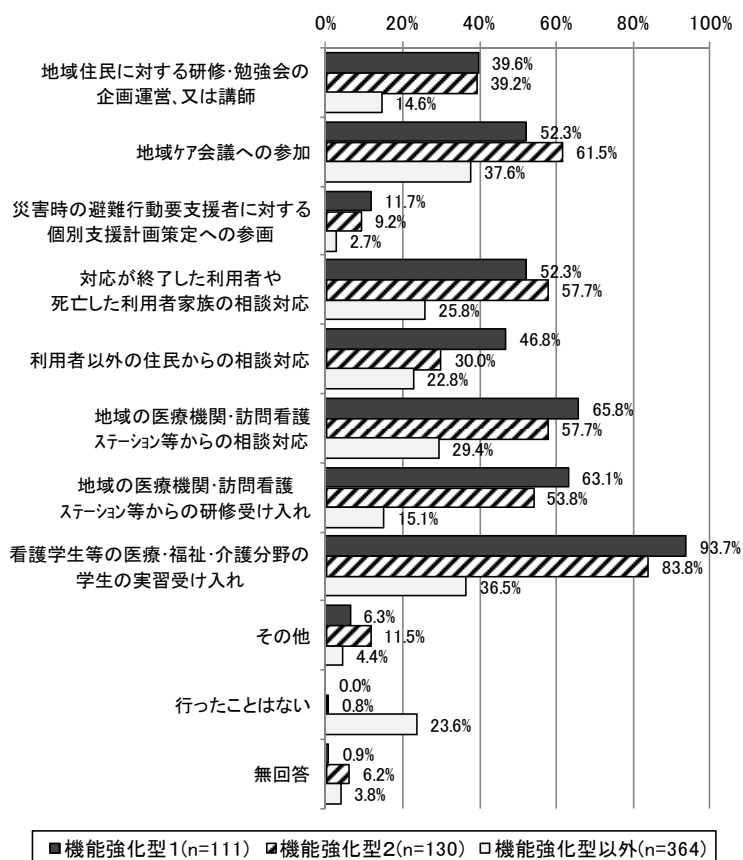
		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=262)	療養に関する文書を提供した回数	2.9	6.7	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	1.9	4.1	1.0
診療所 (n=248)	療養に関する文書を提供した回数	3.4	8.5	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.1	5.8	0.0
歯科診療所 (n=240)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.3	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
保険薬局 (n=230)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	1.8	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.3	2.2	0.0
居宅介護支援事業所 (n=229)	療養に関する文書を提供した回数	3.3	8.7	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.1	6.5	0.0
介護老人保健施設 (n=236)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.3	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=225)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.2	1.3	0.0
地域包括支援センター (n=230)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	0.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.5	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=231)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.6	0.0
保育所・幼稚園・学校 (n=238)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	0.2	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。
- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
 - ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

⑦地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）

平成 28 年 4 月～9 月における地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）についてみると、「機能強化型 1」では、「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」が 93.7%で最も多く、次いで「地域の医療機関・訪問看護ステーション等からの相談対応」（65.8%）であった。「機能強化型 2」では、「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」が 83.8%で最も多く、次いで「地域ケア会議への参加」（61.5%）であった。「機能強化型以外」では、「地域ケア会議への参加」が 37.6%で最も多く、次いで「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」（36.5%）であった。

図表 315 地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）
（平成 28 年 4 月～9 月、複数回答）



(注)・平成 28 年 4 月～9 月に、地域住民に対する情報提供や相談、人材育成のための研修等の地域での活動（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）として行ったことについて尋ねている。

- ・「その他」の内容として、「認知症カフェ」、「地域行事への参加、研修会の手伝い」、「地域の催しで血圧測定・健康チェック」、「障害者サロンの定期的な実施」、「高校生ボランティアの体験受け入れ」、「中学生の職場体験の受け入れ」等が挙げられた。

(5) 訪問看護を行った利用者の状況

【調査対象等】

調査対象：訪問看護調査の対象事業所の利用者のうち、平成 28 年 9 月に医療保険での訪問看護を行った人（1 事業所につき 4 名）を本調査の対象とした。

回答する 4 名は、①15 歳未満の利用者のうち五十音順で最初の利用者 1 名、
②精神科訪問看護基本療養費の算定利用者のうち五十音順で最初の利用者 1 名、
③ 条件①・②で選ばれた利用者を除く全利用者のうち五十音順で早い利用者 2 名とした。なお、条件①・②に該当する利用者がいない場合は、条件③に基づく回答者数を増やし、4 名分の回答とした。

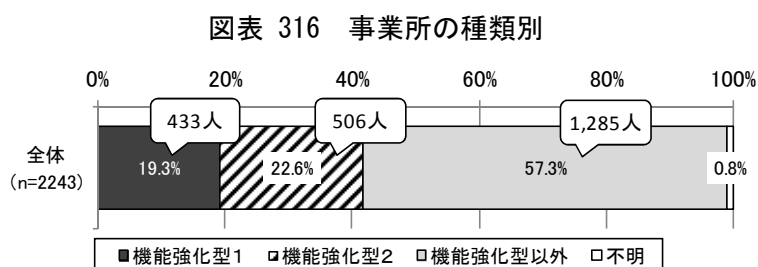
回答数：利用者 2,243 人分

回答者：事業所職員

①利用者の属性・病状等

1) 事業所の種類

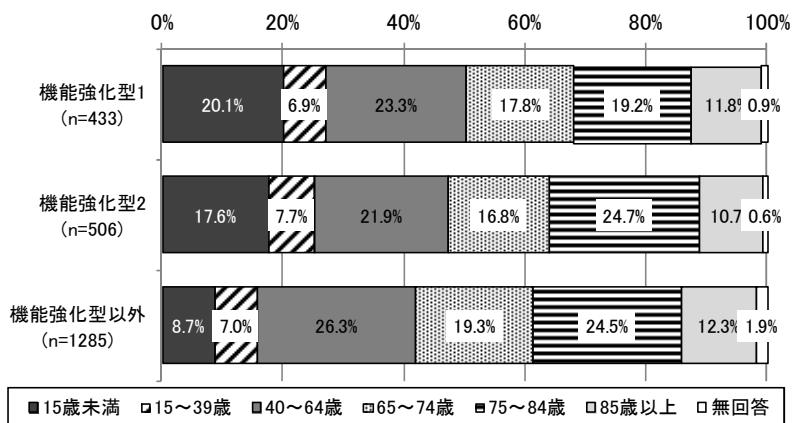
有効回答が得られた利用者 2,243 人の事業所の種類についてみると、「機能強化型 1」が 19.3%、「機能強化型 2」が 22.6%、「機能強化型以外」が 57.3%であった。



2) 年齢

利用者の年齢は、以下のとおりである。

図表 317 年齢（事業所の種類別）

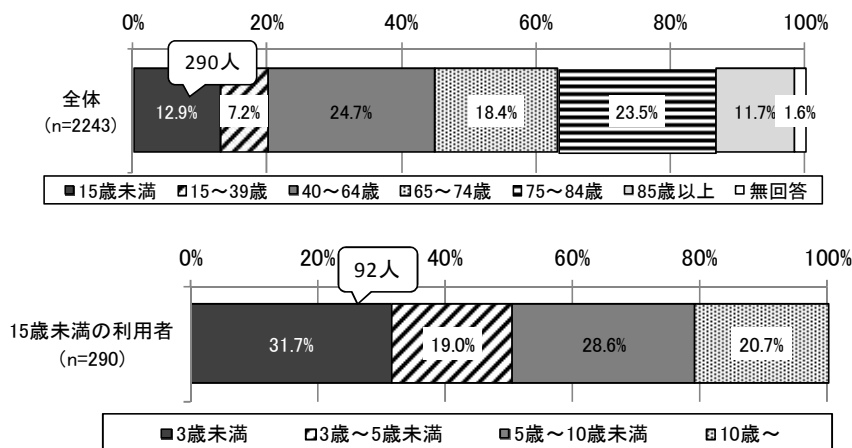


(単位：歳)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	429	54.1	29.2	64.0
機能強化型 2	503	56.4	28.7	66.0
機能強化型以外	1,261	61.8	24.2	69.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 318 年齢（全利用者、15歳未満の利用者）



(単位：歳)

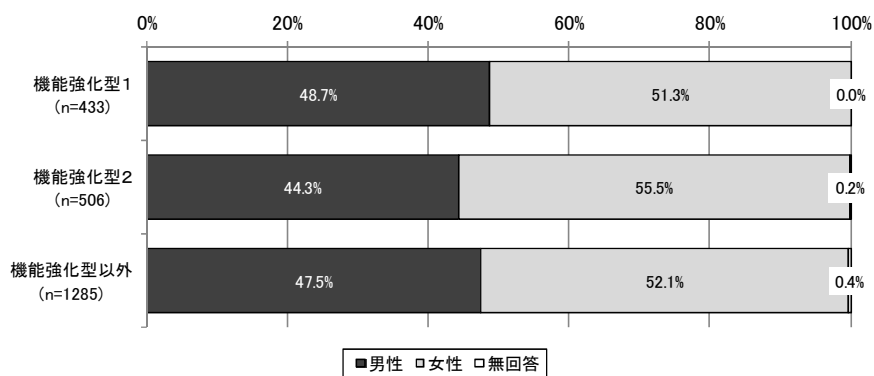
	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,208	59.0	26.5	67.0
【再掲】15歳未満の利用者	290	5.5	4.2	4.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

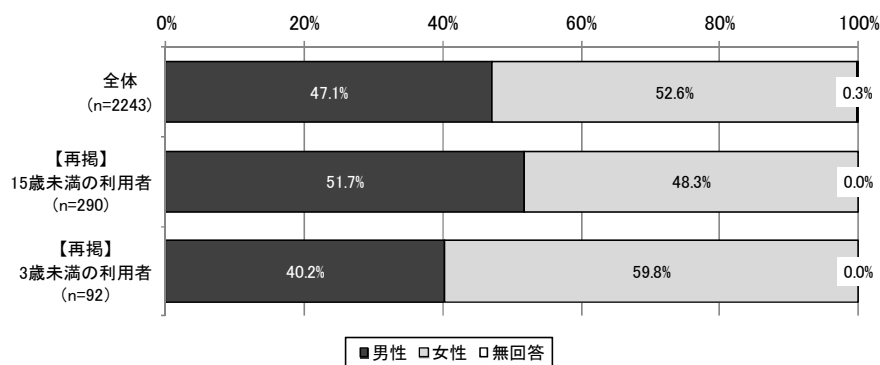
3) 性別

利用者の性別は、以下のとおりである。

図表 319 性別（事業所の種類別）



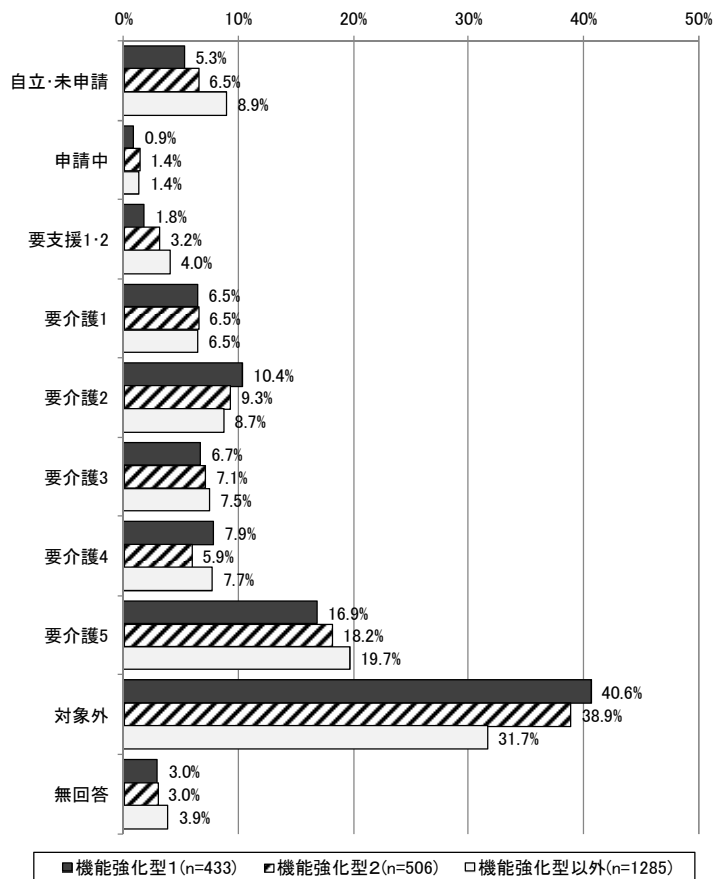
図表 320 性別（年齢別）



4) 要介護度（直近）

利用者の要介護度は、以下のとおりである。

図表 321 要介護度（直近、単数回答）（事業所の種類別）

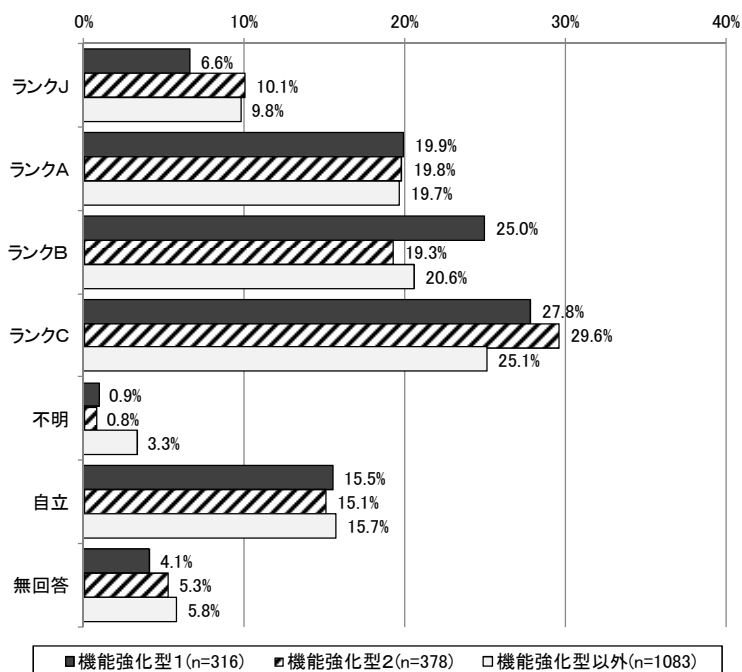


(注) 40歳未満の利用者はすべて「対象外」。

5) 障害高齢者の日常生活自立度（直近）

40歳以上の利用者の障害高齢者の日常生活自立度は、以下のとおりである。

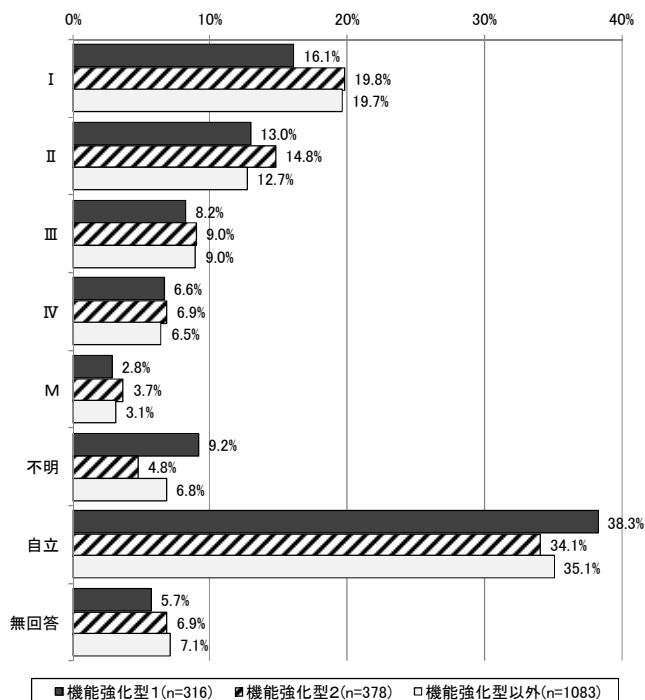
図表 322 障害高齢者の日常生活自立度（直近、40歳以上の利用者、単数回答）
（事業所の種類別）



6) 認知症高齢者の日常生活自立度（直近）

40歳以上の利用者の認知症高齢者の日常生活自立度は、以下のとおりである。

図表 323 認知症高齢者の日常生活自立度（直近、40歳以上の利用者、単数回答）
（事業所の種類別）

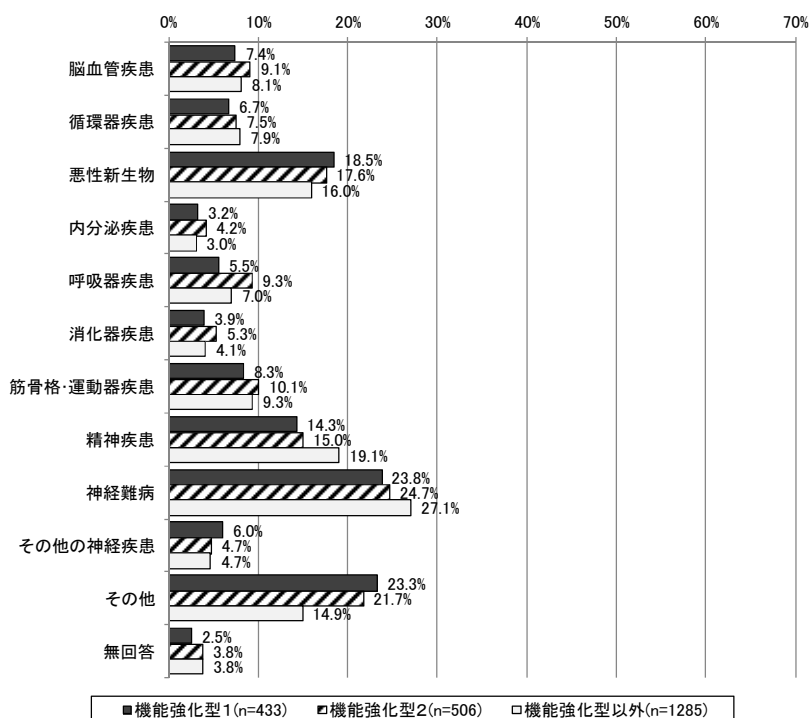


7) 現在在宅療養を続けている原因の病名

現在在宅療養を続けている原因の病名についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では、「神経難病」が最も多く、次いで「悪性新生物」であった。「機能強化型以外」では、「神経難病」が最も多く、次いで「精神疾患」であった。

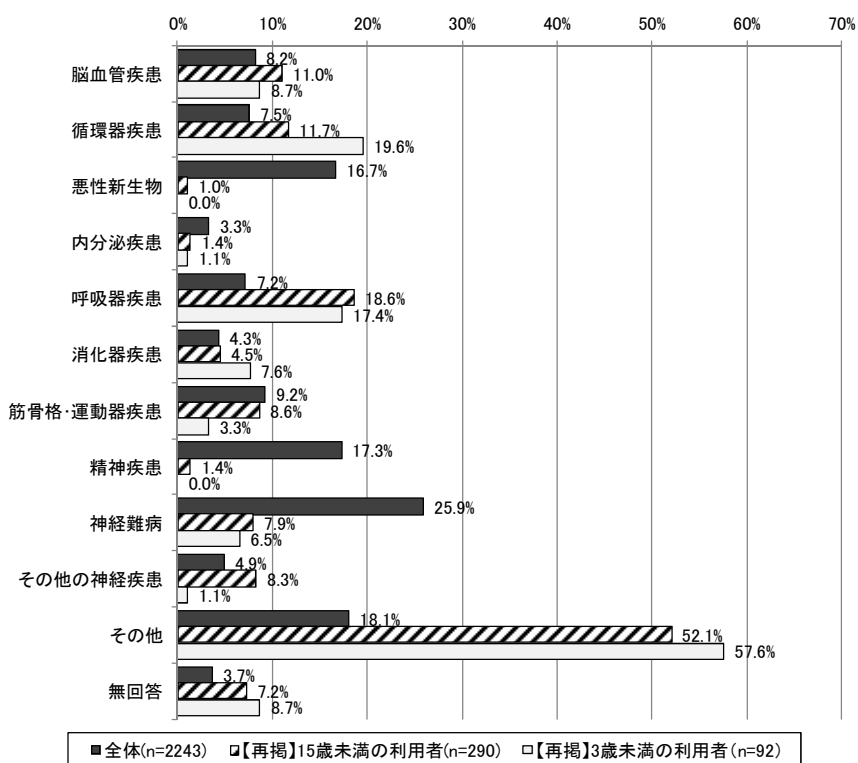
「15歳未満の利用者」では、「呼吸器疾患」が最も多かった。「3歳未満の利用者」では、「循環器疾患」が最も多かった。

図表 324 現在在宅療養を続けている原因の病名（複数回答）（事業所の種類別）



(注) 「その他」の内容として、「染色体異常」、「先天性異常」、「HIV 脳症」、「嚥下障害」、「急性脳症後遺症」、「重度褥瘡」、「事故後後遺症」、「廃用症候群」、「超低出生体重児」、「老衰」等が挙げられた。

図表 325 現在在宅療養を続けている原因の病医名（複数回答）（年齢別）

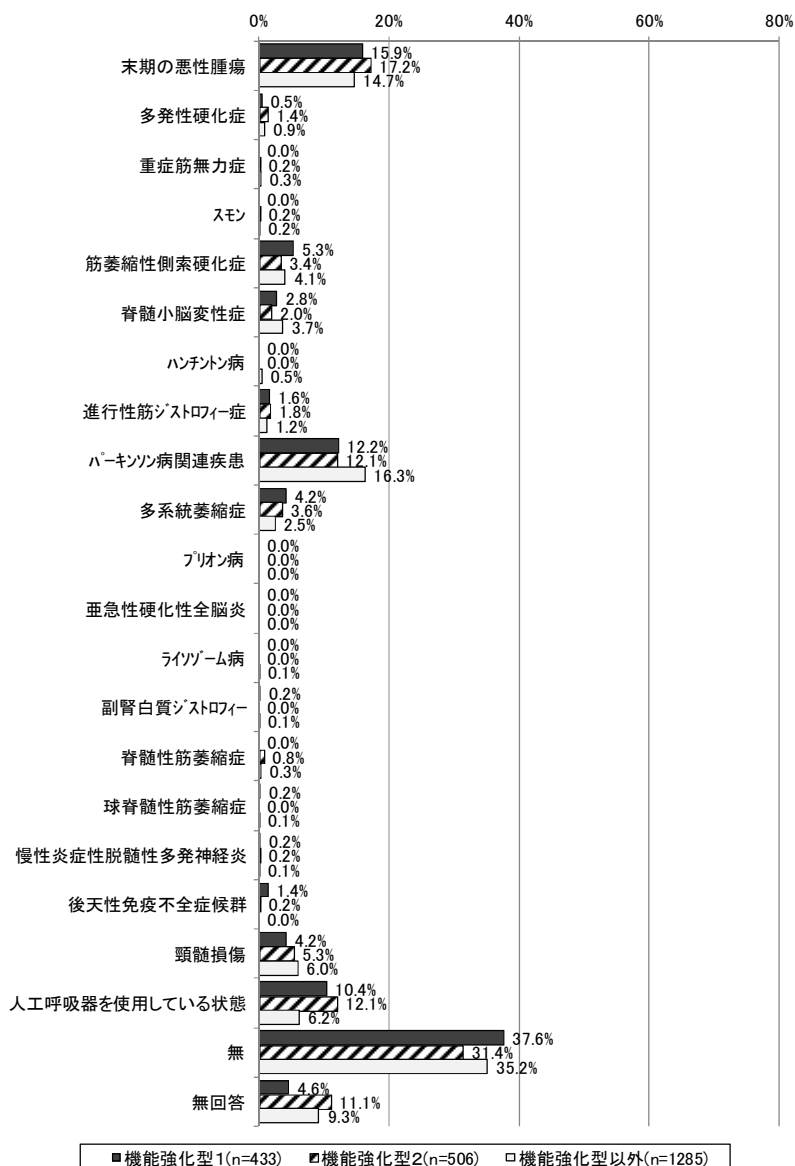


8) 別表第七の疾病等の該当の有無

別表第七の疾病等の該当の有無についてみると、「機能強化型 1」では、「末期の悪性腫瘍」が 15.9%で最も多く、次いで「パーキンソン病関連疾患」(12.2%)であった。「機能強化型 2」では、「末期の悪性腫瘍」が 17.2%で最も多く、次いで「パーキンソン病関連疾患」、「人工呼吸器を使用している状態」(ともに 12.1%)であった。「機能強化型以外」では「パーキンソン病関連疾患」が 16.3%で最も多く、次いで「末期の悪性腫瘍」(14.7%)であった。

「15 歳未満の利用者」と「3 歳未満の利用者」では、いずれも「人工呼吸器を利用している状態」がそれぞれ 34.8%、19.6%で最も多かった。また、「無」の割合は「15 歳未満の利用者」が 44.1%、「3 歳未満の利用者」が 58.7%で、「全体」と比較するとその割合は高かった。

図表 326 別表第七の疾病等の該当の有無（複数回答）（事業所の種類別）



図表 327 別表第七の疾病等の該当の有無（複数回答）（年齢別）

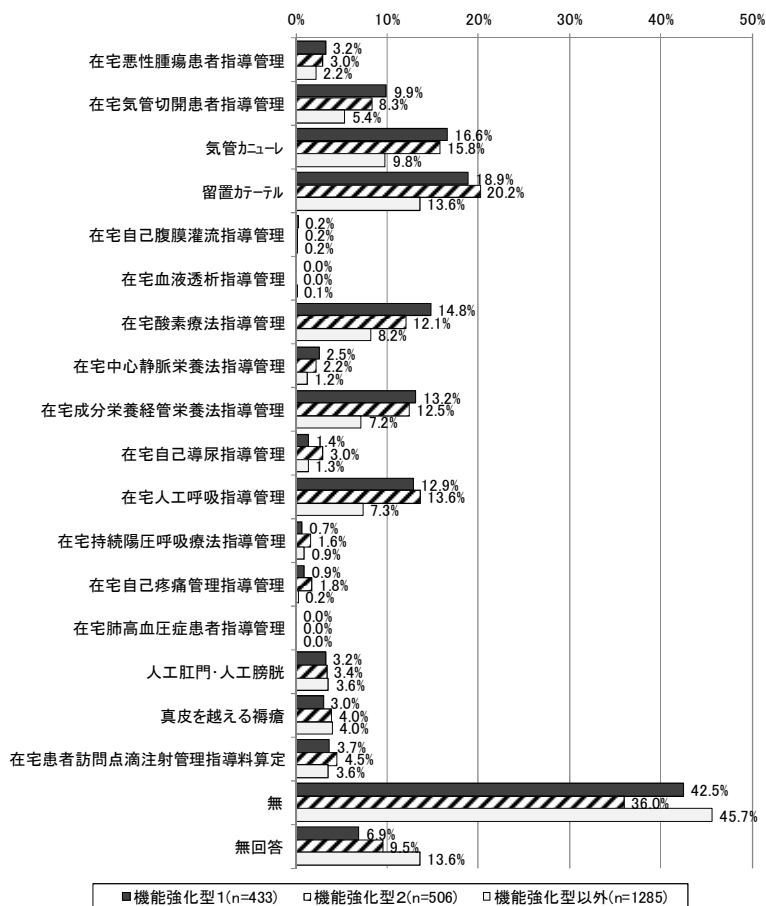


9) 別表第八に掲げる特別な管理の有無

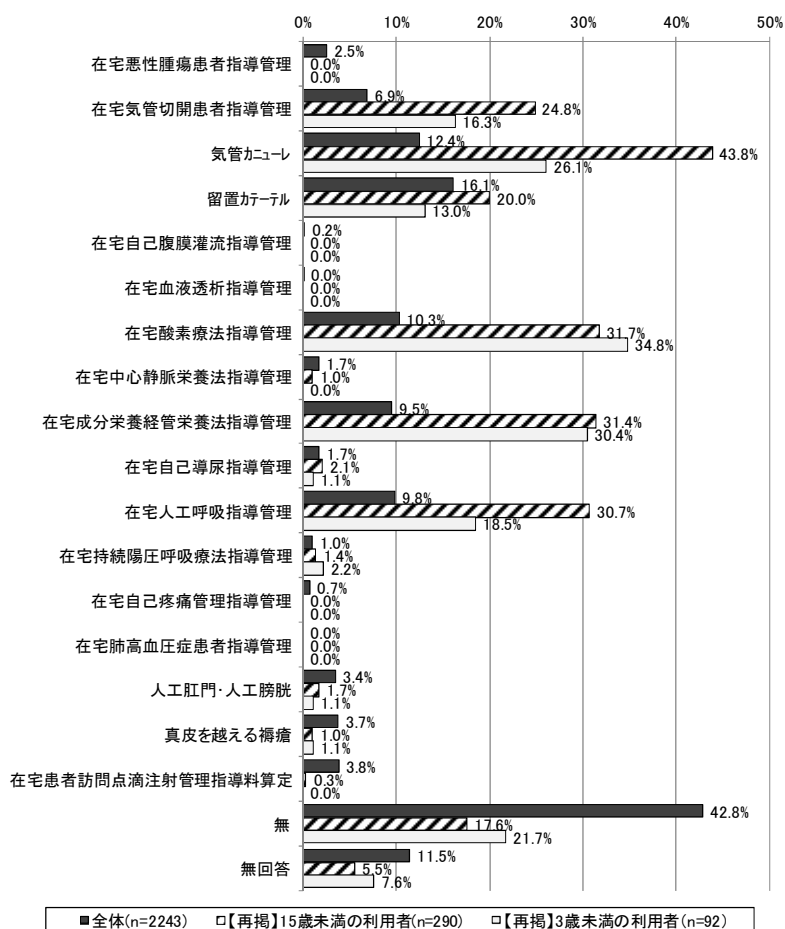
別表第八に掲げる特別な管理の有無についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも「留置カテーテル」がそれぞれ 18.9%、20.2%、13.6%で最も多く、次いで「気管カニューレ」(16.6%、15.8%、9.8%)であった。

「15 歳未満の利用者」では、「気管カニューレ」が 43.8%で最も多く、次いで「在宅酸素療法指導管理」(31.7%)であった。「3 歳未満の利用者」では、「在宅酸素療法指導管理」が 34.8%で最も多く、次いで「在宅成分栄養経管栄養法指導管理」(30.4%)であった。また、「無」の割合は「15 歳未満の利用者」が 17.6%、「3 歳未満の利用者」が 21.7%で、「全体」と比較するとその割合は低かった。

図表 328 別表第八に掲げる特別な管理の有無（複数回答）（事業所の種類別）



図表 329 別表第八に掲げる特別な管理の有無（複数回答）（年齢別）

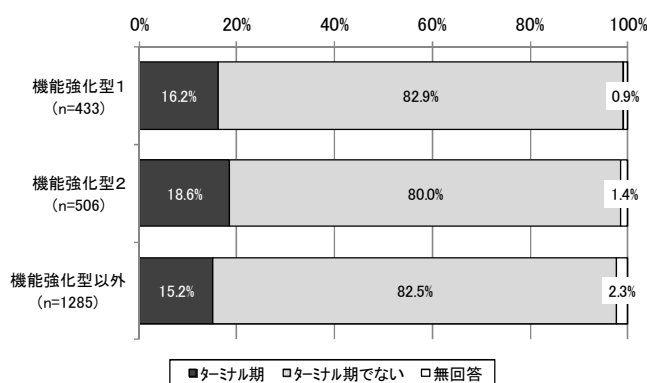


10) ターミナル期かどうか

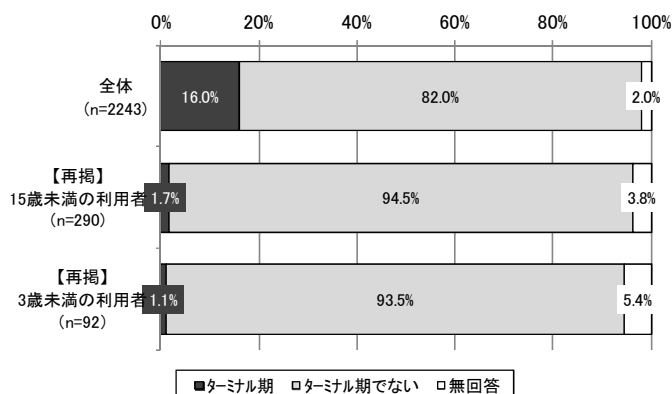
ターミナル期かどうかを尋ねたところ、「ターミナル期」の割合は、「機能強化型 1」で 16.2%、「機能強化型 2」で 18.6%、「機能強化型以外」で 15.2%であった。

「15 歳未満の利用者」と「3 歳未満の利用者」のいずれも、ターミナル期の利用者はほとんどいなかった。

図表 330 ターミナル期かどうか（事業所の種類別）



図表 331 ターミナル期かどうか（年齢別）



図表 332 余命の見込み（ターミナル期の利用者）（事業所の種類別）

（単位：か月）

事業所の種類	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	56	3.8	2.8	3.0
機能強化型 2	74	4.2	3.1	3.0
機能強化型以外	139	3.6	2.5	3.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 333 余命の見込み（ターミナル期の利用者）（年齢別）

（単位：か月）

年齢別	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	269	3.8	2.7	3.0
【再掲】15歳未満の利用者	2	6.0	-	6.0

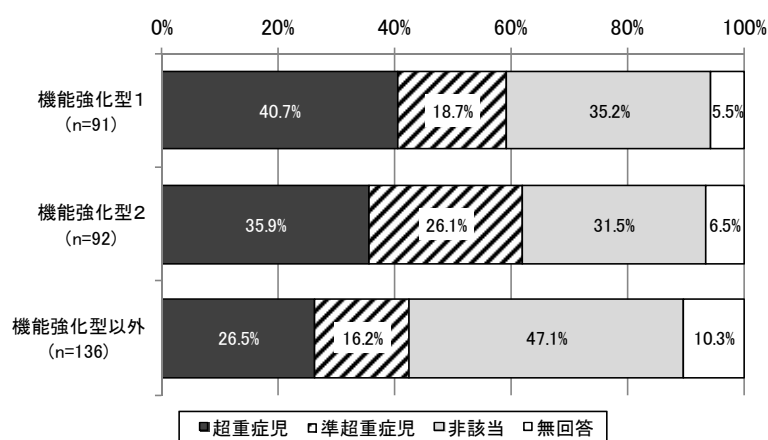
（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

11) 超重症児・準超重症児かどうか

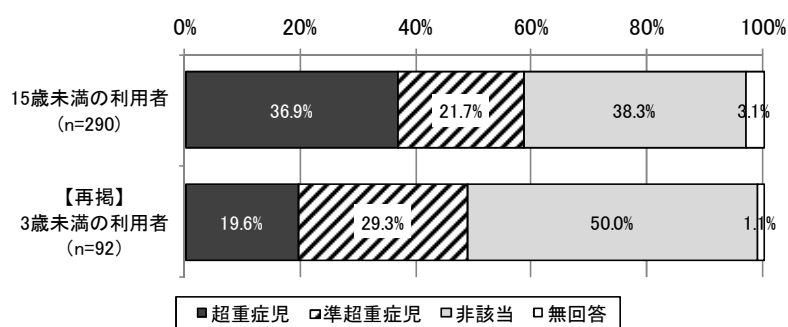
15歳未満の利用者について、超重症児・準超重症児かどうかを尋ねたところ、「機能強化型1」では「超重症児」が40.7%、「準超重症児」が18.7%であった。「機能強化型2」では「超重症児」が35.9%、「準超重症児」が26.1%であった。「機能強化型以外」では「超重症児」が26.5%、「準超重症児」が16.2%であった。「機能強化型1」と「機能強化型2」は、「超重症児」と「準超重症児」が占める割合が、「機能強化型以外」と比較すると高かった。

「15歳未満の利用者」全体では、「超重症児」が36.9%、「準超重症児」が21.7%であった。「3歳未満の利用者」では、「超重症児」が19.6%、「準超重症児」が29.3%であった。

図表 334 超重症児・準超重症児かどうか（15歳未満の利用者）（事業所の種類別）



図表 335 超重症児・準超重症児かどうか（15歳未満の利用者）（年齢別）

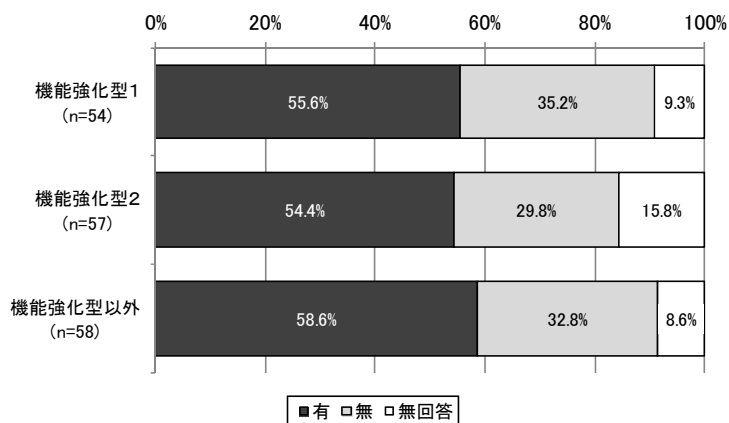


12) 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無

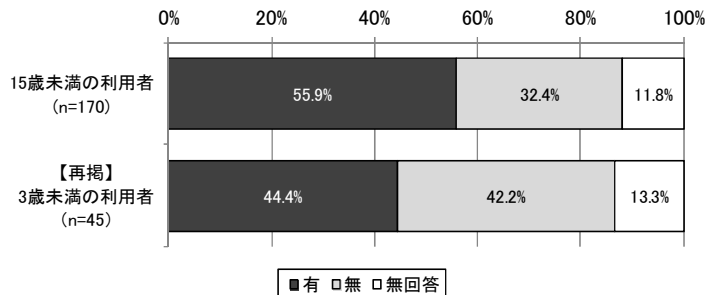
超重症児・準超重症児の利用者について、特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無を尋ねたところ、「有」の割合は、「機能強化型1」が55.6%、「機能強化型2」が54.4%、「機能強化型以外」が58.6%であった。

「有」の割合は、「15歳未満の利用者」では55.9%、「3歳未満の利用者」では44.4%であった。

図表 336 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無
(超重症児・準超重症児の利用者)(事業所の種類別)



図表 337 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無
(超重症児・準超重症児の利用者)(年齢別)

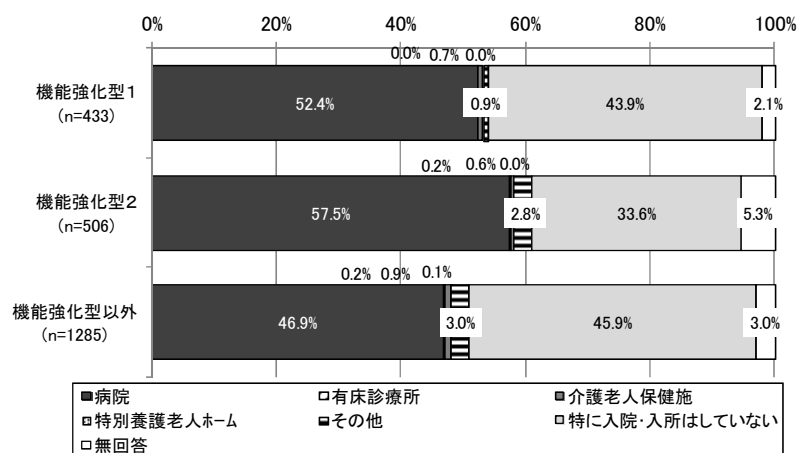


13) 在宅移行前の居場所

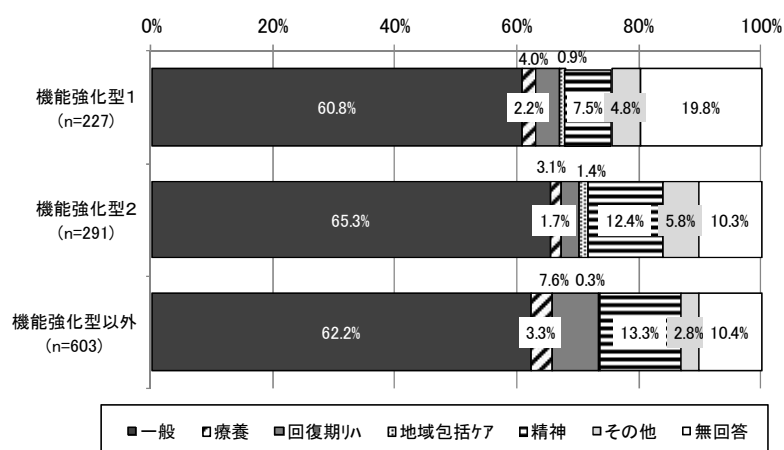
在宅移行前の居場所は、以下のとおりである。

在宅移行前に病院にいた利用者について、在宅移行前にいた病院の病床機能を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「一般」病床が最も多く、次いで「精神」病床であった。

図表 338 在宅移行前の居場所（事業所の種類別）



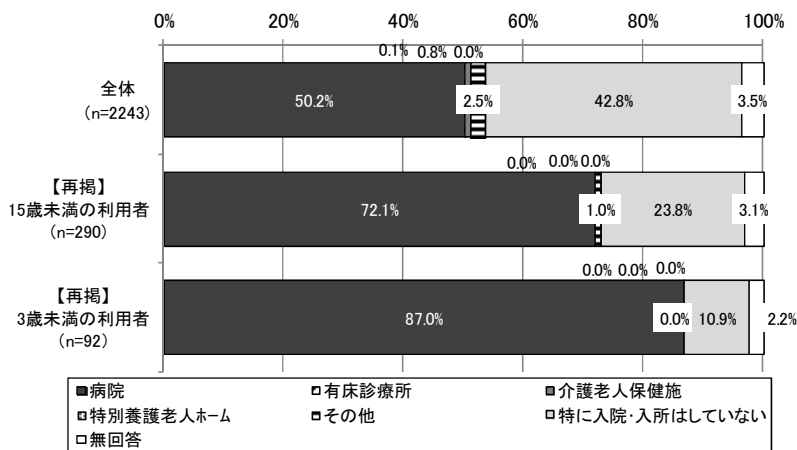
図表 339 在宅移行前にいた病院の病床機能（在宅移行前に病院にいた利用者）
（事業所の種類別）



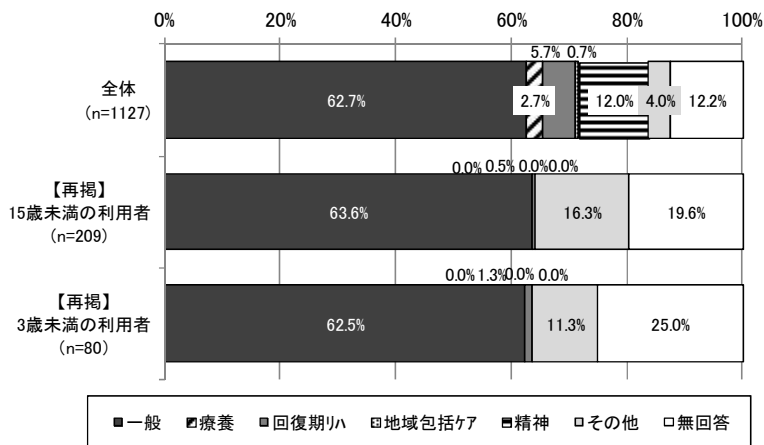
在宅移行前の居場所について年齢別にみると、「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも「病院」が最も多く、「全体」と比較するとその割合は高かった。

在宅移行前に病院にいた利用者について、在宅移行前にいた病院の病床機能を尋ねたところ、「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも「一般」病床が最も多かった。

図表 340 在宅移行前の居場所（年齢別）



図表 341 在宅移行前にいた病院の病床機能（在宅移行前に病院にいた利用者）（年齢別）

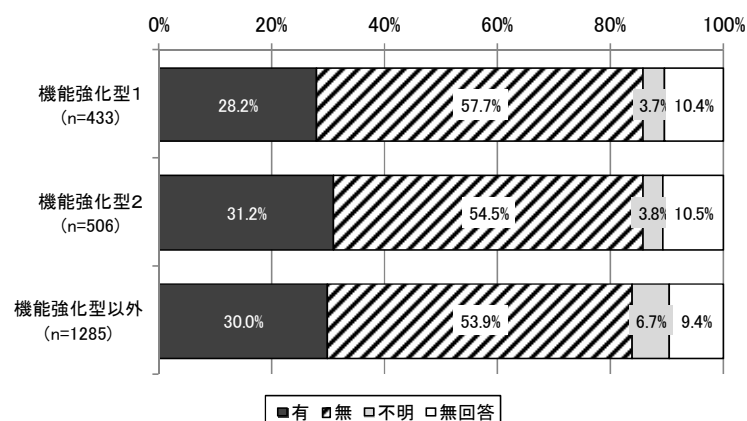


14) 直近の退院状況（半年以内）

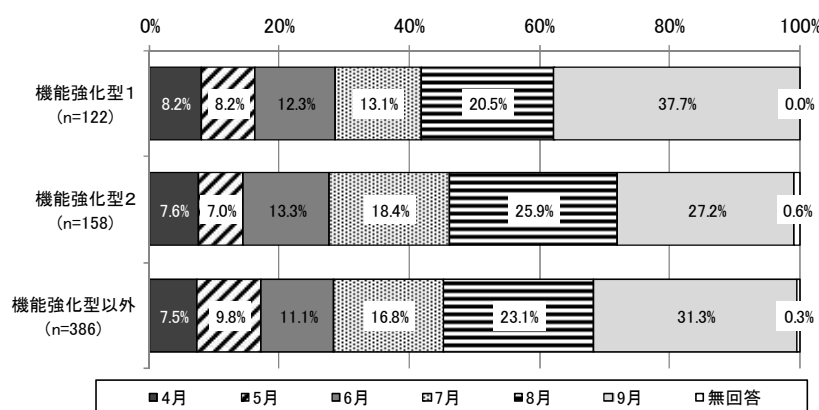
半年以内の退院状況について事業所の種類別にみると、「有」の割合は、「機能強化型1」が28.2%、「機能強化型2」が31.2%、「機能強化型以外」が30.0%であった。

半年以内に退院した利用者について、直近の退院時期を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「9月」が最も多かった。

図表 342 直近の退院状況（半年以内）（事業所の種類別）



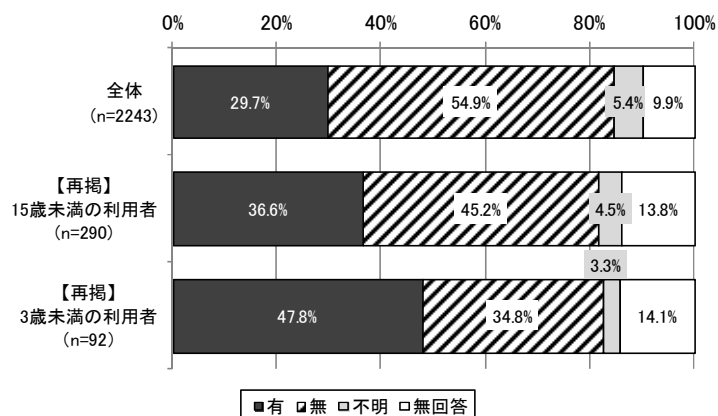
図表 343 直近の退院月（半年以内に退院した利用者）（事業所の種類別）



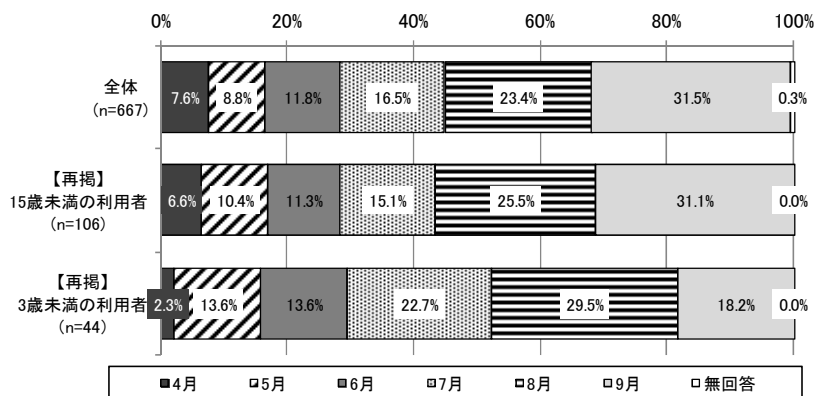
半年以内の退院状況について年齢別にみると、「有」の割合は、「15歳未満の利用者」では36.6%、「3歳未満の利用者」では47.8%であった。

半年以内に退院した利用者について、直近の退院時期を尋ねたところ、「15歳未満の利用者」では「9月」、「3歳未満の利用者」では「8月」が最も多かった。

図表 344 直近の退院状況（半年以内）（年齢別）



図表 345 直近の退院月（半年以内に退院した利用者）（年齢別）



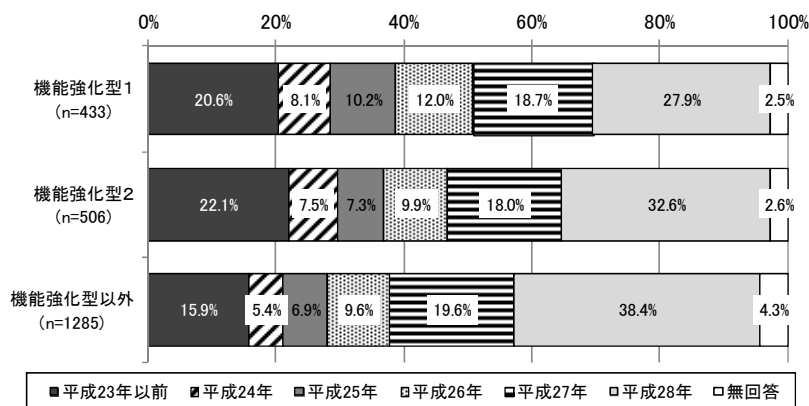
②訪問看護の提供状況等

1) 自事業所による訪問看護の開始時期

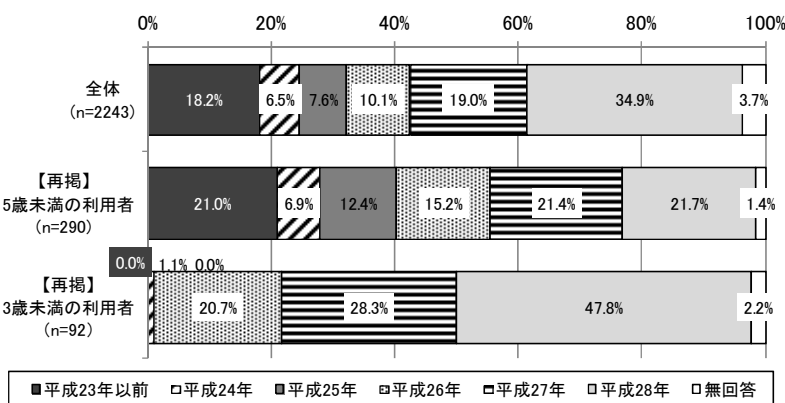
自事業所による訪問看護の開始時期についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも「平成 28 年」が最も多かった。

「15 歳未満の利用者」、「3 歳未満の利用者」のいずれも、「平成 28 年」が最も多かった。

図表 346 自事業所による訪問看護の開始時期（事業所の種類別）



図表 347 自事業所による訪問看護の開始時期（年齢別）

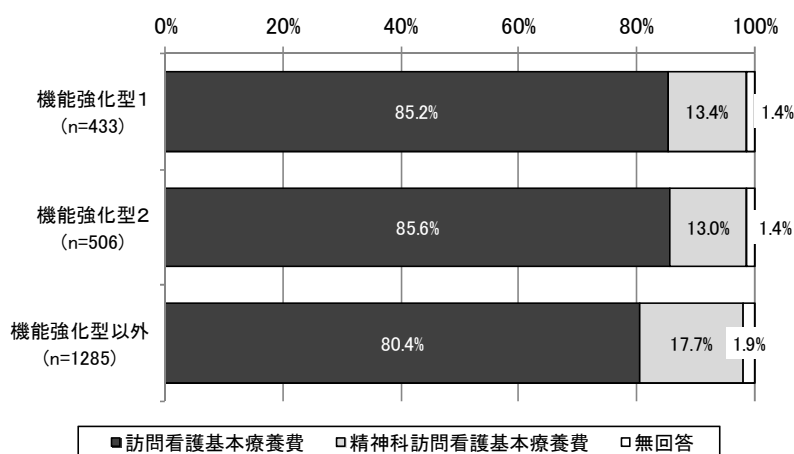


2) 訪問看護の種別

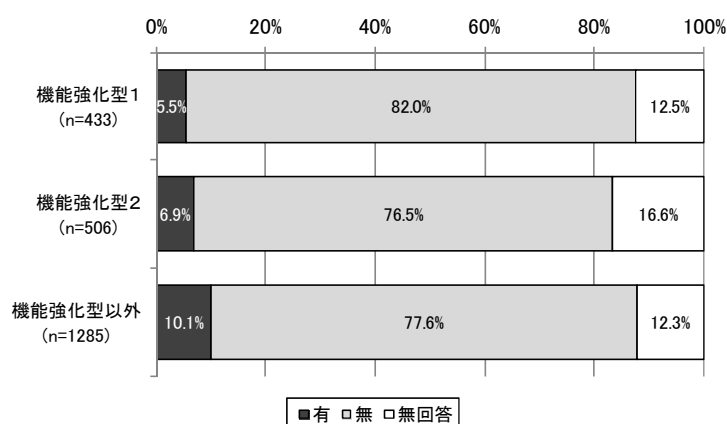
平成 28 年 9 月 1 か月間における訪問看護の種別についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護基本療養費」が 8 割以上であった。

訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 5.5%、「機能強化型 2」が 6.9%、「機能強化型以外」が 10.1%であった。

図表 348 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月 1 か月間）（事業所の種類別）



図表 349 訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無（事業所の種類別）

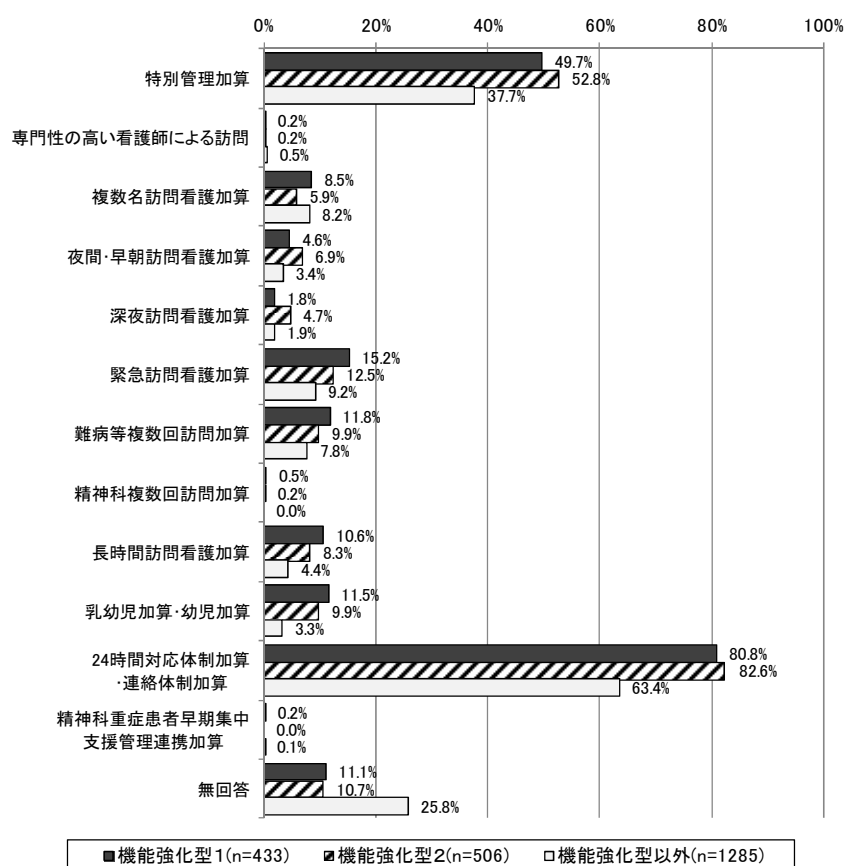


3) 訪問看護の加算等の状況

訪問看護の加算の状況についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」がそれぞれ 80.8%、82.6%、63.4%で最も多く、次いで「特別管理加算」(49.7%、52.8%、37.7%)であった。

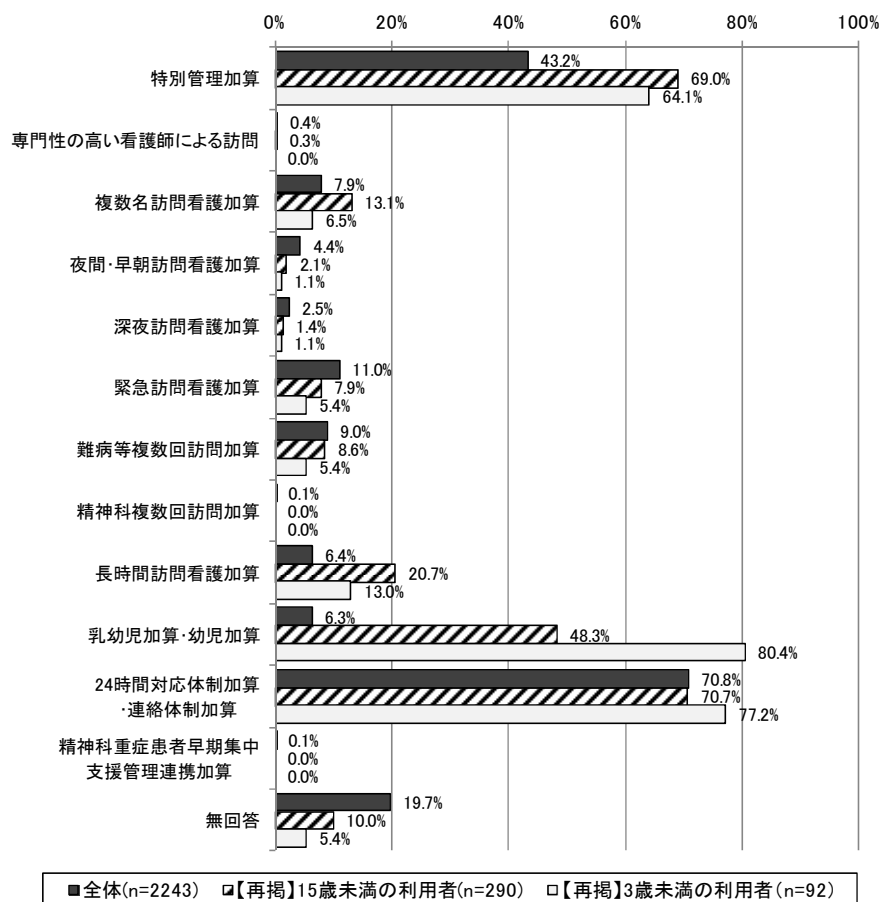
「15 歳未満の利用者」では、「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」が 70.7%で最も多く、次いで「特別管理加算」(69.0%)、「乳幼児加算・幼児加算」(48.3%)であった。「3 歳未満の利用者」では、「乳幼児加算・幼児加算」が 80.4%で最も多く、次いで「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」(77.2%)、「特別管理加算」(64.1%)であった。

図表 350 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（事業所の種類別）



(注) 「専門性の高い看護師による訪問」があった場合の看護師は、「機能強化型 1」では「緩和ケア」(1 件)、「機能強化型 2」では「無回答」(1 件)、「機能強化型以外」では「緩和ケア」(3 件)、「褥瘡ケア」(3 件)、「無回答」(1 件)であった。

図表 351 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（年齢別）

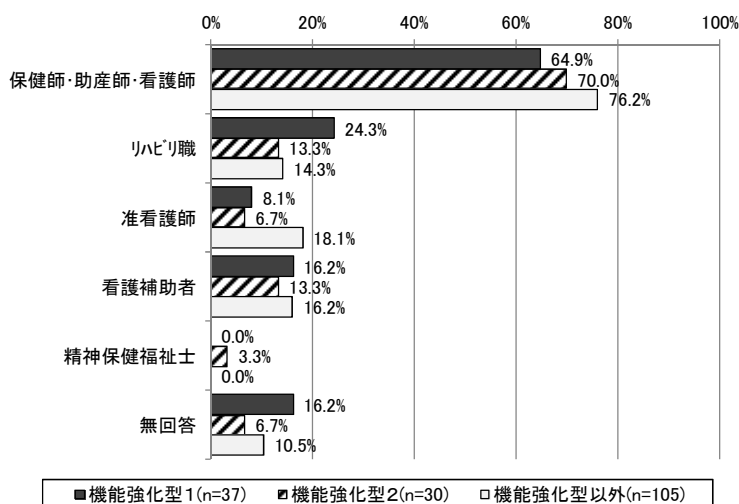


(注) 「専門性の高い看護師による訪問」があった場合の訪問看護師は、「15歳未満の利用者」では「緩和ケア」(1件)であった。

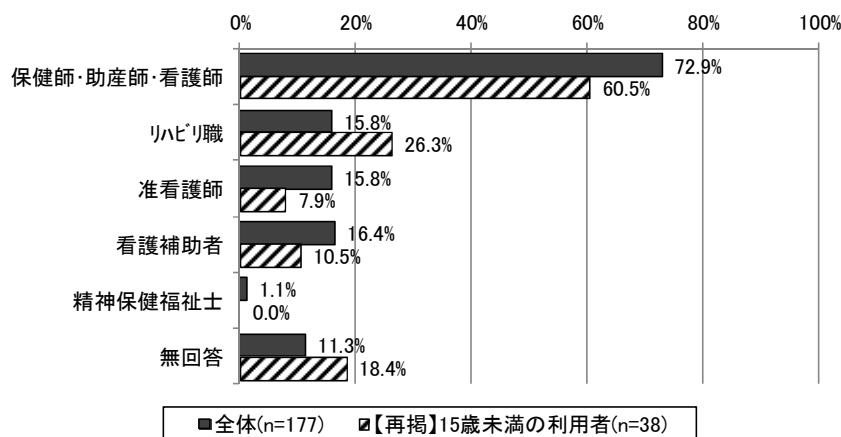
複数名訪問看護加算を算定している利用者について、複数名訪問看護加算での訪問職種を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」が最も多かった。

「15歳未満の利用者」では、「保健師・助産師・看護師」が最も多く、「全体」と比較すると「リハビリ職」の割合が高かった。

図表 352 複数名訪問看護加算での訪問職種
(複数名訪問看護加算を算定している利用者、複数回答)(事業所の種類別)



図表 353 複数名訪問看護加算での訪問職種
(複数名訪問看護加算を算定している事業所、複数回答)(年齢別)



(注) 「3歳未満の利用者」では、該当する利用者が6人で「保健師・助産師・看護師」(2件)、「リハビリ職」(1件)、「准看護師」(1件)、「無回答」(3件)であった。

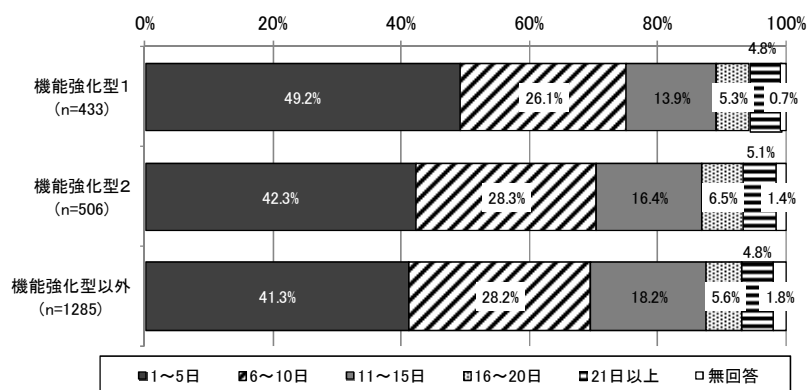
4) 訪問日数

平成28年9月1か月間の訪問日数についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1～5日」がそれぞれ49.2%、42.3%、41.3%で最も多かった。平均訪問

日数についてみると、「機能強化型1」では平均7.6日（中央値6.0）、「機能強化型2」では平均8.2日（中央値7.0）、「機能強化型以外」では平均8.4日（中央値7.0）であった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「1～5日」がそれぞれ49.3%、54.3%で最も多かった。平均訪問日数についてみると、「15歳未満の利用者」では平均6.7日（中央値5.0）、「3歳未満の利用者」では平均6.5日（中央値5.0）で、「全体」と比較すると少なかった。

図表 354 訪問日数（平成28年9月1か月間）（事業所の種類別）

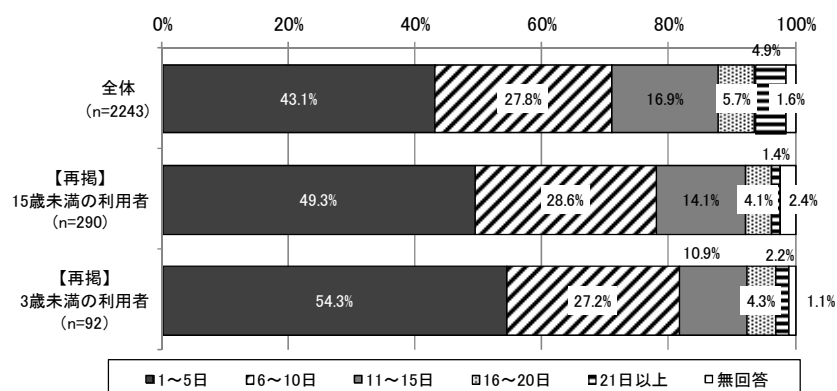


（単位：日）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	430	7.6	5.8	6.0
機能強化型2	499	8.2	6.1	7.0
機能強化型以外	1,262	8.4	6.1	7.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 355 訪問日数（平成28年9月1か月間）（年齢別）



（単位：日）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,207	8.2	6.0	7.0
【再掲】15歳未満の利用者	283	6.7	4.8	5.0
【再掲】3歳未満の利用者	91	6.5	5.1	5.0

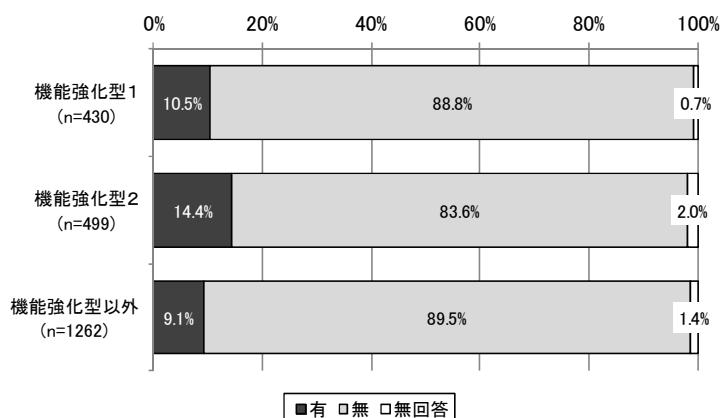
（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

5) 緊急訪問の状況

平成 28 年 9 月 1 か月間の緊急訪問の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 10.5%、「機能強化型 2」が 14.4%、「機能強化型以外」が 9.1%であった。

「15 歳未満の利用者」、「3 歳未満の利用者」では、緊急訪問はほとんどなかった。

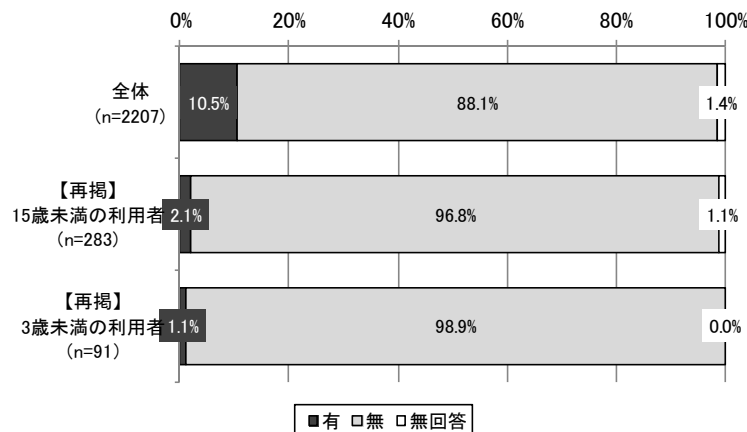
図表 356 緊急訪問の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）（事業所の種類別）



(注)・訪問日数について記入があった利用者に見ている。

・緊急訪問の理由として、「カテーテルトラブル」、「カニューレトラブル」、「意識レベル低下」、「痛み」、「嘔吐」、「吸引」、「急性増悪」、「血圧低下」、「血便・下血」、「呼吸困難」、「脱水」、「点滴もれ」、「転倒」、「尿管の閉塞」、「発熱」、「不眠・せん妄」、「看取り」、「心臓停止」等が挙げられた。

図表 357 緊急訪問の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）（年齢別）

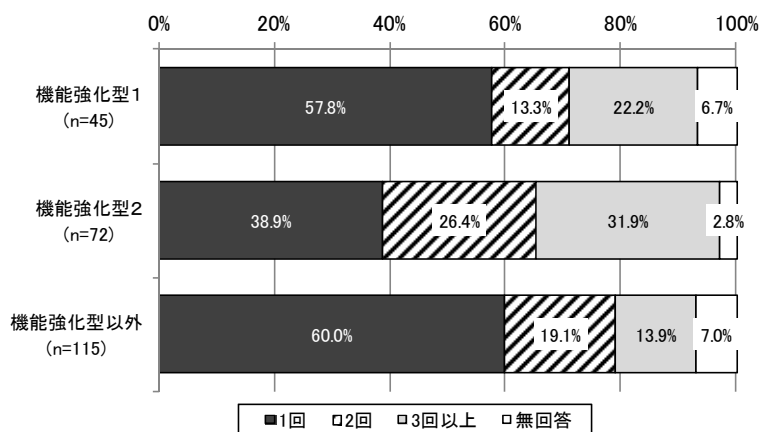


(注) 訪問日数について記入があった利用者に見ている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に緊急訪問があった利用者について、緊急訪問の回数を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1 回」がそれぞれ 57.8%、38.9%、60.0%で最も多かった。平均回数についてみると、「機能強化型 1」では平均 1.9 回（中央値 1.0）、「機能強化型 2」では平均 2.8 回（中央値 2.0）、「機能強化型以外」では平均 1.7 回（中央値 1.0）であった。

「15歳未満の利用者」では「1回」が66.7%で最も多く、平均1.8回（中央値1.0）であった。

図表 358 緊急訪問の回数（平成28年9月1か月間、緊急訪問があった利用者）
（事業所の種類別）

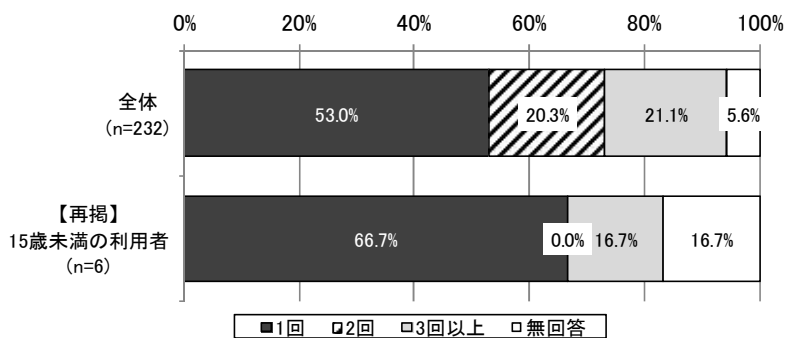


（単位：回）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	42	1.9	1.6	1.0
機能強化型2	70	2.8	3.1	2.0
機能強化型以外	107	1.7	1.2	1.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 359 緊急訪問の回数（平成28年9月1か月間、緊急訪問があった利用者）
（年齢別）



（注）「3歳未満の利用者」では、該当する利用者が1人で「1回」であった。

（単位：回）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	219	2.1	2.1	1.0
【再掲】15歳未満の利用者	5	1.8	1.8	1.0

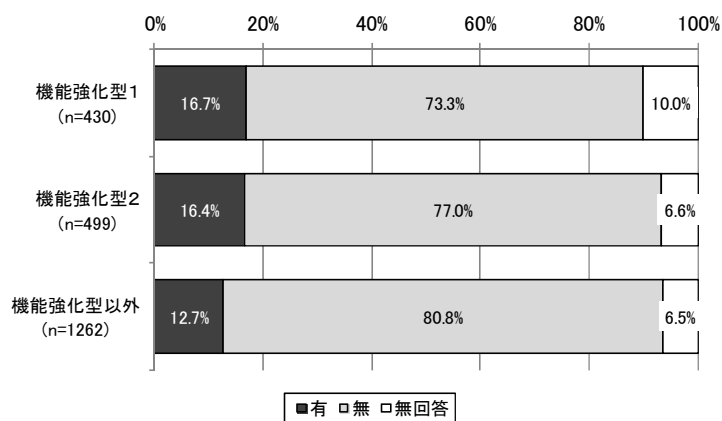
（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

6) 1日に複数回の訪問を行った状況

平成28年9月1か月間における1日に複数回の訪問を行った日の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型1」が16.7%、「機能強化型2」が16.4%、「機能強化型以外」が12.7%であった。

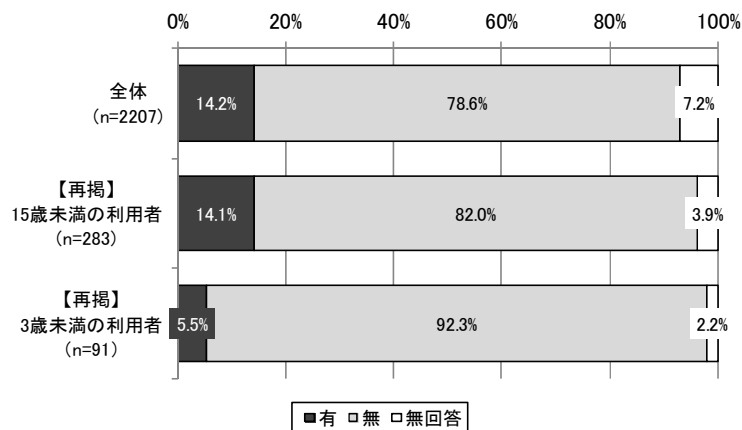
「15歳未満の利用者」では14.1%、「3歳未満の利用者」では5.5%であった。

図表 360 1日に複数回の訪問を行った日の有無（平成28年9月1か月間）
（事業所の種類別）



(注) 訪問日数について記入があった利用者に見ている。

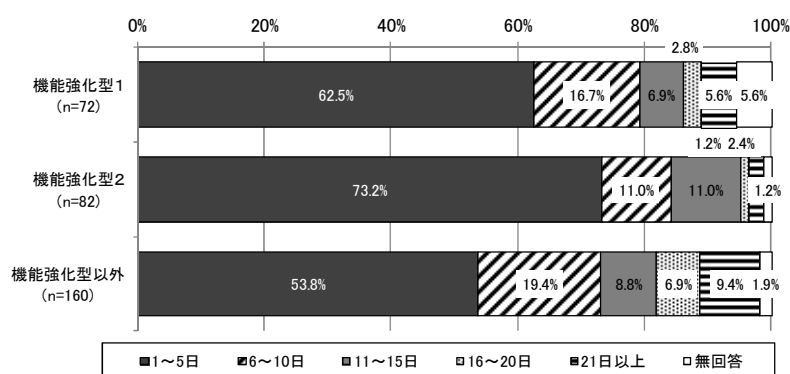
図表 361 1日に複数回の訪問を行った日の有無（平成28年9月1か月間）（年齢別）



(注) 訪問日数について記入があった利用者に見ている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に、1 日に複数回の訪問を行った利用者について、1 日に複数回の訪問を行った日数を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1～5 日」がそれぞれ 62.5%、73.2%、53.8%で最も多かった。1 日に複数回の訪問を行った日数の平均値についてみると、「機能強化型 1」では平均 6.1 日（中央値 4.0）、「機能強化型 2」では平均 4.9 日（中央値 3.0）、「機能強化型以外」では平均 7.8 日（中央値 5.0）であった。「15 歳未満の利用者」では「1～5 日」が 75.0%で最も多く、平均 3.8 日（中央値 3.0）であった。

図表 362 1 日に複数回の訪問を行った日数（平成 28 年 9 月 1 か月間、1 日に複数回の訪問を行った利用者）（事業所の種類別）

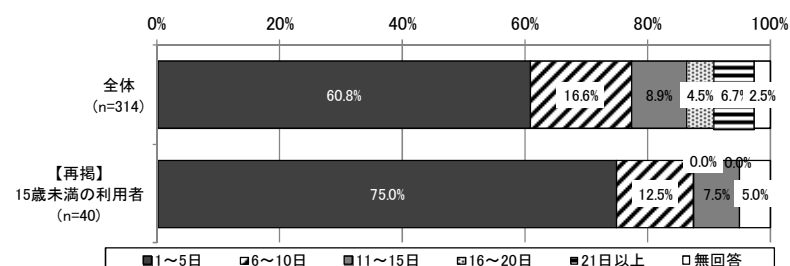


（単位：日）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	68	6.1	6.4	4.0
機能強化型 2	81	4.9	5.5	3.0
機能強化型以外	157	7.8	8.2	5.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 363 1 日に複数回の訪問を行った日数（平成 28 年 9 月 1 か月間、1 日に複数回の訪問を行った利用者）（年齢別）



（注）「3 歳未満の利用者」では、該当する利用者が 5 人で「1～5 日」（3 件）、「6～10 日」（1 件）、「無回答」（1 件）であった。

（単位：日）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	306	6.7	7.2	4.0
【再掲】15 歳未満の利用者	38	3.8	3.2	3.0

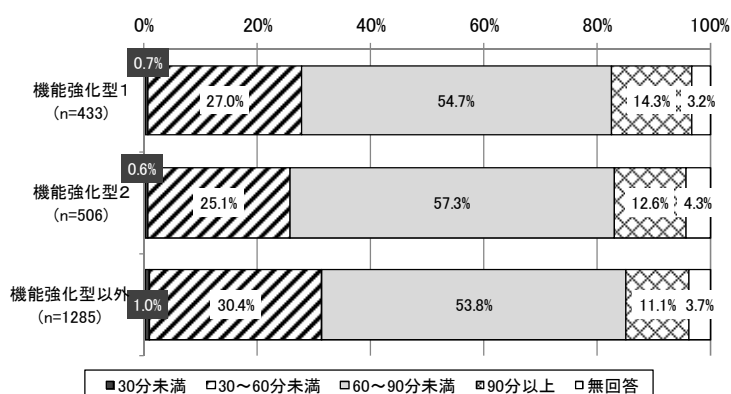
（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

7) 直近の1回の訪問時間

直近の1回の訪問時間についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「60～90分未満」がそれぞれ54.7%、57.3%、53.8%で最も多かった。平均訪問時間についてみると、「機能強化型1」では平均61.0分（中央値60.0）、「機能強化型2」では平均60.5分（中央値60.0）、「機能強化型以外」では平均57.8分（中央値60.0）であった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「60～90分未満」がそれぞれ57.2%、59.8%で最も多く、平均訪問時間はそれぞれ平均68.3分（中央値60.0）、平均65.3分（中央値60.0）で「全体」と比較すると長かった。

図表 364 直近の1回の訪問時間（事業所の種類別）



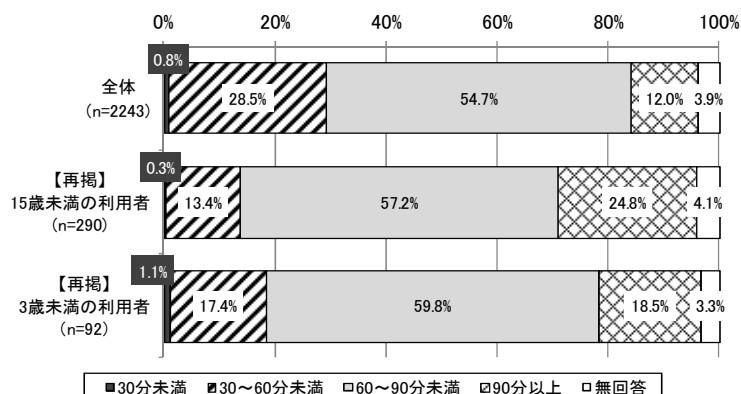
(注) 移動時間は含めない。

(単位：分)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	419	61.0	20.3	60.0
機能強化型2	484	60.5	25.1	60.0
機能強化型以外	1,237	57.8	23.3	60.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 365 直近の1回の訪問時間（年齢別）



(注) 移動時間は含めない。

(単位：分)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,155	59.0	23.2	60.0
【再掲】15歳未満の利用者	278	68.3	20.7	60.0
【再掲】3歳未満の利用者	89	65.3	20.7	60.0

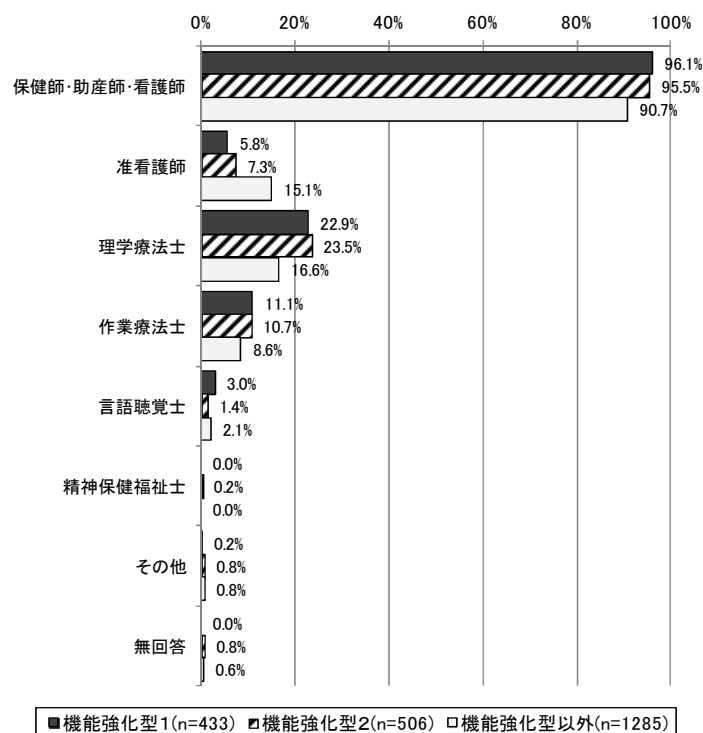
(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

8) 提供する職員の職種

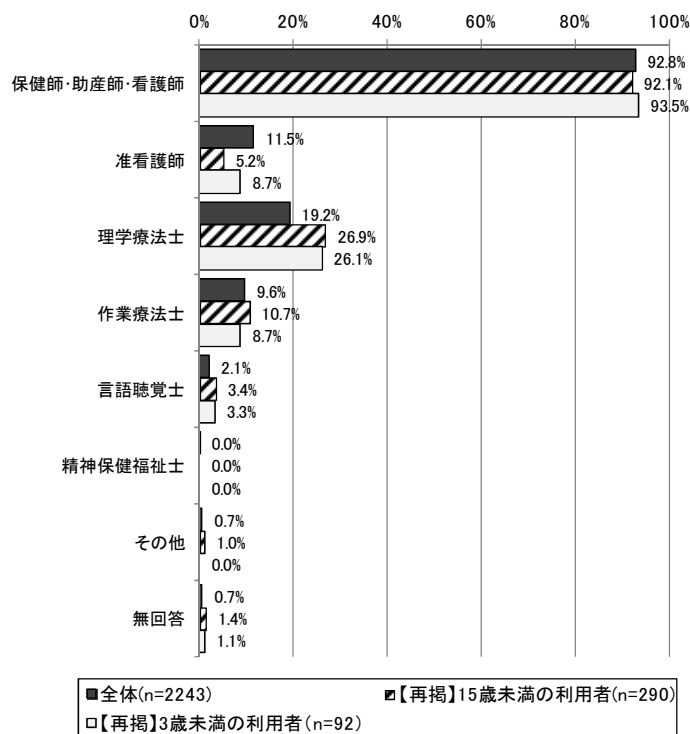
提供する職員の職種についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」がそれぞれ 96.1%、95.5%、90.7%で最も多かった。「機能強化型以外」では、「准看護師」の割合が「機能強化型 1」、「機能強化型 2」と比較すると相対的に高かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」がそれぞれ 92.1%、93.5%で最も多かった。また、「理学療法士」の割合がそれぞれ 26.9%、26.1%で「全体」と比較すると高かった。

図表 366 提供する職員の職種（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（事業所の種類別）



図表 367 提供する職員の職種（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（年齢別）

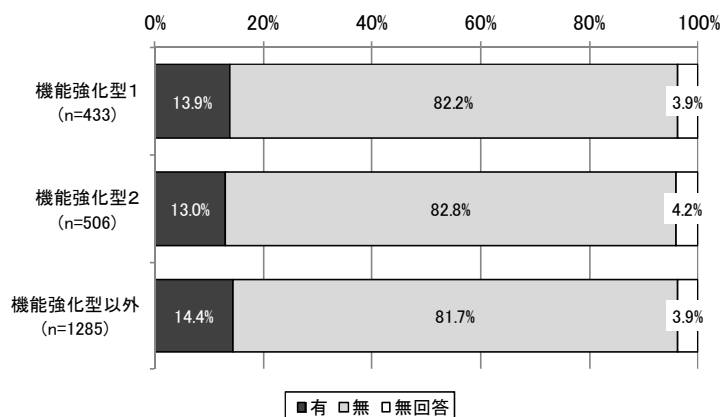


9) 自事業所以外の施設・事業所からの訪問看護の提供状況

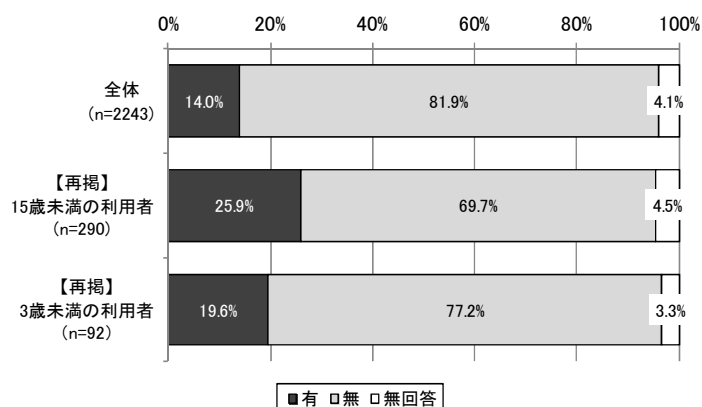
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 13.9%、「機能強化型 2」が 13.0%、「機能強化型以外」が 14.4%であった。

「15 歳未満の利用者」では 25.9%、「3 歳未満の利用者」では 19.6%であった。

図表 368 自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無（事業所の種類別）



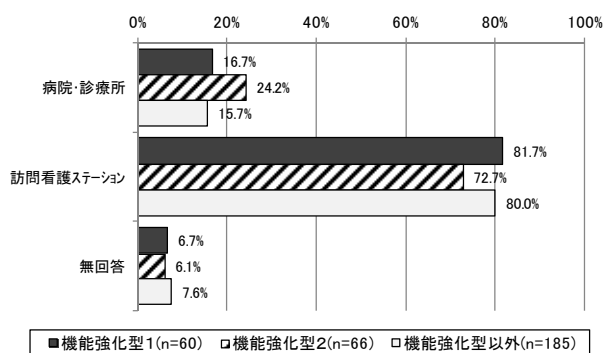
図表 369 自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無（年齢別）



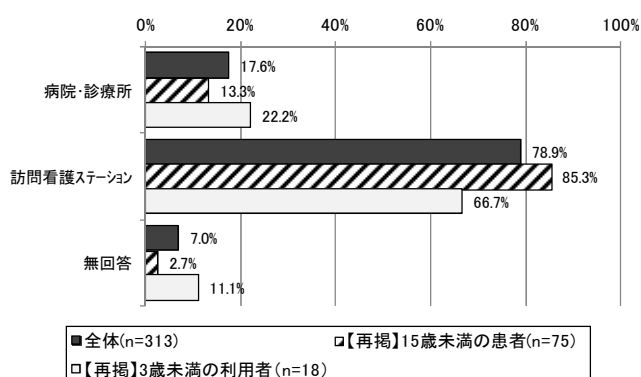
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者について、訪問看護を提供している主体を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護ステーション」がそれぞれ81.7%、72.7%、80.0%で最も多かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「訪問看護ステーション」がそれぞれ85.3%、66.7%で最も多かった。

図表 370 自事業所以外に訪問看護を提供している主体（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（事業所の種類別）



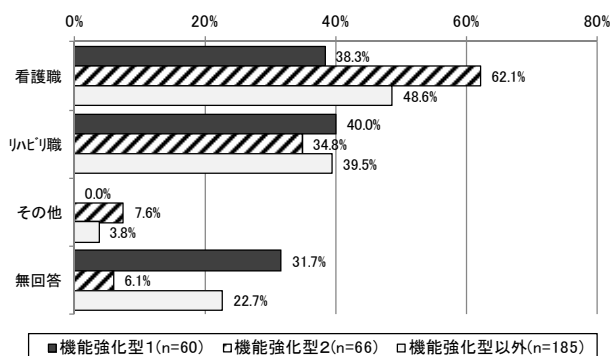
図表 371 自事業所以外に訪問看護を提供している主体（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（年齢別）



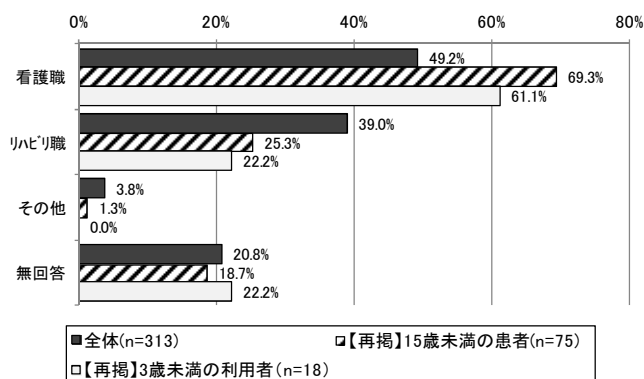
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者について、事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種を尋ねたところ、「機能強化型1」では「リハビリ職」が40.0%で最も多かった。「機能強化型2」、「機能強化型以外」では、「看護職」がそれぞれ62.1%、48.6%で最も多かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「看護職」がそれぞれ69.3%、61.1%で最も多く、「全体」と比較するとその割合が高かった。

図表 372 自事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（事業所の種類別）



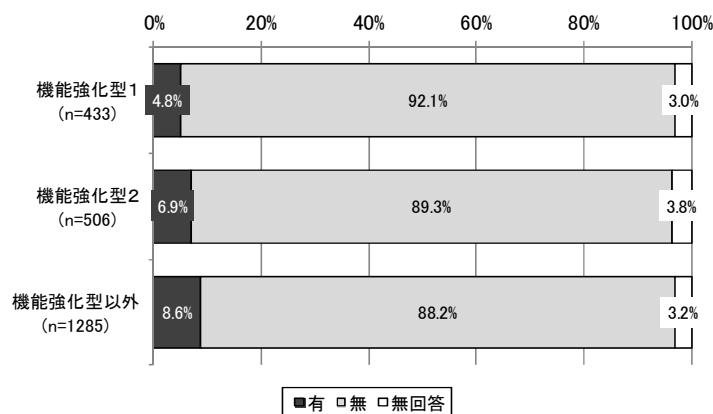
図表 373 自事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（年齢別）



10) 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付状況

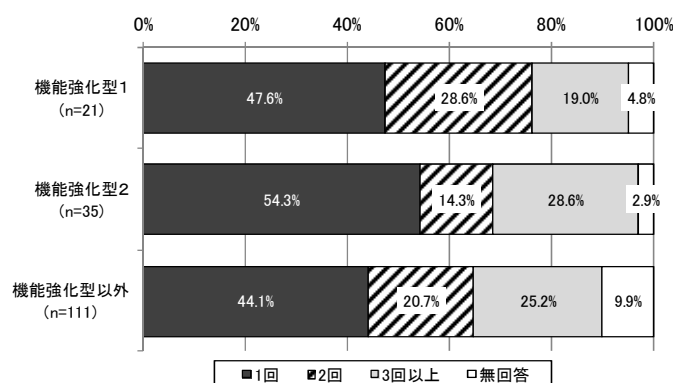
特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 4.8%、「機能強化型 2」が 6.9%、「機能強化型以外」が 8.6%であった。

図表 374 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付の有無（平成 28 年 4 月～9 月）
（事業所の種類別）



特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付があった利用者について、交付回数を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1 回」が最も多かった。平均交付回数についてみると、「機能強化型 1」では平均 2.5 回（中央値 1.5）、「機能強化型 2」では平均 2.6 回（中央値 1.0）、「機能強化型以外」では平均 2.8 回（中央値 2.0）であった。

図表 375 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付回数
（平成 28 年 4 月～9 月、交付があった利用者）（事業所の種類別）



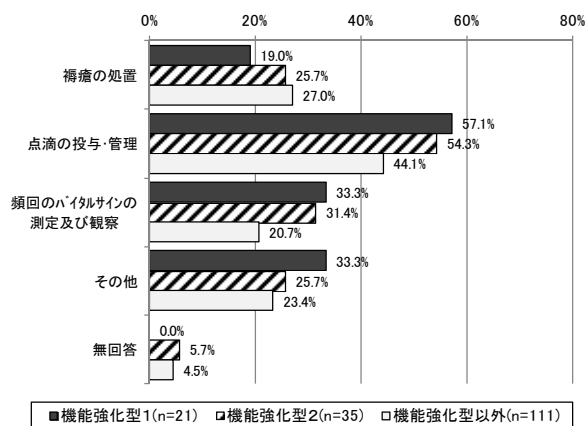
（単位：回）

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	20	2.5	2.6	1.5
機能強化型 2	34	2.6	2.6	1.0
機能強化型以外	100	2.8	3.1	2.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付があった利用者について、特別訪問看護指示書の指示の内容を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「点滴の投与・管理」がそれぞれ57.1%、54.3%、44.1%で最も多かった。

図表 376 特別訪問看護指示書（精神科含む）の指示の内容
（平成28年4月～9月、交付があった利用者、複数回答）（事業所の種類別）

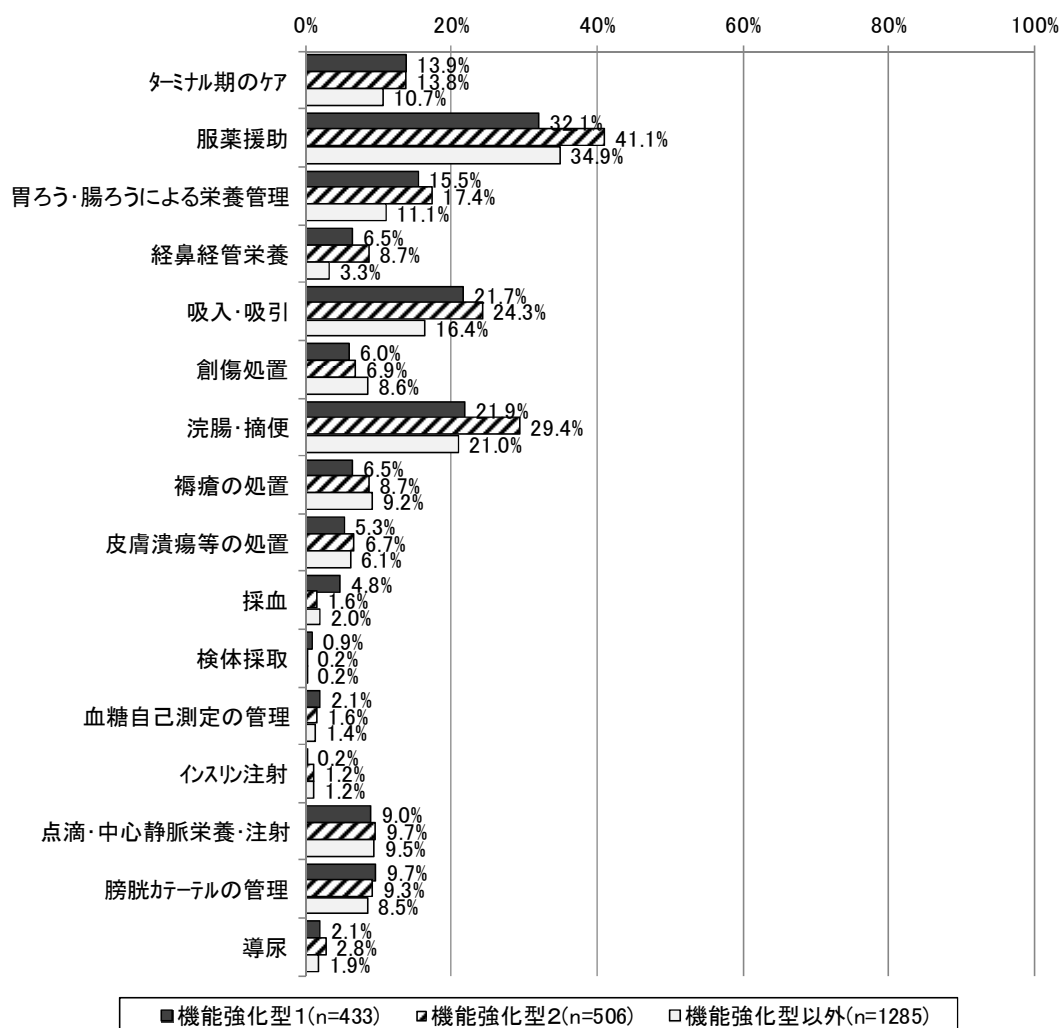


（注）「その他」の内容として、「胃ろう管理」、「人工呼吸器の管理」、「カテーテル管理」、「気管切開カニューレ
管理」、「痰の吸引」、「排便コントロール」、「薬物療法継続への援助」、「熱傷の処置」、「麻薬の管理、投与」、
「リハビリ」等が挙げられた。

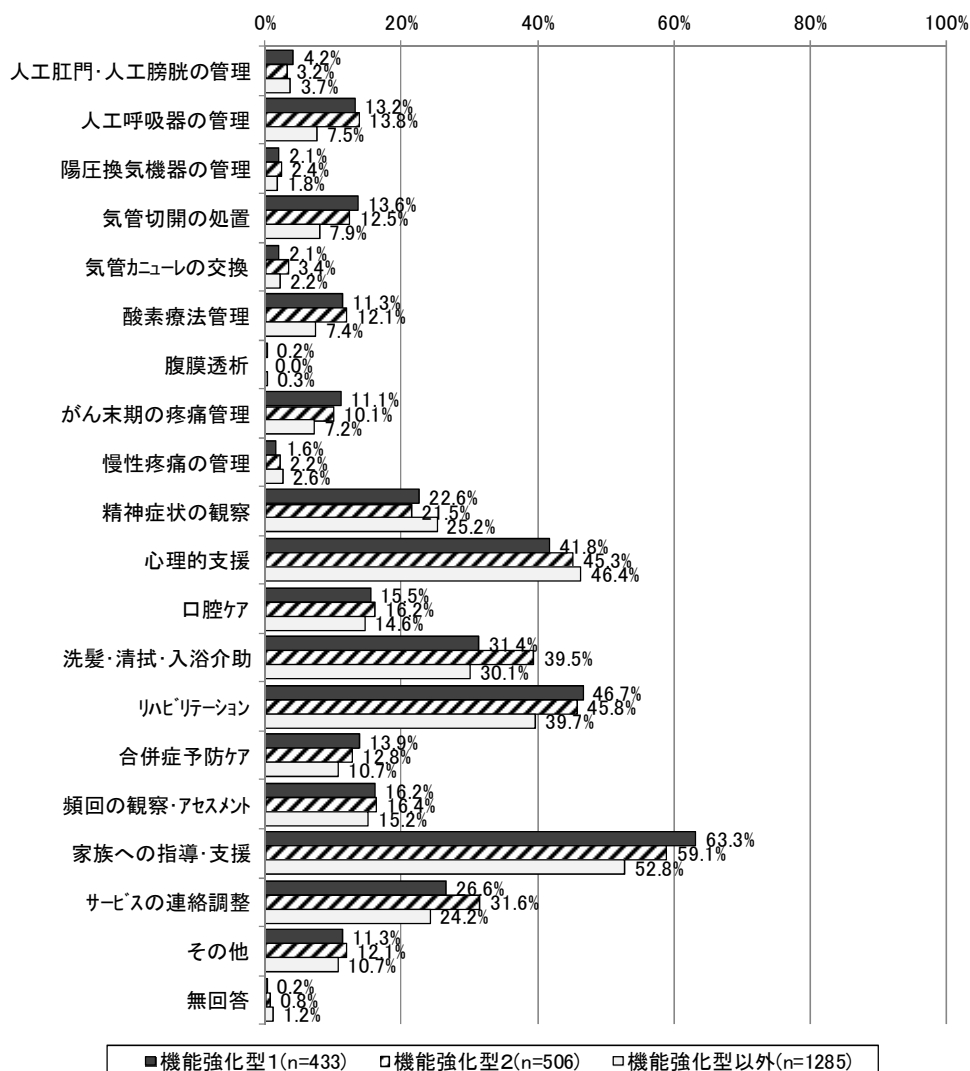
11) 訪問看護で提供したケアの内容

平成28年9月1か月間の訪問看護で提供したケアの内容について事業所の種類別にみると、「機能強化型1」では、「家族への指導・支援」が63.3%で最も多く、次いで「リハビリテーション」（46.7%）であった。「機能強化型2」では、「家族への指導・支援」が59.1%で最も多く、次いで「リハビリテーション」（45.8%）であった。「機能強化型以外」では、「家族への指導・支援」が52.8%で最も多く、次いで「心理的支援」（46.4%）であった。

図表 377 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）
（事業所の種類別）①



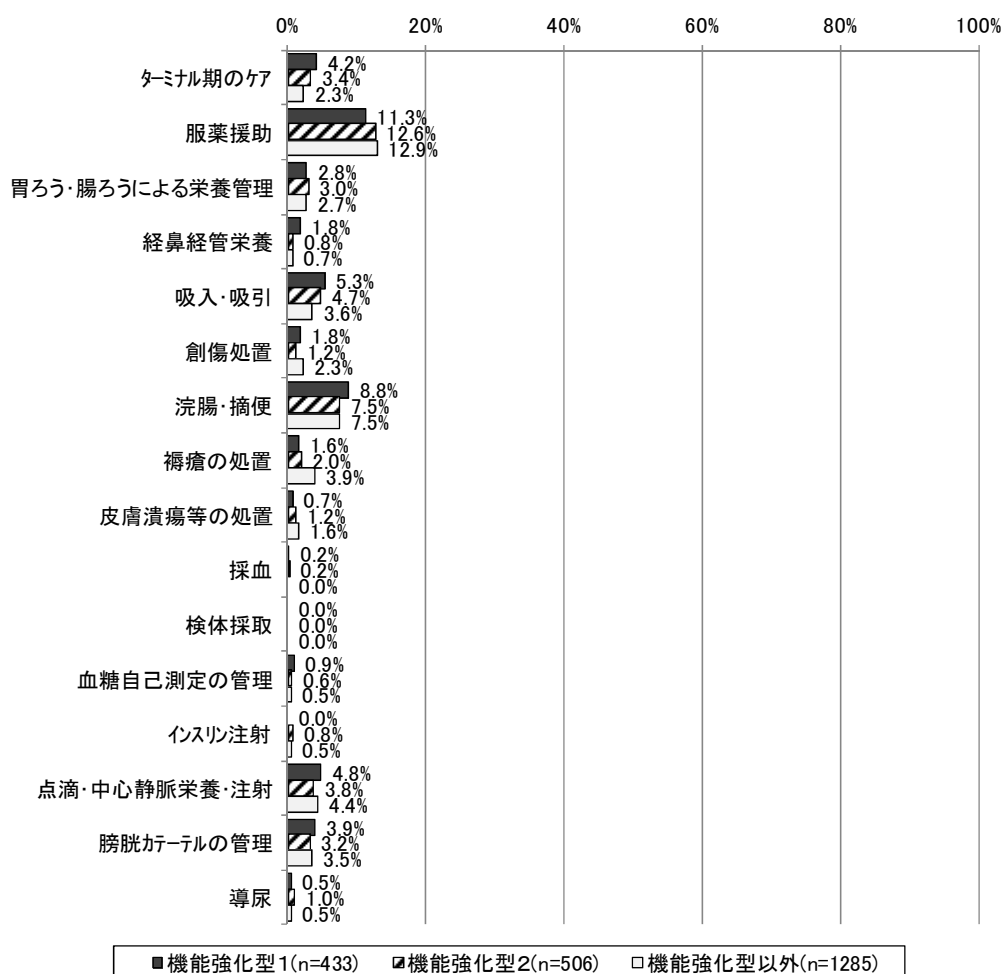
図表 378 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）
（事業所の種類別）②



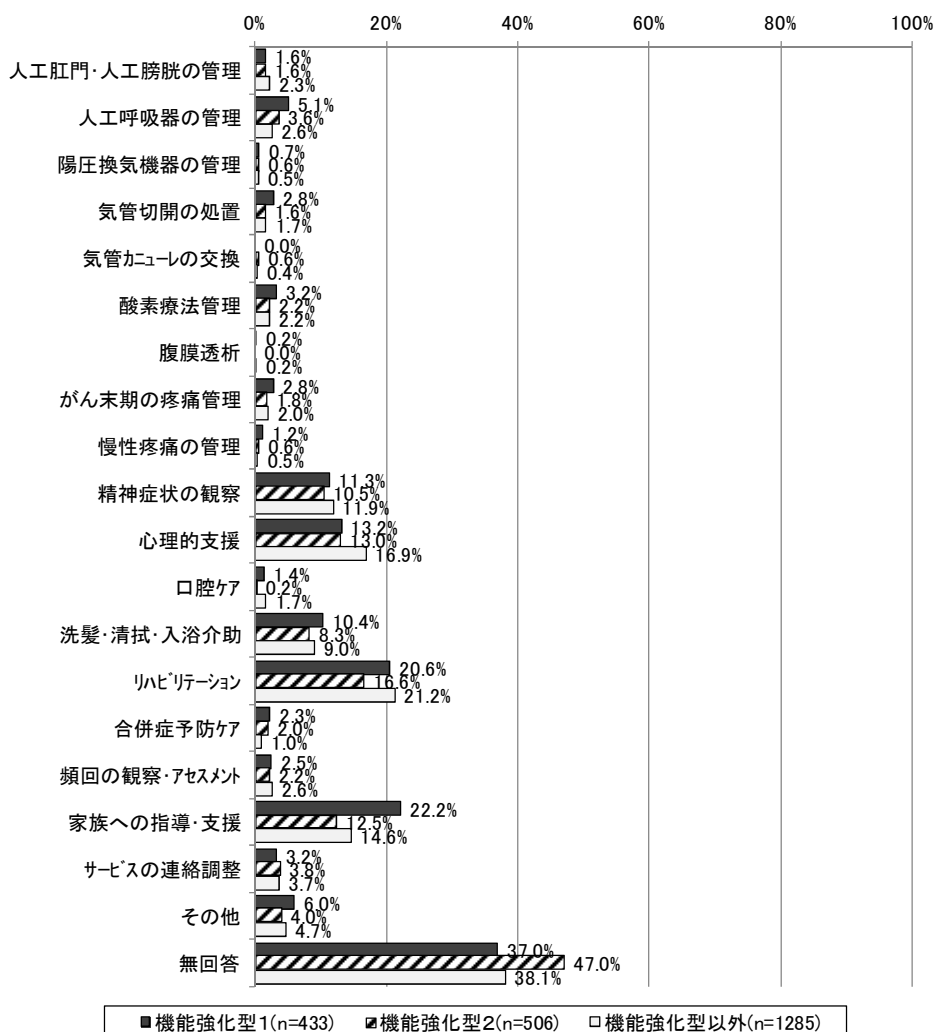
(注)「その他」の内容としては「ADL 訓練」、「経皮経肝胆道ドレナージ管理」、「育児支援」、「日常生活面の援助」、「医療機関への連絡調整」、「膀胱・陰部洗浄」、「オムツ交換」、「エンゼルケア」、「環境整備」、「生活指導」、「外出介助」、「精神的支援」、「マッサージ」等が挙げられた。

直近 1 回の訪問看護で提供したケアの内容についてみると、「機能強化型 1」では、「家族への指導・支援」が 22.2%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(20.6%)であった。「機能強化型 2」では、「リハビリテーション」が 16.6%で最も多く、次いで「心理的支援」(13.0%)であった。「機能強化型以外」では、「リハビリテーション」が 21.2%で最も多く、次いで「心理的支援」(16.9%)であった。

図表 379 直近 1 回の訪問看護で提供したケアの内容 (主なもの 3 つまで)
(事業所の種類別) ①

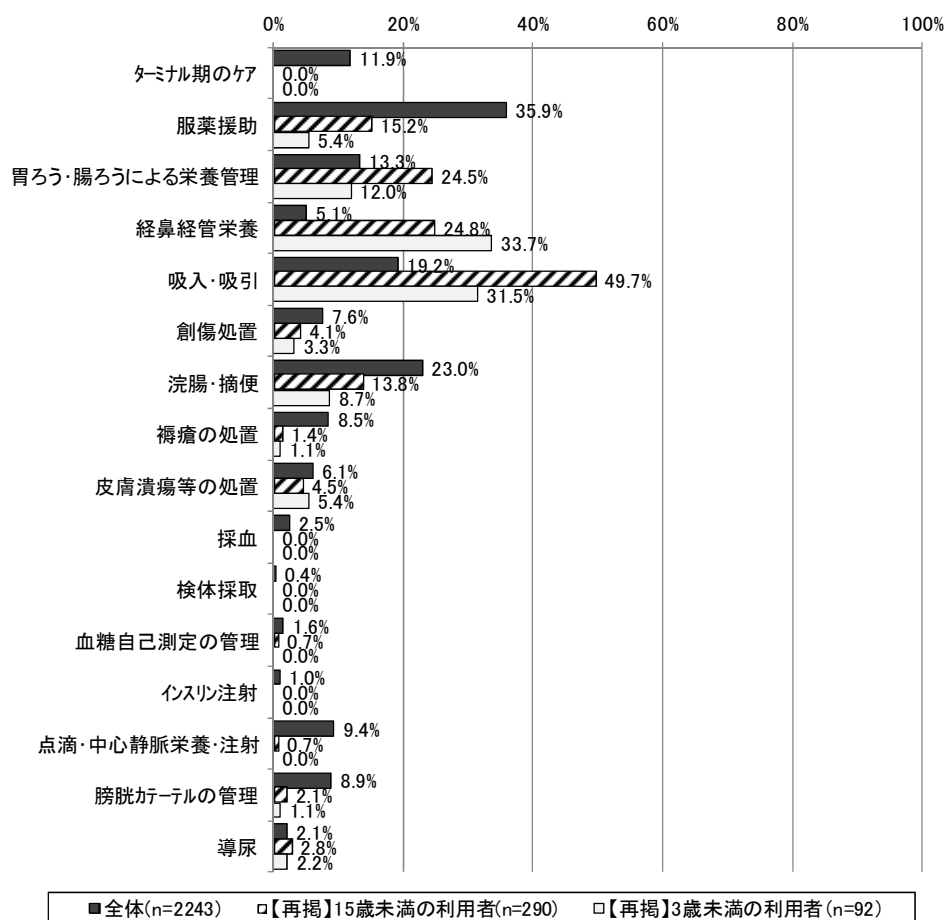


図表 380 直近1回の訪問看護で提供したケアの内容（主なもの3つまで）
（事業所の種類別）②

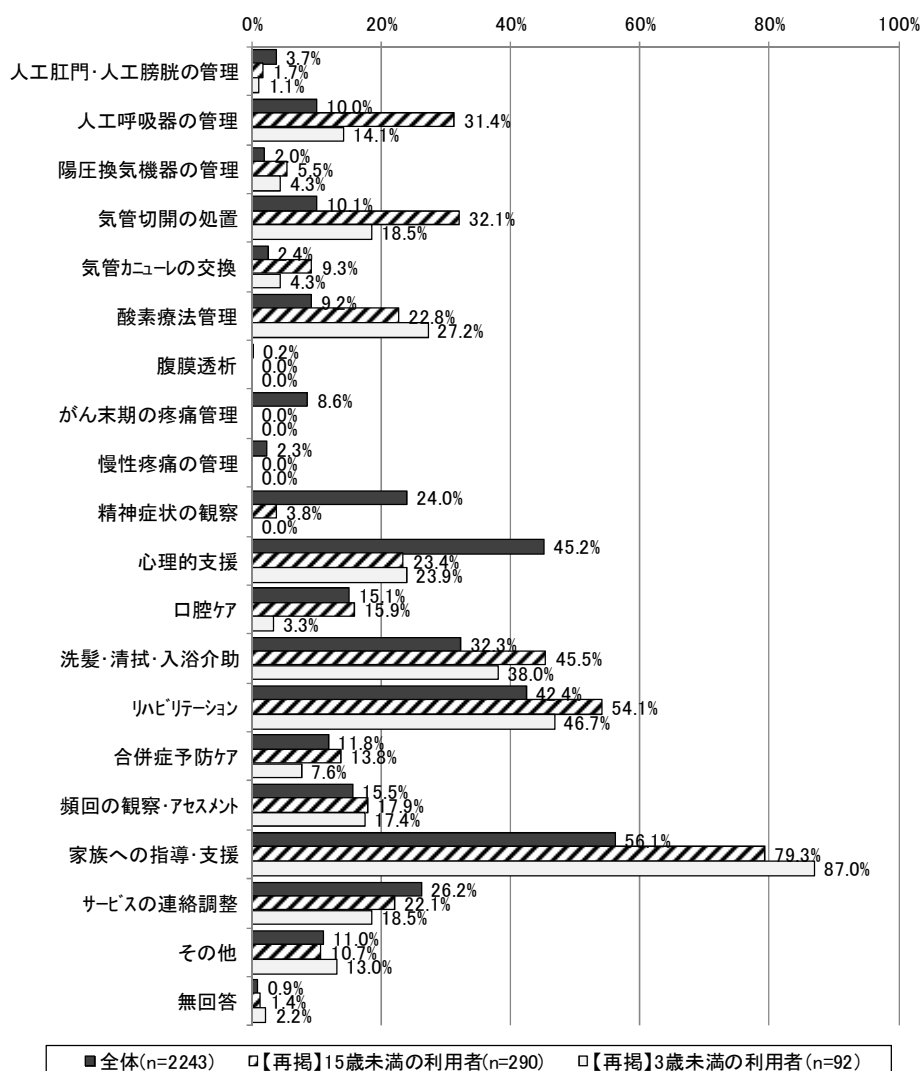


平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容について年齢別にみると、「15 歳未満の利用者」では、「家族への指導・支援」が 79.3%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(54.1%)、「吸入・吸引」(49.7%)であった。「3 歳未満の利用者」では、「家族への指導・支援」が 87.0%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(46.7%)、「洗髪・清拭・入浴介助」(38.0%)であった。

図表 381 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）
（年齢別）①



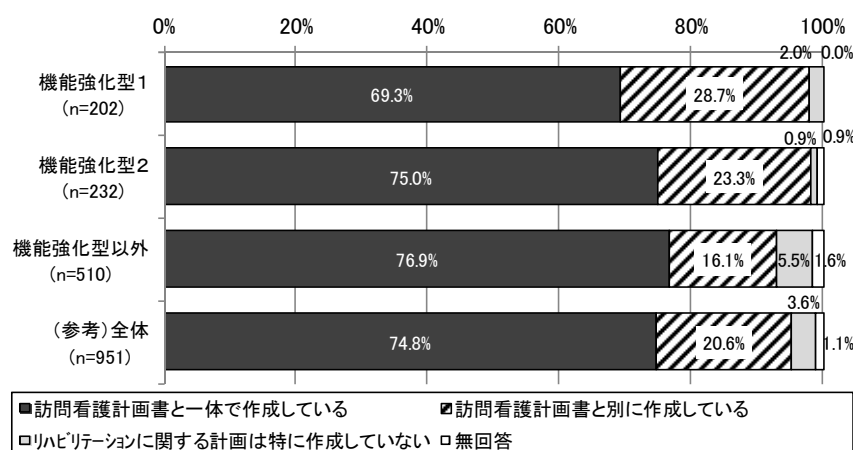
図表 382 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）
（年齢別）②



12) リハビリテーションの実施体制等

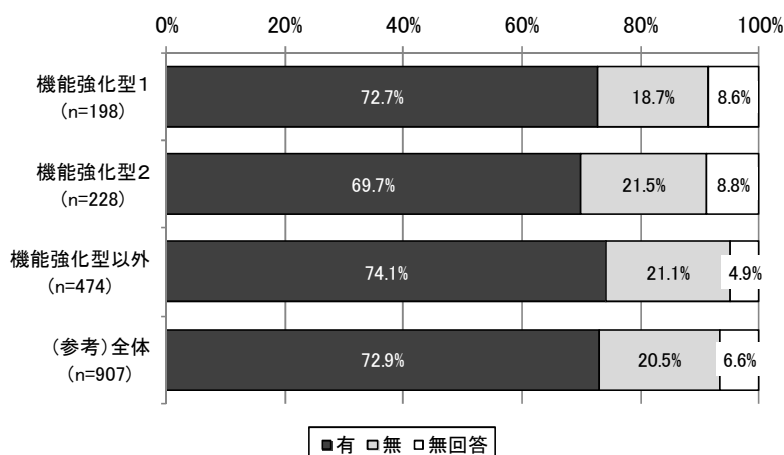
平成 28 年 9 月 1 か月間にリハビリテーションを行った利用者について、リハビリテーションに関する計画の作成方法を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護計画書と一体で作成している」がそれぞれ 69.3%、75.0%、76.9%で最も多かった。

図表 383 リハビリテーションに関する計画の作成方法
(平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (事業所の種類別)



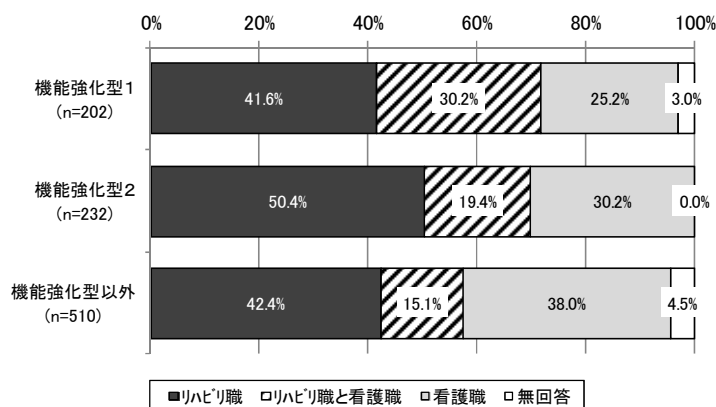
リハビリテーションに関する計画を作成している利用者について、リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与の有無を尋ねたところ、「有」の割合は「機能強化型 1」が 72.7%、「機能強化型 2」が 69.7%、「機能強化型以外」が 74.1%であった。

図表 384 リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与の有無
(リハビリテーションに関する計画を作成している利用者) (事業所の種類別)

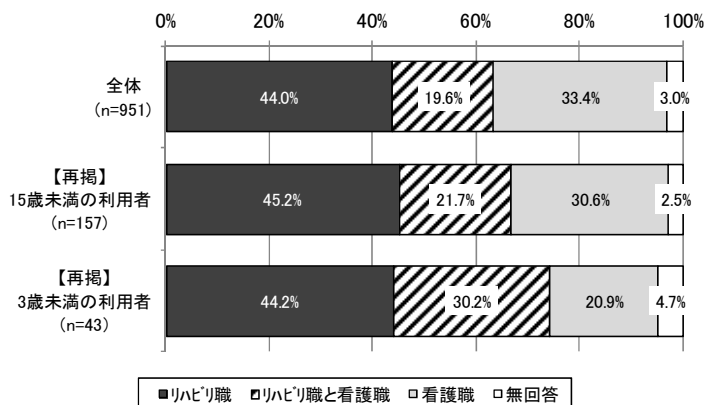


平成 28 年 9 月 1 か月間にリハビリテーションを行った利用者について、リハビリテーションの主たる実施者を尋ねたところ、「機能強化型 1」では「リハビリ職」が 41.6%で最も多く、次いで「リハビリ職と看護職」(30.2%)、「看護職」(25.2%)であった。「機能強化型 2」では、「リハビリ職」が 50.4%で最も多く、次いで「看護職」(30.2%)、「リハビリ職と看護職」(19.4%)であった。「機能強化型以外」では、「リハビリ職」が 42.4%で最も多く、次いで「看護職」(38.0%)、「リハビリ職と看護職」(15.1%)であった。

図表 385 リハビリテーションの主たる実施者
(平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (事業所の種類別)

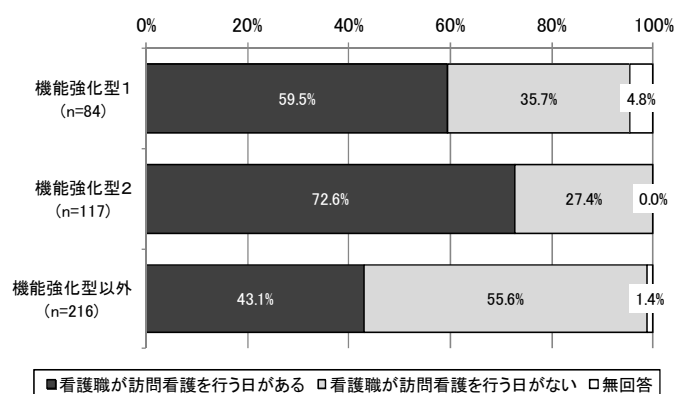


図表 386 リハビリテーションの主たる実施者
(平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (年齢別)

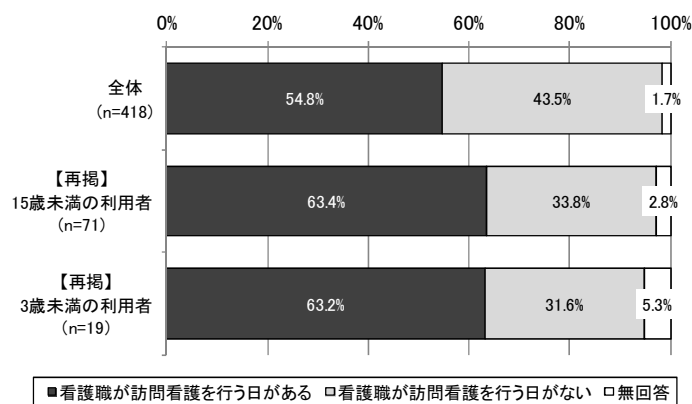


リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者について、看護職による訪問看護の実施状況を尋ねたところ、「看護職が訪問看護を行う日がある」という割合は、「機能強化型 1」では 59.5%、「機能強化型 2」では 72.6%、「機能強化型以外」では 43.1%であった。

図表 387 看護職による訪問看護の実施状況
(リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者)(事業所の種類別)



図表 388 看護職による訪問看護の実施状況
(リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者)(年齢別)



参 考 资 料

訪問看護調査

訪問看護調査において、平成 28 年度の訪問看護に関する診療報酬改定について意見等を自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

○機能強化型訪問看護ステーションの要件

- ・算定要件を直近 1 年間の実績から前年度の実績にしてほしい。
- ・ターミナルケアについて、死亡時から 24 時間以内のくくりをもう少し広げるか、または人数の調整をお願いしたい。 / 等

○同一日 2 か所目の訪問看護ステーションによる緊急訪問

- ・同日の 2 事業所訪問を認められたことで利用が広がったと思うが、加算になっていることと、緊急時限定になっていることが変更されればもっと利用が広がる。 / 等

○その他

- ・入院時や施設入所時に看護サマリーを必ず記載している。時間的な労力は大きいですが加算がない。
- ・重症や看取りのために複数の看護師の訪問が必要でも、週に 1 回のみしか複数名訪問看護加算が算定できないのはどうかしてほしい。
- ・同一法人で訪問診療を行った日は、同法人の訪問看護の療養費が請求できない。医師が行う診察と看護師が行うケアは全く違い、医師が診察したから訪問看護を休むということとはできないが、今は訪問しても報酬がない。請求できるよう改正してほしい。
- ・退院前カンファレンスに参加しても退院せず、転院や死去となる場合、報酬を算定できる仕組みがあればと思う。 / 等